岩手県文化財調査報告書　第114集

岩手県内遺跡発掘調査報告書

（平成13年度）

平成14年３月

岩 手 県 教 育 委 員 会

序　　文

埋蔵文化財は、私たちの祖先により築かれた貴重な歴史的財産であります。私たちはそれらを正しく理解し、文化財保護法の理念に基づき活用し、そして後世に伝えていかなければなりません。

しかしながら、埋蔵文化財は、近年の増大する大規模な開発等により厳しい状況におかれています。その中で、埋蔵文化財の保護と各種開発事業の調整を図るために、遺跡の性格、所在地、範囲等を正確に示すことが必要であることはいうまでもありません。

当教育委員会では、国庫補助金の交付を受けて昭和52年以来遺跡の分布調査を実施しているところでありますが、現在確認されている遺跡数は１万ヶ所余りにも上ります。これらの遺跡の周知徹底を図る必要があるとともに、開発事業との調整の中で発掘調査を行った記録や遺跡の範囲・内容確認を目的とした試掘調査の記録を明らかにすることが必要であると考え、平成元年度より報告書を作成しております。

本報告書は、平成13年度に実施した県内遺跡の発掘調査、試掘調査及び分布調査の成果をまとめたものであります。本報告書の活用により、文化財の保護に資するところがあれば幸いに存じます。

調査の実施と報告書の作成にあたり、関係各位から御指導御協力を賜りましたことに対し、心より感謝申し上げます。

平成14年３月

岩手県教育委員会

教育長　合田　　武

例　　言

1　本書は、岩手県教育委員会が平成13年度に実施した県内遺跡発掘調査事業に係る調査結果の概要報告である。なお、本事業は国庫補助金の交付を受けて実施したものである。

2　本事業は、岩手県教育委員会が主体となり、関係市町村教育委員会の協力を得て実施した。

3　遺跡位置図は国土地理院発行の１/25,000の地形図を原図に、原寸大を原則とし、遺構及びトレンチ配置図は、各事業者より入手した地形図あるいは工事平面図を原図として掲載した。

4　発掘調査については、概略を記した。

5　試掘調査に係る遺跡の指定範囲についてはアミで示し、試掘溝は実線で示した。

6　遺跡の名称については、分布調査は遺跡コード番号を主とし、すでに遺跡名の付けられているものについては遺跡名も併記した。発掘調査・試掘調査については遺跡名を主とした。

7　本事業の調査、整理、報告書編集等は岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課の中村英俊主任文化財主査、神　敏明文化財専門員、鎌田　勉文化財専門員、金子俊二文化財調査員、日下和寿専門学芸員、戸根貴之文化財調査員、阿部勝則文化財行政研究員が担当した。

8　本事業の記録及び出土品は、岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課が保管している。

目　　次

序文
例言
Ⅰ　発掘調査
1　国営いさわ南部農地整備事業関連調査（五反町遺跡）…… 3
2　国営いさわ南部農地整備事業関連調査（二の台遺跡）…… 5
3　国営いさわ南部農地整備事業関連調査（小田切遺跡）…… 6
4　ほ場整備事業二子地区関連調査（南田遺跡）…… 7
5　ほ場整備事業猫川左岸地区関連調査（林崎Ⅰ遺跡）…… 11
6　ふるさと農道緊急整備事業関連調査（沢川目遺跡）…… 12
7　中山間地域総合整備事業黒岩地区関連調査（四十九里遺跡）…… 16
8　緊急地方道路整備事業関連調査（川袋遺跡）…… 19
9　緊急地方道路整備事業関連調査（大向Ⅱ遺跡）…… 20
10　地域支援道路ネットワーク整備事業関連調査（向沢遺跡）…… 21
11　一級河川衣川筋泉ヶ城地区河川等災害復旧事業関連調査（淵畑遺跡）…… 25
12　山本川筋山本地区通常砂防事業関連調査（MF91－1028）…… 37
13　緊急地方道路整備事業関連調査（LF77－0265）…… 39
14　交通安全施設等整備事業関連調査（田中遺跡）…… 40
15　八戸大野線軽米町大道口地区道路改良工事関連調査（大道口遺跡）…… 42
16　共同利用型研究開発施設整備事業関連調査（巣子Ⅴ遺跡隣接地）…… 43
17　畑地帯総合整備事業盛岡西部地区関連調査（上平遺跡隣接地・猪去館遺跡隣接地）…… 45
Ⅱ　試掘調査
1　一般国道4号水沢東バイパス建設事業関連調査（杉の堂遺跡）…… 49
2　胆沢ダム建設事業関連調査（大清水上遺跡）…… 50
3　北上川上流改修砂鉄川直轄床上浸水対策特別緊急事業関連調査（河崎の柵擬定地）…… 52
4　地方特定道路整備事業関連調査（蔵屋敷遺跡）…… 54
5　地方特定道路整備事業関連調査（雲南遺跡）…… 55
6　一般国道456号線関口地区地域活性化支援道路整備事業関連調査（貝の淵Ⅰ遺跡）…… 56
7　地域活性化支援道路整備事業・新交流ネットワーク道路整備事業関連調査（館遺跡）…… 57
8　地域活性化支援道路整備事業関連調査（里古屋遺跡）…… 58
9　緊急地方道路整備事業関連調査（MF97－1278）…… 59
10　緊急地方道路整備事業関連調査（広岡前遺跡）…… 60
11　緊急地方道路整備事業・ほ場整備事業下門岡地区関連調査（金附遺跡）…… 61
12　一般国道396号上綾織地区特定交通安全施設整備事業関連調査（大久保遺跡）…… 63
13　道路改築事業関連調査（永田Ⅰ遺跡）…… 64
14　遠野第二ダム建設事業関連調査（栃洞Ⅱ遺跡）…… 65
15　一級河川伊手川上伊手地区ほ場整備関連河川改修事業関連調査（大中田遺跡）…… 66
16　通常砂防事業関連調査（玉川向遺跡）…… 67
17　地方特定河川等環境整備事業関連調査（藤渡戸Ⅰ遺跡）…… 68
18　主要地方道盛岡和賀線道路改良事業関連調査（飯岡林崎Ⅱ遺跡）…… 69

19　ほ場整備事業姥沢上野地区関連調査（明後沢遺跡群）…… 70
20　ほ場整備事業満倉地区関連調査（中半入遺跡）…… 73
21　ほ場整備事業寺領小林地区関連調査（九郎館遺跡）…… 76
22　ほ場整備事業寺領小林地区関連調査（寺之上遺跡）…… 77
23　ほ場整備事業姉体地区関連調査（島田Ⅱ遺跡）…… 78
24　ほ場整備事業姉体地区関連調査（島田Ⅳ遺跡）…… 79
25　ほ場整備事業姉体地区関連調査（根蕪遺跡）…… 80
26　ほ場整備事業八重畑地区関連調査（高畑遺跡）…… 81
27　ほ場整備事業大明神地区関連調査（貝の淵Ⅱ遺跡）…… 83
28　ほ場整備事業大明神地区関連調査（上野々遺跡）…… 84
29　ほ場整備事業土淵地区関連調査（中土淵遺跡）…… 85
30　ほ場整備事業二子地区関連調査（鳥喰Ⅰ遺跡）…… 86
31　ほ場整備事業一関第２地区関連調査（本町Ⅱ遺跡）…… 87
32　ほ場整備事業猫川左岸地区関連調査（平倉観音遺跡）…… 89
33　ほ場整備事業猫川左岸地区関連調査（林崎館跡）…… 90
34　中山間地域総合整備事業岩間地区関連調査（大橋遺跡）…… 91
35　中山間地域総合整備事業岩間地区関連調査（石羽根遺跡）…… 93
36　中山間地域総合整備事業斗米地区門松工区関連調査（門松遺跡）…… 94
37　土地改良総合整備事業伊手西部地区関連調査（大中田遺跡）…… 95
38　畑地帯総合整備事業盛岡西部地区関連調査（羽場百目木遺跡・羽場館）…… 96
39　ふるさと農道緊急整備事業関連調査（平清水Ⅱ遺跡）…… 97
40　ふるさと農道整備事業円子地区関連調査（IF94－2340）…… 98
41　二戸警察署上斗米駐在所庁舎新築事業関連調査（上斗米館遺跡）…… 99
42　北上警察署立花駐在所庁舎新築事業関連調査（立花南遺跡）…… 100
平成13年度試掘調査一覧 …… 108
平成13年度分布調査一覧 …… 114
1　一般国道４号花巻東バイパス（１工区）整備事業
2　かんがい排水事業藤崎地区
3　道路施設修繕事業
4　通常砂防事業
5　農業大学校再編整備事業
6　県営農林漁業用揮発油税財源身替農道整備事業
7　松尾村小屋の沢地区河川災害復旧事業
8　ため池等整備事業野中地区
9　中山間地域総合整備事業弁天地区
10　高瀬地区予防治山工事
11　道路災害防除事業
12　通常砂防事業
13　中山間地域総合整備事業日野沢地区
14　中山間地域総合整備事業葛巻北西地区
15　幹線２級村道横小路線緊急地方道路整備事業
16　一般国道343号快適歩行環境整備事業
17　中山間地域総合整備事業藤沢東部地区
18　地方特定道路整備事業
19　県営畜産経営環境整備事業岩手山麓地区
20　急傾斜地崩壊対策事業
21　快適道路環境整備事業
22　平成14年度大矢地区復旧治山事業
23　ふるさと林道繋２号線改築工事
24　農村活性化住環境整備事業笹森地区
25　新幹線関連道路整備事業宮沢工区
26　一般国道4号花巻東バイパス（１工区）整備事業
27　基盤整備促進事業

Ⅲ　写真図版 …… 117

Ⅰ　発掘調査

1　国営いさわ南部農地整備事業関連発掘調査

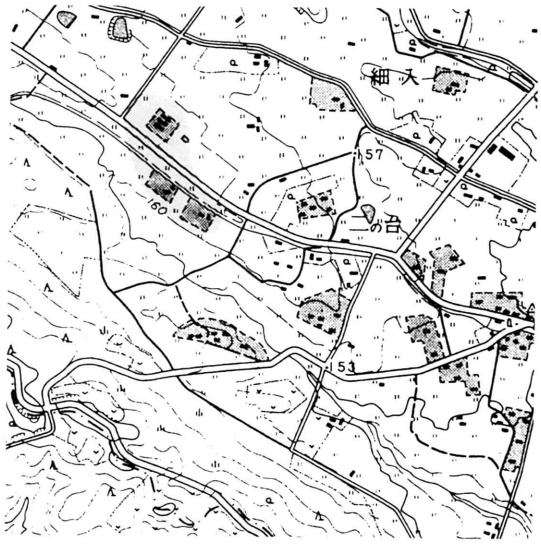
五反町遺跡（NE44－0117）

所在地；胆沢郡胆沢町小山字二の台

事業者；東北農政局胆沢猿ケ石土地改良建設事業所
　　いさわ南部農地整備事業建設所

調査期日；平成13年 7月 9日～7 月10日（２日間）

本遺跡は、ＪＲ東北本線前沢駅の北西約10kmに位置し、胆沢扇状地の中位段丘面にあたる上野原段丘崖に立地する。標高は 158～165 mを測り、遺跡の南側を東西方向に流れる沢に向かってゆるやかに傾斜している。現況は主に水田と宅地で、一部は牧草地となっている。



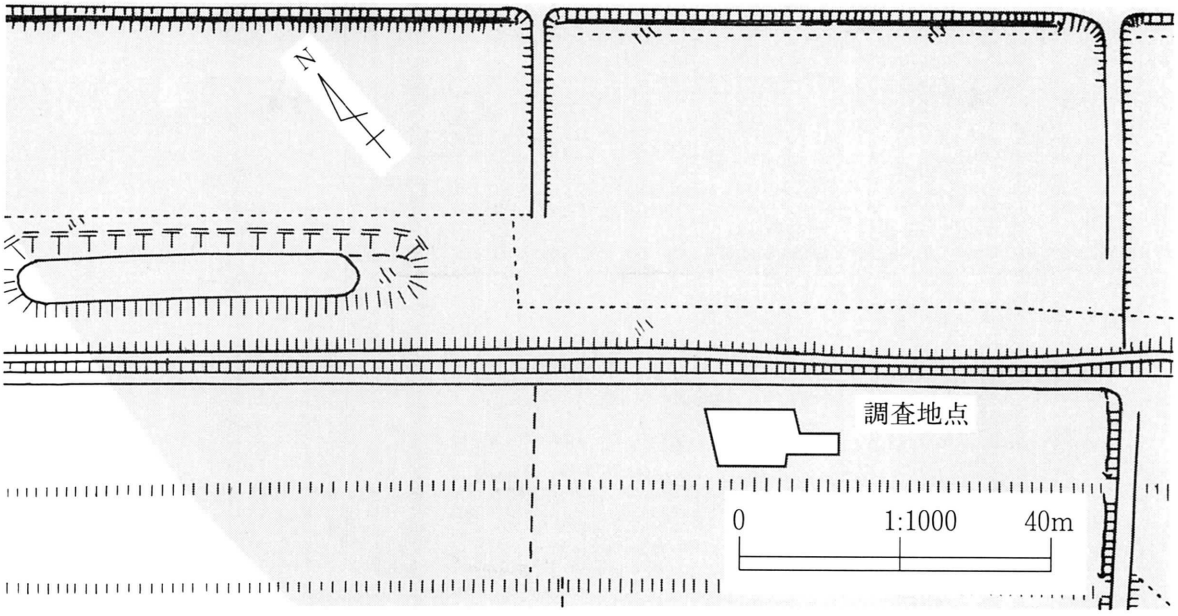
第１図　五反町遺跡位置図

今回の調査は、平成12年度の試掘調査で検出した焼土遺構他の記録保存として実施した。焼土が検出された場所の北側では、縄文時代中期の竪穴住居跡群を検出しており、それらと関連する遺構の可能性が考えられた。調査面積は約 100㎡であり、同時に昨年度調査未了区に試掘トレンチを３箇所設定している。

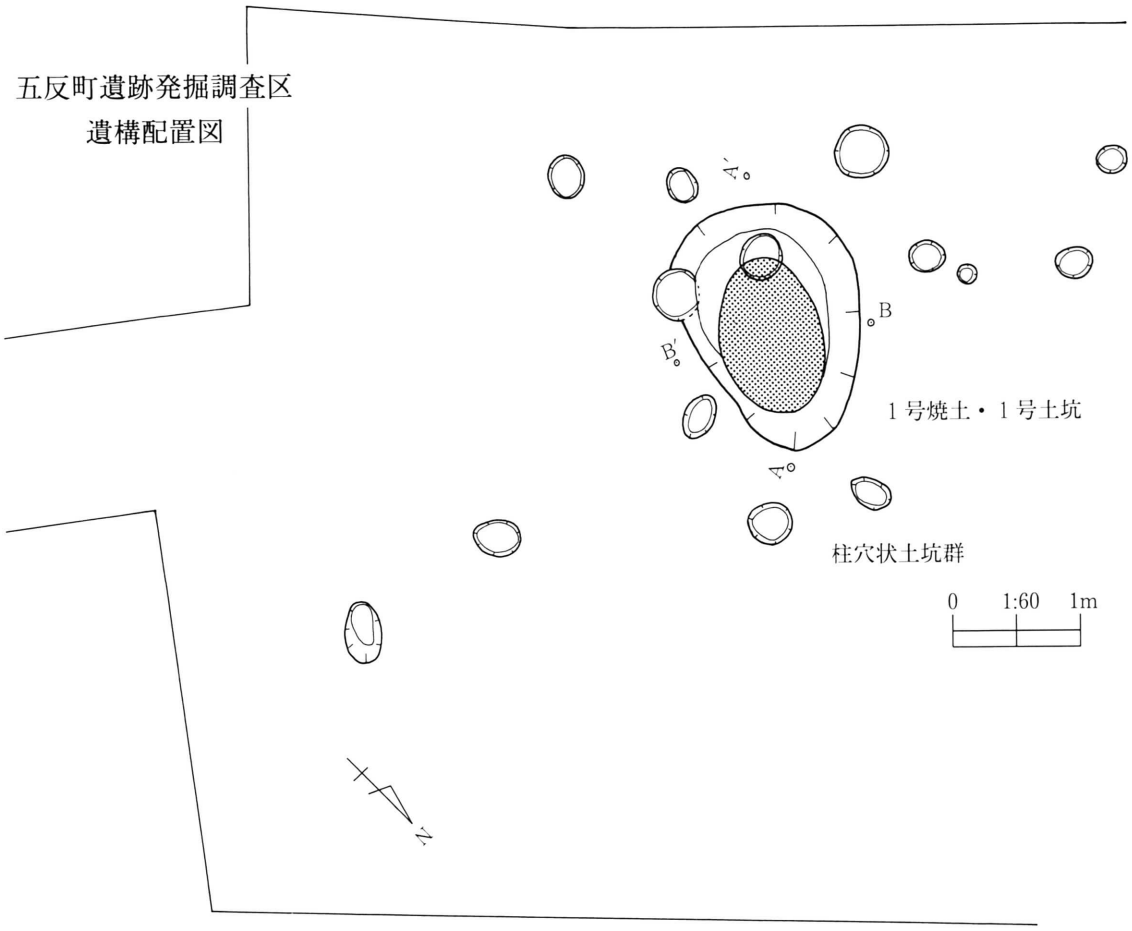
調査の結果、検出された遺構は、焼土１基、その下層から土坑１基、さらにその周辺から柱穴15基であった。検出された焼土は、平面形が120cm前後の楕円形を呈しており、断面の状況からみて住居跡の炉跡（地床炉跡）と推定される。焼土が検出された箇所は、旧沢跡が埋没して表土下に黒色土が厚く堆積していたことから、開田による地形改変が著しい当地区にしては、旧地形が比較的良好に残っていた場所であったと考えられる。焼土は、この旧沢跡の黒色土上面から検出された。

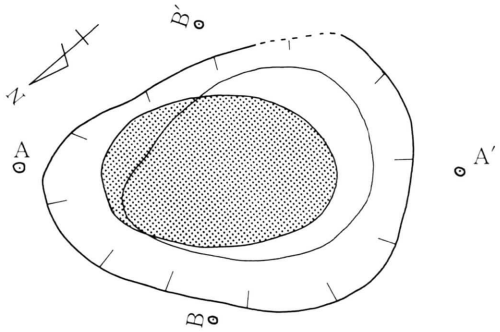
焼土部分には一回り大きな土坑状の掘り込みがあり、その埋土から縄文土器の細片が出土している。土坑に切られる柱穴状の小土坑があり、焼土の周辺にも同様の小土坑が点在していた。これら土坑埋土中から土器細片が少量出土しており、焼土・土坑よりも古い時期の住居跡に伴う柱穴の可能性が考えられる。

一方、調査未了区の試掘トレンチでは耕作土下が地山ローム面となり、遺構・遺物は発見されなかった。

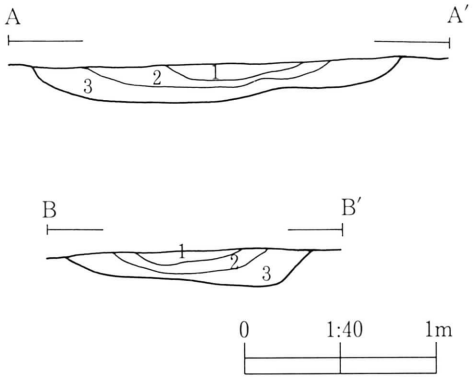


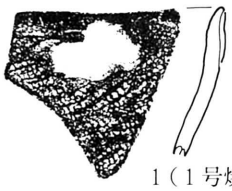
第２図　五反町遺跡調査区位置図





1号焼土・1号土坑平面図





1（1号焼土）

2（柱穴埋土）

［埋土注記］

1．5YR6/8橙色焼土。粘性ややあり。
　しまりややあり。地床炉に伴うものか。

2．10YR 5/6黄褐色～10YR3/3青褐色シルト。
　粘性ややあり。しまりややあり。

3．10YR3/2黒褐色シルト。粘性ややあり。
　しまりややあり。

第3図　五反町遺跡遺構図・出土遺物

2　国営いさわ南部農地整備事業関連発掘調査

二の台遺跡（NE44－0230）

所在地；胆沢郡胆沢町小山字二の台

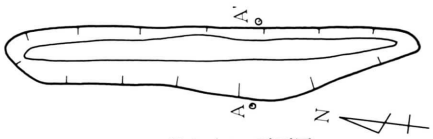
事業者；東北農政局いさわ南部農地整備事業建設所

調査期日；平成13年７月10日

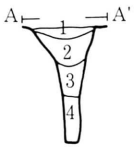
本遺跡は、ＪＲ東北本線前沢駅の北西約10㎞に位置し、胆沢扇状地の中位段丘面にあたる上野原段丘崖に立地する。調査地の標高は165ｍ前後を測り、現況は水田である。今回の調査では遺跡北西側のほ場整備予定の田面を対象に２本の試掘トレンチを設定した（Ｔ１～２）。

一段下の水田に設定したＴ１では、トレンチ中央部分から陥し穴状遺構１基（陥し穴２）を検出した。検出した陥し穴状遺構は平面形が溝状を呈し、幅 0.6ｍ前後で、北隅は不明だが長軸は長さが４ｍ以上と推測される。この遺構については、設計田面標高が現況どおりのため遺構確認のみを行った。Ｔ２でも水田中央の北より部分で同様の溝状の陥し穴状遺構１基（陥し穴１）を検出した。この田面については掘削を実施する計画のため遺構の記録保存を行った。遺構の長軸は 4.4ｍ程、開口部幅60～75㎝である。深さは 125㎝前後で、底面は幅13～20㎝のフラットな状況であった。耕作土層中及び遺構埋土からは遺物は出土しなかった。２箇所のトレンチで確認した陥し穴状遺構は２基であったがそれらは同様の形状と角度をもっていたことから、北側の旧河道に沿う形で連続している可能性も考えられる。

第４図　二の台遺跡位置図



陥し穴1　平面図

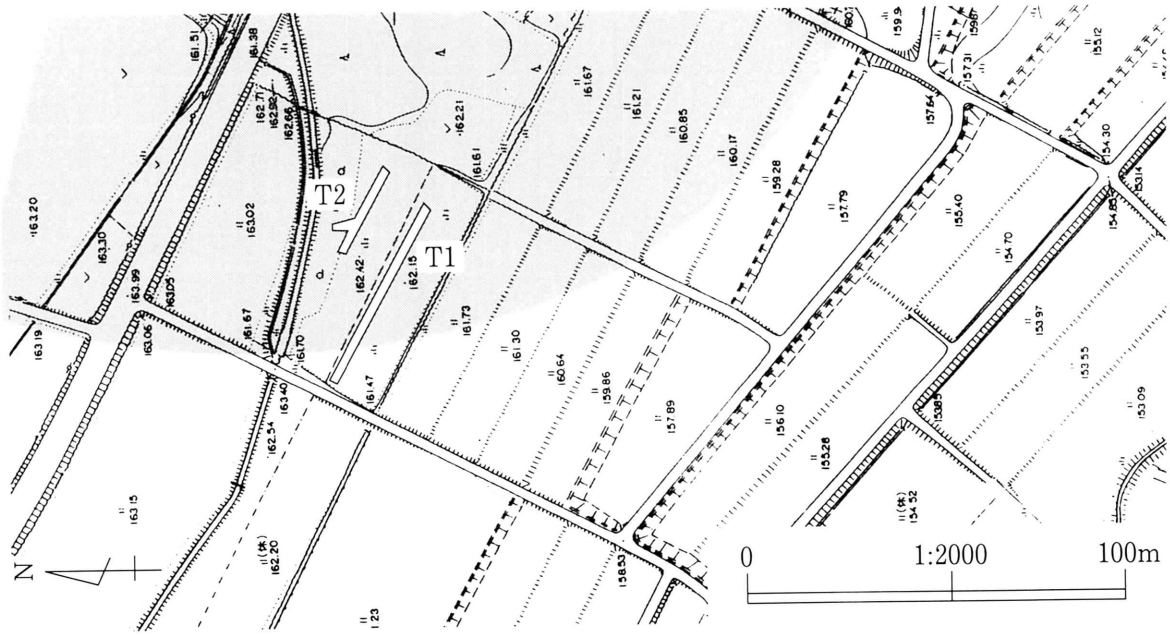


陥し穴1　断面図

陥し穴1　埋土注記

1. 10YR2/1 黒色シルト。
褐色土を粒状に少量含む。
2. 10YR3/4 暗褐色シルト。
黒土色・褐色土を粒状に 5%含む。
褐色土小ブロックを少量含む。
3. 10YR4/6 褐色ローム質シルト。
黒色土を粒状に少量含む。
崩落土。
4. 10YR2/1　黒色シルト。
褐色ロームを粒～小ブロック状に10%含む。

第５図　二の台遺跡遺構図



第６図　二の台遺跡調査区位置図

3　国営いさわ南部農地整備事業関連調査

小田切遺跡（NE34－2397）

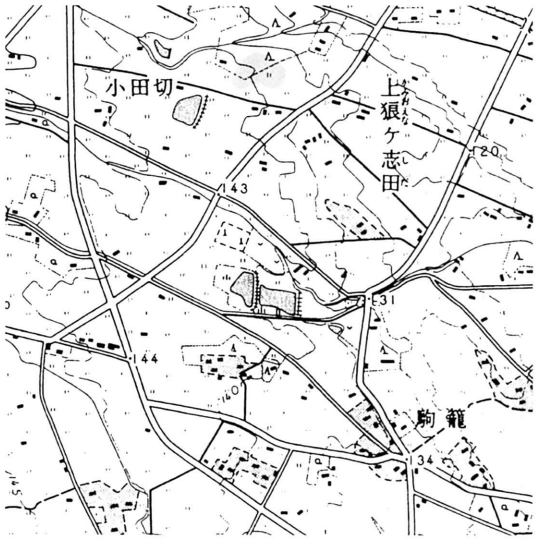
所在地；胆沢郡胆沢町小山地内

事業者；東北農政局いさわ南部農地整備事業建設所

調査期日；平成13年７月５日

遺跡は、JR東北本線陸中折居駅の西南西約7.5kmに位置し、胆沢扇状地南西部のなだらかな丘陵上に立地している。遺跡の標高は124～143mで、現況は主に水田となっており、既に地形改変を受けている。

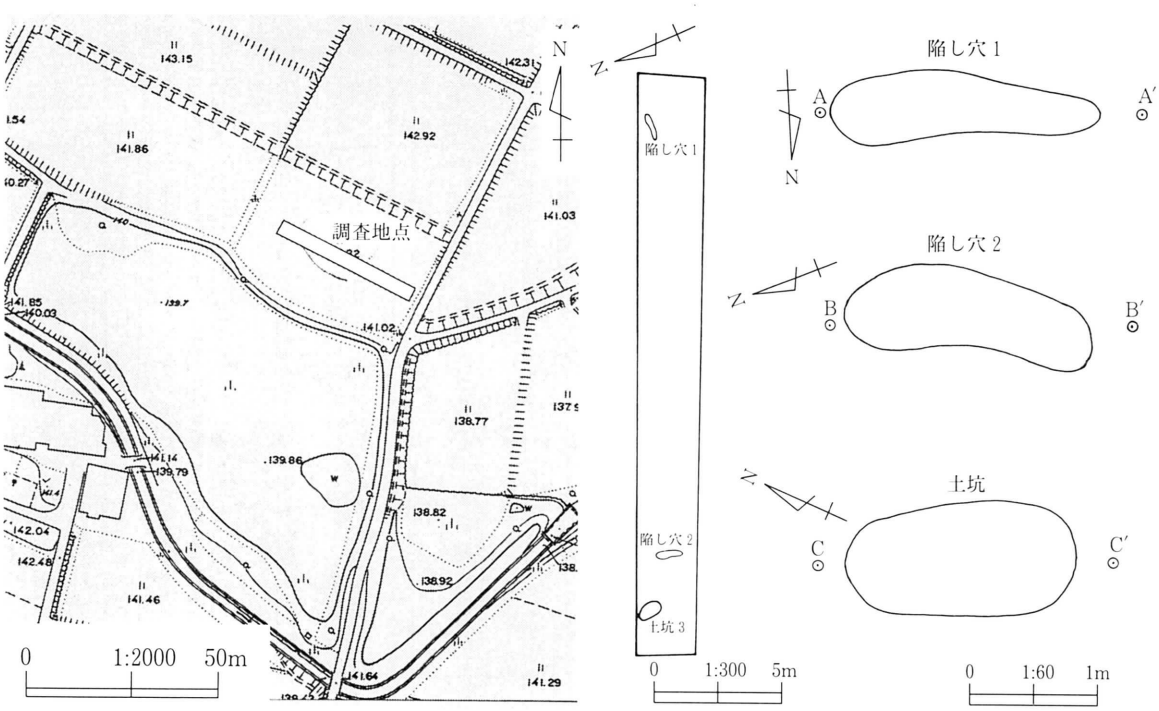
今回の調査は、平成12年11月に農道（砂利敷き道路）建設予定地の試掘調査を実施した際に、土坑と陥し穴状遺構が検出された部分について遺構確認調査を実施した。確認調査面積は約233㎡である。



第７図　小田切遺跡位値図

調査の結果、検出された遺構は、陥し穴状遺構２基と土坑１基である。調査区域東側で検出された陥し穴状遺構１は、平面形が溝状を呈するもので、検出面の規模は長さが215㎝、幅が50㎝程である。調査区域西側で検出された陥し穴状遺構２も平面形は溝状を呈し、規模は長さが200㎝、幅が60㎝程である。陥し穴状遺構１の長軸は東北東－西南西方向で、陥し穴状遺構２の長軸は北－南方向である。いずれの陥し穴状遺構も黄褐色の地山上面で検出され、埋土は褐色土である。

調査区域西端で検出された土坑は平面形が長楕円形を呈し、検出面の規模は90×180㎝程である。検出面は第３層上面で、埋土は外側が褐色土、内側が黒褐色土であった。遺構内及び調査区域からは遺物は出土しておらず、遺構の構築時期を特定することはできないが、陥し穴状遺構の形状から縄文時代の遺構と推定される。



第８図　小田切遺跡調査区位置図

4　ほ場整備事業二子地区関連調査

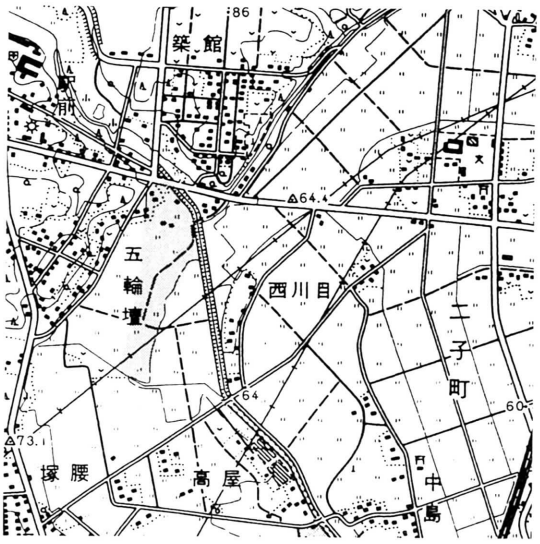
南田遺跡（NE56－0195）

所在地；北上市二子地内

事業者；北上地方振興局農村整備事務所

調査期日；平成13年４月16日～20日（５日間）

遺跡は、ＪＲ東日本東北本線村崎野駅の南東約500ｍ付近に位置し、北上川右岸の沖積地に立地する。現況は水田・宅地跡である。標高は66ｍほどで、東側より一段高い。調査面積は約300㎡である。基本土層は、第１層が水田耕作土で層厚15～20㎝、第２層が暗灰色の水田床土で層厚10㎝、第３層が黄褐色ロームの地山で、遺構検出面である。調査区は、現在ある水田面により３層の地山まで削られており、概ねかつてのほ場整備時に大きく削平を受けているものと判断された。

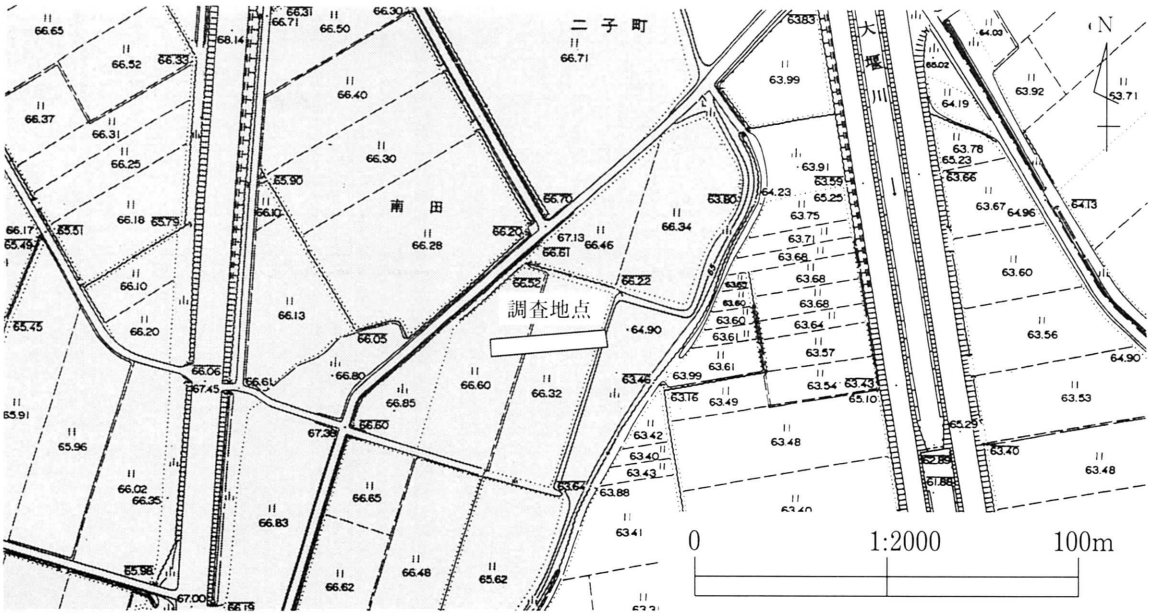


第９図　南田遺跡位置図

検出された遺構は、平安時代の竪穴住居跡３棟、土坑４基、焼土遺構４基、溝跡５条、柱穴状土坑13基である。出土遺物は土師器・須恵器など小コンテナ１箱である。

調査区西側では、溝跡４条、土坑２基、柱穴状土坑６基が確認された。土坑１は、平面形は楕円形で、規模は開口部径120×80㎝、底部径90×70㎝、深さ15㎝である。断面形は浅皿状を呈し、埋土は黒褐色土の単層である。土坑２は、平面形は円形で、開口部径95㎝、底部径75㎝、深さ20㎝である。断面形は、浅皿状を呈し、埋土は黒色土の単層である。いずれの土坑からも出土遺物は無く、時期の詳細は不明である。溝跡４条は、いずれも幅15～20㎝ほどで、縦横に交差する。何らかの区画を目的とした溝跡の可能性もある。出土遺物は無く、時期の詳細は不明だが、比較的新しい可能性がある。

調査区東側では、竪穴住居跡３棟、土坑２基、焼土遺構４基、溝跡１条、柱穴状土坑７基が確認された。１・３号竪穴住居跡は、いずれも壁・床の一部を確認できたのみで、規模・形状の詳細は不明であり、２号竪穴住居跡も東側が調査区域外に掛かるため全体像は不明な部分がある。



第10図　南田遺跡調査区位置図

1号竪穴住居跡は、住居跡の北端のみが検出された。確認された北壁から、平面形は一辺3mほどの隅丸方形を呈するものと推定され、住居跡の主軸は方位を意識しているものと思われる。壁高は北壁で20～25cmである。床面は3層を掘り込んでつくられ、ほぼ平坦である。1号竪穴住居跡からは、須恵器の底部片・胴部片、土師器の内黒の坏や甕の破片が出土している。

3号竪穴住居跡は、住居跡の平面形における南西端のみを検出した。部分的な調査になったが、遺構の形状から、竪穴住居跡の可能性が高いと判断した。規模・形状とも不明だが、壁高は45cmあり、床面は3層の黄褐色ロームを掘り込んでつくられている。埋土下位の3層が焼土と炭化材を多量に含む層で、焼失した住居跡の可能性が考えられた。本住居跡からの出土遺物は無いが、1・2号住居跡と同様に古代の住居跡と推定される。なお、住居跡を切って掘り込まれていた柱穴は比較的新しいものと判断された。

2号竪穴住居跡の規模・形状は、径3.5m以上、隅丸方形と推定される。北壁と西壁は確認できたが、東側は調査区域外であり、南壁は確認できなかった。埋土は黒褐色土の単層である。床面は3層を掘り込んでおり、ほぼ平坦である。中央付近に径60×50cmの地床炉を伴う。焼土の厚さは8cmほどである。柱穴はPP1～PP7の7基が確認された。出土遺物は少ないが、糸切痕をもつ坏の底部、須恵器の甕の胴部片、土師器の甕の口縁部片が出土している。また、鉄滓も出土していることから、小鍛冶跡の可能性もある。2号竪穴住居跡の南側周辺で確認された焼土遺構や柱穴状土坑も同様の遺構の下部施設である可能性がある。

2号溝跡は上幅50～65cm、深さ25cmで、1号竪穴住居跡の南側で屈曲し、南西・南東方向に延びている。遺物は土師器（不掲載）が出土しており、平安時代と推定される。性格は不明だが、何らかの区画溝の可能性がある。溝跡の内側では土坑2基が検出された。このうち3号土坑は2号溝跡より新しい。3号土坑の規模は、径110cm、深さ20cmほどで、埋土は暗褐色土が主体である。2基の土坑は、規模・形状・埋土の様子から、同様の性格を有する遺構と考えられる。詳細は不明ながら、建物跡を構成する可能性がある。

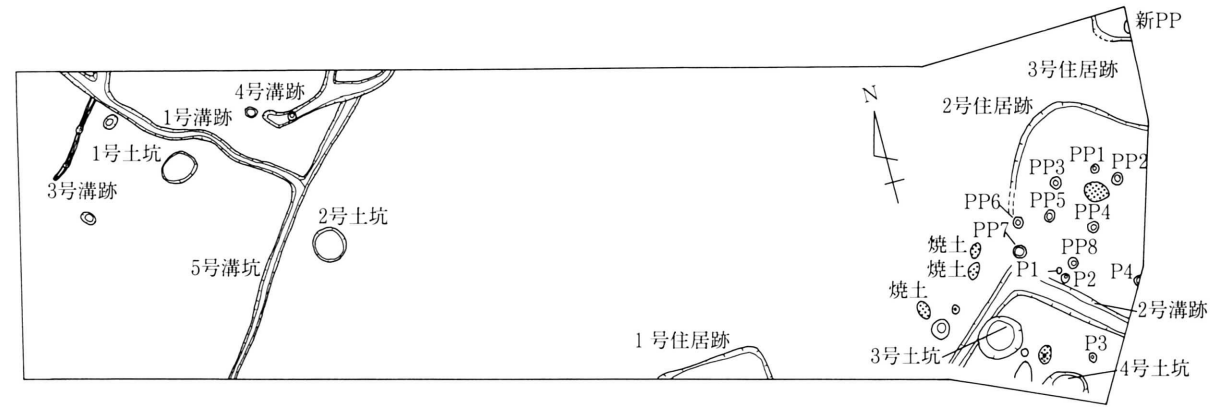
出土遺物は、土師器・須恵器の他に弥生時代の高坏の台部が出土している。

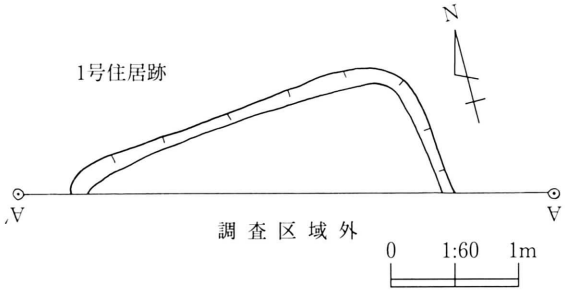
今回の調査で、本遺跡は平安時代の集落跡であることが確認された。また付近に弥生時代の遺構が存在する可能性も有している。

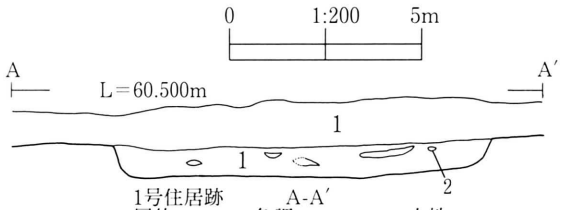
南田遺跡土器観察表

図版	掲載									計測値（cm）				
No.	No.	出土地点	層　位	種類	器種	部位	成形	外面調整	内面調整	口径	器高	底径	底面	備考
12	1	1号住居跡	埋土1層	須恵器	甕	底部	ロクロ	－	－	－	－	8.0	高台付	
12	2	1号住居跡	埋土1層	須恵器	甕	胴部		T	－	－	－	－	—	
12	3	1号住居跡	埋土1層	土師器	坏	口縁部	ロクロ	－	M・内黒	－	－	－	—	
12	4	1号住居跡	埋土1層	土師器	坏	口縁部	ロクロ	N	N	－	－	－	—	
12	5	1号住居跡	埋土1層	土師器	甕	胴部		M・N	N	－	－	－	—	
12	6	2号住居跡	埋土2層	土師器	甕	底部	ロクロ	－	－	－	－	－	回転糸切り	
12	7	2号住居跡	埋土2層	須恵器	坏	胴部	ロクロ	－	－	－	－	－	—	
12	8	2号住居跡	埋土	土師器	甕	口縁部	ロクロ	N	N・M	－	－	－	—	
12	9	P3	埋土	土師器	甕	口縁部	ロクロ	N	N	－	－	－	—	
12	10	P3	埋土	土師器	坏	口縁部	ロクロ	－	M・内黒	－	－	－	—	
12	11	P7	埋土	土師器	甕	底部	ロクロ	－	M・内黒	－	－	8.0	回転糸切り・高台付	
12	12	南東端	南東ベルト	土師器	坏	底部	ロクロ	－	内黒	－	－	6.5	—	
12	13	南東端	包含層	土師器	坏	底部	ロクロ	N	M・内黒	－	－	5.0	回転糸切り	
12	14	トレンチ(T)32	包含層	弥生？	高坏	底部		－	－	－	－	5.8	—	LR縦
12	15	トレンチ(T)35	包含層	土師器	甕	胴部下半		－	N	－	－	9.0	—	

※調整、M：ミガキ、N：ナデ、T：タタキ。

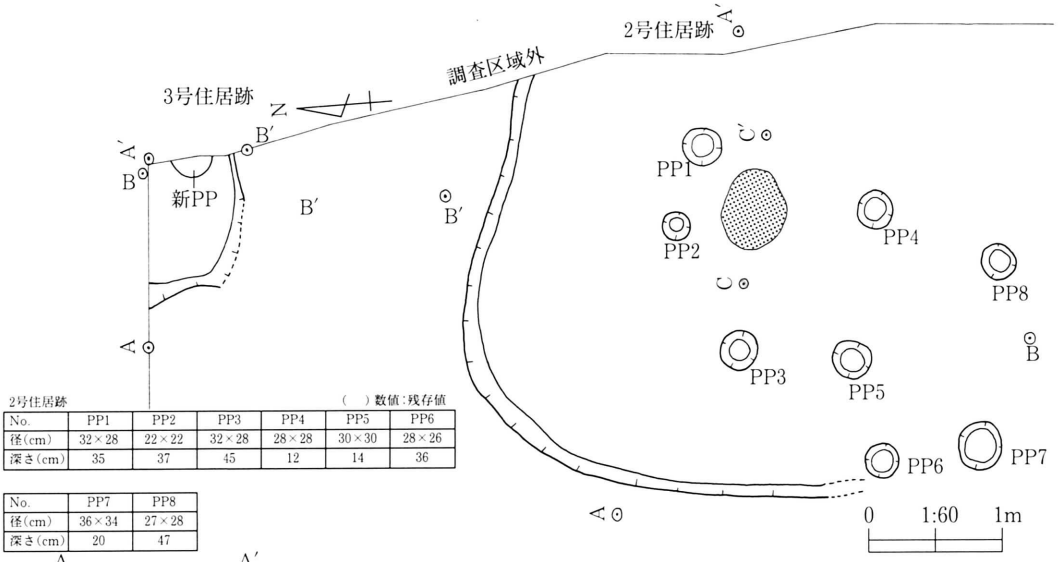






1号住居跡　A-A′

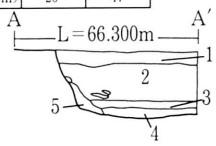
層位	色調	土性
1	10YR2/2 黒褐色	シルト　締まり中。
2	10YR6/4 にぶい黄橙色	粘土質　締まり中。

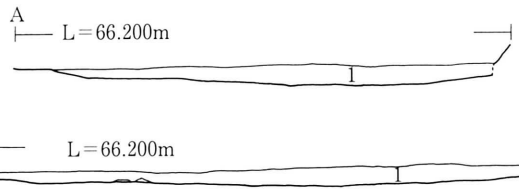


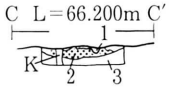
2号住居跡　（　）数値：残存値

No.	PP1	PP2	PP3	PP4	PP5	PP6
径(cm)	32×28	22×22	32×28	28×28	30×30	28×26
深さ(cm)	35	37	45	12	14	36

No.	PP7	PP8
径(cm)	36×34	27×28
深さ(cm)	20	47

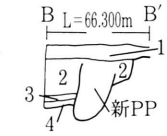






2号住居跡　ガ　C-C′

層位	色調	土性
1	10YR2/3 黒褐色	シルト　締まり中。
2	2.5Y4/8 赤褐色	シルト　締まり密。
3	10YR6/8 明黄褐色	ローム　地山



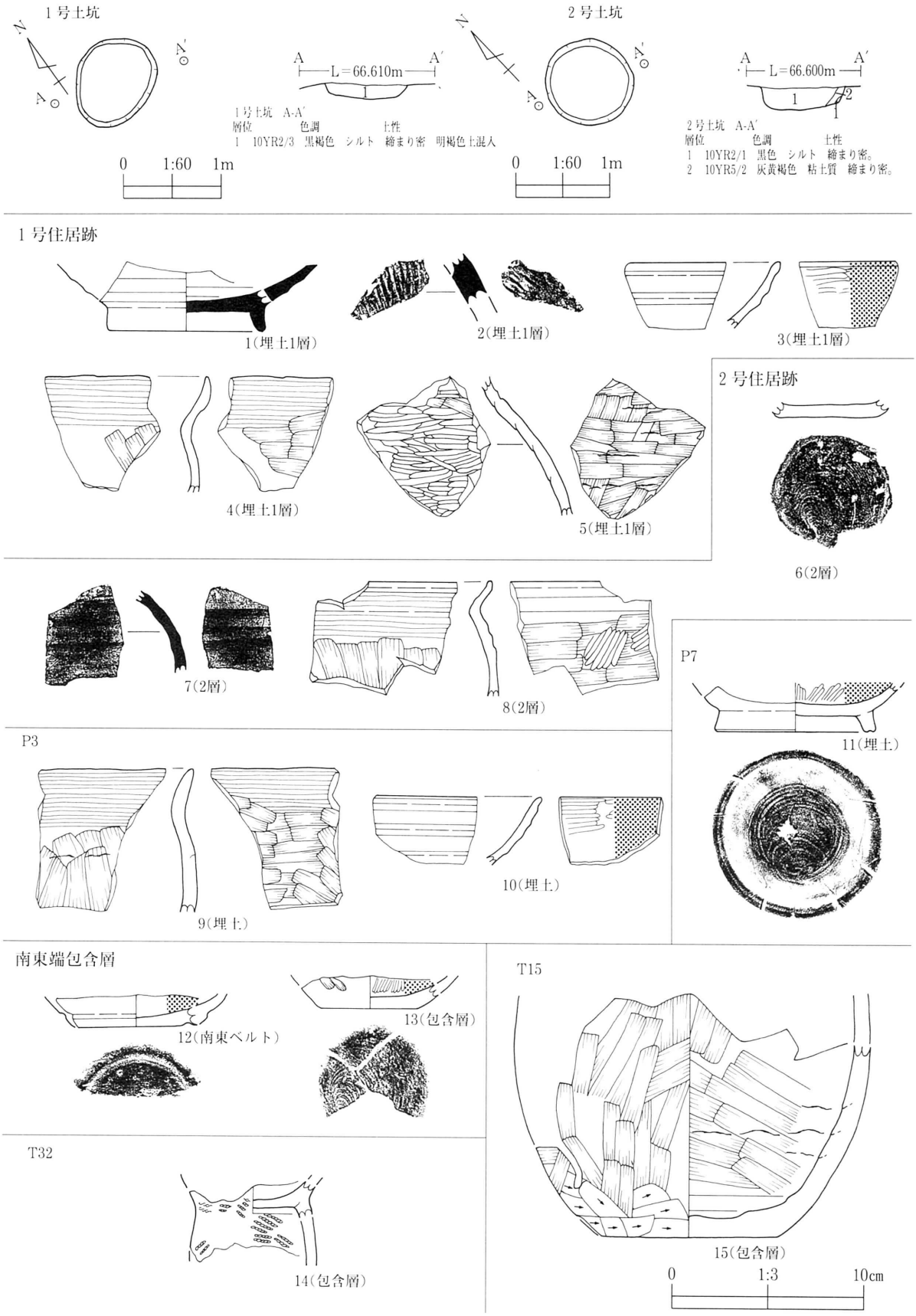
3号住居跡　A-A′・B-B′

層位	色調	土性
1	水田床土。	
2	10YR2/2 黒褐色	シルト　締まり密　炭化物1%混入。
3	2.5YR3/6 暗赤褐色	汚れた焼土と10YR2/2　黒褐色の混土　締まり密。
4	10YR2/1 黒色	シルト　締まり中　炭化物3%混入。
5	10YR6/8 明黄褐色	ロームと10YR2/2黒褐色　シルト　混土。
新PP	10YR3/4 暗褐色に10YR6/4	にぶい黄褐色ブロック混入。

2号住居跡　A-A′・B-B′

層位	色調	土性
1	10YR2/3 黒褐色	シルト　締まり密　上位に暗褐色土混入。

第11図　南田遺跡遺構図



第12図　南田遺跡出土遺物

5　ほ場整備事業猫川左岸地区関連調査

林崎Ⅰ遺跡（MF66－2158）

所在地；遠野市上郷町地内

事業者；遠野地方振興局遠野農村整備事務所

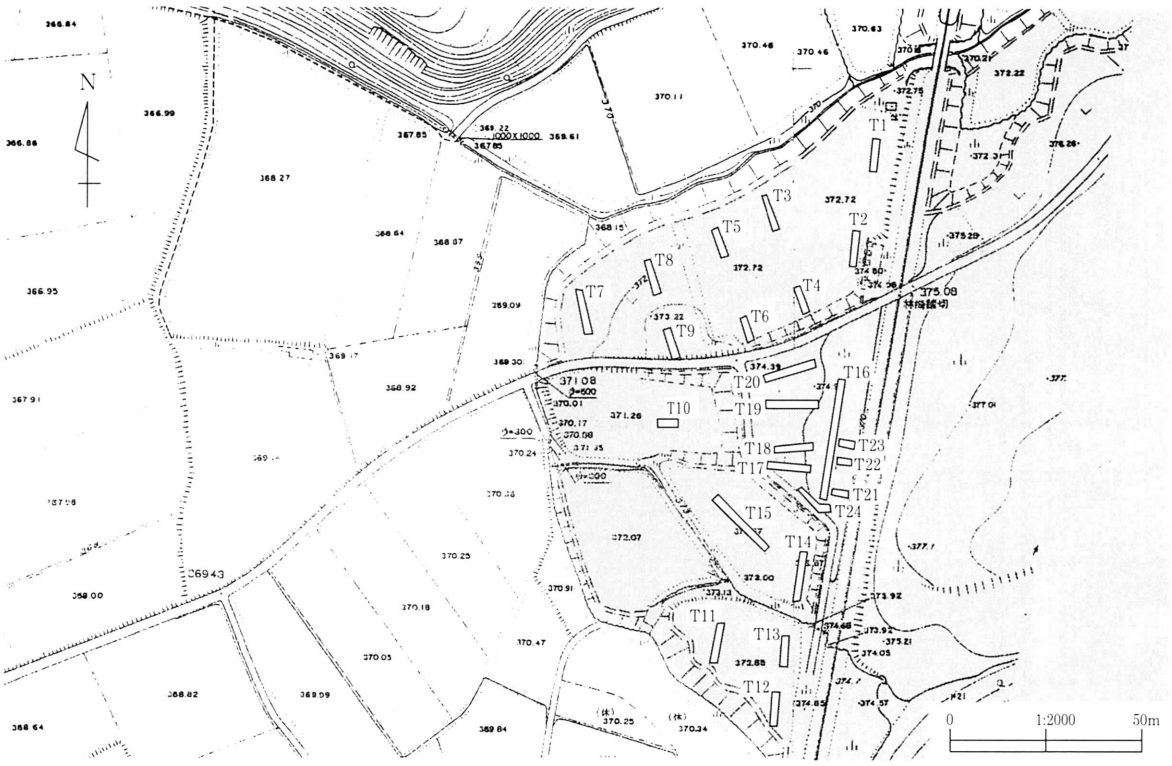
調査期日；平成13年11月 6日～ 7日（２日間）

本遺跡は、ＪＲ釜石線平倉駅の北西約 1kmに位置し、猿ケ石川と猫川に挟まれた丘陵裾部に立地している。標高は 372～380 mを測り、現況は牧草地と水田となっている。今回の調査は、担い手育成基盤整備事業に伴い、今年度施工される田面と支線道路予定箇所を中心に、計20本のトレンチを設定した（T1 ～20)。

第13図　林崎Ⅰ遺跡位置図

調査の結果、農道を挟んだ北側に設定したトレンチ（T1 ～9 ）と、既に削平を受けて地形改変がなされた南側及び西側に設定したトレンチ（T10～15) からは、遺構・遺物は確認されなかった。一方、線路沿いの高台部分は現況から比較的旧地形が残存していることが予想されたため、重点的に試掘調査を実施した。最も線路寄りの箇所に設定したトレンチ（T16）において、地表面から30cmの所から陥し穴状遺構１基を検出した。検出面の埋土及びその周辺からは遺物は出土していない。この遺構は、長さ 250cm×幅20～40cm×深さ25cmのもので、検出された遺構の状況から、縄文時代の陥し穴状遺構の底部付近と推定された。

陥し穴状遺構は３層上面で検出されているが、遺構の立地状況から線路付近の高台は地山面までが浅く、ある程度の削平を受けていると推定される。当遺跡はＪＲ釜石線を挟んで東側山裾部に広がっており、今回の調査区のすぐ隣を平成13年度春に㈶岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが本調査を実施している。



第14図　林崎Ⅰ遺跡調査区位置図

6　ふるさと農道緊急整備事業黒川乙部地区関連調査

沢川目遺跡（LE48－1011）

所在地；盛岡市大ケ生11、沢川目

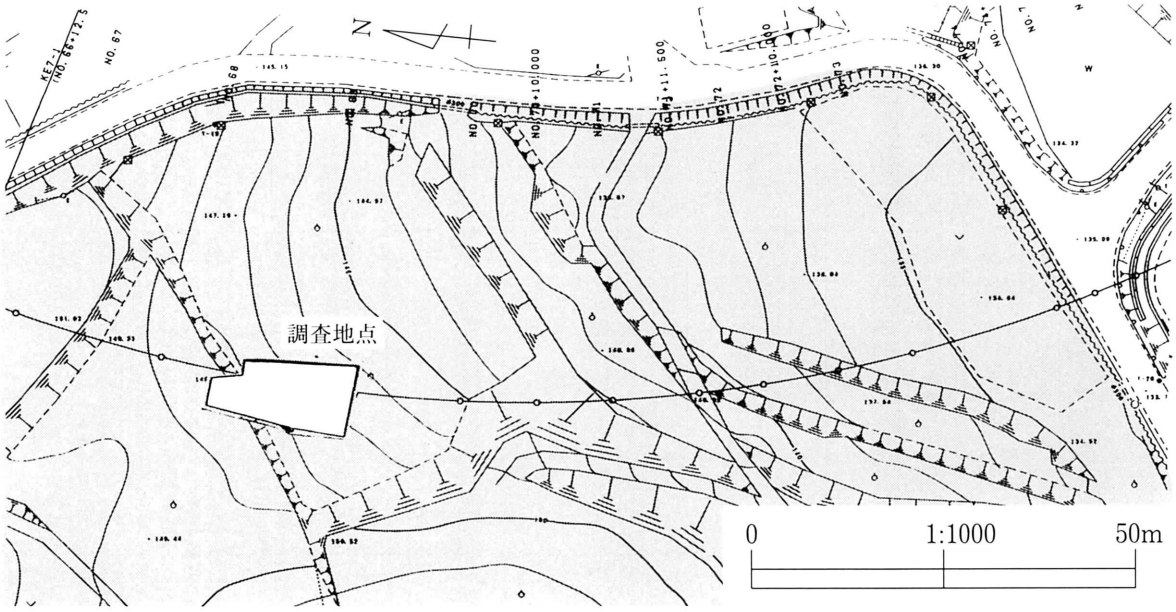
事業者；盛岡地方振興局盛岡農村整備事務所

調査期日；平成13年５月10日～５月15日（４日間）

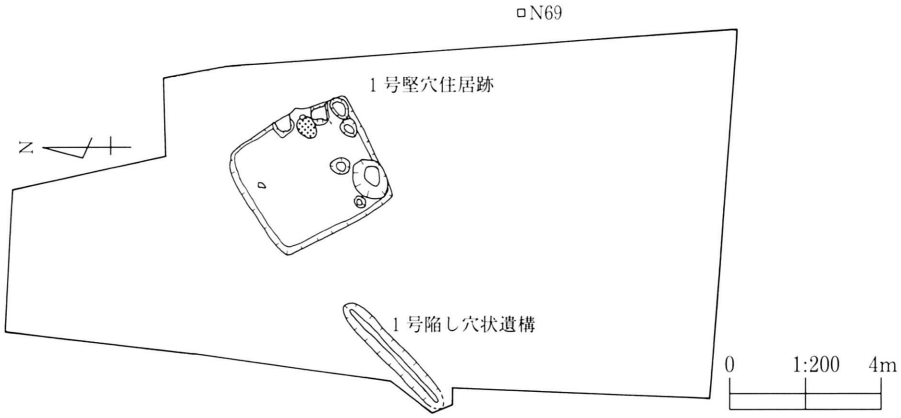
本遺跡は、ＪＲ東北本線矢巾駅の東約5.5kmに位置し、北上川左岸の河岸段丘上に立地している。今回の発掘調査は、昨年度調査で検出した竪穴住居跡１棟と新たに検出した陥し穴状遺構１基を対象に記録保存を行った。

第15図　沢川目遺跡位置図

竪穴住居跡は地山の褐色土及び黄褐色ローム上面で遺構プランを確認した。住居跡の平面は、一辺が３m50cm程の隅丸方形を呈し、カマドは住居跡東側に存在していたが、煙道部分は残存していなかった。カマドの向きを中心軸にすれば、本住居跡は東から北に30°程の傾きがあるようである。埋土１層目の黒褐色土には一部で灰白色火山灰の小ブロックが含まれていた。火山灰を含む層の下層（２層）は、地山ロームをブロックで含む粘性の強い堆積土であり、人為的に埋め戻された可能性が推測される。埋土に含まれる遺物は平安時代前期の土師器片が主体であり、黒褐色土よりも人為堆積層に、より多くの遺物が含まれていた。カマド右袖周辺の床面上に焼土粒を多く含む土の広がりがあり、その中に完形の須恵器壺や内黒土師器坏等が含まれていた。それらの遺物はカマド周辺に焼土と共に完形のまま捨てられ、近年の果樹園造成時等に欠損したものと推定される。本住居跡に伴う土坑類は、南側に５基確認している。いずれも床面から検出されたものである。カマド右袖周辺の焼土層の下にはＰ２、Ｐ５があり埋土は黒色土であった。Ｐ３については、埋土の殆どが焼土粒を多く含む層であり土器片も含まれていた。Ｐ３は、平面規模が100cm×80cmの楕円形で、深さは30cm程であった。カマド袖はロームを住居の壁と床面に貼りつけたものであった。カマドの幅は160cm程で、カマド中央には土師器長胴甕を倒立して置き支脚としていた。住居跡西側の陥し穴状遺構は380cm×60cm程で検出面から底面までの深さは110cm前後であった。

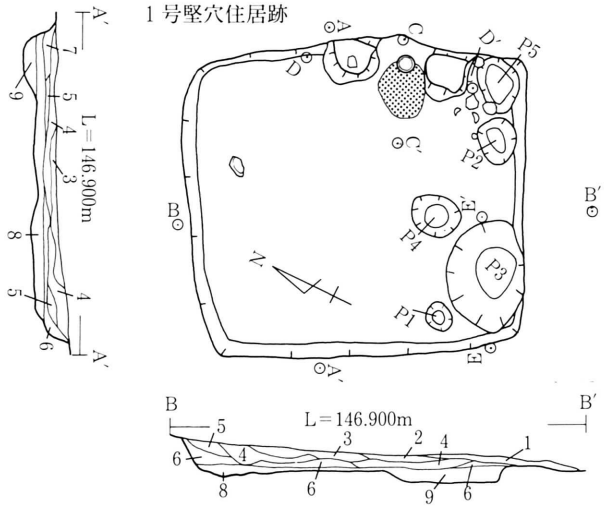


第16図　沢川目遺跡調査区位置図



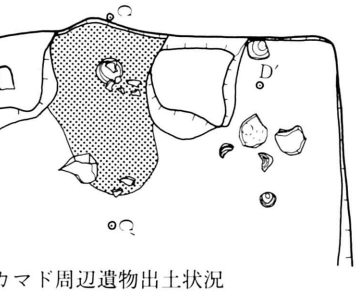
沢川目遺跡遺構配置図

1号竪穴住居跡



1. 10YR3/3 暗褐色粘土質シルト、黒褐色土小ブロックを含む。住居跡埋土を切る層。
2. 10YR2/2 黒褐色シルト、褐色粘土ブロックを含む。炭化物・土器粒等を含む。
3. 10YR3/2 黒褐色シルト、 黄褐色～褐色土ブロックを少量含む。灰白色火山灰小ブロックを20%含む。
4. 10YR2/2 黒褐色粘土質シルト 黄褐色粘土小ブロックを20%含む。土器片・炭化物粒を含む。
5. 10YR2/2 黒褐色粘土質シルト、黄褐色粘土大～中ブロックを10%含む。
6. 10YR2/2 黒褐色粘土質シルト、黄褐色粘土質中～小ブロックを40%含む。
7. 10YR2/2 黒褐色粘土質シルト、黄褐色粘土土大ブロックを50%含む。カマド構築土。
8. 10YR3/1 黒褐色粘土質シルト、黄褐色粘土小ブロックを40%含む。住居跡ハル貼床
9. 10YR2/2 黒褐色シルト、黄褐色粘土中～小ブロックを20%含む。

カマド周辺遺物出土状況

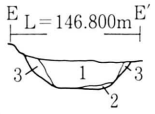


カマド断面

1. 2.5YR3/4暗赤褐色土 焼土粉末体で黒褐色小ブロック、炭化物粒を少量含む。
2. 5YR4/6赤褐色、焼土粉末体で、明赤褐色焼土小ブロック、黒褐色土・炭化物粒を少量含む。
3. 10YR5/6 黄褐色粘土、黒褐色土ブロックを20%、焼土粒を少量含む、カマド構築土。
4. 10YR3/3 暗褐色粘土質 黄褐色土大ブロックを40%、焼土粒を少量含む。
5. 2.5YR4/6赤褐色焼土、暗褐色土小ブロック～粒状に微量含む。
6. 10YR2/3 黒褐色粘土質、黄褐色土小ブロックを30～40%含む。貼床と同様の土層。
7. 2.5YR5/6明赤褐色焼土、かたくしまる。
8. 7.5YR5/6明赤褐色粘土質土、明赤褐色焼土ブロックを含む。

0 1:40 50cm

P3断面

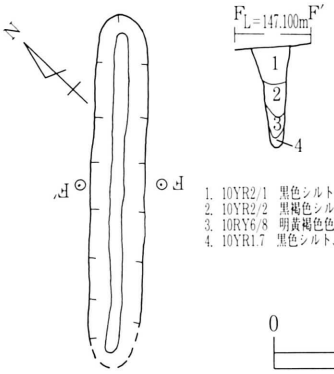


P3断面

1. 2.5YR3/3暗赤褐色土、暗赤褐色焼土粒～小ブロックを10%、暗褐色土小ブロックを10%含む土器片を少量含む
2. 10YR2/3 黒褐色粘質土、黄褐色粘土小ブロックを含む、焼土粒を少量含む。
3. 10YR2/3 黒褐色粘質土、2層よりしまりあり。黄褐色粘土小ブロックを20%含む。

0 1:80 2m

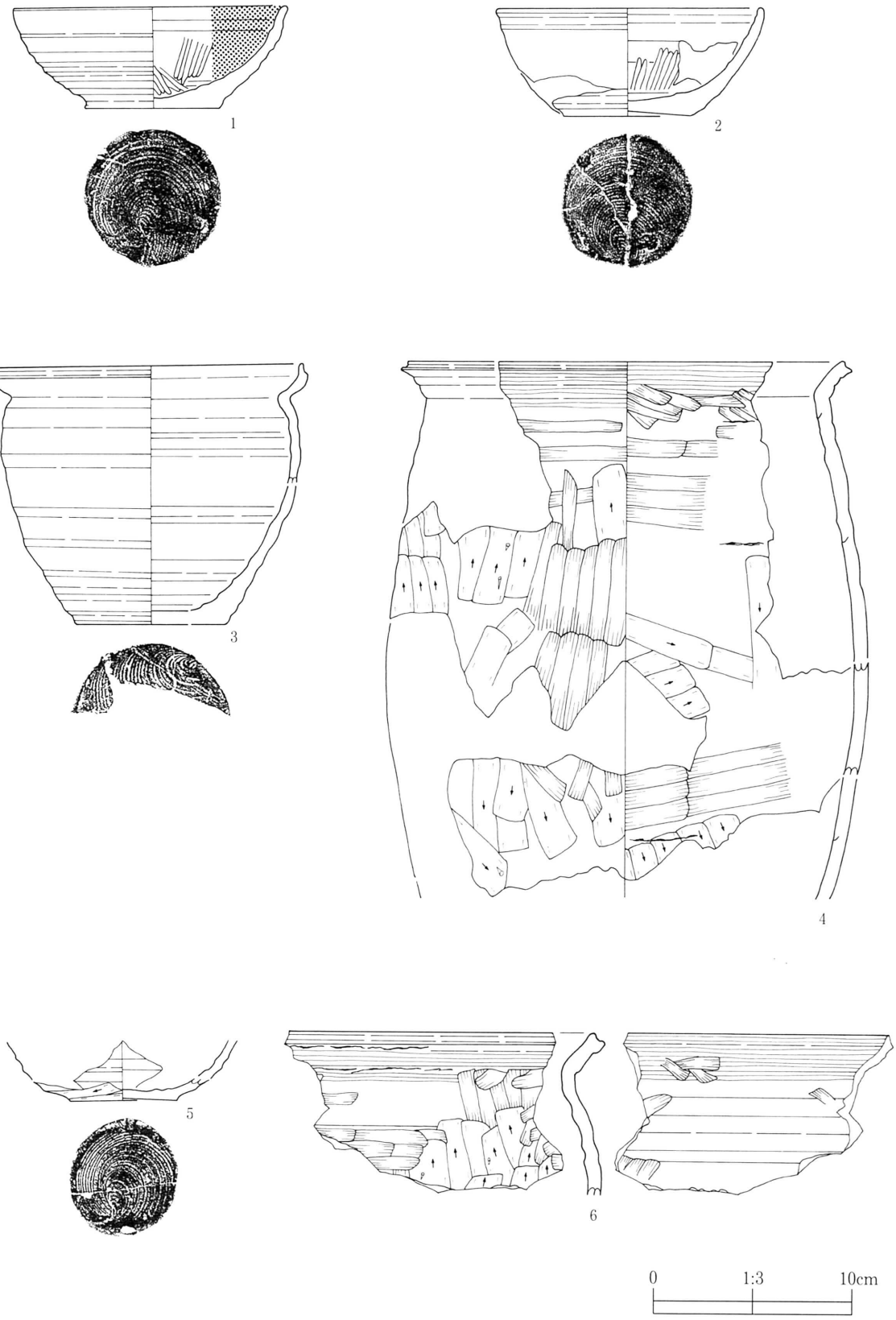
1号陥し穴状遺構



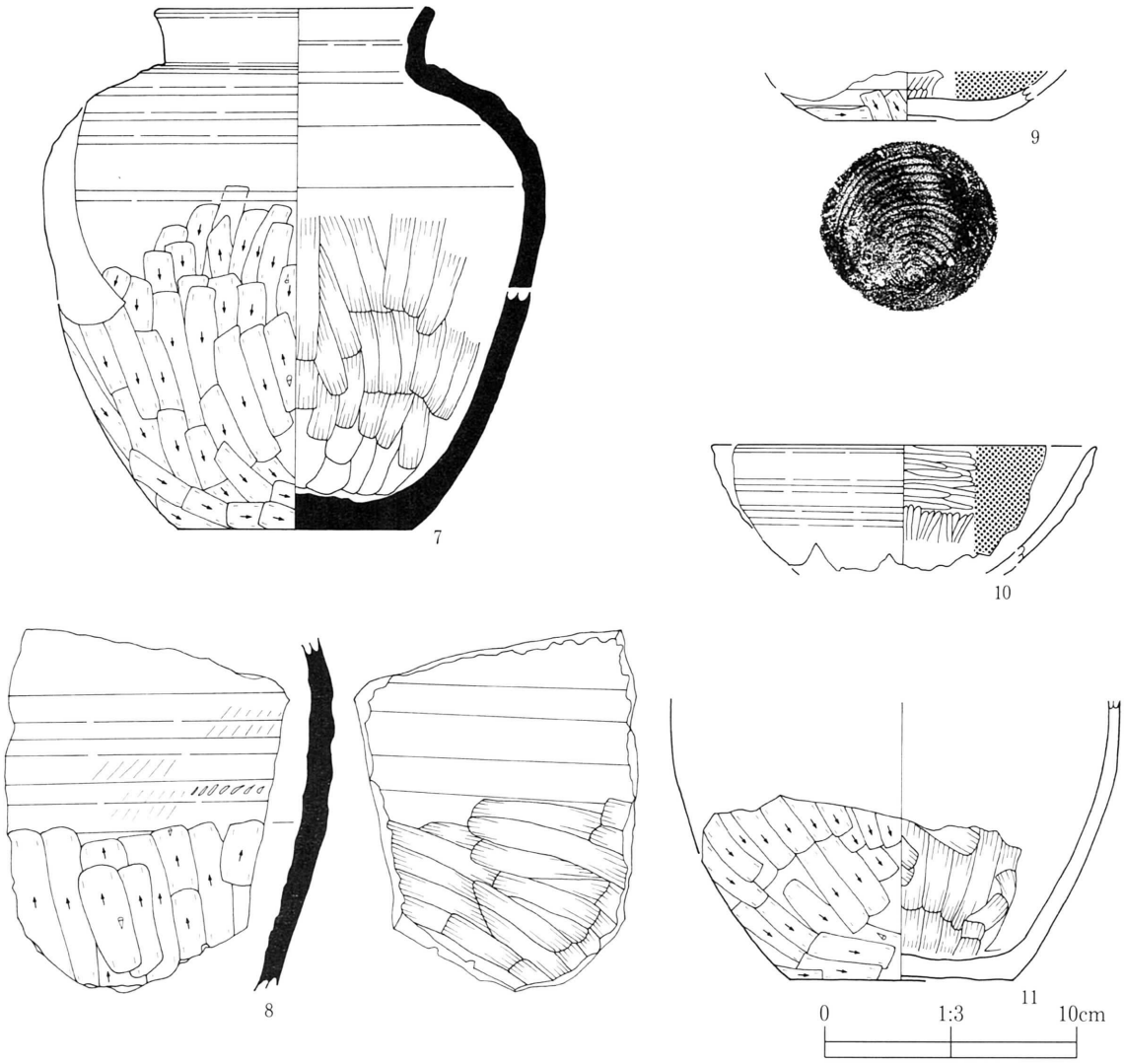
1. 10YR2/1 黒色シルト、締まり中。
2. 10YR2/2 黒褐色シルト、締まり中。黄褐色土土粒を50%含む。
3. 10RY6/8 明黄褐色色ローム、締まり密。崩落土。
4. 10YR1.7 黒色シルト、締まり密。旧表土層の自然堆積層。

0 1:80 2m

第17図 沢川目遺跡遺構図



第18図　沢川目遺跡出土遺物 1



沢川目遺跡　出土遺物観察表

番号	出土遺構	出土地点・層位	器種	成形	外面調整	内面調整	法量			備考
							口径	器高	底径	
1	1号竪穴住居跡	カマド付近	土師器坏	ロクロ	—	内黒、ヘラミガキ	13.8cm	5.1cm	6.8cm	回転糸切り痕
2	1号竪穴住居跡	カマド付近	土師器坏	ロクロ	—	ヘラミガキ	13.0cm	5.8cm	6.4cm	回転糸切り痕
3	1号竪穴住居跡	カマド炉内部	土師器甕	ロクロ	—		16.0cm	13.2cm	(7.6cm)	回転糸切り痕
4	1号竪穴住居跡	カマド炉埋土、P3埋土	土師器長胴甕	ロクロ	ヘラケズリ、ヘラナデ	ヘラケズリ、ヘラナデ	22.0cm	残存器高 27.0cm	最大径 24.4cm	輪積痕
5	1号竪穴住居跡	カマド付近床面	土師器坏	ロクロ	低部ヘラケズリ				5.3cm	回転糸切り痕
6	1号竪穴住居跡	カマド炉埋土	土師器甕	ロクロ	ヘラケズリ、ヘラナデ	ヘラナデ				輪積痕
7	1号竪穴住居跡	カマド付近床面	須恵器壺	ロクロ	ヘラケズリ	ヘラナデ	11.7cm	21.6cm	10.0cm	
8	1号竪穴住居跡	カマド埋土	須恵器甕	ロクロ	ヘラケズリ	ヘラナデ				外面平行叩き
9	1号竪穴住居跡	3区埋土	土師器坏	ロクロ	低部ヘラケズリ	内黒、ヘラミガキ			7.1cm	回転糸切り痕
10	1号竪穴住居跡	3区埋土	土師器坏	ロクロ		内黒、ヘラミガキ	(16.0cm)			低部欠損
11	1号竪穴住居跡	2区・P3埋土	土師器甕	ロクロ	ヘラケズリ	ヘラナデ				

第19図　沢川目遺跡出土遺物 2

7　県営中山間総合整備事業関連調査

四十九里遺跡 (ME57－2028)

所在地；北上市黒岩地内

事業者；北上地方振興局北上農村整備事務所

調査期日；平成13年４月23日～26日（４日間）

遺跡は、北上川左岸の中位段丘面に立地する。現況は水田と山林になっており、水田は斜面を削って段々に形成、区画されている。

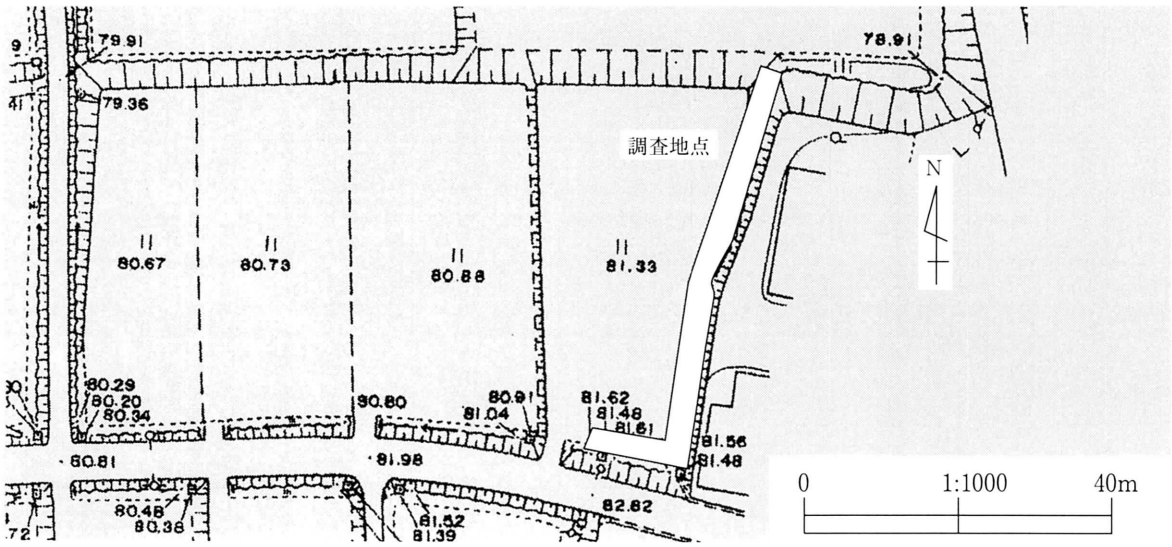
今回、この遺跡を含む地域がほ場整備の予定地に組み込まれ、設計上止むをえない箇所について調査を実施した。

第20図　四十九里遺跡位置図

四十九里遺跡周辺は縄文時代の遺跡は密集する地域である。北上川東岸に限ってみても、近くには、国史跡八天遺跡があり、縄文時代の円形建物跡、鼻、口、耳形の土製品など、縄文時代中期、後期に属する多量の遺物が発見されている。また、南下すると樺山遺跡があり、縄文時代中期～後期初頭の住居跡、墓域が発見され、現在国史跡となり、遺跡整備が実施された。現在の北上市東陵中学校地には横町遺跡があり、北上市教育員会により発掘調査が実施され、縄文時代前期の大型住居跡など多数の遺構、遺物が見つかっている。

古代の遺跡は寺院跡が多い。四十九里遺跡にほぼ近接して、白山廃寺跡があり、９世紀から12世紀までの遺物が出土している。国見山廃寺は９世紀末から10世紀を中心とする遺構が発見され、礎石建物跡等が確認されている。定額寺に比定されている古代寺院である。横町遺跡からは礎石建物跡が発見されている。横町廃寺とされ、11世紀から12世紀のものである。

今回は水路設置部分で、掘削される箇所に３～４ｍ×60ｍの調査区を設け、約230㎡を発掘した。調査区の標高は81ｍ程である。かつての開田時に、全体的に削平を受けており、旧表土、遺物包含層は無く、３層上面（地山）が遺構確認面であった。特に調査区南側が切り土により著しく削平を受けている。北側に向うにつれ、盛土等が厚くなり、地形が落ち込んでいくのが観察された。調査の結果、土坑２基、柱穴状の小土坑２基が発見された。

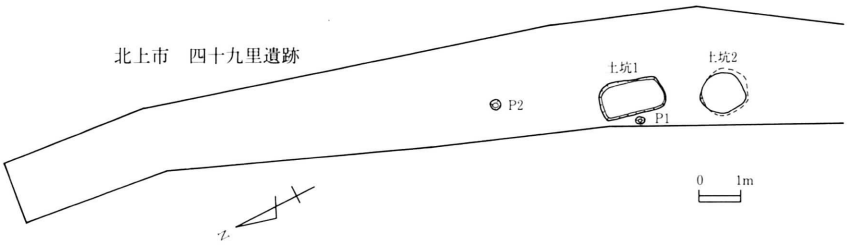


第21図　四十九里遺跡調査区位置図

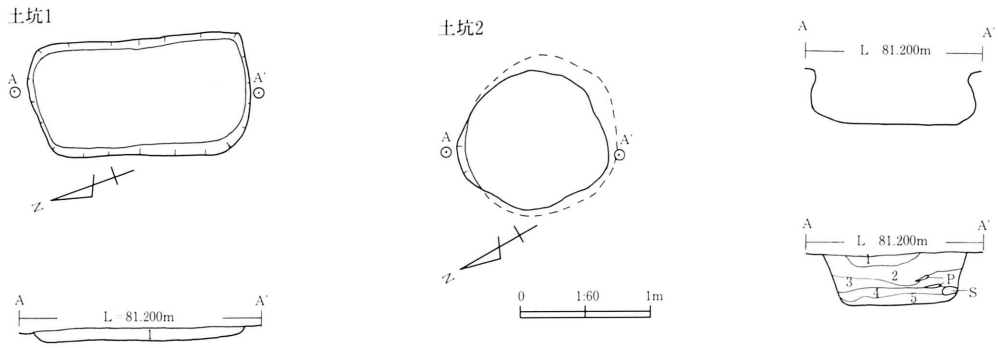
土坑２基は、いづれも調査区中央付近に位置する。１号土坑は、長径170㎝、短径92㎝の隅丸方形で深さは10㎝で、埋土は黒褐色土の単層である。所属時期は、出土遺物に土師器の小片があること、埋土のしまり具合等から平安時代と考えられる。深さ、周囲の状況から、本来の土坑の深さを維持しておらず、かなりの削平を受けていたと考えられた。

２号土坑は開口部長径110㎝、短径115㎝の円形で、深さ40㎝である。開口部より底面が広い、いわゆる断面フラスコ状の土坑で、埋土は５層に分かれ、黄褐色と黒褐色土の混じったものである。縄文時代中期の土器片が出土している。出土した土器は埋土中から横になって出土し、出土位置に規則性は認められなかった。時期が明らかなものは、６の土器で大木8b式期のものである。３もそれに近い時期のものと考えられる。２は、つばが付く土器のつば部分破片であると考えられる。両面ともミガキが加えられ、破断面の観察からすると貼付部分より剥落したことが分かる。有孔鍔付土器破片の可能性があると推定される。９は土師器底部片である。埋土から出土しているが、平安時代以降の削平時に混入したものと推定される。

柱穴状の小土坑は直径30㎝の円形で深さ30㎝である。出土遺物はなく、時期は不明である。



四十九里遺跡遺構配置図

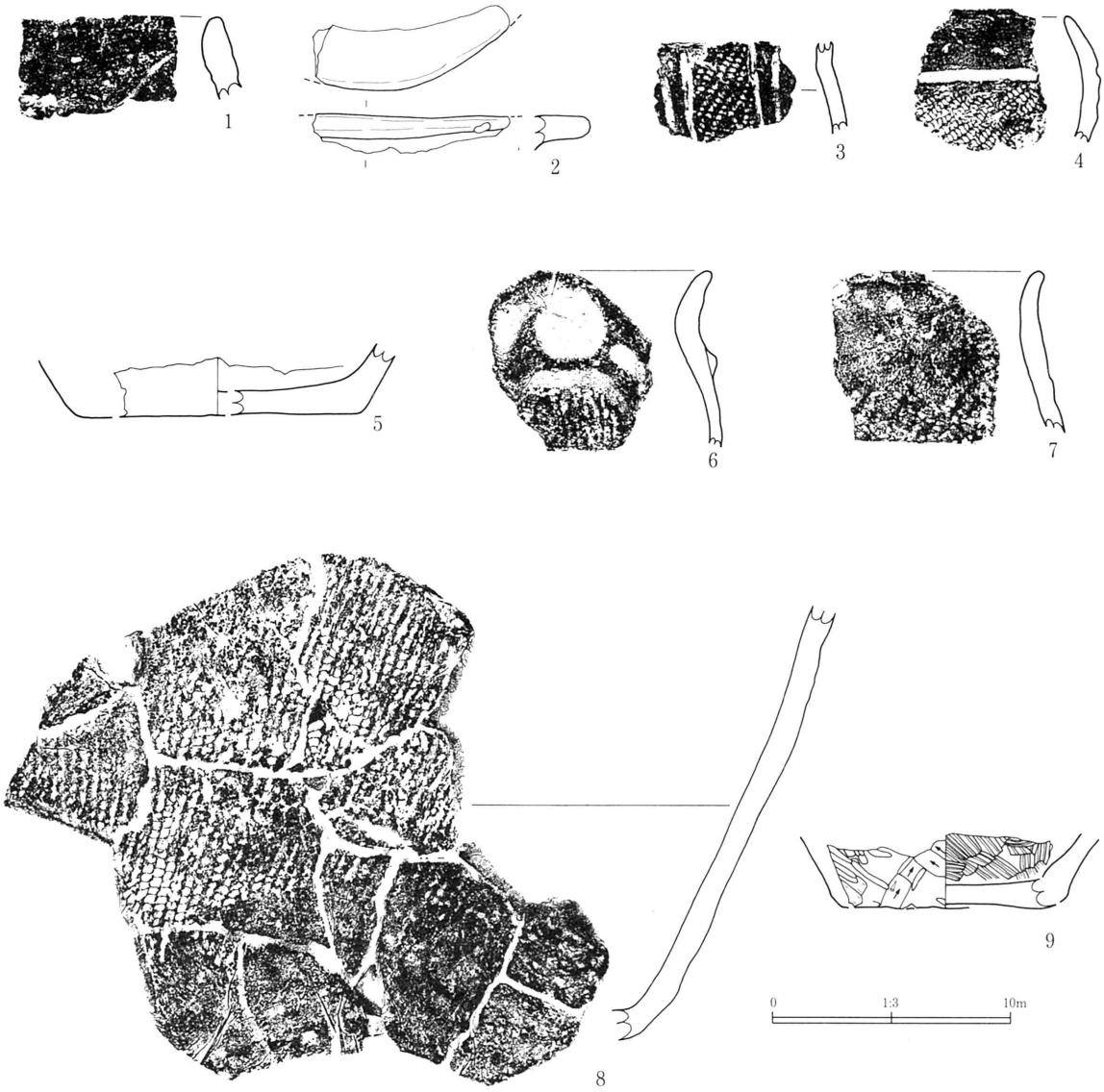


1　粘土、7.5YR2/2 黒褐色、しまり強、粘性ややあり。
炭化物粒子、黄褐色粘土ブロック（直径1～５mm）が少量含まれる。
土師器が含まれている。

1　シルト質土、10YR5/3 にぶい黄褐色、明黄褐色ブロック（直径5～10mm）、
炭化物が若干が入る。しまり・粘性中。
2　シルト質土、10YR3/4 暗褐色、明黄褐色ブロック（直径5～10mm前後）、
炭化物が若干が入る。しまり・粘性中。
3　シルト質土、10YR3/3 明褐色、黄褐色ブロックはほとんど含まれない。
しまり・粘性中。炭化物は入るか１、２より少ない。
4　シルト質土、10YR7/1 黒色、しまり・粘性中。
5　シルト質土、10YR3/3 暗褐色、しまり・粘性中。
南側に黄褐色ブロックが層状にはいる。

第22図　四十九里遺跡遺構図

土坑2



四十九里遺跡　出土遺物観察表

番号	出土遺構	出土地区、層位	器　種	外面の特徴	内面の特徴
1	土坑2	埋土区画1	深鉢	平行、斜位沈線文	ミガキ
2	土坑2	埋土区画1	つば破片	ミガキ	ミガキ
3	土坑2	埋土区画1	深鉢	縄文(RL)→縦位沈線文、炭化物付着	横位ミガキ
4	土坑2	埋土区画2	深鉢	縄文(LR)→横位沈線文、ミガキ	ミガキ
5	土坑2	埋土区画2	—	丁寧なミガキ、推定底径8cm	ミガキ
6	土坑2	埋土区画3	深鉢	隆沈線による渦巻文、縄文(原体不明)	炭化物付着
7	土坑2	埋土区画3	深鉢	縄文(RL)	ナデ
8	土坑2	埋土区画3～4	深鉢	縄文(RLR)、ミガキ	ミガキ
9	土坑2	埋土区画3～4	土師器甕	ミガキ、底径8cm	ハケメ

第23図　四十九里遺跡出土遺物

8　緊急地方道路整備事業関連調査

川袋遺跡（JE18－1026）

所在地；二戸市福田字川袋地内

事業者；二戸地方振興局土木部

調査期日；平成13年８月６日～７日（２日間）

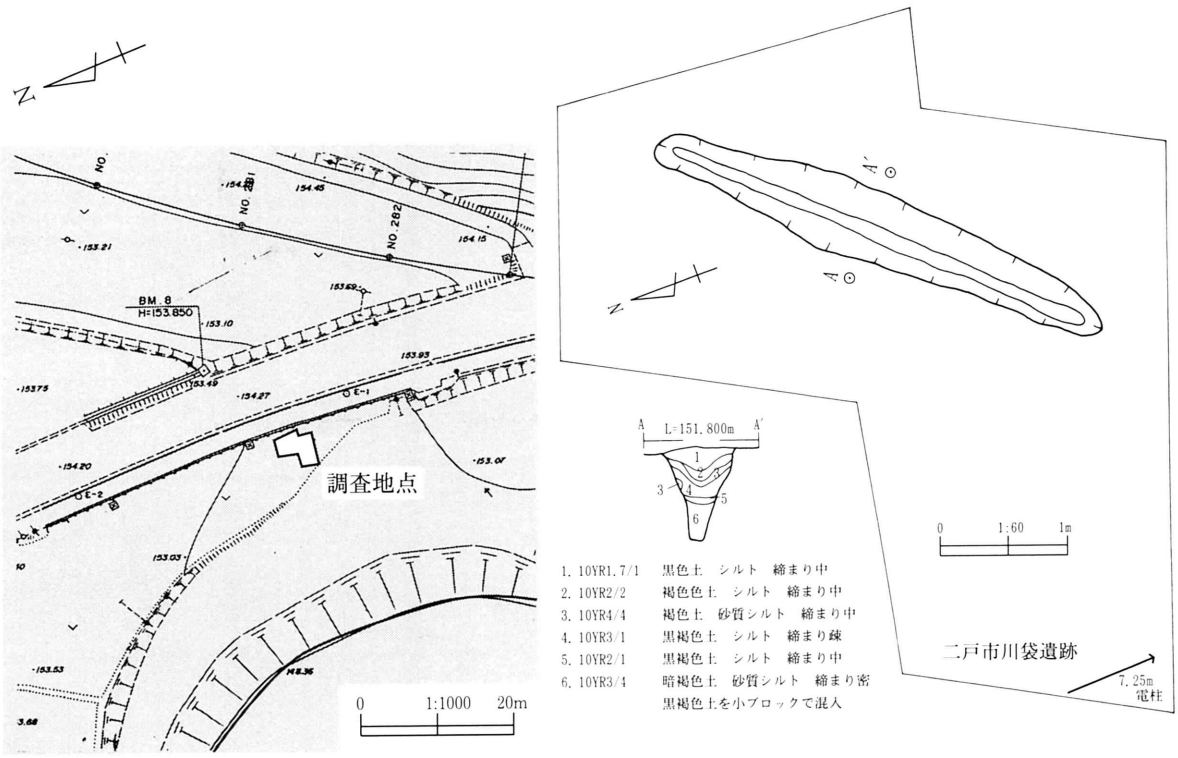
遺跡は、ＪＲ東北本線二戸駅の南西約6.7kmに位置し、安比川右岸の河岸段丘上に立地している。遺跡の標高は152m前後を測り、現況は畑地及び盛土造成地である。

今回の発掘調査は、平成11年11月の試掘調査において陥し穴状遺構を１基検出したことから、記録保存を目的として発掘調査を実施した。発掘対象面積は約６㎡で、発掘調査部分の基本層序は以下のとおりである。第１層：表土10～40㎝、第２層：暗褐色土（中撮浮石を含む）10～20㎝、第３層：黒褐色土5～10㎝、第４層：褐色土（地山）層厚不明。

第24図　川袋遺跡位置図

発掘調査を行った陥し穴状遺構は平面形が溝状で、断面形はＹ字状を呈する。規模は開口部の長さが385㎝、幅が55㎝、底部は長さが355㎝、幅が13㎝で、深さは74㎝である。検出面は第２層上面で、底部は第４層まで掘り込まれている。

この陥し穴状遺構からは遺物が出土しなかったため構築時期を特定することはできないが、溝状を呈する形状から、縄文時代の遺構と推定される。



第25図　川袋遺跡調査区位置図・遺構図

9　緊急地方道路整備事業関連調査

大向Ⅱ遺跡（ＪＥ18－1149）

調査期日；平成13年5月7日～10日（4日間）

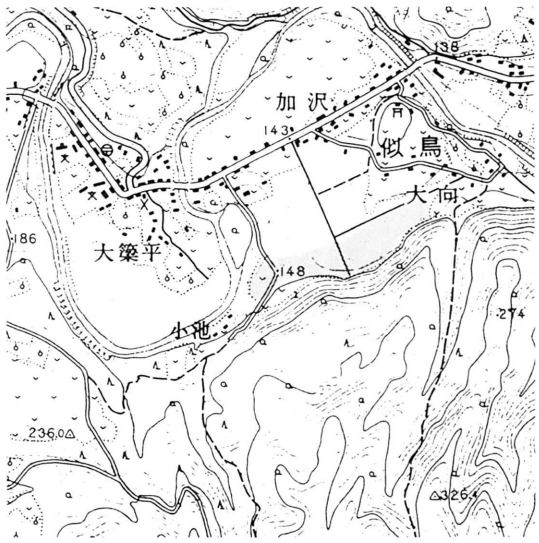
事業者；二戸地方振興局土木部

所在地；二戸市似鳥大向地内

遺跡は、JR東北本線二戸駅の南西約６kmのところに位置し、安比川右岸の沖積地に立地する。標高は148m前後を測り、現況は道路である。

今回の調査は、緊急地方道路整備事業に伴うものである。平成12年度に㈶岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが調査を行っているが、現道があったための未調査部分約220㎡について調査を行った。

基本層序は、１層：黒褐色土（盛土）35cm、２層：黒褐色土20cm、３層：径１mmほどの浮石を少量含んだ黒褐色土15cm、４層：黄褐色の浮石を含む暗褐色土20cm、５層：地山の褐色土となっている。



第26図　大向Ⅱ遺跡位置図

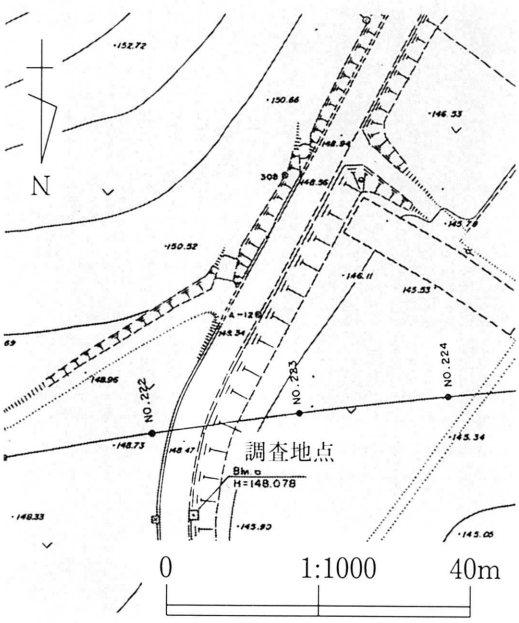
今回の調査では溝跡１条、柱穴状土坑２基が検出されている。

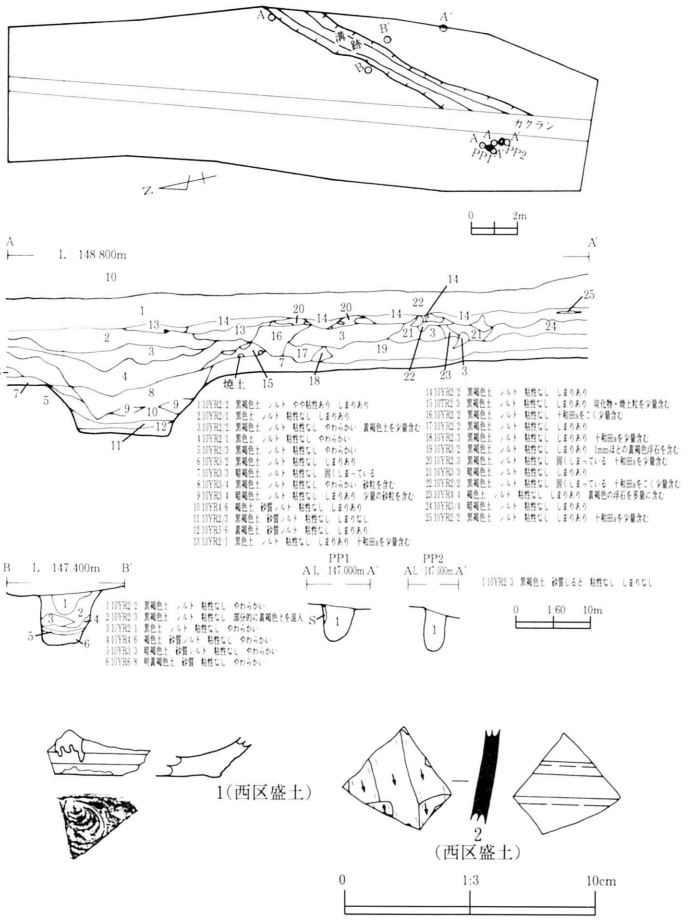
溝跡は、調査区中央付近から北東－南西方向に延びる。幅は80～100cm前後で、長さは調査区域外と水道管埋設部分に続くので不明であるが、検出された長さは７ｍほどである。

柱穴状土坑は調査区の南西側で検出されている。平面形はほぼ円形を呈し、開口部径26cm、底部径15cm前後、深さ35cm前後を測る。

遺物は盛土の中から土師器の坏底部片及び須恵器破片が各１点出土している。

各遺構の埋土から遺物は出土しなかったが、十和田ａ降下火山灰が含まれることなどから古代の遺構と考えられる。





第27図　大向Ⅱ遺跡調査区位置図・遺構図

10　地域支援道路ネットワーク整備事業関連調査

向沢遺跡（LG43－1012）

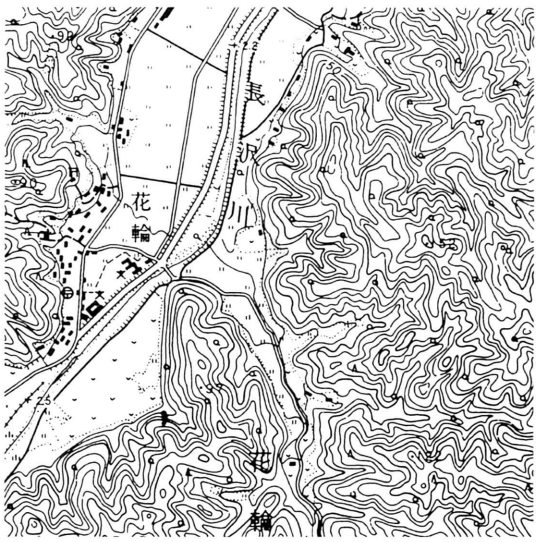
所在地；宮古市花輪地内

事業者；宮古地方振興局農政部

調査期日；平成13年７月16日～31日（11日間）

遺跡は、長沢川右岸の低位段丘に接する丘陵縁辺の西向き緩斜面に立地する。標高は14m程である。現在畑となっている箇所を中心に遺物が分布し、今回の調査区は遺跡の西端に近い部分で、水田面と接する位置にある。

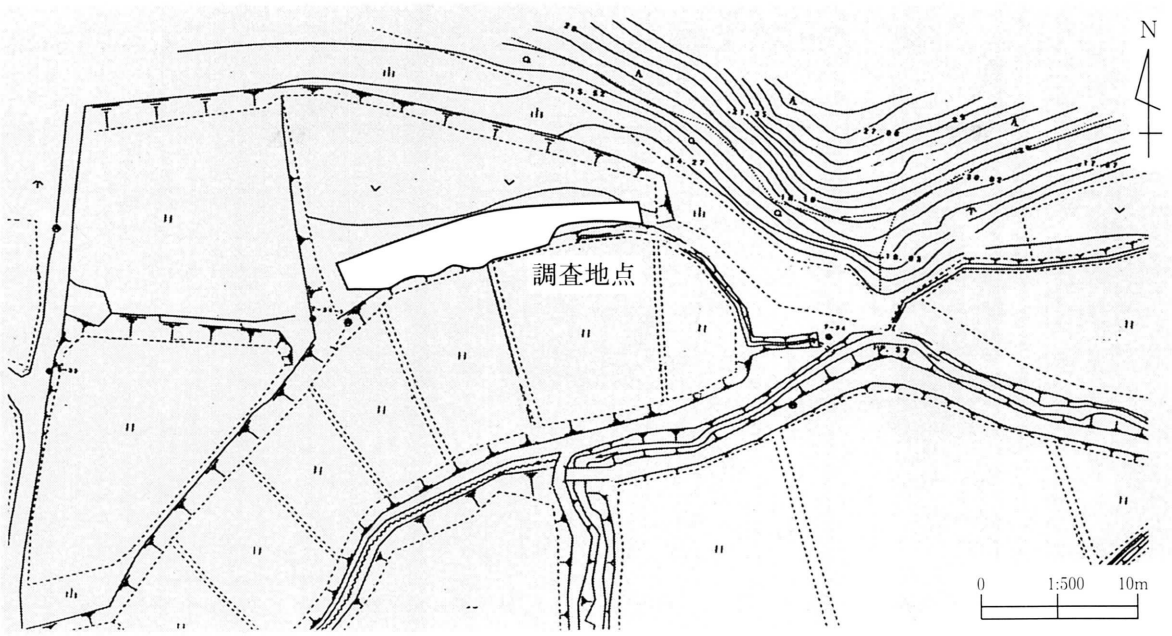
現地には作業用仮設道路が既に設置されており、調査実施に際し、それらの盛土があったので、それらを取り除く作業から着手した。なお、道路敷地の西側は旧水田に盛土した部分であるので、当初から掘り下げは行わなかった。



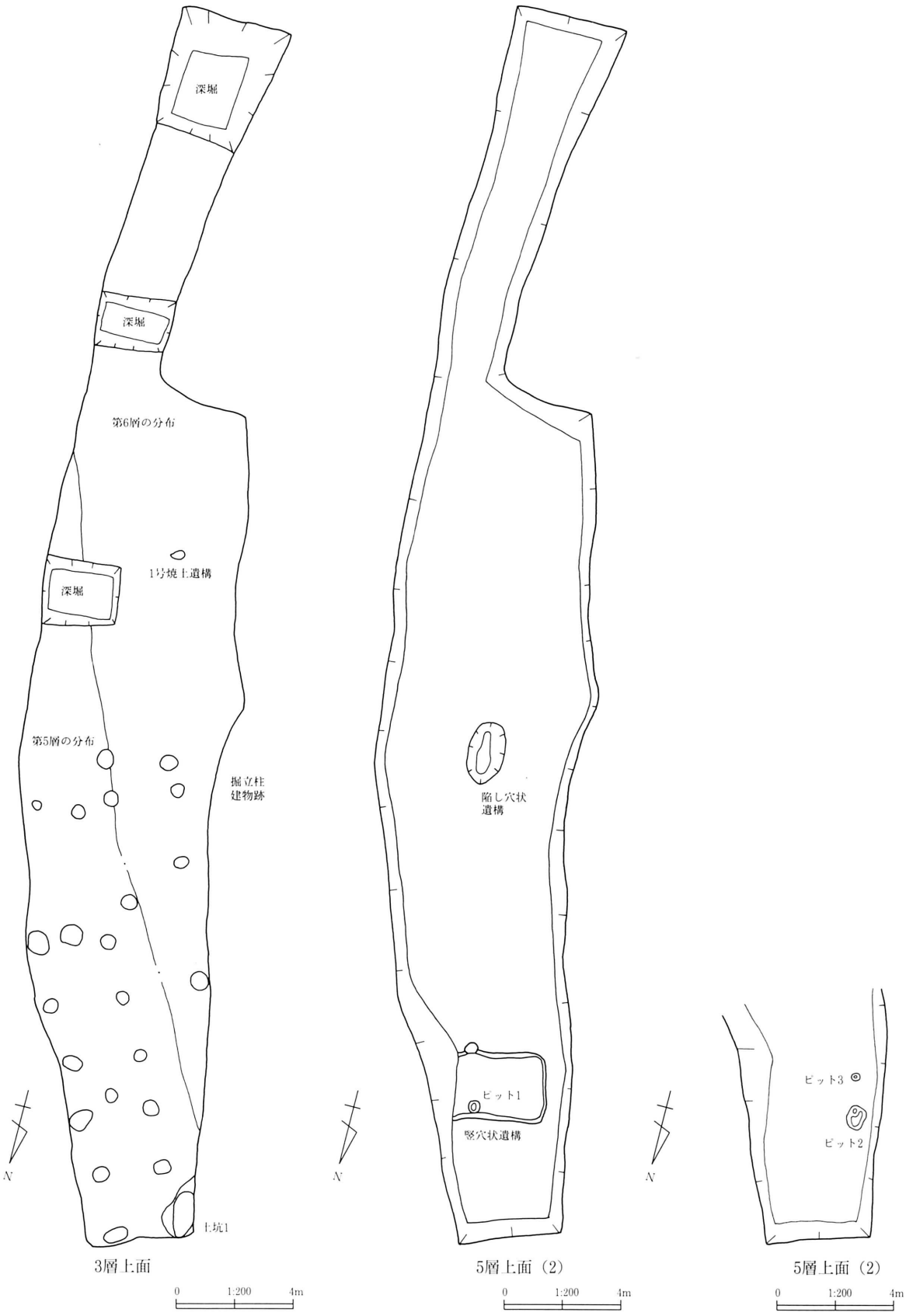
第28図　向沢遺跡位置図

遺構確認面は２面存在し、３層上面は近世、５層上面は縄文前期である。３層上面では、近世の掘立柱建物跡１棟、焼土１基が発見されている。５間×２間以上の規模で調査区外に延びている。柱穴は直径0.5m程の大きさのものが多い。付近から近世陶器が出土している。焼土は直径50㎝、厚さ５㎝である。土坑は1.7m×1.1mの大きさである。掘立柱建物跡に沿って第６層（マサ土）が南北に分布しており、その配置から整地したものと考えられた。掘立柱建物跡ピット４埋土から縄文時代前期の繊維土器が１点出土している。おそらく５層上面に存在する住居跡の遺物が柱穴掘削に伴い、下層から掘り上げられたものである。

５層上面では、縄文時代前期の竪穴住居跡、陥し穴状遺構１基、ピット２基が発見された。竪穴住居跡は短径2.3m、長径3.1m以上の大きさで、調査区外に延びている。深さは0.6m程、床面にピットを伴っている。埋土は２層に分けられ、埋土１は中掫火山灰層である。この層はさらに２つに細分される。住居跡の南側に小ピットがあるが、３層上面の近世の掘立柱建物跡の掘方によって撹乱を受けた部分である。出土遺物には

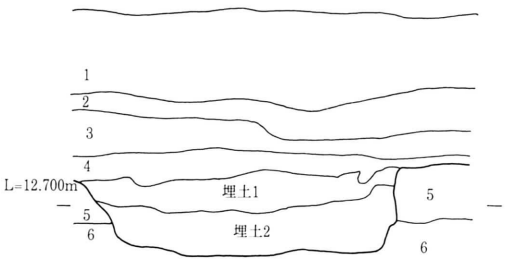


第29図　向沢遺跡調査区位置図



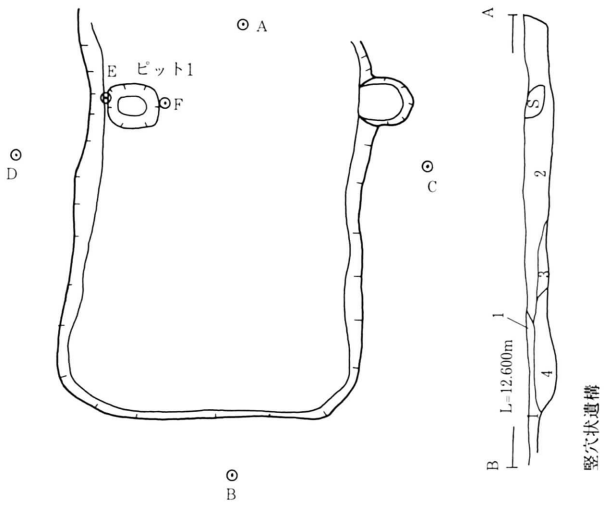
第30図　向沢遺跡遺構図

北壁セクション

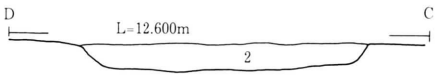


1層　盛土、道路敷きに伴うもの。
2層　暗褐色シルト、10YR3/3、小角礫を混入する。しまり中、旧表土である。
3層　黒褐色シルト、10YR2/2、しまり弱、粘性弱。
4層　黒褐色シルト、10YR2/3、粘土ブロック（直径15～20cm）を希に混入する、粘性なし、しまり弱。
5層　灰褐色土、小角礫を混入する。しまり中、粘性なし。
6層　マサ土、2.5YR7/6、明黄褐色、砂質シルト。しまり弱、粘性弱。

竪穴状遺構埋土1層　中振火山灰層、上下に細分できる。
上部　10YR6/3、にぶい黄橙色、粘性、しまり弱。
下部　2.5YR8/6、黄色、粘性、しまり弱。
埋土2層　10YR3/2、黒褐色シルト、小角礫を含む。粘性なし、しまり弱。

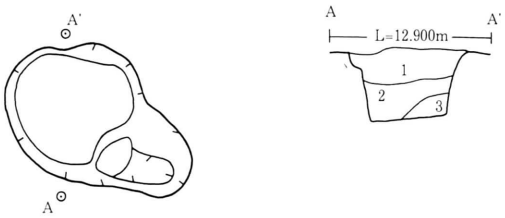


竪穴状遺構



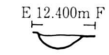
1　シルト、10YR3/2 黒褐色。
しまり弱、粘性ややあり。
2　シルト、10YR3/2 黒褐色、小角礫を含む。
しまりあり、粘性なし。
3　砂質シルト、10YR4/6 褐色、小礫含む。
しまり弱、粘性なし。
4　シルト、7.5YR3/3 暗褐色、酸化鉄を含む。
しまり弱、粘性なし。

土坑1



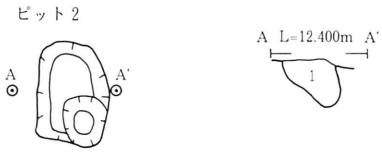
1　10YR2/3、黒褐色、シルト、小礫（10%）混入、しまり中。
2　10YR2/2、黒褐色、シルト、しまり中。
3　10YR3/4、暗褐色、ローム（パミス混入）、礫混入、しまりやや密。

ピット1



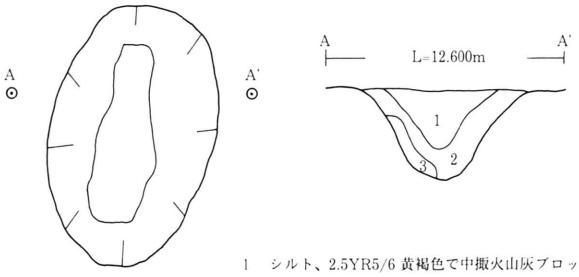
1　2.5YR3/1 黒褐色、砂質シルトと。10YR3/6 暗赤色、砂質シルトが混じったもの。直径3～5cmの中振火山灰ブロックを若干含む。

ピット2



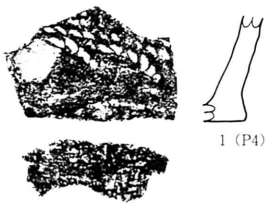
1　砂質シルト、10YR3/3 暗褐色、小礫が比較的多い。
しまり中、粘性弱、縄文時代前期の土器を含む。

陥し穴状遺構



1　シルト、2.5YR5/6 黄褐色で中振火山灰ブロックを含む。
シルト、10YR2/3 黒褐色土も含む。
しまりあり、粘性なし、縄文土器を含む。
2　シルト、10YR2/2 黒褐色、粘性なし。しまりあり。
3　シルト、10YR3/2 黒褐色、粘性なし、しまり強、酸化鉄集積で非常に堅い。

0　1:60　1m



1（P4）

0　1:3　10cm

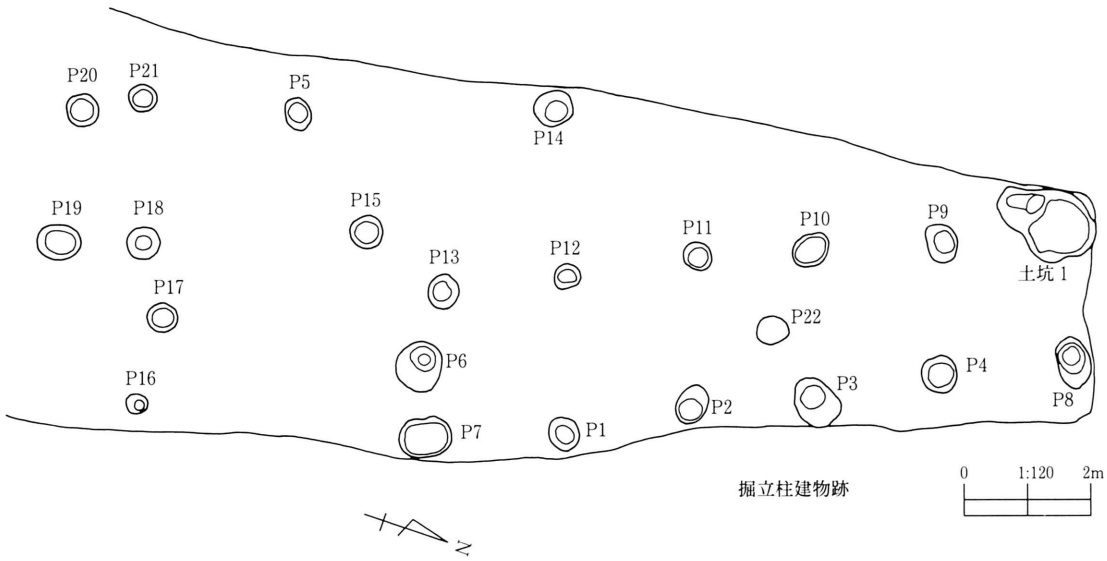
第31図　向沢遺跡遺構図・出土遺物

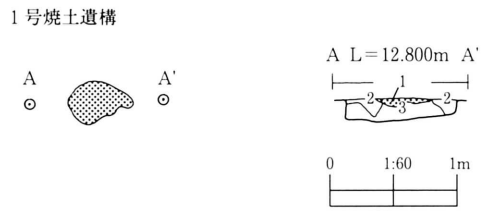
縄文前期の土器（大木１～２式）と石器があるが、全体的に遺物の出土は少なかった。

さらに18m離れた所から陥し穴状遺構１基が発見された。大きさは長さ2.1m、幅1.3m、深さ0.7mで埋土１層から縄文土器が出土している。

また、住居跡に先行するピット２基が発見された。遺物等が出土しておらず、詳細時期は不明で、縄文時代前期以前としておきたい。

なお、調査区南側には３ヶ所、深掘り調査区を設け、遺構、遺物の有無確認を行ったが、検出されなかった。遺跡の中心から外れていると考えられた。





第32図　向沢遺跡遺構図

11　一級河川衣川筋泉ヶ城地区河川等災害復旧事業関連調査

淵畑遺跡（NE65 - 2360）

所在地；胆沢郡衣川村七日市場地内

事業者；一関地方振興局土木部

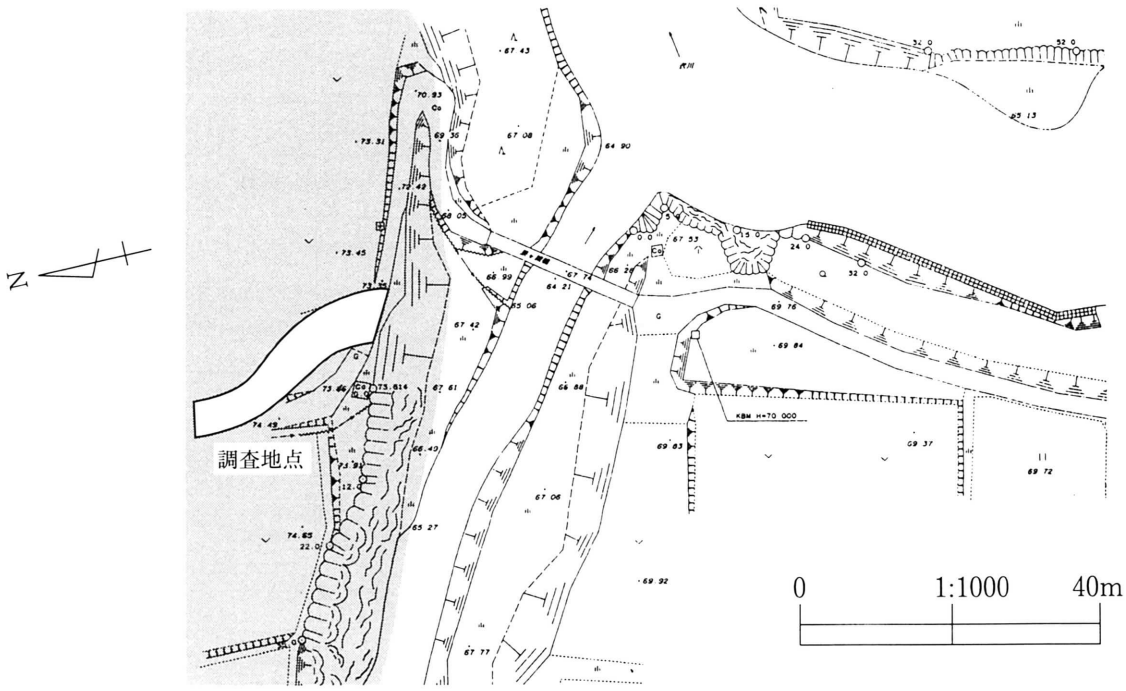
調査期日；平成13年５月21日～30日（８日間）

遺跡は、ＪＲ東日本東北本線平泉駅の北西約３km付近に位置し、北上川支流の衣川左岸の低位段丘に立地する。

第33図　淵畑遺跡位置図

標高は73～74m前後で、南側を東流する衣川との比高は８～10mである。現況は道路・畑地である。今回は、泉ヶ城地区河川等災害復旧事業に伴い面積180㎡の発掘調査を実施した。基本土層は、第１層が表土で層厚25cm、第２層が黒色シルトで層厚30～50cm、第３層が暗褐色の漸移層で層厚５cm、第４層が黄褐色ロームで最終遺構検出面である。今回の調査で検出された遺構は、竪穴住居跡９棟、掘立柱建物跡２棟、土坑２基、溝跡１条である。このうち、溝跡１条は、時期決定の資料を欠き、時期の詳細は不明だが、重複する住居跡を切っていたことから、縄文時代より新しいものと判断される。他の遺構はすべて縄文時代中期に属し、重複が著しい。遺構の占地は、段丘縁である南側に向かって緩く傾斜する調査区のなかで、北側ほど遺構の密度が低く、段丘縁の南側ほど遺構の密度が高くなる傾向がある。傾斜の度合いは、北側がやや急で、南側ほど緩くなり、このことが遺構の密度や立地に係わりがあるのかもしれない。以下に各遺構と出土遺物について概要を述べる。個々の遺構や遺物のデータはそれぞれの観察表を参照していただきたい。

竪穴住居跡９棟のうち、規模・平面形が把握できたものは５棟で、径３～５ｍで円形を基調とする。炉跡が確認できたものは７棟で、このうち１号・２号・３号・８号（推定）の４棟が複式炉であり、土器埋設部



第34図　淵畑遺跡調査区位置図

（大木９式土器の深鉢）を伴うものが１棟、石組部を伴うものが３棟である。複式炉と考えられる炉跡の変遷をみると、石組部＋石組部＋前庭部（１・３・８住)→土器埋設部＋石組部＋前庭部（２号住）の流れが窺え、土器を伴わない石組部をもつ複式炉から土器埋設を伴う複式炉へと変化している可能性がある。この複式炉の形態変化は、岩手県南部における該期の遺跡において広く見られるものであり、矛盾しない。ただし、埋設土器が大木９式期のもので、若干古い傾向がある。このことは、遺跡が北上川流域においてより南側に位置することに拠るのではないかと考えられる。次に住居内において複式炉の構築される位置であるが、４棟の住居跡いずれも西壁側に複式炉が構築されており、住居内において炉を構築する方向に規則性が読み取れる。このことは、これらの住居跡の存続時間がある程度連続していることを意味していると思われる。出土遺物としては、１号住居跡の複式炉前庭部の埋土から琥珀片（不掲載）が出土している。また、重複する１号住居跡と２号住居跡の間で検出された剥片集中遺構は径10×８㎝の浅皿状のピットに剥片がまとまっていたもので、貯蔵剥片の可能性がある。剥片は全部で21点あり、石材はすべて頁岩である。剥片に規格性を読み取ることは難しいが、微細な使用痕を有する剥片が数点ある。位置関係から１号住居跡に伴う可能性がある。掘立柱建物跡は、北側と南側で各１棟検出された。１号掘立柱建物跡は径90㎝の柱穴が柱間3.3ｍで並ぶ。柱穴はさらに調査区域外に延びるものと推定され、建物跡全体の構造は確認できなかった。２号掘立柱建物跡は、径40～50㎝の柱穴４本で構成される方一間の建物跡で、柱間２ｍである。建て替えも確認できる。時期は、縄文時代中期で、住居跡群より新しい可能性がある。土坑２基は調査区南側で、住居跡と重複して確認された。時期は縄文時代中期と思われる。

出土遺物は、縄文土器大コンテナ４箱（35,673.7ｇ）、石器大コンテナ１箱（総量28,219.6ｇ、製品72点）、土製品４点、石製品１点である。縄文土器は67点掲載した。個体復元可能な土器が少なく、全般に胎土が脆く、摩滅が著しい。大木８ａ～10式期の土器が見られるが、大木８ｂ～９式期の破片が多い。遺構の重複を反映して、混在が多い。石器は、石鏃11点、石錐1点、石匙４点、不定形石器28点、両極石器1点、Ｒ・Ｆ２点、Ｕ・Ｆ９点、石核1点、石鑿１点、擦石10点、凹石２点、石皿１点、台石１点である。剥片石器の石材は概ね頁岩で、石鏃には黒曜石、不定形石器には赤色頁岩も用いられている。また、黒曜石には母岩や屑片、赤色頁岩の石核があることから、この地に石材を持ち込んで石器製作を行っていたものと思われる。礫石器の石材は概ね安山岩で、擦石には花崗閃緑岩も用いられている。土製品は、円盤状土製品２点、斧状土製品１点、環状土製品１点である。石製品は三角形に整形した扁平な石の一端に貫通孔をもつ垂飾りである。

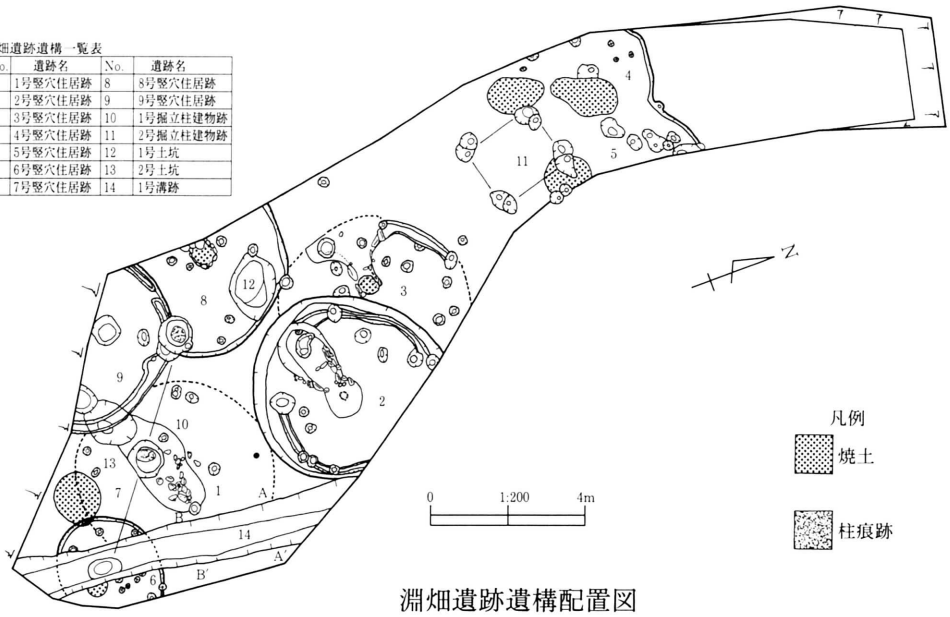
今回の調査範囲は、縄文時代中期中葉から後葉を主体とする集落の居住域であることが判った。居住域は段丘の縁に沿って調査区の東西方向にさらに広がるものと推定される。

第１表　淵畑遺跡　竪穴住居跡観察表　　（　）数値：残存値

No.	図版	写図	遺構名	平面形	規模（ｍ）	ｶﾏｄの形態	ｶﾏｄの規模（㎝）	焼土の厚さ（㎝）	柱穴・配置	付属施設	周溝	重複（旧→新）	備考	遺物（掲載No.）	時代（縄文時代）
1	35	4	１号住居跡	円形？	(5.0)?	複式ｶﾏｄ	300×140	18	９・壁柱穴	貯蔵剥片？	×	２・６・９住→１号住	なし	No.1～5	中期後葉
2	36	3	２号住居跡	円形	5.0×(4.0)	複式ｶﾏｄ	290×130	15	４・不明	なし	○	３号住→2号住	東側調査区外	No.6～34	中期後葉
3	36	4	３号住居跡	円形？	5.0?	複式ｶﾏｄ	200×200	12	13・不明	なし	○	３号住→2号住	なし	No.35～37	中期後葉
4	37	-	４号住居跡	円形？	4.5以上	地床ｶﾏｄ1・2	180×100(1) 150×190(2)	5	３・柱穴？	なし	×	５号住と重複	西側調査区外	No.38～48	中期後葉
5	37	-	５号住居跡	円形？	4.5以上	地床ｶﾏｄ	125×90	15	不明	なし	×	４号住と重複	東側調査区外	No.49～55	中期中葉～後葉
6	36	-	６号住居跡	円形	2.3×2.0	地床ｶﾏｄ	60	不明	不明	なし	×	６号住→１号溝	東側調査区外	No.56	中期
7	36	-	７号住居跡	不明	不明	地床ｶﾏｄ	125×120	20	２・不明	なし	×	７号住→６号住	なし	－	中期後葉
8	37	4	８号住居跡	円形	3.5以上	複式ｶﾏｄ？(石組部)	70×70	6	９・不明	なし	×	８号住→１号土・９号住	西側調査区外	No.57・58	中期中葉～
9	37	4	９号住居跡	円形	4.5以上	不明	不明	不明	1	なし	○	８号住→９号住	南側調査区外	No.59	中期中葉～

淵畑遺跡遺構一覧表

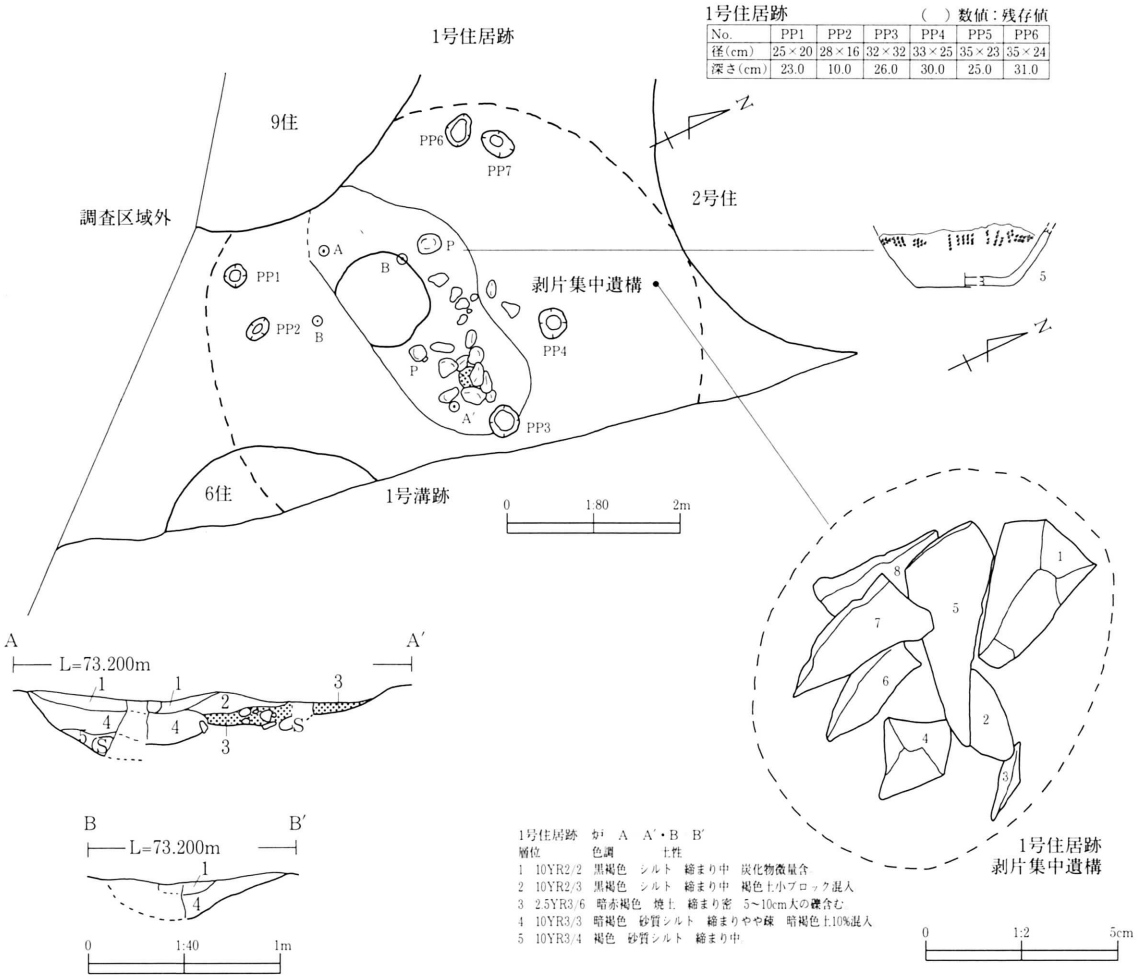
No.	遺跡名	No.	遺跡名
1	1号竪穴住居跡	8	8号竪穴住居跡
2	2号竪穴住居跡	9	9号竪穴住居跡
3	3号竪穴住居跡	10	1号掘立柱建物跡
4	4号竪穴住居跡	11	2号掘立柱建物跡
5	5号竪穴住居跡	12	1号土坑
6	6号竪穴住居跡	13	2号土坑
7	7号竪穴住居跡	14	1号溝跡



淵畑遺跡遺構配置図

1号住居跡　　（　）数値：残存値

No.	PP1	PP2	PP3	PP4	PP5	PP6
径(cm)	25×20	28×16	32×32	33×25	35×23	35×24
深さ(cm)	23.0	10.0	26.0	30.0	25.0	31.0

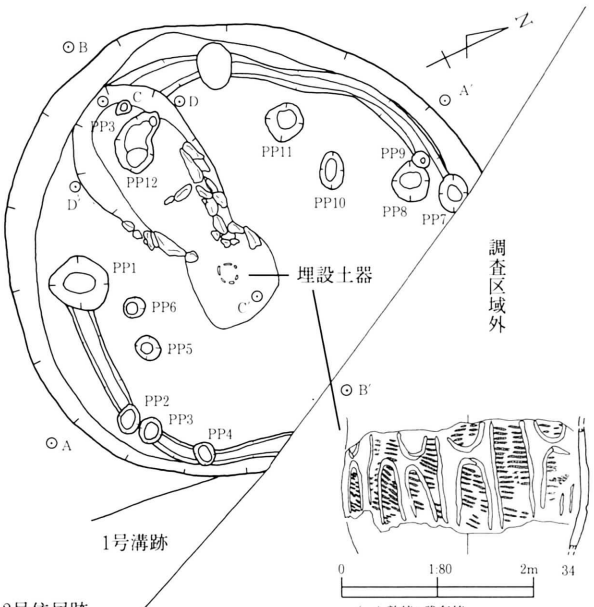


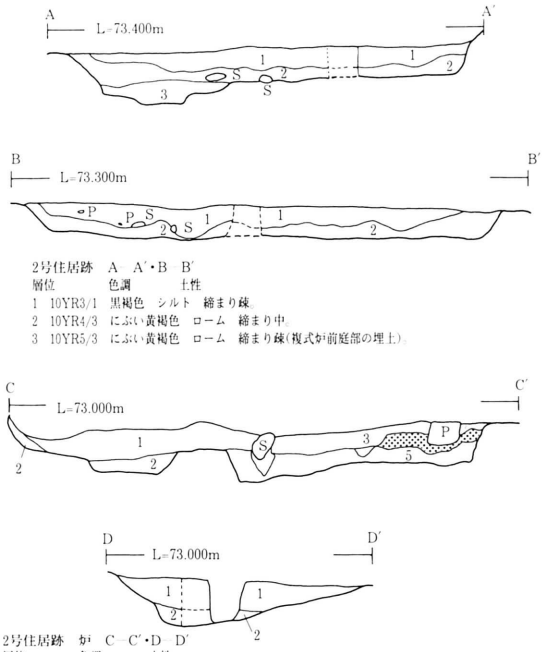
1号住居跡　ガ　A　A′・B　B′

層位	色調	土性
1	10YR2/2 黒褐色	シルト　締まり中　炭化物微量含
2	10YR2/3 黒褐色	シルト　締まり中　褐色土小ブロック混入
3	2.5YR3/6 暗赤褐色	焼土　締まり密　5～10cm大の礫含む
4	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト　締まりやや疎　暗褐色土10%混入
5	10YR3/4 褐色	砂質シルト　締まり中

第35図　淵畑遺跡遺構図1

2号住居跡





2号住居跡　A　A′・B　B′
層位　色調　土性
1　10YR3/1　黒褐色　シルト　締まり疎。
2　10YR4/3　にぶい黄褐色　ローム　締まり中。
3　10YR5/3　にぶい黄褐色　ローム　締まり疎(複式炉前庭部の埋土)。

2号住居跡　炉　C—C′・D　D′
層位　色調　土性
1　10YR3/4　暗褐色　シルト　締まり密　黄色土粒5%。
2　10YR3/4　褐色　シルト　締まり中　明黄褐色小ブロック含。
3　10YR3/4　暗褐色　シルト　締まり中。
4　5YR3/6　赤褐色　シルト　締まり密　焼土。
5　10YR5/8　黄褐色　砂質ローム　締まり中　地山。

0　1:40　1m

2号住居跡

( ) 数値：残存値

No.	PP1	PP2	PP3	PP4	PP5	PP6
径(cm)	60×50	27×24	25×26	23×20	28×26	24×22
深さ(cm)	18.0	40.0	31.0	32.0	18.0	18.0

No.	PP7	PP8	PP9	PP10	PP11	PP12
径(cm)	(32)×30	44×38	20×16	40×25	40×36	70×40
深さ(cm)	32.0	29.0	10.5	29.0	36.0	31.0

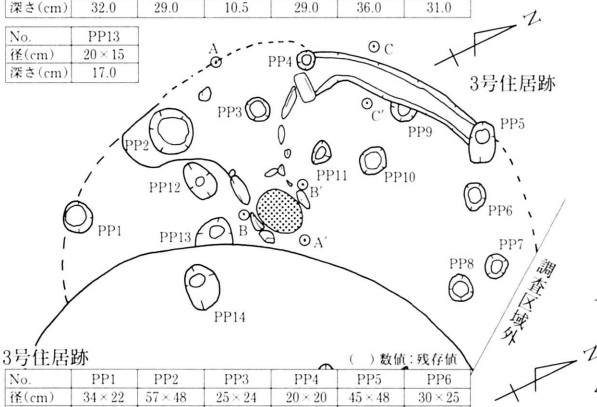
No.	PP13
径(cm)	20×15
深さ(cm)	17.0

7号住居跡

( ) 数値：残存値

No.	PP1	PP2	PP3	PP4	PP5	PP6	PP7
径(cm)	20×20	20×20	22×(15)	20×(15)	10×(10)	15×12	12×12
深さ(cm)	34.0	29.0	17.0	41.0	17.0	26.0	29.0

No.	PP8	PP9	PP10
径(cm)	18×12	14×(6)	15×14
深さ(cm)	4.0	28.0	31.0



3号住居跡

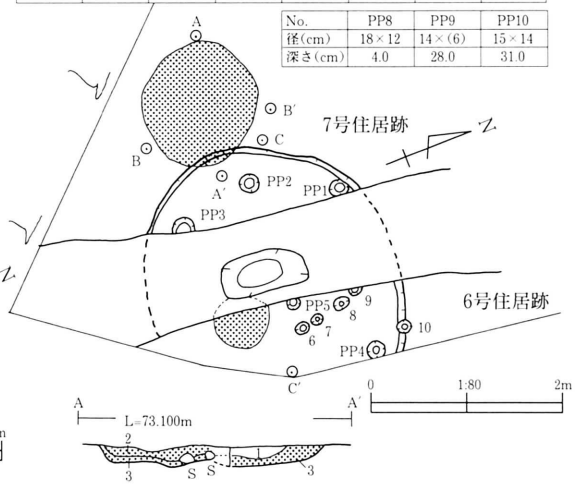
( ) 数値：残存値

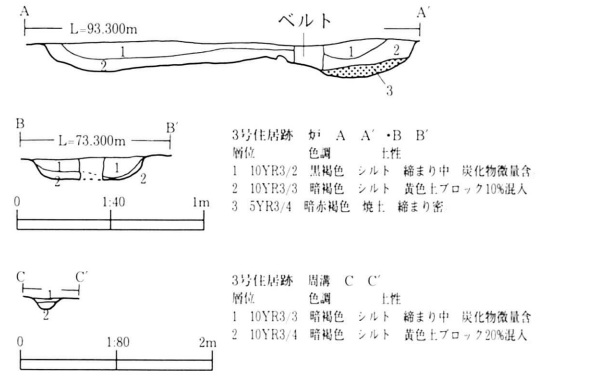
No.	PP1	PP2	PP3	PP4	PP5	PP6
径(cm)	34×22	57×48	25×24	20×20	45×48	30×25
深さ(cm)	22.0	12.0	9.0	19.0	16.0	40.0

No.	PP7	PP8	PP9	PP10	PP11	PP12
径(cm)	25×25	26×26	30×(18)	30×26	28×20	40×28
深さ(cm)	11.0	16.0	17.0	11.0	13.0	30.0

No.	PP13	PP14
径(cm)	40×(30)	40×(35)
深さ(cm)	25.0	15.0

0　1:80　2m





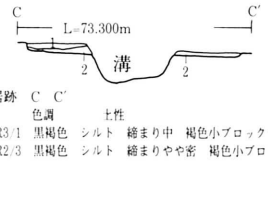
3号住居跡　炉　A　A′・B　B′
層位　色調　土性
1　10YR3/2　黒褐色　シルト　締まり中　炭化物微量含。
2　10YR3/3　暗褐色　シルト　黄色土ブロック10%混入。
3　5YR3/4　暗赤褐色　焼土　締まり密。

0　1:40　1m

3号住居跡　周溝　C　C′
層位　色調　土性
1　10YR3/3　暗褐色　シルト　締まり中　炭化物微量含。
2　10YR3/4　暗褐色　シルト　黄色土ブロック20%混入。

7号住居跡　炉　A—A′・B—B′
層位　色調　土性
1　2.5YR2/3　極暗赤褐色　シルト質　締まりやや疎　焼土粒20%混入。
2　2.5YR2/6　赤褐色　焼土　締まり密。
3　5YR4/6　赤褐色　焼土　締まり密。

0　1:40　1m



7号住居跡　C　C′
層位　色調　土性
1　10YR3/1　黒褐色　シルト　締まり中　褐色小ブロック含。
2　10YR2/3　黒褐色　シルト　締まりやや密　褐色小ブロック30%混入。

0　1:40　1m

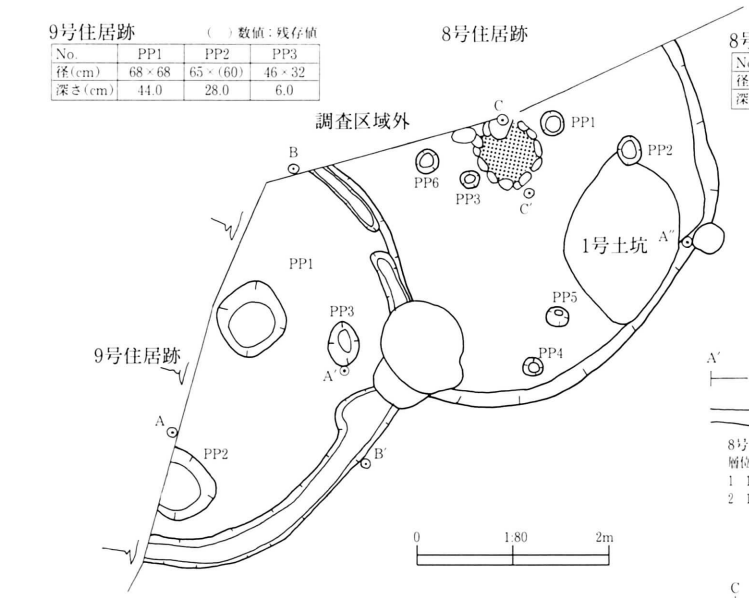
第36図　淵畑遺跡遺構図2

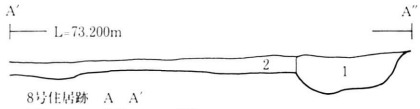
9号住居跡　　（　）数値：残存値

No.	PP1	PP2	PP3
径(cm)	68×68	65×(60)	46×32
深さ(cm)	44.0	28.0	6.0

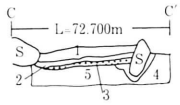
8号住居跡

No.	PP1	PP2	PP3	PP4	PP5	PP6
径(cm)	25×22	28×25	25×20	30×20	20×18	25×25
深さ(cm)	10.0	14.0			10.0	7.0

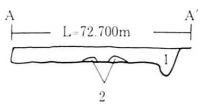




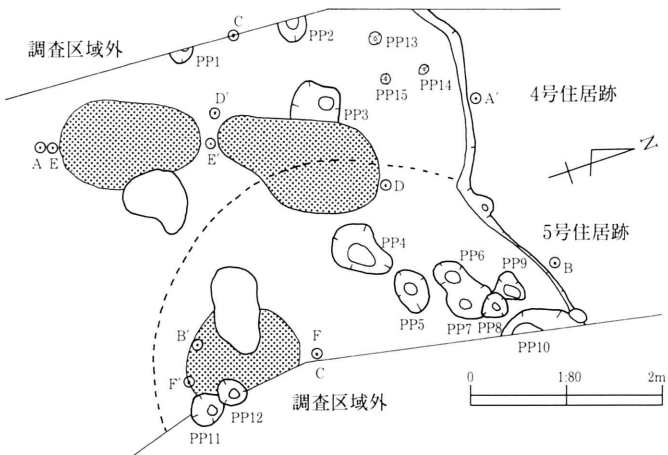
8号住居跡　A　A′
層位　色調　土性
1　10YR2/2　黒褐色　シルト　締まり密　(1号土坑埋土)。
2　10YR2/3　黒褐色　シルト　締まり密。

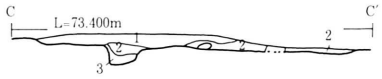


8号住居跡　ｶﾏ　C　C′・D　D′
層位　色調　土性
1　10YR3/4　暗褐色　シルト　締まり中。
2　10YR2/3　黒褐色　シルト　締まり中。
3　2.5YR3/6　暗赤褐色　焼土　締まり中。
4　10YR3/4　暗褐色　シルト　締まり中　ｶﾏ石の掘り込み。
5　10YR5/8　黄褐色　砂質ローム　締まり密　地山。



9号住居跡　A－A′・B－B′
層位　色調　土性
1　10YR3/4　暗褐色　締まり中　炭化物10%含。
2　10YR4/4　にぶい黄褐色　ローム　締まり密。





4号・5号住居跡　A　A′・B　B′・C　C′
層位　色調　土性
1　10YR2/2　暗褐色　シルト　締まり中。
2　10YR2/3　黒褐色　シルト　締まり中　炭化物微量含。
3　10YR2/3　黒褐色　シルト　締まり中　褐色土ブロック30%含。
4　10YR2/3　黒褐色　シルト　締まり中　黄色土ブロック10%含。
5　10YR2/2　黒褐色　シルト　締まり中。
6　10YR2/3　黒褐色　シルト　締まり中　褐色土ブロック20%含。
7　10YR2/3　暗褐色　シルト　締まり中。
8　10YR2/2　黒褐色　シルト　締まり中　黄褐色ブロック10%含。

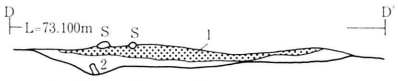
0　1:40　1m

4号・5号住居跡　　（　）数値：残存値

No.	PP1	PP2	PP3	PP4	PP5	PP6
径(cm)	25×(12)	30×(22)	50×(40)	70×50	50×(34)	30×(40)
深さ(cm)	15.0	20.0	13.0	49.0	39.0	24.0

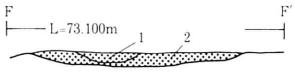
No.	PP7	PP8	PP9	PP10	PP11	PP12
径(cm)	(50)×40	30×30	40×30	85×(20)	35×35	30×30
深さ(cm)	48.0	11.0	11.0	40.0	37.0	11.0

No.	PP13	PP14	PP15
径(cm)	15×15	15×10	12×12
深さ(cm)	7.0	6.0	5.0



4号住居跡　1号ｶﾏ　D　D′
層位　色調　土性
1　5YR3/4　極暗赤褐色　焼土　締まり中。
2　7.5YR3/3　暗褐色　焼土　締まり中　上層部が部分的に焼土化している。

4号住居跡　2号ｶﾏ　E　E′
層位　色調　土性
1　2.5YR3/3　暗赤褐色　焼土　締まり密　褐色ブロック含。



5号住居跡　ｶﾏ　F　F′
層位　色調　土性
1　2.5YR4/6　黄褐色　焼土　締まり密。
2　5YR3/4　暗赤褐色　焼土　部分的に褐色小ブロック含。

0　1:40　1m

第37図　淵畑遺跡遺構図3

1号掘立柱建物跡

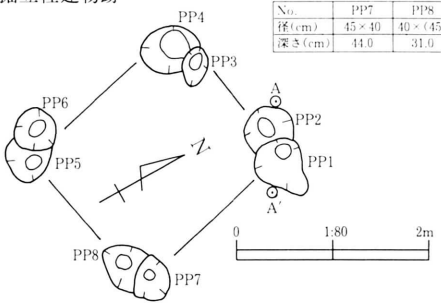
No.	PP1	PP2	PP3	PP4	PP5	PP6
径(cm)	65×54	52×(40)	42×26	60×50	48×(35)	45×44
深さ(cm)	58.0	52.0	42.0	35.0	31.0	53.0

No.	PP7	PP8
径(cm)	45×40	40×(45)
深さ(cm)	44.0	31.0

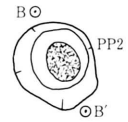
2号掘立柱建物跡 (　) 数値：残存値

No.	PP1	PP2	PP3
径(cm)	98×85	95×95	90×(48)
深さ(cm)	34.0	31.0	15.0

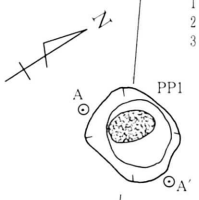
1号掘立柱建物跡



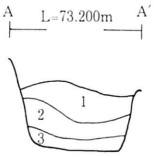
2号掘立柱建物跡



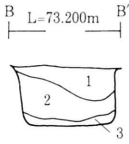
2号掘立柱建物跡



2号掘立—PP1

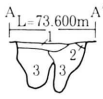


2号掘立—PP2



2号掘立柱建物跡—PP1・PP2　A—A′・B—B′

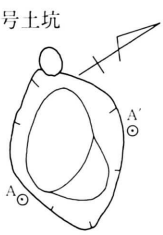
層位	色調	土性
1　10YR3/4	暗褐色	シルト　締まり中。
2　10YR2/3	黒褐色	シルト　締まり中。
3　10YR3/4	暗褐色	シルト　締まり中　炭化物1%混入。

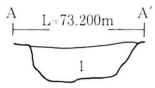


1号掘立柱建物跡—PP1・PP2　A—A′

層位	色調	土性
1　10YR2/2	黒褐色	砂質シルト　締まり中 暗赤褐色焼土ブロック30%混入。
2　10YR2/2	黒褐色	シルト　締まり中　褐色小ブロック10%混入。
3　10YR2/3	黒褐色	シルト　締まり中　褐色小ブロック30%混入。

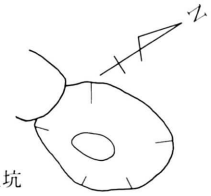
1号土坑



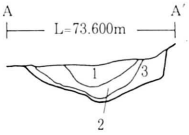


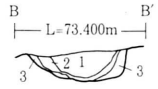
1号土坑　A—A′

層位	色調	土性
1　10YR2/2	黒褐色	シルト　締まり密

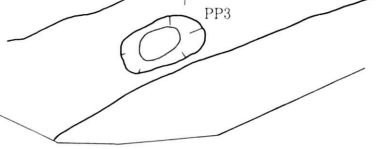


2号土坑





溝跡



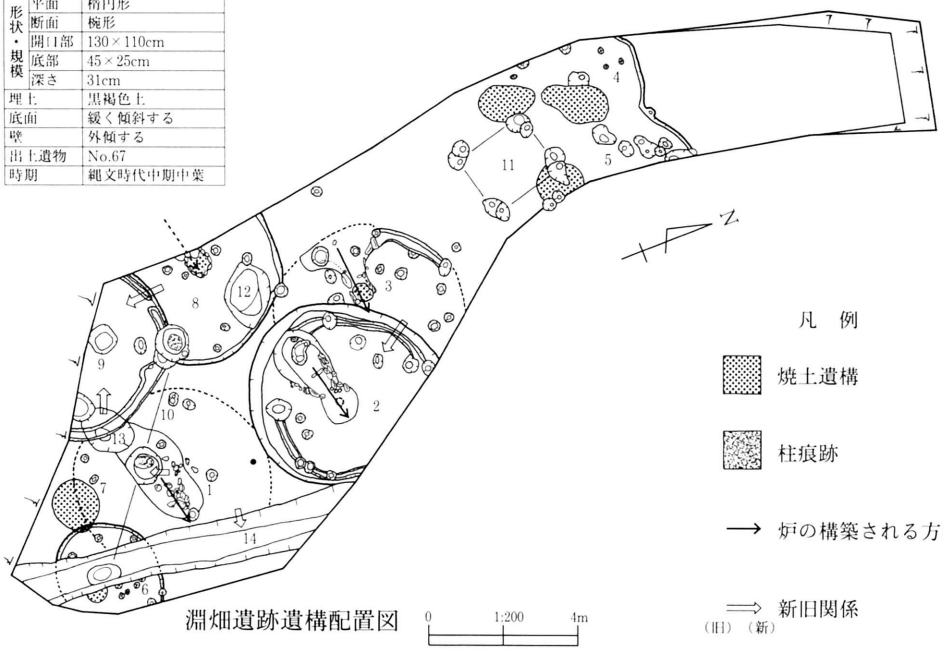
1号溝跡　A—A′・B—B′

層位	色調	土性
1　10YR2/3	極暗褐色	シルト　締まり密。
2　10YR3/3	暗褐色	シルト　締まりやや密。
3　10YR5/6	明褐色	砂質土　締まり疎。

第２表　淵畑遺跡　土坑観察表 (　) 数値：残存値

遺構名	1号土坑			
図版	遺構	38	遺物	42
検出状況	Ⅲ層			
重複関係	8号住居跡→1号土坑			
形状・規模	平面	いびつな楕円形		
	断面	椀形		
	開口部	180×120cm		
	底部	110×65cm		
	深さ	35cm		
埋土	黒褐色土			
底面	緩く湾曲する			
壁	外傾する			
出土遺物	No.65～66			
時期	縄文時代中期後葉			

遺構名	2号土坑			
図版	遺構	38	遺物	42
検出状況	Ⅲ層			
重複関係	2号土坑→9号住居跡			
形状・規模	平面	楕円形		
	断面	椀形		
	開口部	130×110cm		
	底部	45×25cm		
	深さ	31cm		
埋土	黒褐色土			
底面	緩く傾斜する			
壁	外傾する			
出土遺物	No.67			
時期	縄文時代中期中葉			



淵畑遺跡遺構配置図

第38図　淵畑遺跡遺構図４

第３表　淵畑遺跡　土器観察表

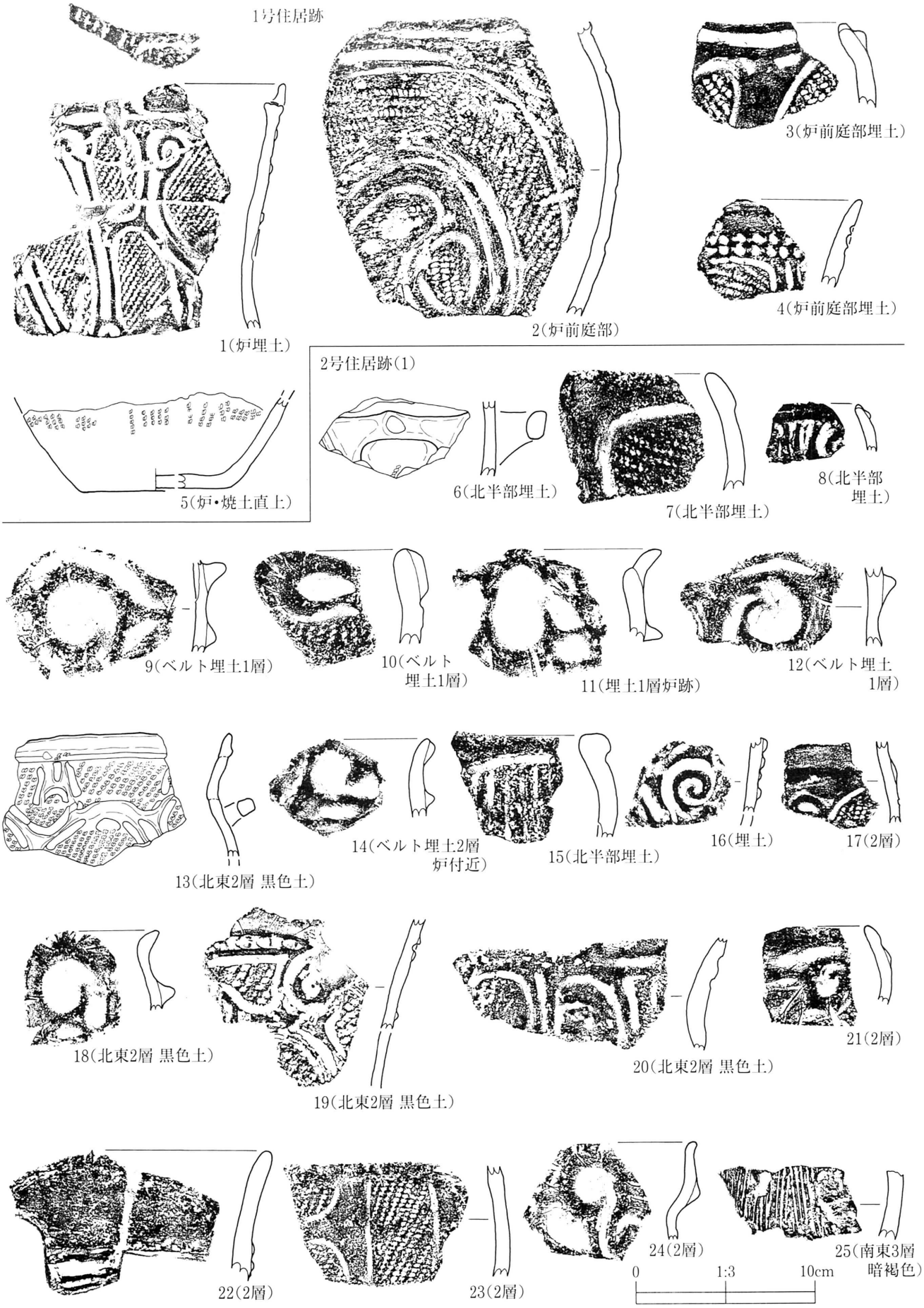
図版No.	掲載No.	出土地点	層　位	器種	文様（原体）の特徴	煤の付着	内面調整	胎土	時期
３９	１	１号住居跡－炉	埋土	深鉢	口唇：刻目・突起、口～：RLR縦→隆沈線	—	N	2	大木８b
３９	２	１号住居跡－炉	前庭部埋土	深鉢	口～：RL縦横斜→沈線	—	M	3	大木８b？
３９	３	１号住居跡－炉	前庭部埋土	深鉢	口唇：隆帯、胴：LR縦→沈線	—	M	4	大木９？
３９	４	１号住居跡－炉	前庭部埋土	深鉢	口：突起、胴：LR縦→沈線	—	N	2	大木８b？
３９	５	１号住居跡－炉	焼土直上	深鉢	胴：沈線→RLR縦（底部付近）	—	不明	4	中期
３９	６	２号住居跡	北半埋土	深鉢	胴：沈線、環状突起、RL縦？	—	N	2	中期
３９	７	２号住居跡	北半埋土	深鉢	口：RL横	—	不明	4	中期
３９	８	２号住居跡	北半埋土	深鉢	口：LR横→隆沈線	—	M?	2	大木８b
３９	９	２号住居跡	埋土１層	深鉢	口：隆帯	—	不明	2	大木８b？
３９	１０	２号住居跡	埋土１層	深鉢	口：隆帯、RL縦	—	N	3	大木８a？
３９	１１	２号住居跡	埋土１層炉付近	深鉢	口：隆帯	—	M	3	大木９
３９	１２	２号住居跡	埋土１層	深鉢	口：隆帯	—	N	2	大木９？
３９	１３	２号住居跡	北東埋土２層	深鉢	口：隆帯、胴：RLR縦→隆沈線＋装飾	—	M	2	大木８b
３９	１４	２号住居跡	埋土２層炉付近	深鉢	口：隆帯	—	N?	2	大木８b
３９	１５	２号住居跡	北東埋土２層	深鉢	口：隆帯、胴：沈線（縦位）？	—	不明	4	大木８b
３９	１６	２号住居跡	埋土	深鉢	胴：隆沈線	—	N	2	大木８b
３９	１７	２号住居跡	埋土２層	深鉢	口：隆帯、胴：RL縦→隆帯・沈線	—	N	3	大木９
３９	１８	２号住居跡	北東埋土２層	深鉢	口：隆帯	—	N?	2	大木９
３９	１９	２号住居跡	北東埋土２層	深鉢	口：無文・刺突列、胴：RL縦→隆沈線	—	M	2	大木８b
３９	２０	２号住居跡	北東埋土２層	深鉢	胴：縄文→沈線	—	N?	2	大木９？
３９	２１	２号住居跡	埋土２層	深鉢	口：隆帯	◎	N	2	大木８b？
３９	２２	２号住居跡	埋土２層	深鉢	口：無文、頸：隆帯	—	N?	2	大木８b
３９	２３	２号住居跡	埋土２層	深鉢	胴：RL縦→沈線	—	N	2	大木９
３９	２４	２号住居跡	埋土２層	深鉢	口：隆帯・沈線（キャリパー）	—	N	2	大木９
３９	２５	２号住居跡	南東埋土３層	深鉢	胴：沈線（縦位）	—	N	2	大木８b？
４０	２６	２号住居跡	南東埋土３層	深鉢	胴：縄文→沈線	—	N?	3	大木９
４０	２７	２号住居跡	北東埋土３層	深鉢	口：沈線→刺突（縦位）	—	M	3	大木８b？
４０	２８	２号住居跡	北東埋土３層	深鉢	口：隆帯	—	不明	2	大木９
４０	２９	２号住居跡	埋土３層	深鉢	口：RL縦→隆沈線	—	M	2	大木８b
４０	３０	２号住居跡	埋土３層	器台?	脚：RLR縦・透し孔、脚の端部が肥厚しない	—	M?	2	中期
４０	３１	２号住居跡－PP1	埋土	深鉢	口～：RL縦	—	M	2	中期
４０	３２	２号住居跡	埋土	深鉢	底：文様不明	—	N?	2	中期
４０	３３	２号住居跡	埋土１層炉付近	深鉢	口：隆帯、刺突（縦位）	—	M	2	大木８b
４０	３４	２号住居跡－炉	埋設土器	深鉢	胴：LR縦→沈線	—	M	2	大木９
４０	３５	３号住居跡	埋土	深鉢	胴：LR縦→隆沈線	—	M	2	大木８b
４０	３６	３号住居跡－PP	埋土	深鉢	胴：LR縦→隆沈線	—	N	2	大木９
４０	３７	３号住居跡－炉	埋土	深鉢	口：RL横→沈線	—	?	2	大木９?
４０	３８	４号住居跡	埋土	深鉢	口：無文、胴：隆沈線	—	?	2	大木９?
４０	３９	４号住居跡	埋土	深鉢	口：隆帯＋貼付、胴：沈線（縦位）	—	?	2	大木８b?
４０	４０	４号住居跡	埋土	深鉢	胴：LR縦	—	M	2	大木８b
４０	４１	４号住居跡	埋土	深鉢	胴：LR縦→沈線	—	N?	2	大木９
４１	４２	４号住居跡	埋土	深鉢	口～：LR縦→沈線	○	M	2	大木９
４１	４３	４号住居跡	埋土	深鉢	胴：沈線→LR縦横	—	?	2	大木１０
４１	４４	４号住居跡	埋土	深鉢	口：無文、胴：隆沈線	—	M	2	大木８b
４１	４５	４号住居跡	埋土	深鉢	口～：沈線（縦位）	—	N?	2	中期
４１	４６	４号住居跡	埋土	深鉢	底：文様不明、底面：ミガキ	—	?	2	中期
４１	４７	４号住居跡	埋土	深鉢	突起：隆沈線、透し孔、胴：LR縦→隆沈線	●	M	2	大木８b
４１	４８	４号住居跡	埋土２層炉付近	深鉢	口：LR縦→隆沈線、４波状？	—	M	4	大木８b
４１	４９	５号住居跡	埋土	深鉢	口：LR縦→沈線	—	N?	2	大木９
４１	５０	５号住居跡	埋土	深鉢	口～：縄文→隆沈線	—	?	3	大木９
４１	５１	５号住居跡	東半埋土	深鉢	胴：RLR縦→沈線	—	M	2	大木９
４１	５２	５号住居跡	東半埋土	深鉢	胴：RLR縦→隆沈線	—	?	3	大木８b
４１	５３	５号住居跡	東半埋土	深鉢	胴：RLR縦→沈線	—	?	2	大木９
４１	５４	５号住居跡	埋土炉付近	深鉢	口：隆帯・沈線	—	?	2	大木９？
４１	５５	５号住居跡－PP1	埋土	深鉢	胴：RLR縦→隆沈線	—	M	2	大木８b
４１	５６	６号住居跡	埋土	深鉢	胴：RLR縦	—	N?	2	中期
４１	５７	８号住居跡	東側埋土	深鉢	口：無文、胴：RL縦→沈線・隆帯	—	M?	3	大木９？
４１	５８	８号住居跡－周溝	埋土	深鉢	口：隆沈線	—	?	2	大木８b
４１	５９	９号住居跡	埋土	深鉢	胴：単絡１（R）縦→隆沈線	—	N	2	大木８b？
４１	６０	１号掘立柱建物跡－PP2	埋土	深鉢	胴：LR縦	—	M	3	中期
４２	６１	１号掘立柱建物跡－PP4	埋土	深鉢	胴：RL縦・沈線	—	?	2	大木９
４２	６２	１号掘立柱建物跡－PP4	埋土	深鉢	口：隆帯・縄文？	—	?	2	大木９？
４２	６３	１号掘立柱建物跡－PP2	埋土	深鉢	胴：LR縦→隆沈線	—	M	2	大木９？
４２	６４	２号掘立柱建物跡－PP2	埋土	深鉢	胴：RL縦→隆沈線	—	N?	2	大木８b
４２	６５	１号土坑	埋土	深鉢	底：輪積部分で剥落	—	?	2	中期
４２	６６	１号土坑	埋土	深鉢	胴：RLR縦→隆沈線	—	?	3	大木８b
４２	６７	２号土坑	埋土	深鉢	胴：RLR縦→沈線	—	?	2	大木９？

凡例
部位の名称、口唇：口唇部、口：口縁部、頸：頸部、胴：胴部、底：底部、底面。
煤の付着、○：内面に付着。●外面に付着、◎内外面に付着。
内面調整、M：ミガキ、N：ナデ。
胎土、１：緻密である。
２：細礫を含まず、砂粒を含む。
３：細礫・砂粒をわずかに含む。
４：細礫・砂粒を多量に含む。
施文順序：旧→新

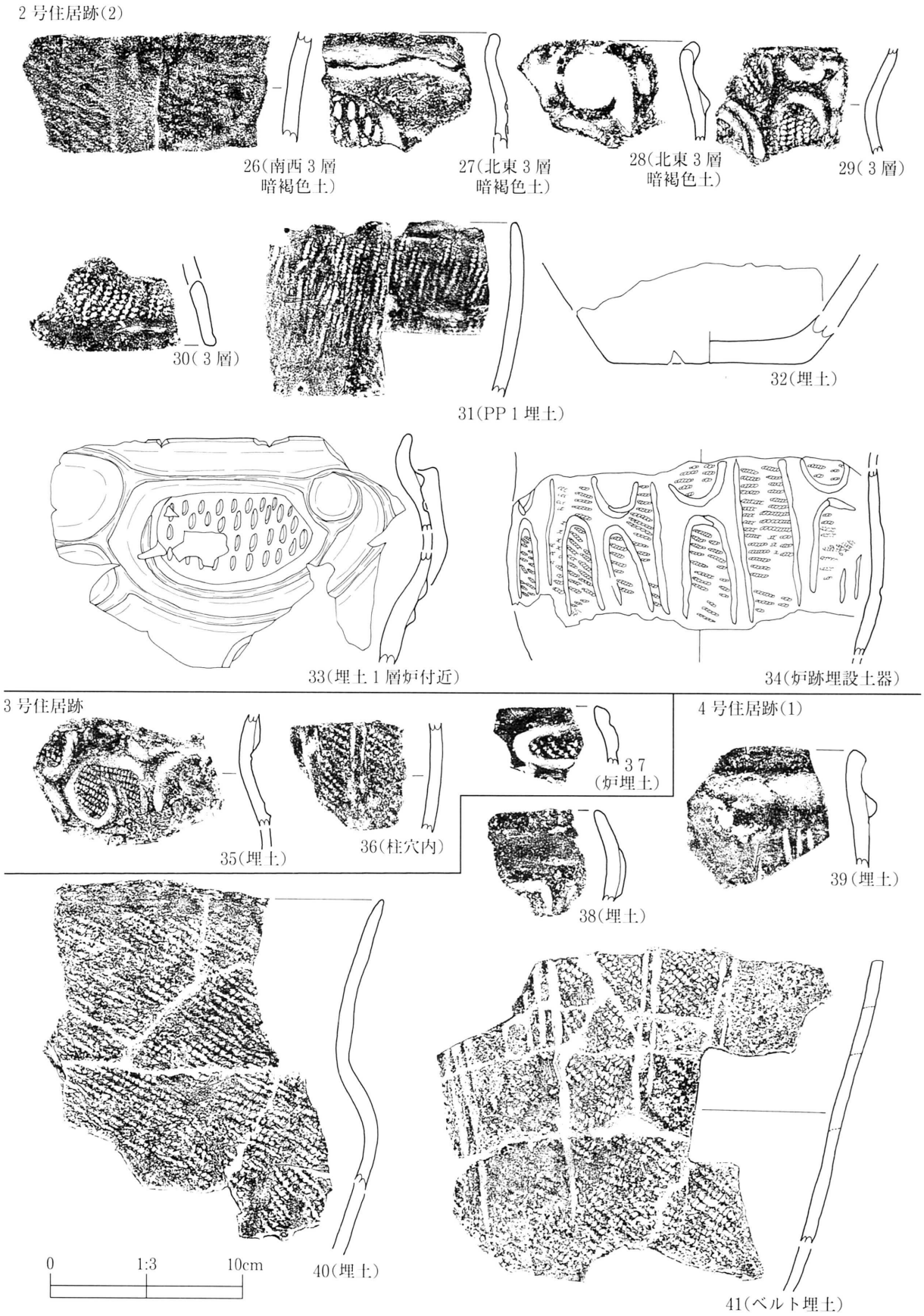
第４表　淵畑遺跡　石器観察表

（　）数値：残存値

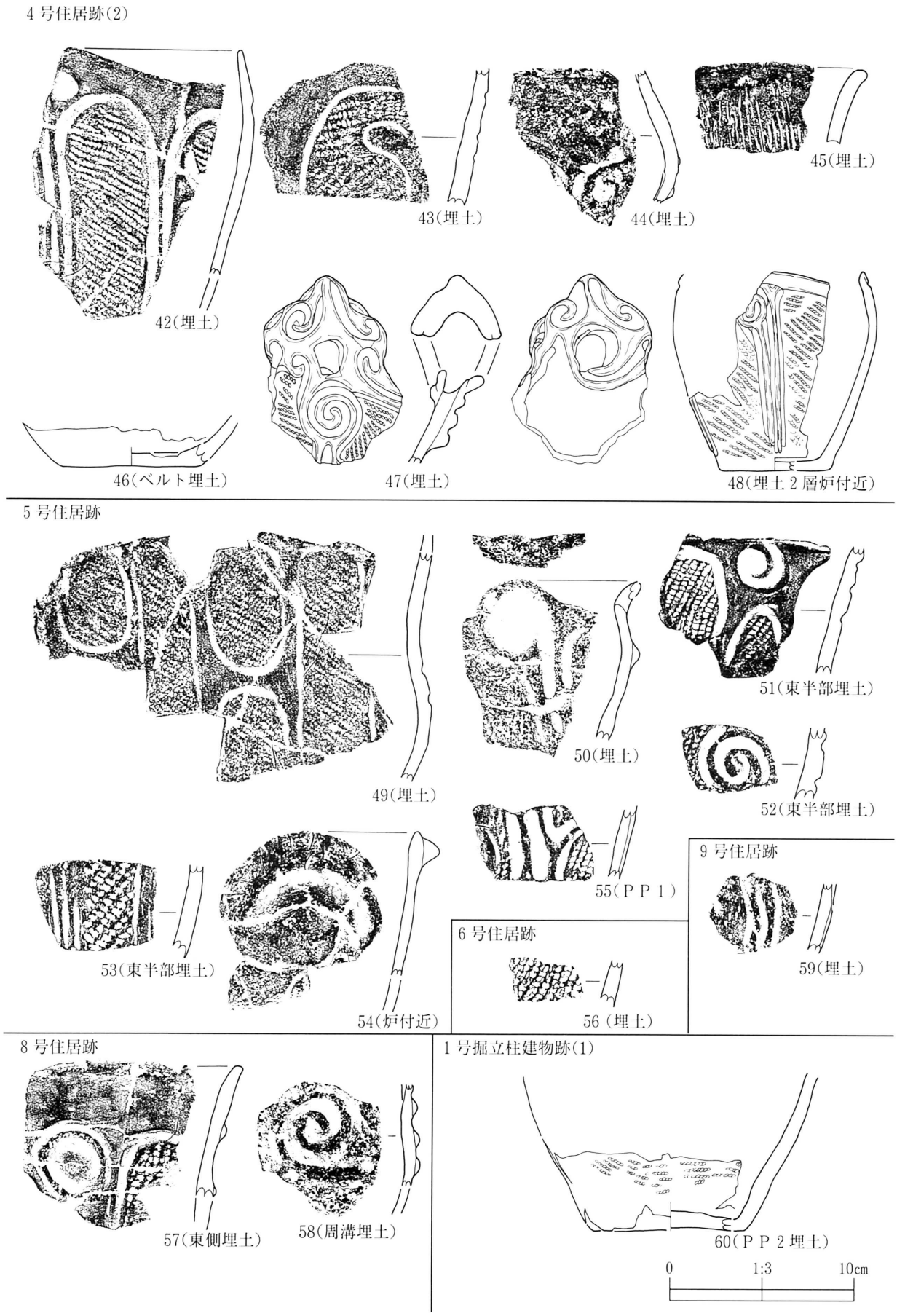
No.	出土地点	層位	器種	計測値（cm）			重量（g）	石材	備考
				長さ	幅	厚さ			
1	1号住居跡-炉	焼土	石鏃	1.7	1.7	0.4	0.7	頁岩	凹基無茎鏃
2	1号住居跡-炉	焼土	石鏃	2.0	(1.3)	0.3	(0.5)	頁岩	凹基無茎鏃
3	1号住居跡-炉	焼土	石鏃	(1.3)	1.5	0.3	(0.6)	頁岩	凹基無茎鏃
4	1号住居跡-炉	焼土	石鏃	(2.1)	(1.2)	0.5	(0.6)	頁岩	凹基無茎鏃
5	1号住居跡-炉	焼土	石鏃	(1.5)	(1.1)	0.3	(0.4)	頁岩	凹基無茎鏃
6	1号住居跡-炉	焼土	石鏃？	(1.9)	1.6	0.5	(1.8)	黒曜石	未製品？
7	2号住居跡	埋土2層	石鏃	(1.7)	(1.8)	0.4	(1.1)	頁岩	凹基無茎鏃
8	2号住居跡-炉	埋土	石鏃	(1.3)	1.0	0.3	(0.3)	頁岩	凹基無茎鏃
9	2号住居跡-炉	埋土	石鏃	(1.3)	1.3	0.3	(0.3)	黒曜石	凹基無茎鏃
10	4号住居跡	埋土	石鏃	2.7	1.4	0.3	0.4	頁岩	凹基無茎鏃
11	4号住居跡	埋土	石鏃	3.4	2.0	0.7	2.8	頁岩	凹基無茎鏃
12	試掘トレンチ	埋土	石錐	(3.4)	2.9	0.9	(6.4)	頁岩	錐部欠損
13	2号住居跡-炉	埋土	石匙	7.4	3.0	0.8	18.4	頁岩	縦型、刃部：片面加工、柄部：両面加工
14	4号住居跡	埋土	石匙	4.9	3.0	0.9	15.3	頁岩	縦型、刃部：一側縁に片面加工
15	4号住居跡	埋土	石匙	7.8	3.5	0.9	30.8	頁岩	縦型、刃部：一側縁に両面加工
16	9号住居跡	埋土	石匙	5.7	2.8	0.9	11.7	頁岩	縦型、刃部：二側縁に片面加工
17	2号住居跡	埋土2層	不定形石器	(3.5)	2.5	0.8	(3.5)	頁岩	尖刃：一端に片面加工
18	2号住居跡	埋土2層	不定形石器	(1.8)	(2.1)	0.8	(2.1)	頁岩	尖刃：一端に片面加工
19	2号住居跡	埋土2層	不定形石器	(3.1)	(2.3)	1.0	(7.6)	頁岩	直刃：一側縁に片面加工（IR）
20	2号住居跡	埋土2層	不定形石器	5.1	2.4	1.1	13.2	頁岩	直刃：一側縁に片面加工
21	2号住居跡	埋土2層	不定形石器	(4.2)	3.6	1.2	(12.1)	頁岩	直刃：一側縁に片面加工
22	2号住居跡	埋土2層	不定形石器	5.5	3.4	1.0	17.3	頁岩	直刃：一側縁に片面加工
23	2号住居跡	埋土2層	不定形石器	7.2	6.3	1.3	45.6	頁岩	直刃：一側縁に片面加工
24	2号住居跡	埋土2層	不定形石器	(3.1)	1.3	0.6	(2.5)	頁岩	直刃：一側縁に片面加工
25	2号住居跡	埋土2層	不定形石器	3.9	3.5	0.5	7.5	頁岩	弧刃：一縁に片面加工（掻器）
26	2号住居跡	埋土2層	不定形石器	4.5	3.1	0.8	8.6	流紋岩	直刃：一側縁に片面加工
27	2号住居跡	埋土2層	不定形石器	7.1	3.9	1.1	30.9	流紋岩？	直刃：一側縁に片面加工
28	2号住居跡	埋土3層	不定形石器	3.0	1.9	0.7	3.2	頁岩	直刃：一側縁に片面加工
29	2号住居跡	埋土3層	不定形石器	5.2	3.4	1.0	20.2	頁岩	直刃：一側縁に片面加工
30	2号住居跡	北西埋土3層	不定形石器	1.7	2.6	0.5	2.4	頁岩	直刃：二側縁に片面加工
31	2号住居跡	北西埋土3層	不定形石器	3.2	3.5	1.0	13.7	頁岩	直刃：一側縁に片面加工
32	2号住居跡	埋土	不定形石器	2.4	2.6	1.0	4.9	頁岩	直刃：二側縁に片面加工
33	2号住居跡	埋土	不定形石器	(3.3)	3.9	0.8	(6.7)	頁岩	直刃：一側縁に片面加工（IR）
34	2号住居跡	埋土	不定形石器	5.9	4.2	1.1	35.0	頁岩	直刃：一側縁に片面加工
35	2号住居跡	埋土	不定形石器	5.6	1.7	0.7	7.0	頁岩	直刃：一側縁に片面加工
36	2号住居跡	埋土	不定形石器	5.1	4.3	0.6	12.1	頁岩	直刃：一側縁に片面加工
37	2号住居跡	埋土	不定形石器	4.5	6.0	1.2	25.6	頁岩	直刃：一側縁に片面加工（IR）
38	4号住居跡	埋土	不定形石器	(3.0)	4.7	0.8	(10.7)	頁岩	直刃：一側縁に片面加工
39	4号住居跡	埋土	不定形石器	4.6	3.3	0.6	9.3	頁岩	直刃：一側縁に片面加工
40	5号住居跡	埋土	不定形石器	3.0	3.7	1.0	10.0	頁岩	直刃：一側縁に片面加工（IR）
41	5号住居跡	東半埋土	不定形石器	(1.9)	(1.9)	0.8	(1.7)	頁岩	直刃：一側縁に片面加工？
42	1号溝跡	周辺	不定形石器	3.1	3.2	0.9	12.1	頁岩	直刃：二側縁に片面加工
43	試掘トレンチ	埋土	不定形石器	6.1	0.6	0.7	6.7	頁岩	尖頭器状
44	試掘トレンチ	埋土	不定形石器	2.5	1.7	0.7	3.3	赤色頁岩	直刃：一側縁に片面加工
45	4号住居跡	埋土	両極石器	2.0	2.0	1.3	4.2	黒曜石	二辺一対の剥離
46	2号住居跡	埋土	石核	7.2	8.3	4.6	272.1	赤色頁岩	
47	2号住居跡	埋土2層	石鑿？	7.0	1.3	0.6	12.2	粘板岩	両面に擦痕・両端に敲打痕
48	2号住居跡	北西埋土2層	擦石	7.3	7.4	6.5	526.4	安山岩	全面に擦面
49	2号住居跡	北西埋土3層	擦石	7.4	6.8	5.4	397.5	安山岩	両面に擦面
50	2号住居跡	北西埋土3層	擦石	8.9	7.0	5.7	498.5	安山岩	片面・一側縁に擦面、片面に窪み
51	2号住居跡	埋土	擦石	11.0	5.8	3.3	326.0	安山岩	片面に浅い敲打痕
52	4号住居跡	埋土	擦石？	7.2	5.9	3.9	178.0	花崗閃緑岩	一端に敲打痕
53	4号住居跡	埋土	擦石？	8.0	7.4	5.5	489.5	安山岩	両面に擦面
54	4号住居跡	埋土	擦石？	10.8	7.4	4.8	649.9	閃緑岩	両面に擦面
55	2号掘立柱建物跡-PP	南半埋土	擦石	(10.8)	9.6	5.8	(831.8)	安山岩	両面に擦面
56	1号土坑	東半埋土	擦石	(7.5)	7.3	4.1	(344.0)	安山岩	両面に擦面、被熱痕
57	試掘トレンチ	埋土	擦石	10.1	6.3	4.3	390.5	安山岩	両面に擦面
58	2号住居跡	床直	凹石	11.6	10.6	6.2	1,106.1	安山岩	片面に円錐状の窪み
59	2号住居跡	埋土	凹石	(8.2)	5.2	4.9	(299.5)	安山岩	片面に円錐状の窪み
60	3号住居跡-炉	炉石	石皿	40.0	36.0	11.0	15,100.0	溶結凝灰岩	部分的に縁あり。使用面平坦で被熱
61	2号住居跡	埋土	台石	29.0	24.0	5.5	6,600.0	安山岩	使用面平坦、敲打による剥離あり



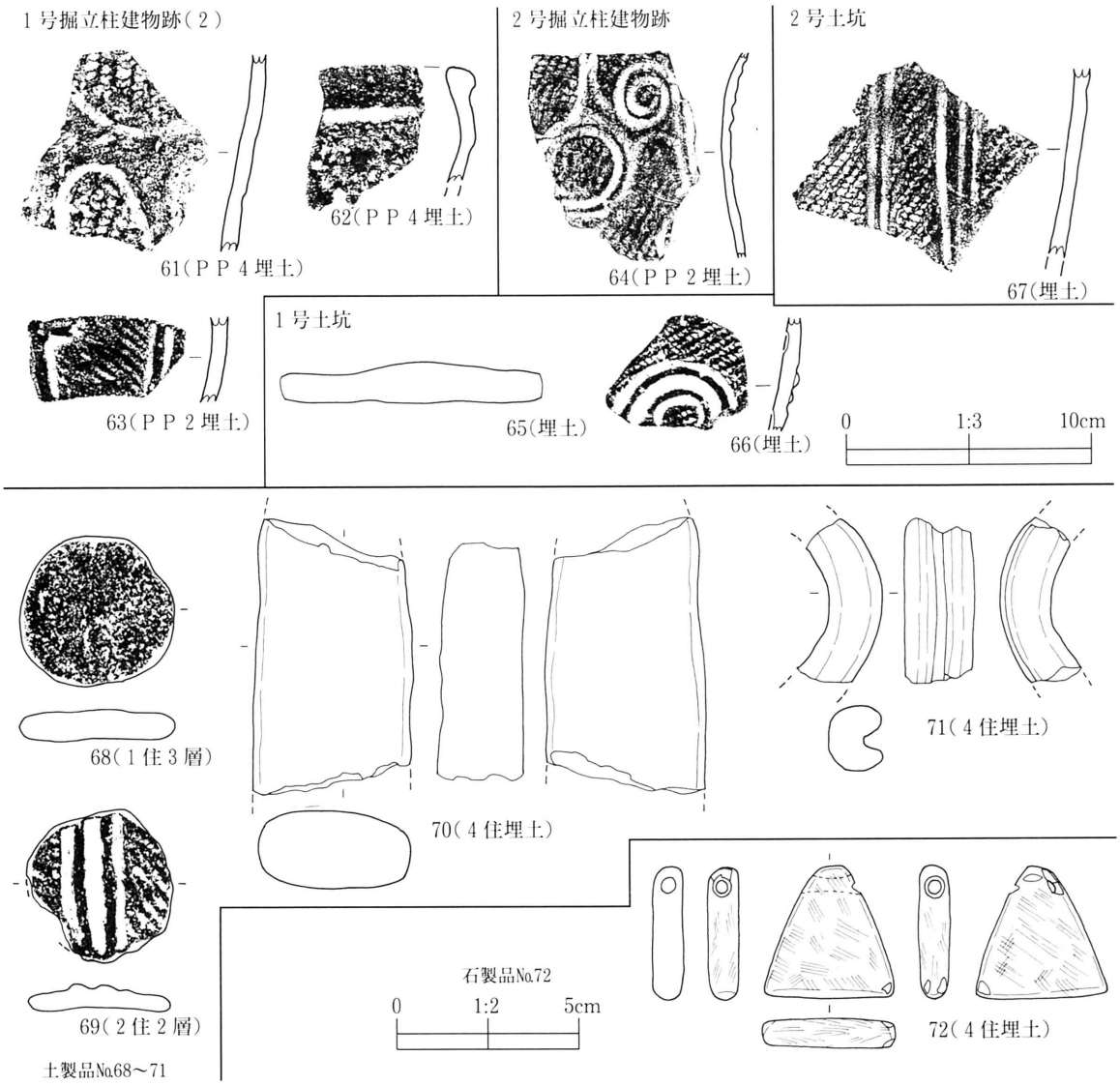
第39図　淵畑遺跡出土遺物 1



第40図　淵畑遺跡出土遺物 2



第41図　淵畑遺跡出土遺物 3



第42図　淵畑遺跡出土遺物 4

第5表　淵畑遺跡　土製品観察表

図版No.	掲載No.	出土地点	層位	種別	計測値（cm）			重量(g)	内面調整	胎土	文様(原体)の特長・備考	時期
					長さ	幅	厚さ					
42	68	1号住居跡	埋土3層	円盤状土製品	4.0	4.1	0.9	15.4	不明	3	摩滅著しく文様不明・胴部破片	中期
42	69	1号住居跡	埋土3層	円盤状土製品	(4.0)	4.1	0.7	(9.6)	不明	3	LR縦→隆沈線、周縁研磨、胴部片	中期
42	70	4号住居跡	埋土	斧状土製品	(7.5)	(4.4)	2.4	(87.0)	N?	4	無文、両面に縦方向の擦痕、凸凹有り	中期
42	71	4号住居跡	埋土	環状土製品	(4.0)	－	1.9	(13.7)	N?	4	外周に太い沈線が巡る。直径7～8cm?	中期

凡例
内面調整、M：ミガキ、N：ナデ、－：なし
胎土、1：緻密である。
2：細礫含まず、砂粒を含む。
3：細礫・砂粒をわずかに含む。
3：細礫・砂粒を多量に含む。

第6表　淵畑遺跡　石製品観察表

図版No.	掲載No.	出土地点	層位	種別	計測値（cm）			重量(g)	石材	文様(原体)の特長・備考	時期
					長さ	幅	厚さ				
42	72	4号住居跡	埋土	三角形石製品	3.6	3.6	0.8	15.2	流紋岩	垂飾り、一端に両側から穿孔、両面に擦痕	中期

12　山本川筋山本地区通常砂防事業関連調査

遺跡 (MF91－1028)

所在地；江刺市米里字山本地内

事業者；水沢地方振興局土木部

調査期日；平成13年５月28日～29日（２日間）

遺跡は、ＪＲ東日本東北新幹線水沢江刺駅の北東約16kmに位置し、山本川左岸の小規模沖積地に立地する。標高は270m前後であり、現況は畑地・水田・宅地である。

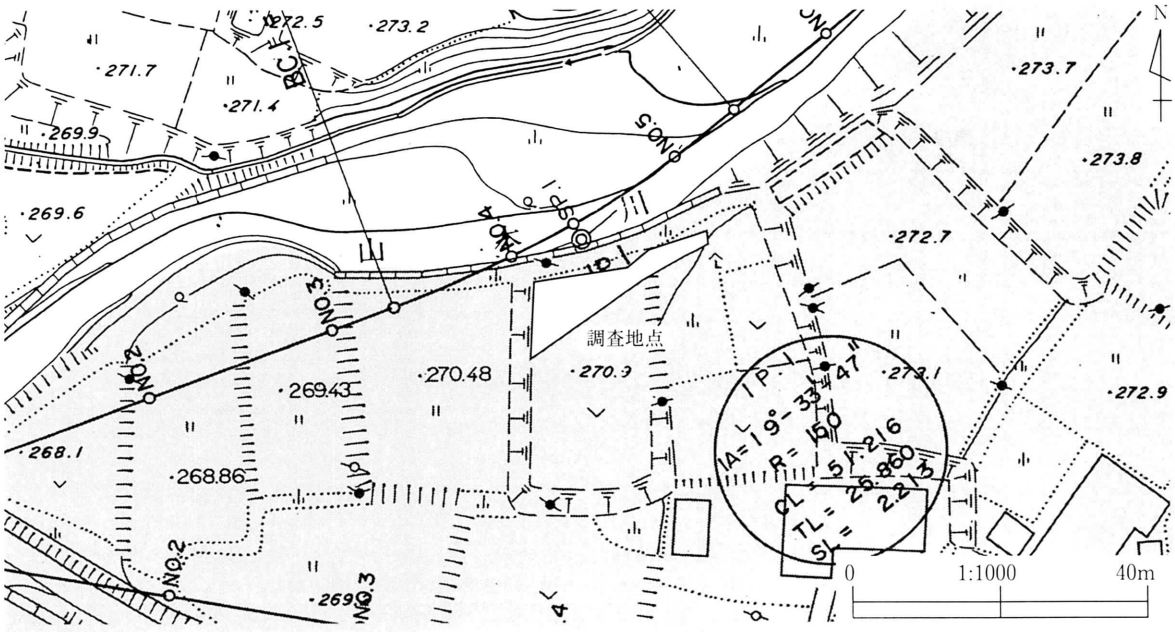
今回の発掘調査は通常砂防事業に伴うもので、河川の流路拡幅に伴い、遺跡範囲が削平されるため、調査を実施した。同時業に係る前年度の試掘調査の結果、遺物包含層が確認されていた範囲を発掘調査した。調査は約100㎡である。

第43図　MF91－1028位置図

基本層位は第１層；表土、シルト、層厚は15～20cmで、縄文土器が若干含まれる。第２層；暗褐色土、シルト、層厚25～35cm、縄文土器を含む、第３層；黄褐色土、砂礫層（地山）、層厚不明、礫を多数混入する。

調査の結果、調査区の東側で縄文時代前期から中期の遺物包含層が発見された。包含層は層厚35cmで、包含される土器はそれ程多くなく、小破片が多い。出土遺物は底部片、口縁部・体部片、円盤状土製品がある。１は底部片で、２は縄文前期、５は縄文中期、大木９式期のものである。６は作り、調整が雑なもので、直径３cmである。

遺構検出は２層中及び３層上面で行ったが、全く検出されなかった。遺跡の主体部は調査区の南側にあるものと推定される。

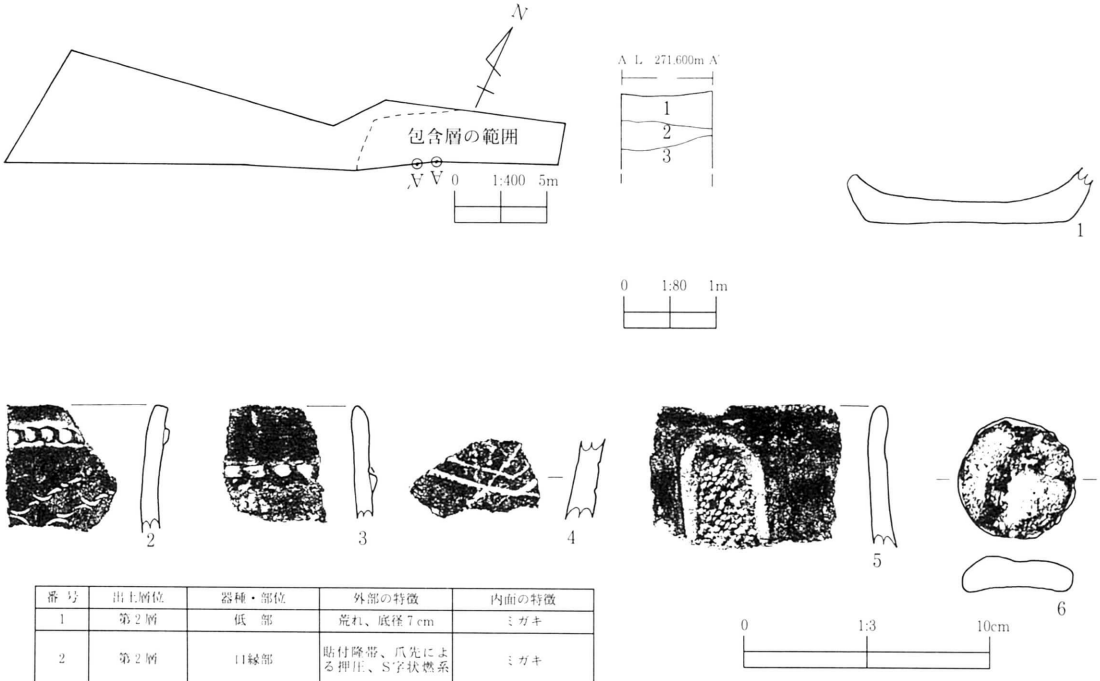


第44図　MF91－1028調査区位置図

遺跡は山本川と人首川が合流する場所に近い所に立地している。大きく見ると人首川の上流域に位置しており、当時の縄文集落としてもかなり標高の高い場所であると言える。この周辺を含め、市内の遺跡詳細分布調査が進んでいないため、詳しい状況は不明であるが、江刺市東部の山間部にはかなりの数の縄文集落があったものと推定される。伊手地区の久田遺跡は縄文後期中葉を中心とする集落であることが（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターの調査によって明らかとなっている。

これに対し、江刺市西部の沖積平野部には弥生・平安時代を中心とする集落が多数発見されており、弥生時代、もしくは平安時代以降に大きく開発された地域とみることができる。つまり集落の分布も大きくみて、東部の山間部から西部の平野部へと移動したことが窺える。

江刺市東部はこれまで発掘調査が実施されることが少なかったが、これは大規模開発が市西部の沖積平野に集中していたため、弥生時代、平安時代の集落跡の発掘調査が目立っていた。今後、市内全域の調査が進展すれば、時代ごとの集落跡の変遷が把握できるものと考えられる。



番号	出土層位	器種・部位	外部の特徴	内面の特徴
1	第2層	低　部	荒れ、底径7cm	ミガキ
2	第2層	口縁部	貼付降帯、爪先による押圧、S字状懸系	ミガキ
3	第2層	口縁部	断面三角形降帯に棒状工具による刺突文	ミガキ
4	第2層	体　部	平行沈線文による下向き山形文	ナ　デ
5	表　土	口縁部	縄文(RLR)・□字状区画文	ミガキ、金色ウンモを含む
6	第2層	円盤状土製品	T字型に降帯が貼付けられている	ミガキ、金色ウンモを含む、径3cm

第45図　MF91－1028遺構図・出土遺物

13　地方特定道路整備事業関連調査

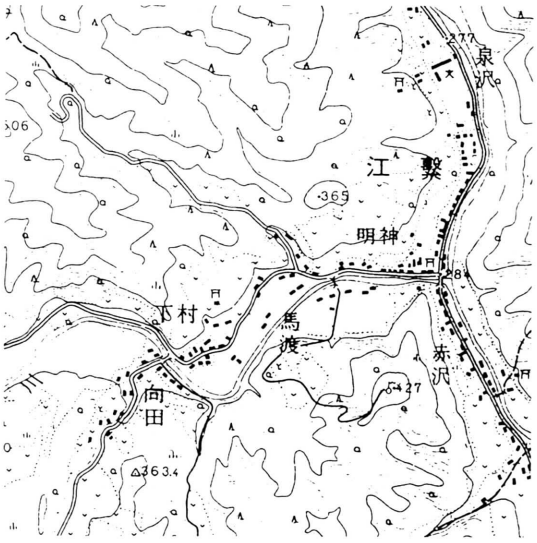
新規遺跡（LF77－0265）

所在地；下閉伊郡川井村大字江繋第８地割地内

事業者；宮古地方振興局土木部

調査期日；平成13年11月26日～27日（２日間）

本遺跡は、ＪＲ山田線陸中川井駅の南約7.5kmに位置し、薬師川に沿って伸びる丘陵尾根の裾部に立地している。調査区の標高は、297m前後を測り、現況は原野・畑地である。今回の調査は、緊急地方道路整備事業に伴うものである。今回の調査地は、平成12年10月に一度試掘調査を実施しているが、重機が入れない状況のため人力による調査だったことにより今回再調査を実施した。

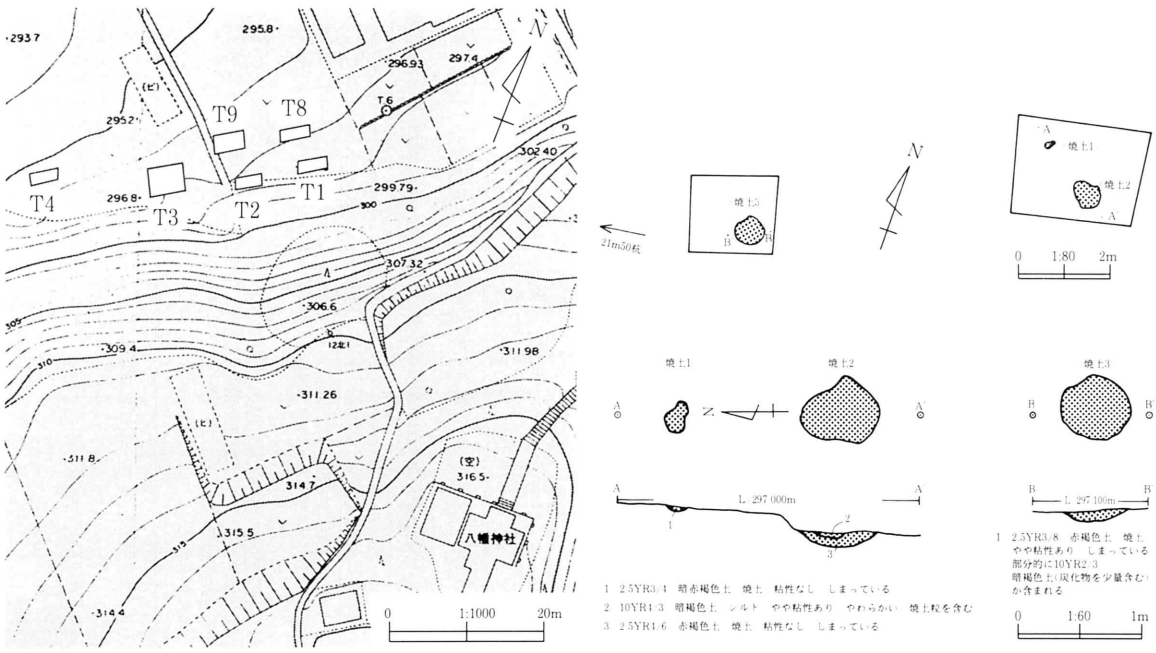


第46図　LF77－0265位置図

今回の調査では、道路新設部分を対象に、幅 130cm、長さ４m程のトレンチを９本設定した（Ｔ１　～９）。

調査の結果、調査区西側に設定したＴ３とＴ９で、焼土が検出された。Ｔ３で検出された焼土１は、25cm×18cm程の不整形を呈するものである。焼土２は、65cm×50cm程の規模で、平面形は不整楕円形である。Ｔ９で検出された焼土３は、60cm×50cm程の不整楕円形を呈する。焼土２と焼土３については、焼成状況は良好であり、住居跡の炉跡等の恒常的に火を使用した痕跡と推定される。焼土１については、焼土２・３と比べると規模も小さく、焼成も弱いことから、住居跡の炉跡の可能性は低いが、焼土２に近く、その真北に位置することから、同一住居内の何らかの関連施設であったことが推測される。

各焼土の周辺からは遺物は出土しなかったため、焼土の時期は不明である。焼土２・３が住居跡の炉跡であったとすれば、後年住居跡の大部分が削平されたために、周辺に生活の痕跡が残らなかったものと推測される。また、他のトレンチからも遺物は一切出土していなかったことから、今回の調査箇所の時期についても不明である。



第47図　LF77－0265調査区位置図・遺構図

14　交通安全施設等整備事業関連調査

田中遺跡（ＭＦ43－2127）

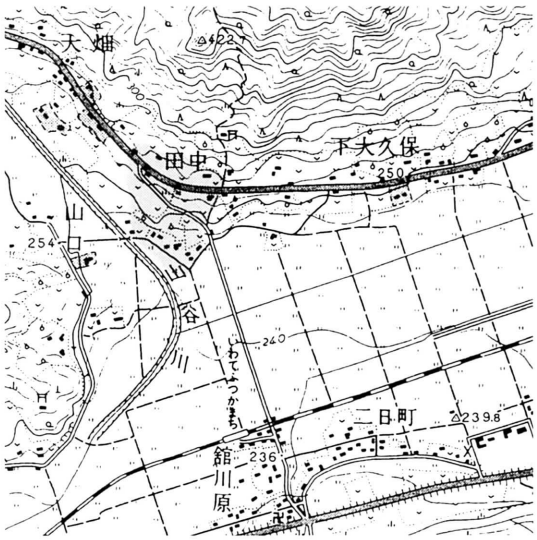
所在地；遠野市綾織町上綾織字田中地内

事業者；遠野地方振興局土木部

調査日；平成13年９月10日～18日（７日間）

遺跡は、ＪＲ釜石線岩手二日町駅の北北東約0.8kmに位置し、遠野盆地の北西斜面に立地する。調査区の標高は255ｍ前後を測る。現況は原野であるが、以前は畑地として利用されていた時期がある。

今回の発掘調査は交通安全施設等整備事業に伴うもので、平成７年に試掘調査を行った際に、焼土が検出され、住居跡の存在が予想される部分について調査を行った。

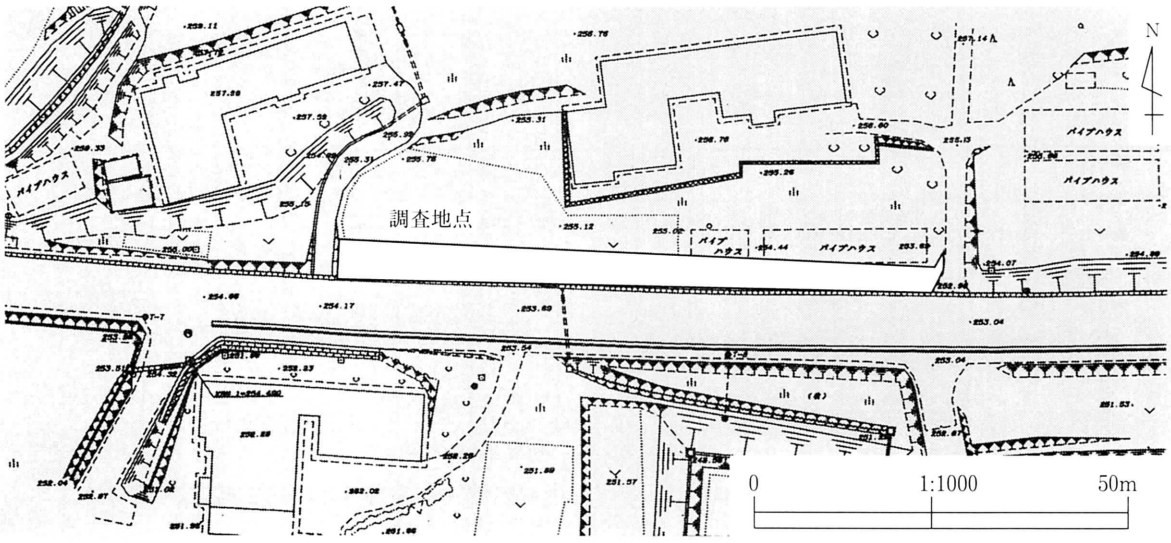


第48図　田中遺跡位置図

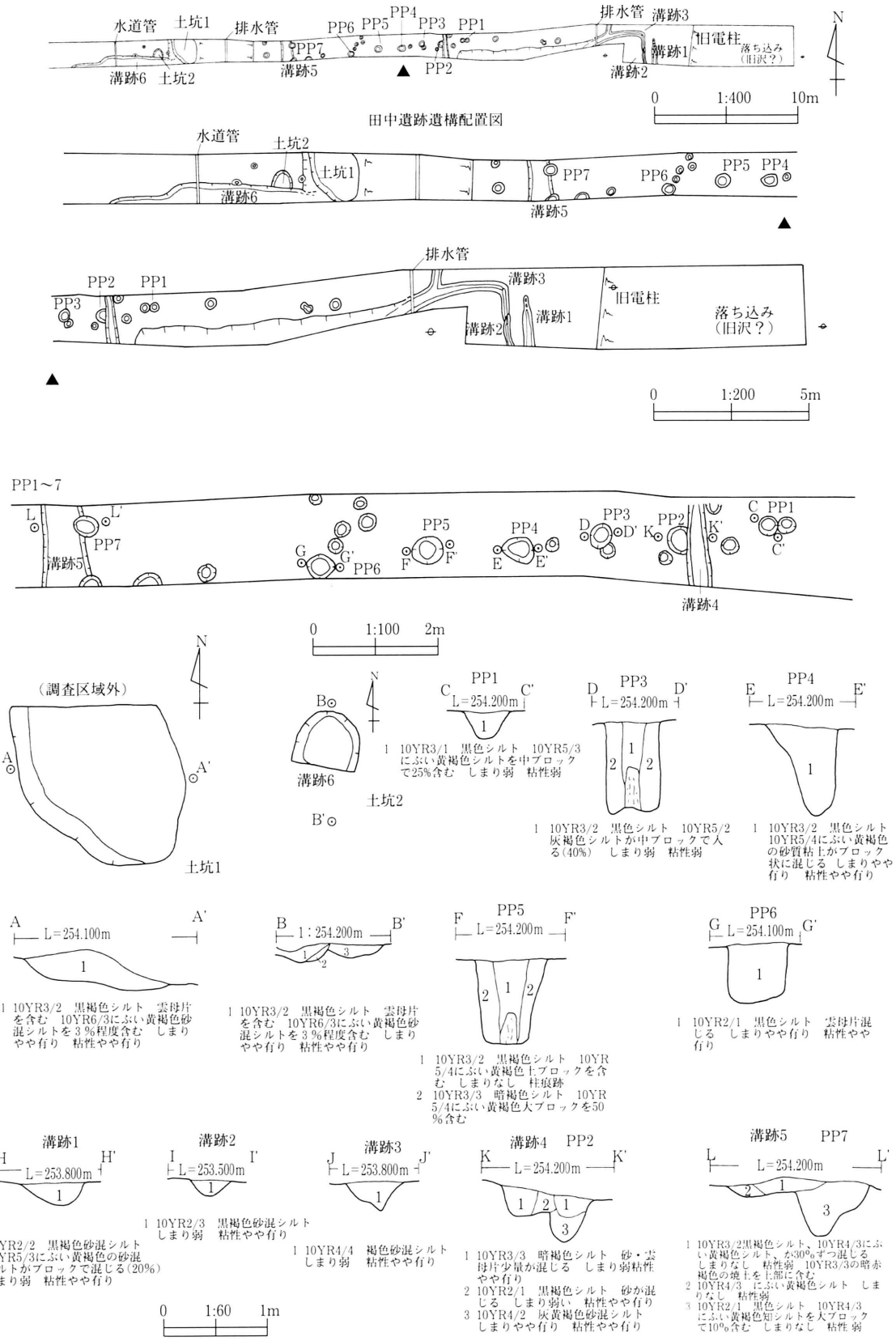
基本土層は、第１層は表土で層厚20～40cm、第２層は小礫の混入する黒褐色土で層厚20cm、第３層は黒色土で層厚20～40cm、第４層は黄褐色土の砂質の地山である。

調査の結果、検出された遺構は溝状遺構６条、土坑２基、柱穴状土坑28基である。溝状遺構は、幅30～75cm、深さは12～20cmで、長さは調査区域外に続くため不明である。６条のうち、東西方向に延びるものが１条、南北方向に延びるものが４条、東西方向から南北方向に曲がるものが１条である。土坑は２基検出され、土坑１は径1.5m以上、深さ32cmで、楕円形を呈するものと推定される。土坑２は溝状遺構４と重複しているため詳細は不明だが、径68cm、深さ14cmで、楕円形を呈するものと推定される。いずれの土坑も断面形は浅皿状を呈する。柱穴状土坑は、平面形が円形基調で、規模は径30～50cm、深さ20～60cmである。このうちＰＰ１～６は東西方向に並び、間尺が1.3～1.9ｍで、建物跡と考えられる。PP３・５には径15cmほどの柱痕跡が残っており、断面形はいずれも四角形で面取りがなされている。時期は近世以降と推定される。

今回の調査では、遺物は土師器・須恵器が出土したが、遺構には伴うものではなかった。なお、試掘調査で検出された焼土は、現地性のものではなく、落ち込みの埋土に炭化物と焼土粒が少量混じるものであった。



第49図　田中遺跡調査区位置図



第50図　田中遺跡遺構図

15　八戸大野線軽米町大道口地区
道路改良事業関連調査

大道口遺跡（IF65－2166）

所在地；九戸郡軽米町上舘43番地

事業者；二戸地方振興局土木部

調査期日；平成13年　6月25日、7月12日（2日間）

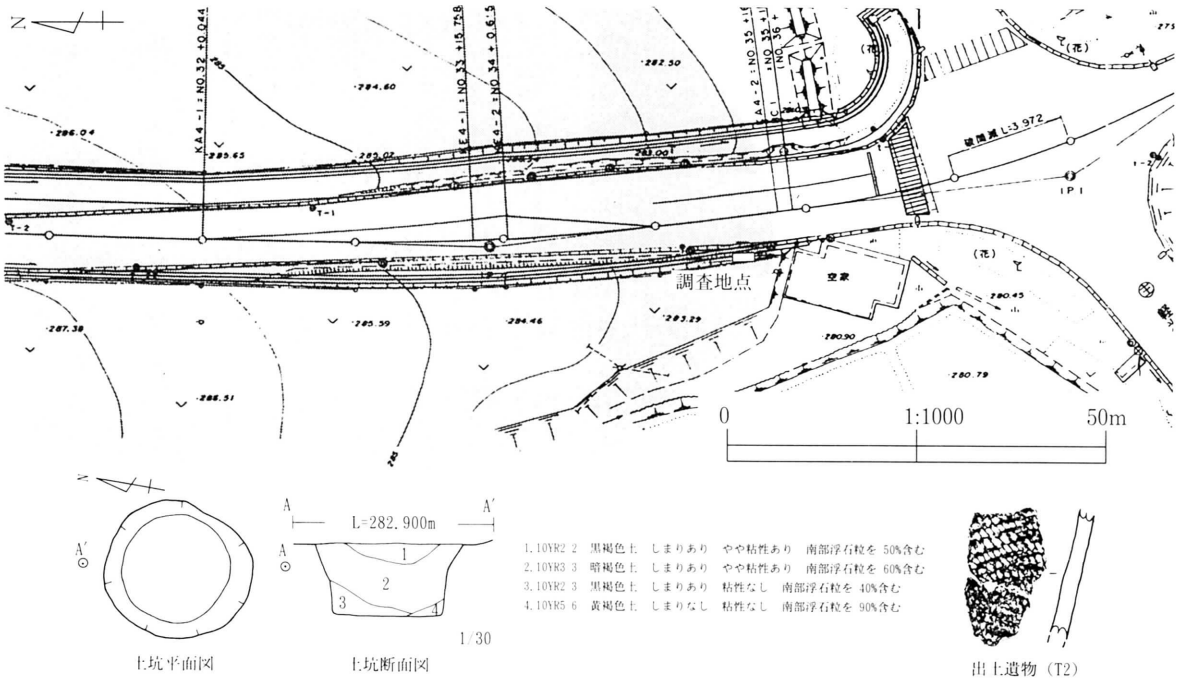
本遺跡は、軽米町役場の東南東約8.7kmに位置し、丘陵の東緩斜面に立地している。遺跡の標高は285m前後を測り、現況は主に畑地である。

今回の調査は、平成10年度の試掘調査で遺構の存在が予想されていた道路拡幅部分について試掘調査を実施した。前回の試掘調査において遺構の存在が予想された道路東側の部分と、前回試掘調査を行っていない道路西側の部分に17本のトレンチを設定した（T1～～T17）。

第51図　大道口遺跡位置図

調査の結果、遺構の存在が予想された道路東側の部分では、T2で土器片が出土したものの、遺構は検出されなかった。この箇所については、本来遺構が存在した場所の可能性があるが、以前の現道建設の際に削平を受けてしまった可能性がある。

一方、道路西側のT17で土坑が1基検出された。4層の南部浮石上位層で検出されたこの土坑は、平面形が円形で、断面形はビーカー状を呈していた。規模は開口部が径130cm、底部が径100cm、深さは65cm程であった。底面は7層八戸火山灰層を掘り込んでいた。埋土は黒色を呈し、南部浮石粒を少量含むものであった。南部浮石主体の壁の崩壊土もあり、自然堆積による土層と判断した。この土坑からは遺物は出土しなかったことから、構築時期は特定できないが、付近から縄文土器片が出土しており、縄文時代の貯蔵施設等に使用した遺構と推定される。



第52図　大道口遺跡調査区位置図・遺構図・出土遺物

16　共同利用型研究開発施設整備事業関連調査

巣子Ｖ遺跡（KE76－1221）隣接地

所在地；岩手郡滝沢村滝沢字巣子地内

事業者；岩手県地方振興部科学技術課

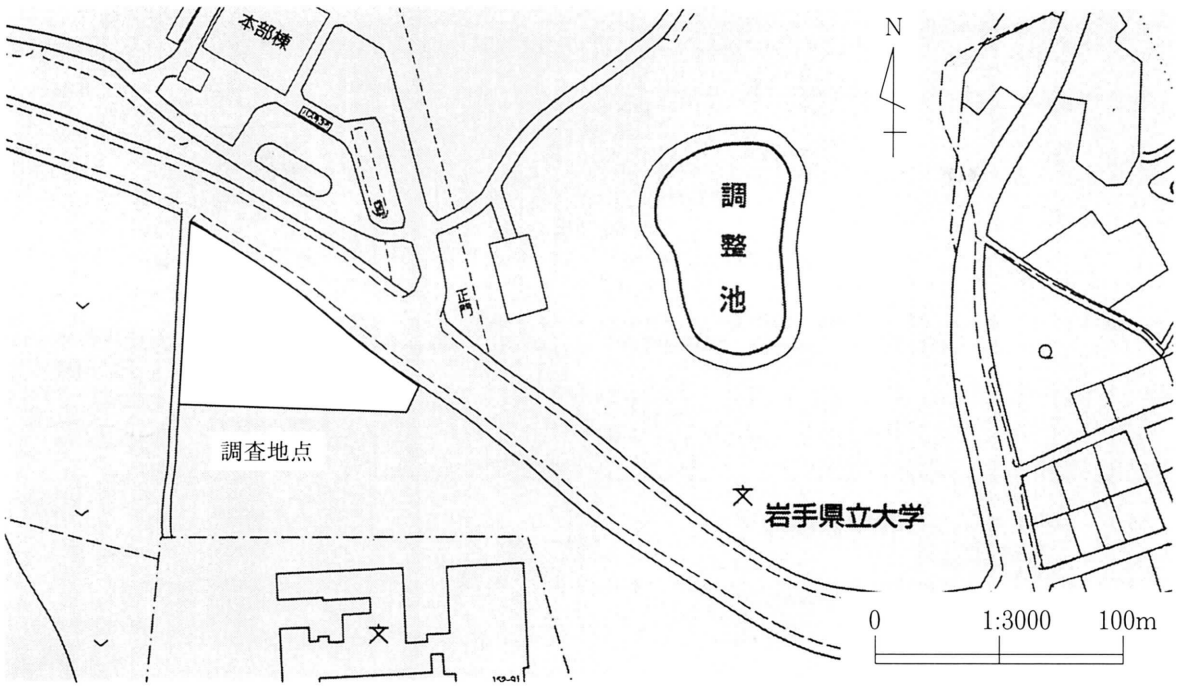
調査期日；平成13年10月11日～12日（２日間）

調査区域は、JR東日本東北本線滝沢駅の西約１kmに位置し、岩手火山を供給源とする火山灰台地上の緩斜面に立地している。調査区域の標高は253m前後を測り、現況は岩手県畜産試験場の牧草地である。巣子Ｖ遺跡は今回の調査区域の西側に隣接しているが、遺構が検出されたことから遺跡の範囲は、今回の調査区域まで拡大するものと考えられる。

第53図　巣子Ｖ遺跡隣接地位置図

今回の調査は共同利用型研究開発施設整備事業に伴って、平成13年５月８日に建設予定地の試掘調査を実施したところ、陥し穴状遺構が２基検出されたことから、記録保存を目的として実施したものである。発掘調査面積は２箇所の合計が約16㎡で、調査区の基本層序は以下のとおりである。第１層：表土10cm、第２層：黒褐色土20cm、第３層：灰褐色土（生出スコリア）20cm、第４層：暗褐色土20cm、第５層：褐色土30cm、第６層：橙色柳沢パミス10cm、第７層：黄褐色土40cm以上。

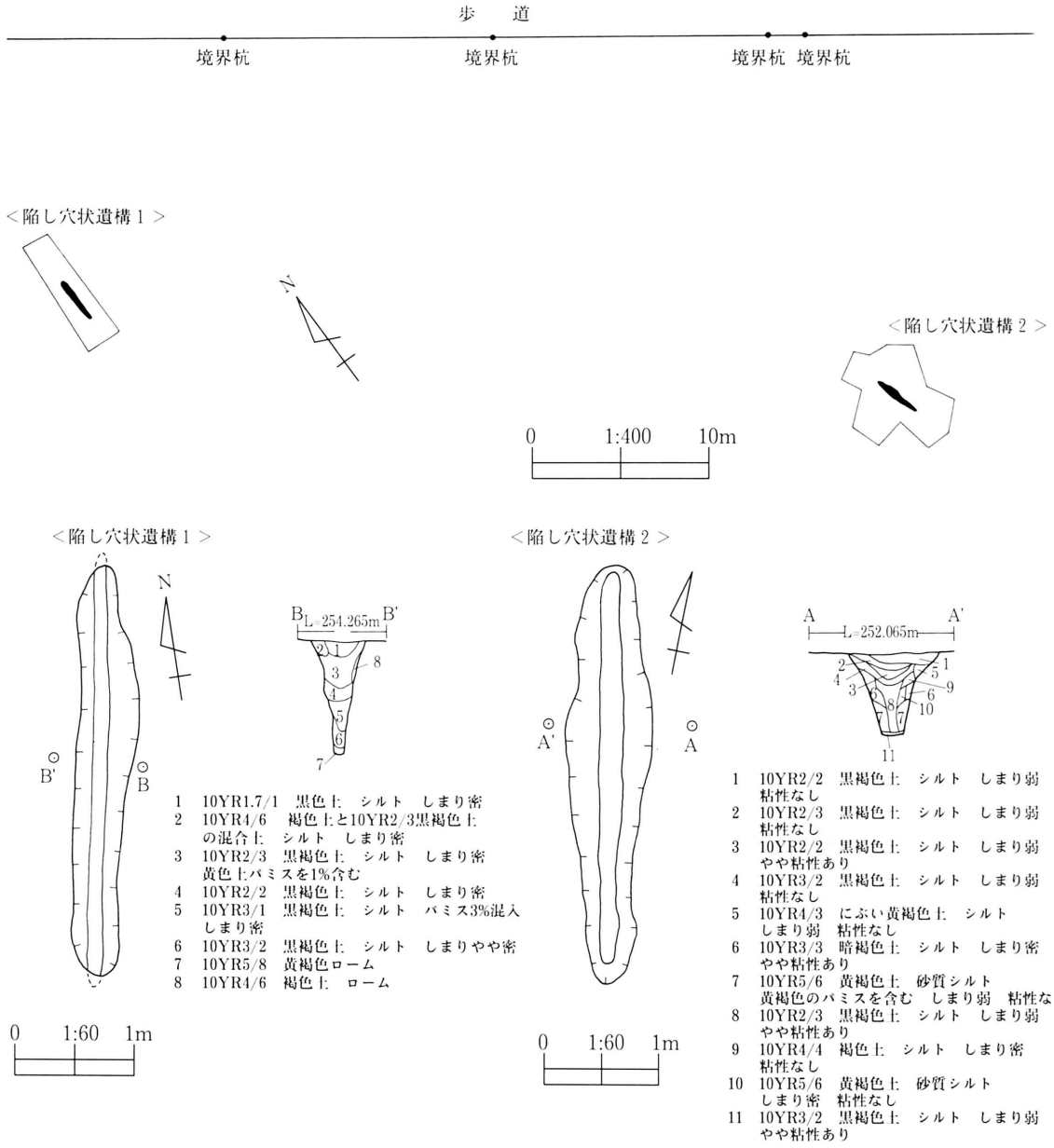
検出され、精査を行った遺構は、陥し穴状遺構２基である。事業予定地東側で検出された陥し穴状遺構１は、平面形が溝状で、断面形はＴ字状を呈する。規模は開口部の長さが350cm、幅が50cmで、底部の長さは370cm、幅は13cm、深さは95cm程である。検出面は第５層上面で、底部は第７層まで掘り込まれている。この陥し穴状遺構の底部は、南北側が開口部より10cm程外側に広がる。事業予定地中央部付近で検出された陥し穴状遺構２も平面形は溝状で、断面形はＴ字状を呈するものである。規模は開口部の長さ360cm、幅75cm、



第54図　巣子Ｖ遺跡隣接地調査区位置図

底部の長さは335cm、幅20cmで、深さは70cm程である。検出面は第５層上面で、底部は第７層上面に形成されている。どちらの陥し穴状遺構も長軸はほぼ南北方向を向いている。いずれの陥し穴状遺構からも遺物の出土はなく、遺構の構築時期は不明であるが、陥し穴状遺構の形状から縄文時代の遺構と推定される。

今回の調査区域の北側は岩手県立大学の敷地となっており、大学校舎を建設する際の発掘調査においても今回の調査で検出されたものと同様の陥し穴状遺構が見つかっている。このことから、この付近一帯が縄文時代に狩場として利用されていたと推定される。



第55図　巣子Ｖ遺跡隣接地遺構図

17　土地改良総合整備事業太田西部地区関連調査

上平遺跡（LE25－0012）隣接地

猪去館遺跡（LE25－0016）隣接地

所在地；盛岡市猪去字上平地内

事業者；盛岡地方振興局盛岡農村整備事務所

調査期日；平成13年３月14日～15日（２日間）

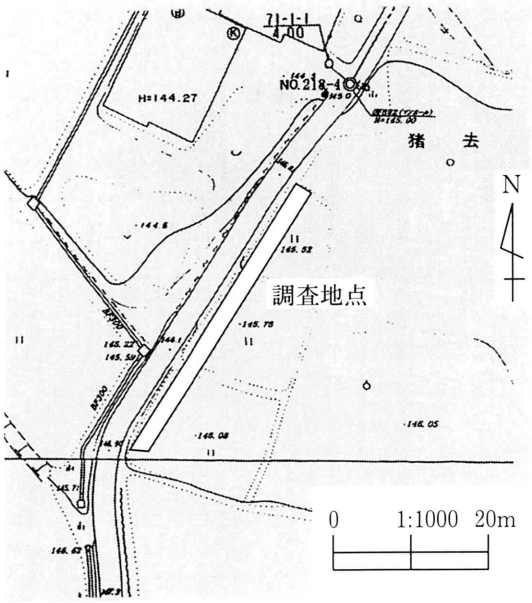
両遺跡は、JR東北本線盛岡駅の西約6.5kmに位置し、雫石川の中位段丘（砂礫段丘）と、その北側及び東側に広がる扇状地に立地している。調査区域の標高は140～146mを測り、現況は水田である。

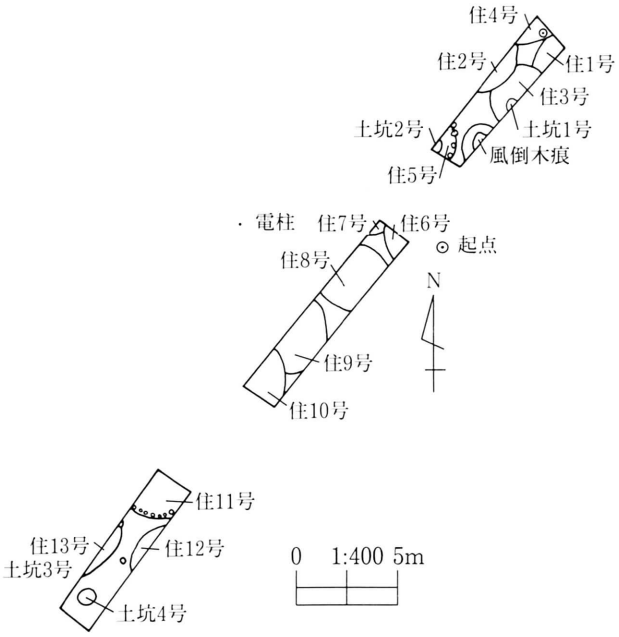
今回の調査は土地改良総合整備事業に伴うもので、昨年度試掘調査を行ったところ遺構が検出された２つの遺跡の農道拡幅部分及び水路部分について、遺構確認調査を実施したものである。

第56図　上平遺跡隣接地・猪去館遺跡隣接地位置図

調査の結果、確認された上平遺跡の基本土層は、以下のとおりである。第１層：表土（耕作土）25cm、第２層：暗褐色土（上位に十和田ａ降下火山灰が厚さ３～5cmで水平に堆積）35cm、第３層：黒褐色土15～25cm、第４層：褐色土（地山）層厚不明。上平遺跡では、第３層下位から第４層上位において竪穴住居跡13棟、土坑４基を検出した。検出された住居跡は重複が激しく、また全般的に遺構プランが不明瞭であるため、平面形・規模は推測の域を出ないものが多い。土坑は住居跡と重複するものもあるが、比較的遺構プランが明瞭である。遺物は住居跡・土坑から縄文時代晩期の土器が出土している。出土遺物から推定して、検出された遺構の時期は、全て縄文時代晩期と推定される。

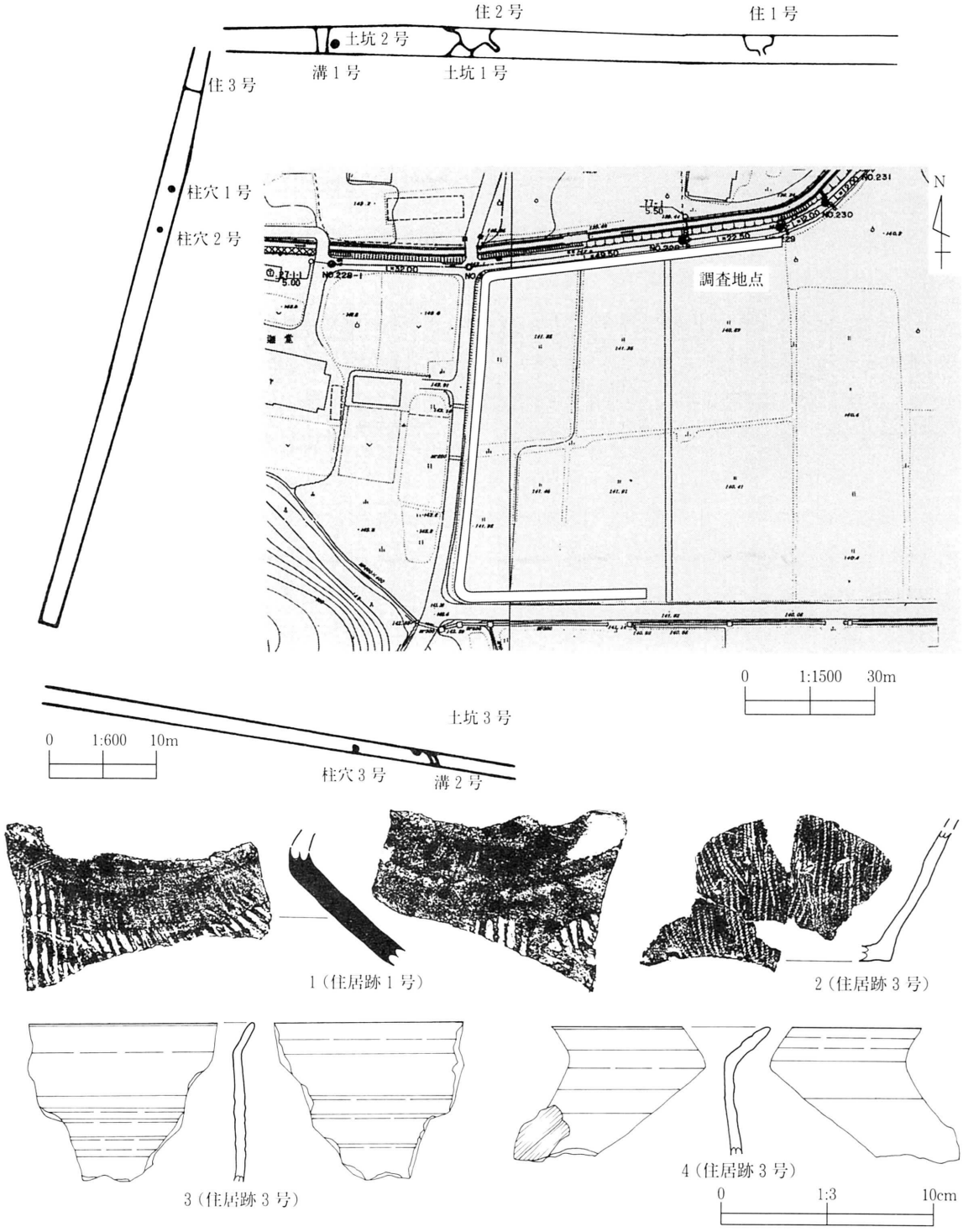
猪去館遺跡で確認された基本土層は以下のとおりである。第１層：表土（耕作土）20～30cm、第２層：黒褐色土10cm、第３層：褐色土25cm、





第57図　上平遺跡隣接地調査区位置図・遺構配置図

第４層：暗褐色土18cm、第５層明黄褐色土（地山）層厚不明。猪去館遺跡では第５層上面で竪穴住居跡３棟（平安）、土坑３基、柱穴状土坑３基、溝跡２条を検出した。竪穴住居跡は調査区北側において検出された。出土遺物等から平安時代の遺構と推定されるが、残存状態が悪く、遺構プランは全般に不明瞭である。土坑・柱穴状土坑・溝跡については、遺構プランは比較的明瞭であるが出土遺物がなく、時代を特定することはできない。遺物としては平安時代の土師器が少量出土したほか、弥生時代の土器が数点と石皿が１点出土している。



第58図　猪去館遺跡隣接地調査区位置図・遺構図・出土遺物

Ⅱ　試掘調査

1　一般国道４号水沢東バイパス関連調査

杉の堂遺跡（NE27－0100）

所在地；水沢市神明町地内

事業者；国土交通省東北地方整備局岩手工事事務所

調査期日；平成13年６月12日

本遺跡は、ＪＲ東北本線水沢駅の東約1.5kmに位置し、北上川右岸の胆沢扇状地の水沢段丘上位面に立地する。調査地の現況は主に畑地で、北側は宅地として利用されていた。今回の試掘調査では、今回の事業予定地内に12箇所の南北方向のトレンチを設定した（Ｔ１～12）。

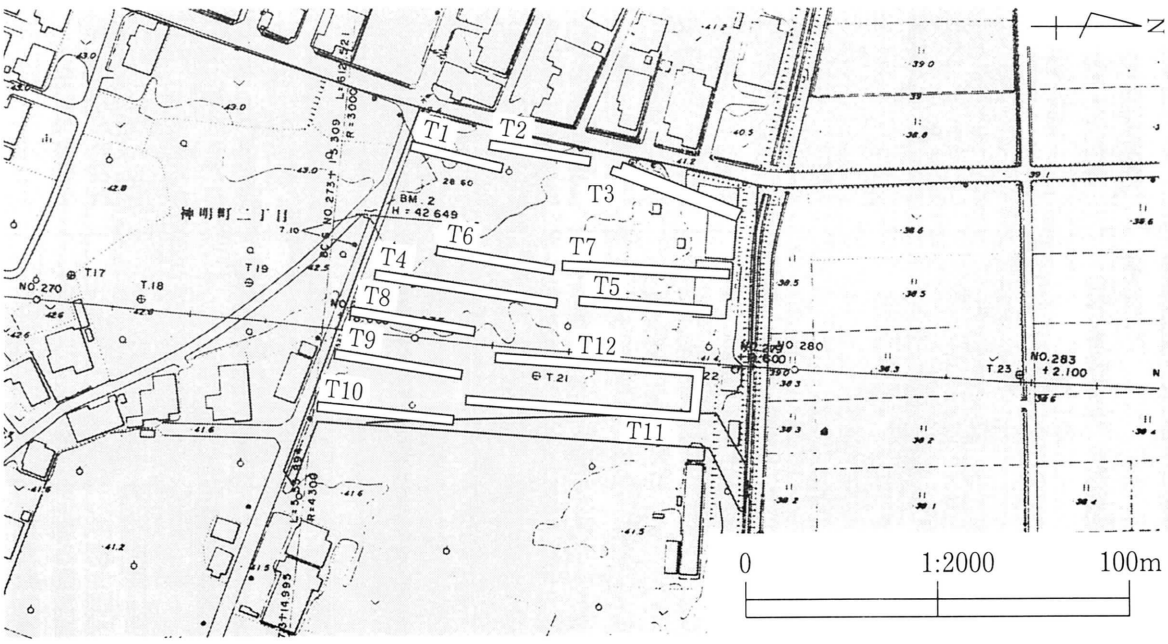
第59図　杉の堂遺跡位置図

竪穴住居跡はＴ２・Ｔ９・Ｔ11で検出した。Ｔ９で確認した竪穴住居跡は、一辺５ｍ程の方形のプランで、埋土に多量の土師器片を含むものであり、遺物から平安時代前期の住居跡と推定される。Ｔ２とＴ11で確認した竪穴住居跡も、埋土中の遺物から同様の時期と推定される。また、Ｔ１・２で検出した溝跡については、遺構埋土上部に水性堆積の灰白色火山灰層があり、検出された竪穴住居跡との関連が考えられる。

Ｔ12の南側では、大規模な竪穴状の遺構を検出した。遺構の形状や埋土の状況から平安時代の住居跡とは明らかに異なるものである。平面規模は長軸10ｍ程の長方形を呈しており、遺構の東側に溝が２本とりつく形になっていた。埋土は黒褐色シルトを主体とするもので、検出面の埋土の一部から手づくねかわらけと常滑産陶器片が出土している。手づくねかわらけは、平泉の12世紀後半の遺構から出土するかわらけときわめて類似するものである。この竪穴状遺構の南側に比較的大きな掘方をもつ柱穴群を検出しており、この遺構と同時期の掘立柱建物跡が存在する可能性がある。

平安時代前期の遺構は、重複が少なかったが、調査区東側で遺構が比較的密に存在しているようである。

（平成14年度本発掘調査予定）



第60図　杉の堂遺跡調査区位置図

2　胆沢ダム建設事業関連調査

大清水上遺跡（NE22－2286）

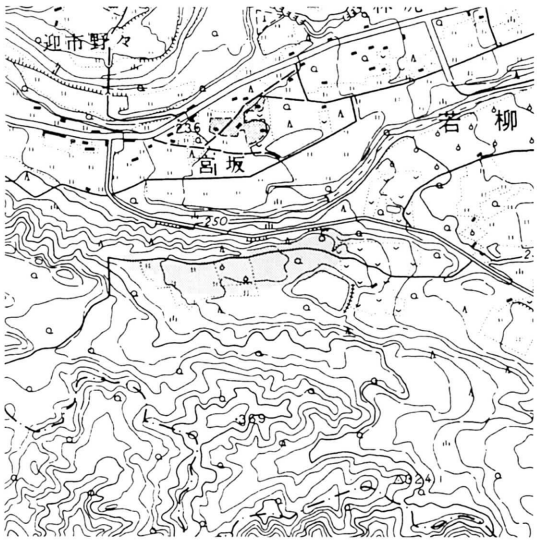
所在地；胆沢郡胆沢町若柳字慶存

事業者；国土交通省東北地方整備局

胆沢ダム建設事務所

調査期日；平成14年８月29日～９月28日（16日間）

遺跡は、ＪＲ東日本東北本線水沢駅の西約20kmに位置し、胆沢川によって形成された河岸段丘の高位段丘上に立地している。調査区の標高は285m前後を測り、現況は山林及び荒地（以前は畑地・果樹園として利用されていた）である。



第61図　大清水上遺跡位置図

今回の調査は、胆沢ダムの建設に伴ってダムの堤体材料となるコア材（材）を採取する工事を行うにあたり、事業予定区域内の保安林の指定を解除する必要があるために実施した。調査対象面積は14,800㎡である。なお、調査区域東側及び南側に隣接する区域については、平成12年度より（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが発掘調査を実施しており、これまでに竪穴住居跡（住居状を含む）61棟、土坑148基、陥し穴状遺構26基、焼土跡13基、溝跡１条などが検出されている。

今回の試掘調査では、調査区域内の任意の地点に、立ち木をさけながら幅約1.8m、長さ３～18mのトレンチを50本設定した。

調査区の基本土層は、以下のとおりである。第１層：表土（森林土）10～15cm、第２層：暗褐色土20～25cm、第３層：黄褐色土（地山）層厚不明。

試掘調査で検出された遺構は、竪穴住居跡４棟、土坑26基、陥し穴状遺構６基、溝跡３条、焼土跡１基、柱穴状土坑27基である。調査区域東側のＴ48～Ｔ50においては竪穴住居跡と推定される暗褐色土の広がりが検出された。この地点に隣接する埋蔵文化財センターの発掘調査区域では、平面形が長方形（隅丸長方形も含む）で長軸の長さが10～20mの大型の住居跡が、円形の遺構空白地帯を取り囲むように配置される住居群が確認されており、今回検出された住居跡もこの集落の一部と推定され、規模と形状も同様のものと考えられる。住居跡の時期は、出土した土器の形式から縄文時代前期後葉と推定される。また、Ｔ46・Ｔ50では、他に4箇所で遺構と推定される暗褐色土の広がりが検出されており、円形の住居跡あるいは大型の土坑の可能性がある。

土坑はＴ３・Ｔ７・Ｔ18・Ｔ22・Ｔ26・Ｔ28・Ｔ29・Ｔ31・Ｔ36・Ｔ40・Ｔ41・Ｔ42・Ｔ45・Ｔ48において検出された。ほぼ調査区域全域に渡って検出されているが、調査区域の西側に向かい、住居群から遠ざかるにしたがって少なくなる傾向がある。土坑の形状は平面形が円形を呈するものが多く、径は１～1.5m程である。

陥し穴状遺構はＴ９・Ｔ30・Ｔ34・Ｔ44・Ｔ46で検出された。形状は溝状を呈するものが多いが、長楕円形を呈するものもＴ34で１基検出されている。溝状の陥し穴状遺構の規模は幅が70cm前後で、長さはトレンチ外に続くため不明であるが、３m前後と推定される。

溝跡はT16・T17で検出されているが、現地表面からも窪みが確認できる部分があり、T15で近代の炭窯と推定される炭化物の広がりを検出していることから、この溝跡も近代のものの可能性がある。溝跡の幅は50cm前後である。T25で検出された焼土も表土直下に薄く形成されている状況と炭化物の残存状況から近代の炭窯の可能性が高い。なお、本遺跡の西側に隣接する「なめだけⅠ遺跡」の試掘調査においても近代のものと推定される炭窯が1基検出されている。

柱穴状土坑は、T5・T9・T45・T46・T47で検出された。特にT45～T47では集中して検出されており、竪穴住居跡群との関連が推定される。柱穴状土坑は円形のものがほとんどで、規模は径が20～30cmである。

遺物は縄文土器が住居群のある調査区域東側を中心に出土しているが出土量は少ない。縄文土器は前期後葉のものが主体である。また、T7より石槍が1点出土している。

これらのことから、今回の調査区域の東端部分には、発掘調査で検出されている円形に配される竪穴住居群を構成する住居跡が多数存在し、調査区域中央部付近には土坑群が形成されている可能性が高い。(平成14年度本発掘調査予定)

第62図　大清水上遺跡調査区位置図

3　北上川上流改修砂鉄川直轄床上浸水対策特別緊急事業関連調査

河崎の柵擬定地（OE09－1099）

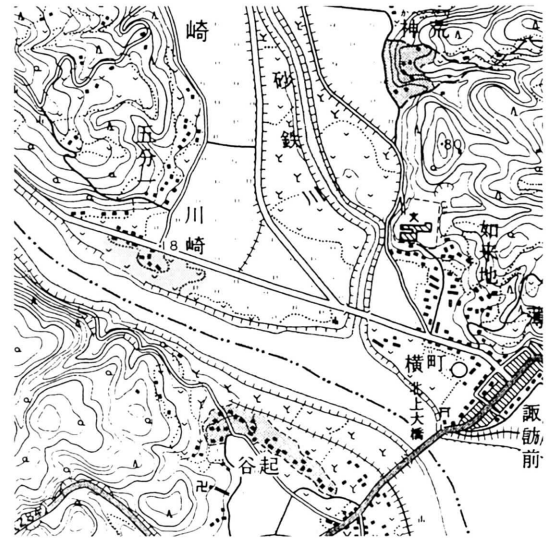
所在地；川崎村針山地内

事業者；国土交通省東北地方整備局岩手工事事務所

調査期日；平成13年５月22日

遺跡は、ＪＲ東日本大船渡線陸中門崎駅の南1.8kmに位置し、砂鉄川左岸の河岸段丘縁に立地している。現況は畑・住宅等で、標高は20m前後である。

遺跡は、天喜４年（1056）に安部貞任の軍勢が源頼義の軍勢を迎え撃つため設けられた河崎の柵の擬定地とされている所である。



第63図　河崎の柵擬定地位置図

今回の試掘調査は、平成12年度より継続している上記事業に伴うもので、昨年12月に試掘調査が実施できなかった箇所を中心に実施した。

基本層序は川寄りの標高の低い箇所では次のようになっている。第１層、耕作土、層厚25cm。第２層、褐色砂質土、層厚50cm。第３層、褐色砂質土、層厚20cm、炭化物混入、遺構確認面。第４層、褐色砂質土、層厚40cm。第５層、褐色砂質土、層厚不明、縄文土器が出土している。

一方、県道寄りで標高の高い箇所では次のような層序になっている。第１層、耕作土、層厚23cm。第２層、茶褐色土、層厚48cm。第３層、黄褐色砂層、遺構確認面である。

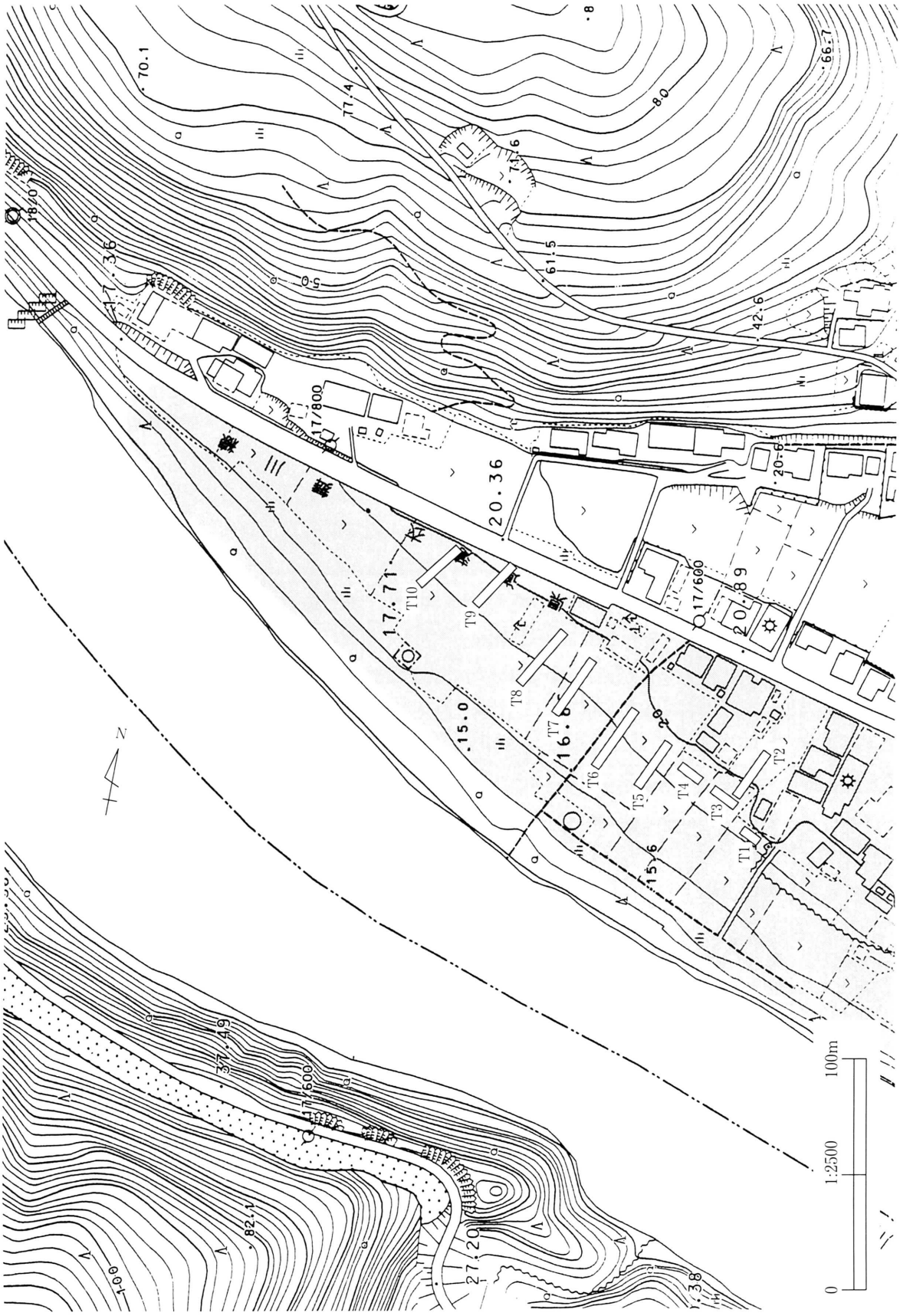
全体を見通してみると、局所的に存在する地層があり、層の堆積は単純でないことは明らかである。

トレンチ１から縄文土器、炭化物、トレンチ２・３からは竪穴住居跡２棟、土坑５基、焼土２基、トレンチ５では土坑１基、焼土１基、トレンチ６からは柱穴２基、トレンチ９・10では土坑が計６基発見された。なお、トレンチ７、８を入れた畑は、長芋栽培のためのトレンチャーにより一部撹乱を受けている。遺構確認面は標高差、出土遺物から平安以降と縄文時代の２面存在する。縄文時代の面は地表から1.3m以上下がるようである。何れの遺構も砂地を掘り込んだものであり、非常に崩れ易く、埋土は地山より若干色調が黒色を呈している傾向があった。

試掘調査の際、Ｔ４からＴ７の間を通り、北上川に直行する農道の中央からビニール袋３袋分の土師器片、須恵器片を採取した。農作業時に障害となる礫と共に畑地から投げ捨てられたものと思われる。試掘調査で平安時代の遺構が確認されているので、その埋土上部に含まれていた遺物と推定される。

平成12年度以降の調査成果、今回の試掘調査結果からすると、この遺跡は大きくみて、縄文時代、弥生時代、平安時代から中世、近世の４時期に大別されることが判明した。

前回の試掘調査結果と合わせると、川から遠ざかり、標高が高くなる程、遺構の密度が高くなり、遺構確認面が２面存在することが指摘できる。（平成14年度本発掘調査予定）



第64図　河崎の柵擬定地調査区位置図

4　地方特定道路整備事業関連調査

蔵屋敷遺跡（ME64－0148）

所在地；北上市和賀町長沼地区

事業者；北上地方振興局土木部

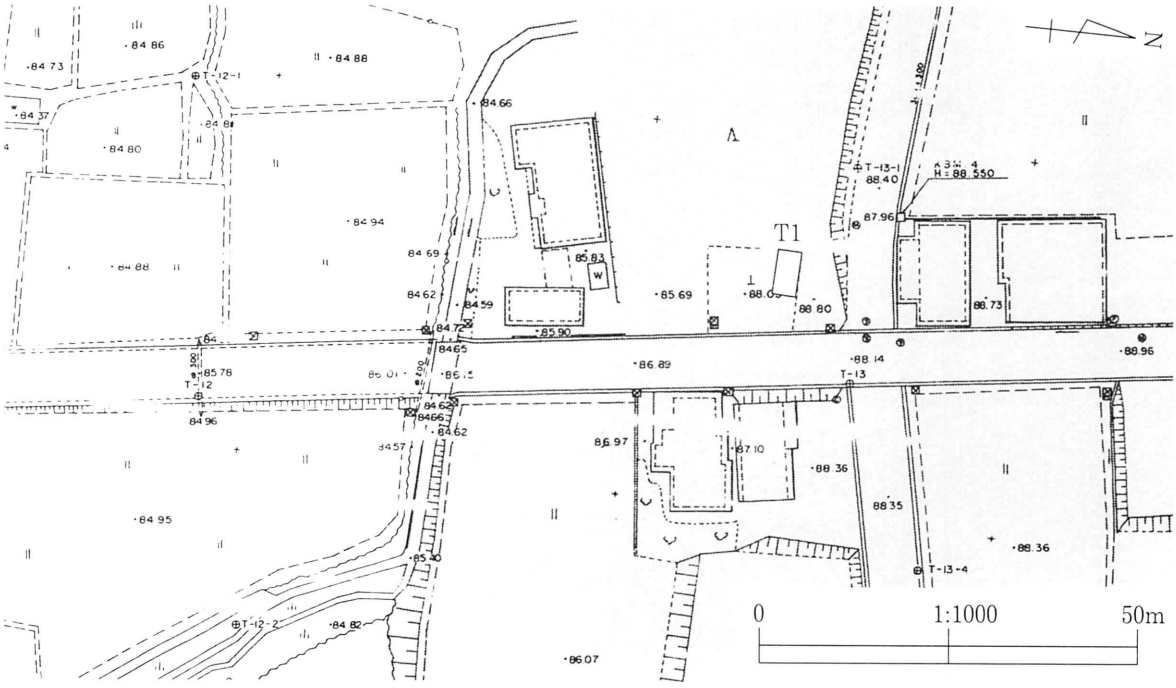
調査期日；平成13年 5月24日

第65図　蔵屋敷遺跡位置図

本遺跡は、ＪＲ北上線藤根駅の南西約1.0kmに位置し、和賀川左岸の河岸段丘縁辺部に立地している。遺跡の立地する低位段丘は、和賀川両岸に典型的に発達し、縄文時代から古代にかけて数多くの遺跡が確認されている。特に本遺跡の西側には国指定史跡江釣子古墳群の中の長沼古墳群が隣接している。遺跡の現況は、宅地・水田・畑地・山林であり、標高は88m前後である。今回の調査は、県道拡幅工事に伴うものであったが、歩道用地部分が未買収地であったため、県道に隣接する墓地改築範囲を含め調査対象とした。調査に入った段階で、既に墓地が移転しており、一部褐色の地山が露出する状況であったので、墓地改築範囲を中心に遺構検出を行った（Ｔ１）。

調査の結果、トレンチ北側の褐色土上面で、方形の竪穴住居跡の一部を検出した。埋土は、しまりのない黒褐色シルトで、土師器片と炭化物粒が含まれていた。埋土に含まれていた土師器片は、ロクロによる土器であり、平安時代前期頃の時期が想定される。遺構を検出した面は、過去の墓地造成時に削平を受けており本来は褐色地山面の上位層である黒色土層中から遺構が掘り込まれていた可能性が高い。

今回検出した住居跡は、北側の歩道用地に延びていくと推測されるが、検出状況から住居跡は複数切りあっている可能性も考えられる。また、調査地の西側に細長く延びる山林は地形的に当該期の遺構が多く遺存している可能性が高い。（平成14年度本発掘調査予定）



第66図　蔵屋敷遺跡調査区位置図

5　地方特定道路整備事業関連調査

雲南遺跡（NF78－1214）

所在地；陸前高田市小友町字雲南地内

事業者；大船渡地方振興局土木部

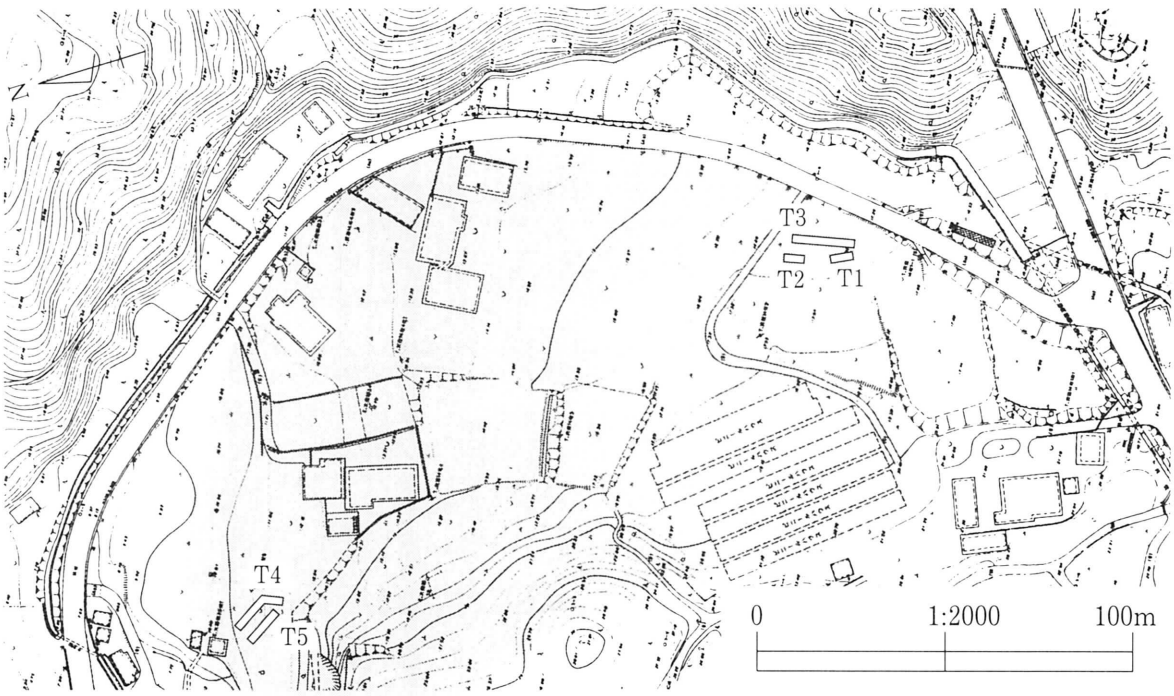
調査期日；平成13年11月16日

本遺跡は、ＪＲ大船渡線小友駅の西約２kmに位置し、広田湾沿いに発達した丘陵の北東向き斜面に立地している。調査区の標高は15m前後を測り、現況は畑地・水田・山林である。今回の調査は、地方特定道路整備事業に伴うものである。今回の調査では、道路新設部分を中心に幅160cm、長さ４～８ｍ程のトレンチを５本設定した（Ｔ１～５）。なお、調査地は現況の畑から多量の土器が露出する状況で、埋蔵文化財が集中的に存在している可能性が高いと判断したため、遺構保護のため中心部分へのトレンチを設定せず、調査区両端にのみ設定した。

第67図　雲南遺跡位置図

調査の結果、南側に入れたＴ１～３で縄文時代前期を中心とする土器が多量に出土した。Ｔ３では、表土直下で焼土と火山灰層（中掫火山灰）が検出されているが、遺物の出土状況からみて、この焼土については住居跡に伴う遺構の可能性が高い。北側に入れたＴ４・Ｔ５では、明確な遺構は検出されなかったが、検出面よりも上の層で土器片が出土している。

今回の遺跡に係る事業予定地内では、多量の土器片や石器類を表採することができる。平成12年度に陸前高田市教育委員会が、事業予定地の一部を発掘調査した際には、重複する土坑等の遺構や、火山灰層に挟まれた形で遺物包含層を検出していることから、事業予定地内にも多数の遺構・遺物が存在するものと推定される。



第68図　雲南遺跡調査区位置図

6　一般国道456号関口地区地域活性化支援道路整備事業関連調査

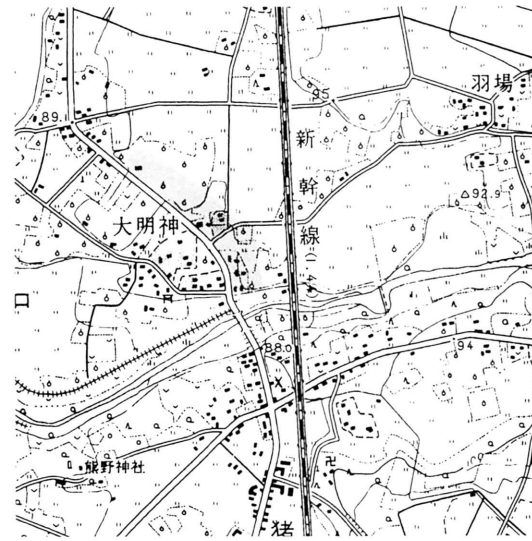
貝の淵Ⅰ遺跡（ＭＥ07-0167）

所在地；石鳥谷町関口地内

事業者；花巻地方振興局土木部

調査期日；平成13年１月31日（水）

平成13年５月11日（金）



第69図　貝の淵Ⅰ遺跡位置図

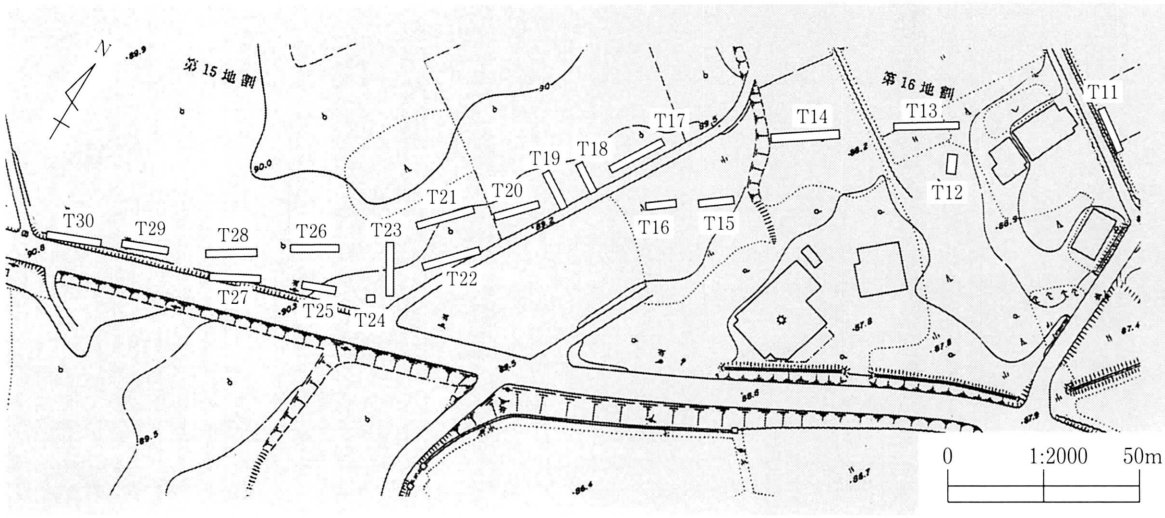
本遺跡は、稗貫川右岸の河岸段丘上に立地しており、ＪＲ東北本線石鳥谷駅から南東に約４kmに位置している。標高は86～90mで、現況は水田及び果樹園となっている。

試掘調査の結果、基本層序は次のようになっている。第１層、表土、耕作土、層厚10～20cm。第２層、黒色シルト、層厚10～40cm、第３層、暗褐色土、漸移層、層厚０～５cm、第４層、黄褐色土、地山、層厚０～10cm、第５層、砂礫層、層厚不明。第４層上面が遺構検出面である。

試掘トレンチは事業予定地内に計30本設定した。その結果、Ｔ19以南では遺構、遺物とも発見されなかった。Ｔ19では竪穴住居跡が２棟発見され、大きさがそれぞれ4m、2mほどの方形であること、埋土中からロクロ成形の土師器が出土したことから平安時代のものと推定される。この２棟が1mほどしか離れていないことから、異なる時期のものと考えられる。

Ｔ20、23、25、27においても遺構が検出された。Ｔ20では竪穴住居跡１棟が発見され、埋土中に火山灰と推定されるものが混入し、ロクロ土師器も含まれていた。Ｔ23では竪穴住居跡１棟と土坑が発見された。Ｔ25では、竪穴住居跡１棟が確認され、径4m前後の大きさである。北西隅で焼土も確認されており、カマドの可能性がある。Ｔ27でも竪穴住居跡が確認された。径は3m以上と推定された。

以上の結果、この遺跡は平安時代の集落であることが判明した。住居跡も約20棟ほどと見込まれ、この地区の拠点的な集落と考えらる。今回の事業予定地ではないが、国道西側果樹園から縄文土器が出土しており、付近には縄文時代の遺構も存在するものと推定される。　（平成14年度本発掘調査予定）



第70図　貝の淵Ⅰ遺跡調査区位置図

7　地域活性化支援道路整備事業・新交流ネットワーク道路整備事業関連調査

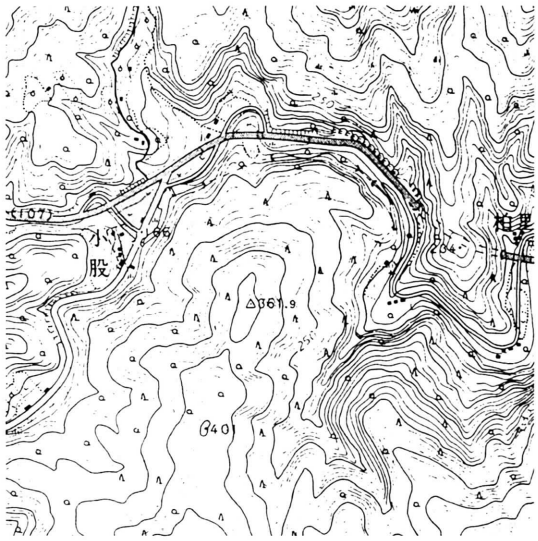
館遺跡（ＮＦ14－0159）

所在地；住田町世田米字小股地内

事業者；大船渡地方振興局土木部

調査期日；平成13年５月10日、11月15日

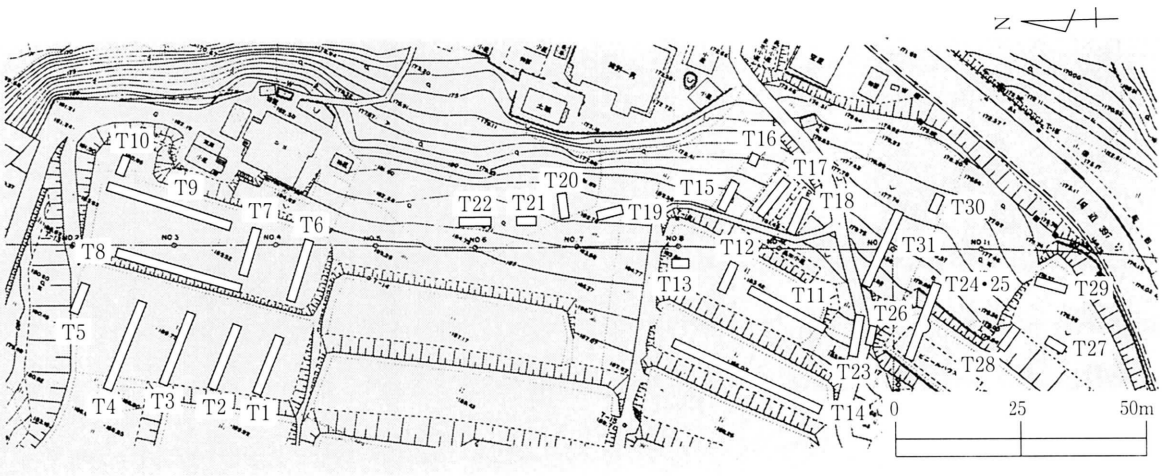
平成14年１月30日（３日間）



第71図　館遺跡位置図

遺跡は、住田町世田米にある住田町役場の北西約６km付近に位置し、大股川と小股川に挟まれた丘陵斜面に立地する。標高は180～190m前後を測り、現況は高位面が水田・畑地、低位面が宅地である。遺跡は東向きの斜面となっている。今回は、地域活性化支援道路整備事業に伴い、事業予定箇所が遺跡の範囲内であることから試掘調査を実施した。調査範囲は、平成13年度に埋蔵文化財センターで本調査した2,500㎡の山寄りの西側を除く、北側・東側・南側で、調査区域外にさらに遺構が広がる可能性があるため調査を実施したものである。

調査は、幅1.7mの試掘トレンチ31本を設定した。基本土層は、第１層は耕作土で層厚20～80㎝、第２層は黒褐色土で層厚20㎝、第３層は暗褐色土で層厚10㎝、第４層は黄褐色土で層厚30㎝以上、第５層は基盤層である。Ｔ１～５及びＴ11～14では、耕作土直下が黄色土の地山で、水田造成時に削平を受けており、遺構・遺物は確認できなかった。Ｔ６～９では、Ｔ８で土坑、Ｔ９で焼土・土坑・柱穴状土坑が4層面で検出された。周囲の状況から焼土は住居跡の炉跡の可能性もある。畑地に設定したＴ10では、遺構・遺物は確認できなかったが、畑地とした際の盛土と東側に向かって傾斜する本来の地形を確認している。なお、この田畑の東側にある宅地は岩盤を２～2.5ｍの深さで掘削し、平坦地を確保している。切土された断面には表土下－30㎝の地点で土器埋設炉を確認しており、水田西側の畑地にも遺構が広がっていることが確認された。Ｔ15～22は、表土下が4層もしくは５層で遺構・遺物は確認されず、その下位も急斜面で、宅地造成の際に切土されているものと判断された。南側に設定したＴ23～31では、高位面のＴ23において表土直下で焼土２基と縄文土器を確認した。各焼土の規模は径30㎝と径50㎝である。（平成14年度本発掘調査予定）



第72図　館遺跡調査区位置図

8　地域活性化支援道路整備事業関連調査

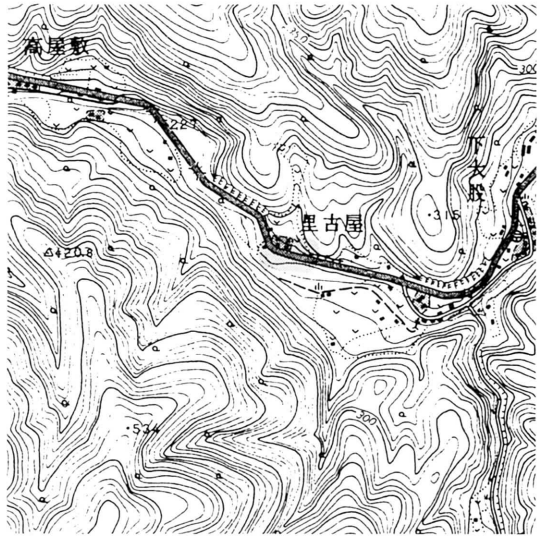
里古屋遺跡（NF14－2005）

所在地；気仙郡住田町世田米字里古屋19－５

事業者；大船渡地方振興局土木部

調査期日；平成13年12月17日

本遺跡は、住田町世田米にある住田町役場の西約８km付近に位置する。蛇行する大股川に対して南西側に張り出した丘陵裾部に立地する。標高は225～235m前後を測り、大股川との比高は、約10～20mである。遺跡は南向きの緩斜面で、現況は高位面が概ね畑地で、低位面が宅地・道路となっている。

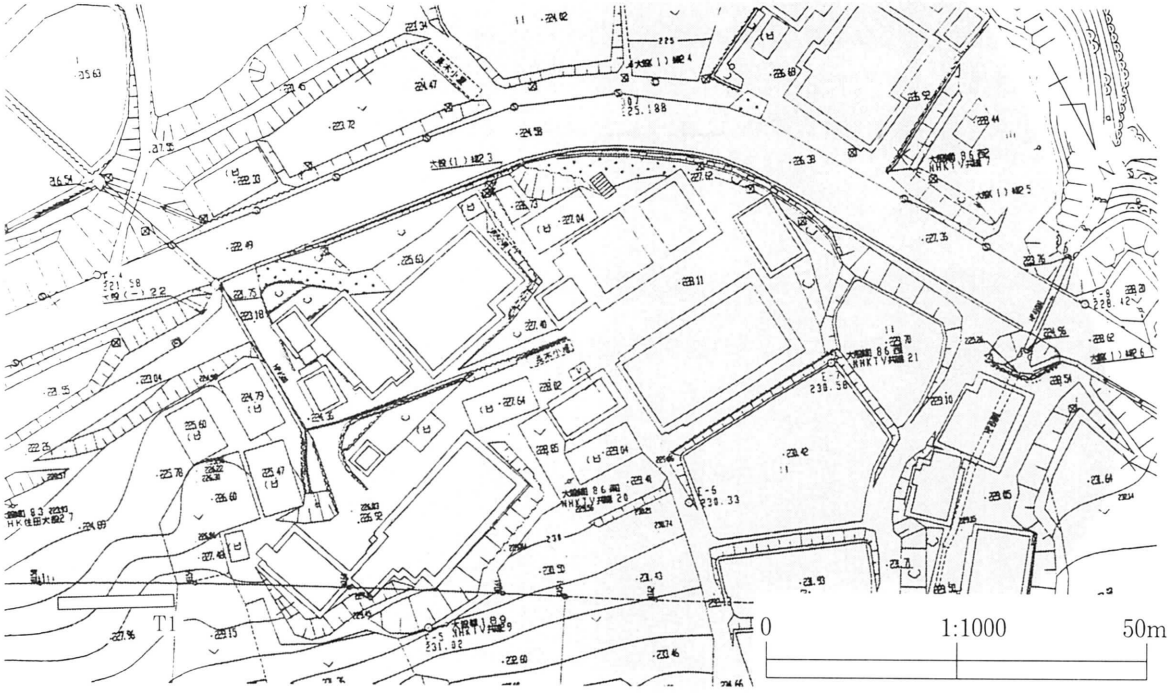


第73図　里古屋遺跡位置図

今回の調査は、地域活性化支援道路事業に伴い、事業予定箇所が遺跡の範囲内であることから、試掘調査を実施したもので、幅120cmのトレンチ１本（Ｔ１）を設定した。調査地の現況は主に畑地である。

調査の結果、表土下50cmの褐色土層上面で、径45cmの焼土１基、径60cmの土坑１基を検出した。土坑内には一個体分の復元可能な土器片が埋められており、本来は完形の土器を埋設した遺構（土器埋設遺構）の可能性も考えられる。

事業予定地には、宅地部分と畑地部分がある。宅地部分は切土して家を建設しているため、既に地山まで掘り下げられている可能性が高い。一方、畑地部分は、地権者の方が耕作時に土器片等を採取していることからも、遺跡の保存状態は良好であろうと推測される。表面採取された土器を実見したところ、縄文時代中期中葉と後期初頭から前葉の土器であることを確認した。今回試掘調査に入れなかった箇所（調査未了箇所）についても、遺構・遺物が検出される可能性は高いものと推測される。



第74図　里古屋遺跡調査区位置図

9　緊急地方道路整備事業関連調査

ＭＦ97-1278遺跡

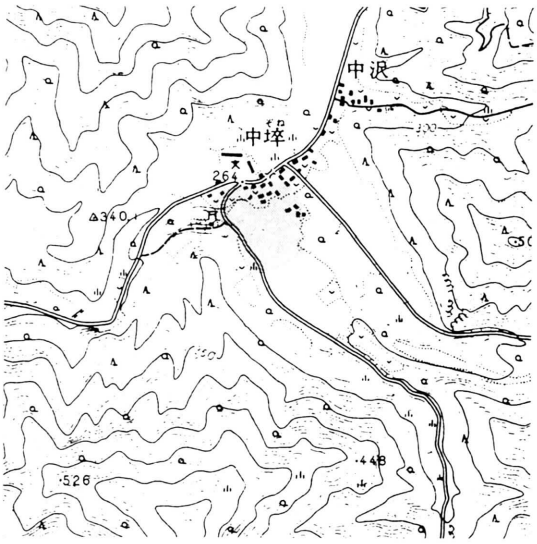
所在地；住田町上有住字中埣地内

事業者；大船渡地方振興局土木部

調査期日；平成13年10月11日（木）

平成13年11月14日（水）

遺跡は住田町上有住の五葉小学校の南約50m付近の気仙川左岸に張り出す丘陵先端部に立地する。標高は265～275mで、気仙川との比高は５～15mである。現況は概ね西側丘陵斜面が畑地・荒地、東側の丘陵高位面が水田となっている。北側に住宅がある。



第75図　MF97－1278位置図

試掘調査は諸事情により２回に分けて実施された。

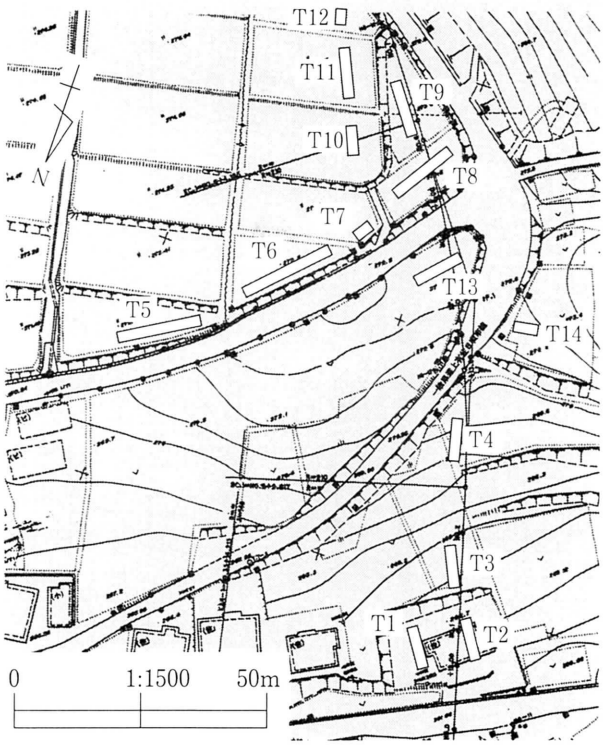
調査の結果、基本層序は次のようになっていた。第１層、表土、暗褐色土、層厚10～20cm。第２層、褐色土、層厚20cm、水田床土で、Ｔ５からＴ12でのみ確認した。第３層、黒褐色土、層厚10～20cm、遺物が若干出土する。Ｔ６～Ｔ10、Ｔ12のみで確認。第４層、暗褐色土、層厚10cm、Ｔ４、Ｔ６～Ｔ10、Ｔ12のみで確認。第５層、黄色ローム層、地山である。

試掘調査では、Ｔ６～Ｔ12で少量の遺物が発見された。Ｔ６、Ｔ12では縄文時代前期の土器片、Ｔ８では縄文時代中期の土器片と剥片、Ｔ10では深鉢形土器の底部片、Ｔ11では縄文時代晩期の土器片が出土したが、少量で本来の位置を留めている可能性が低いと判断した。

Ｔ３、４においては、表土直下に黄色土が堆積しており、地山面まで削平を受けていたことが判明した。遺構検出も行ったが、遺構は確認されなかった。Ｔ６～Ｔ12では、水田床土下に若干の遺物を含む黒褐色土が存在する。水田造成以前の土である。

これらのことから事業予定地全体が水田造成時に大きく削平を受け、遺物も大きく移動したものと推定された。

今回の事業予定地東側では、現在でも縄文時代晩期を中心とした土器片が比較的多く表採可能な箇所があり、そこが遺跡の中心部と推定される。また、地元の人の話では、今回の調査区南側にある道路下斜面で、多量の土器が出土したということである。



第76図　MF97－1278調査区位置図

10　緊急地方道整備事業関連調査

広岡前遺跡 (ME96－0399)

所在地；江刺市藤里字智福地内

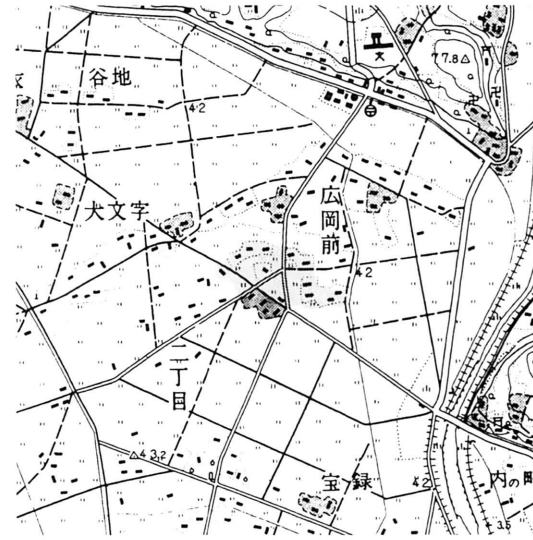
事業者；水沢地方振興局土木部

調査期日；平成13年11月26日（月）

平成14年２月４日（月）

遺跡は、北上川左岸の沖積平野に位置する。周囲は現在水田となっているが、遺跡範囲のみは微高地となっており、標高が周囲より若干高い。

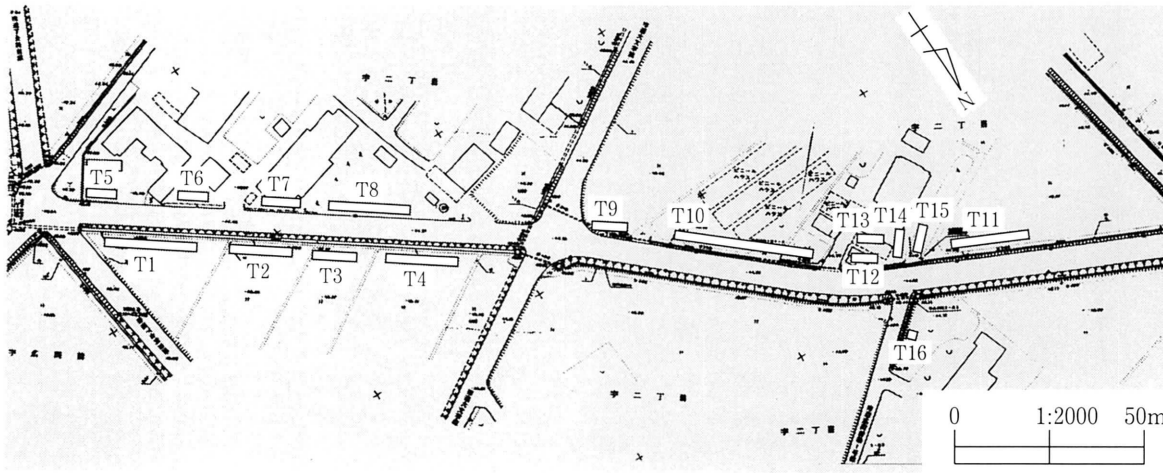
基本層位は次のとおりとなっている。Ｔ１では、第１層、表土、宅地の基盤土、層厚20cm。第２層、明褐色土、層厚30cm。第３層、明黄褐色土、層厚50cm、溝の堆積土。第４層、明黄褐色土、層厚５cm以上である。



第77図　広岡前遺跡位置図

試掘調査は都合16ヶ所に設定した。Ｔ１の２層から土師器、須恵器が出土した。Ｔ２、Ｔ７では、道路を挟んで繋がる長さ20mほどの溝が１条発見された。堆積土下部は炭化物、焼土層、上部は地山粘土層の埋め戻した土で構成されていた。埋土、下部から土師器坏が出土している。Ｔ10からは直径2.7mの土坑もしくは井戸状遺構が１基発見された。埋土からは緑釉陶器極小破片、フイゴの羽口、鉄滓が出土している。２層からは縄文土器が発見された。Ｔ11では、２層（灰色粘土層）から土師器が出土した。その下に茶色粘土層が堆積しており、遺構の確認はできなかった。また、現在、住宅が建っている場所は標高が１段高くなっており、畑地と段差がある。この段差の断面部分からは、土師器、須恵器、鉄滓が出土している。また民家裏でも鉄滓が表採されている。トレンチ12を含む住宅跡地では、溝が１条発見された。トレンチ12東端において幅３m、深さ0.5m程であることが確認され、埋土上部には鉄滓、炭化物が若干含まれ、南北方向に延びていた。堆積土の観察から平安時代のものと推定される。このトレンチ第２層には、鉄滓が少量含まれていた。

以上のことから、この遺跡は平安時代の集落と考えられる。遺構内容は住居跡、溝、鍛冶遺構等の存在が想定される。（平成14年度本発掘調査予定）



第78図　広岡前遺跡調査区位置図

11　緊急地方道路整備事業・ほ場整備事業下門岡地区関連調査

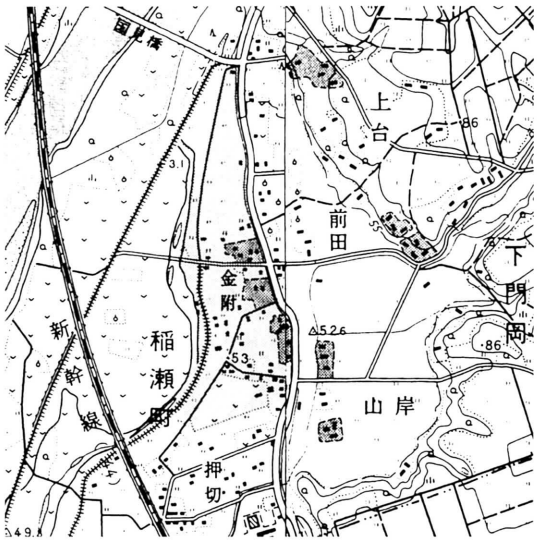
金附遺跡（ME76－2058）

所在地；北上市稲瀬町下門岡地内

事業者；北上地方振興局土木部・北上農村整備事務所

調査期日；平成13年10月31日、11月21日～11月22日、
平成14年１月８日～１月10日（計６日間）

本遺跡は、ＪＲ東北本線北上駅の南約3.5kmに位置し、北上川左岸の南北に細長く延びる自然堤防上に立地している。調査地の標高は53m前後を測り、現況は宅地・水田・畑地である。今回の調査は、ほ場整備事業と県道一関北上線道路改良事業に伴うもので、事業予定地に幅約160cmのトレンチを109本設定した（Ｔ１～109）。



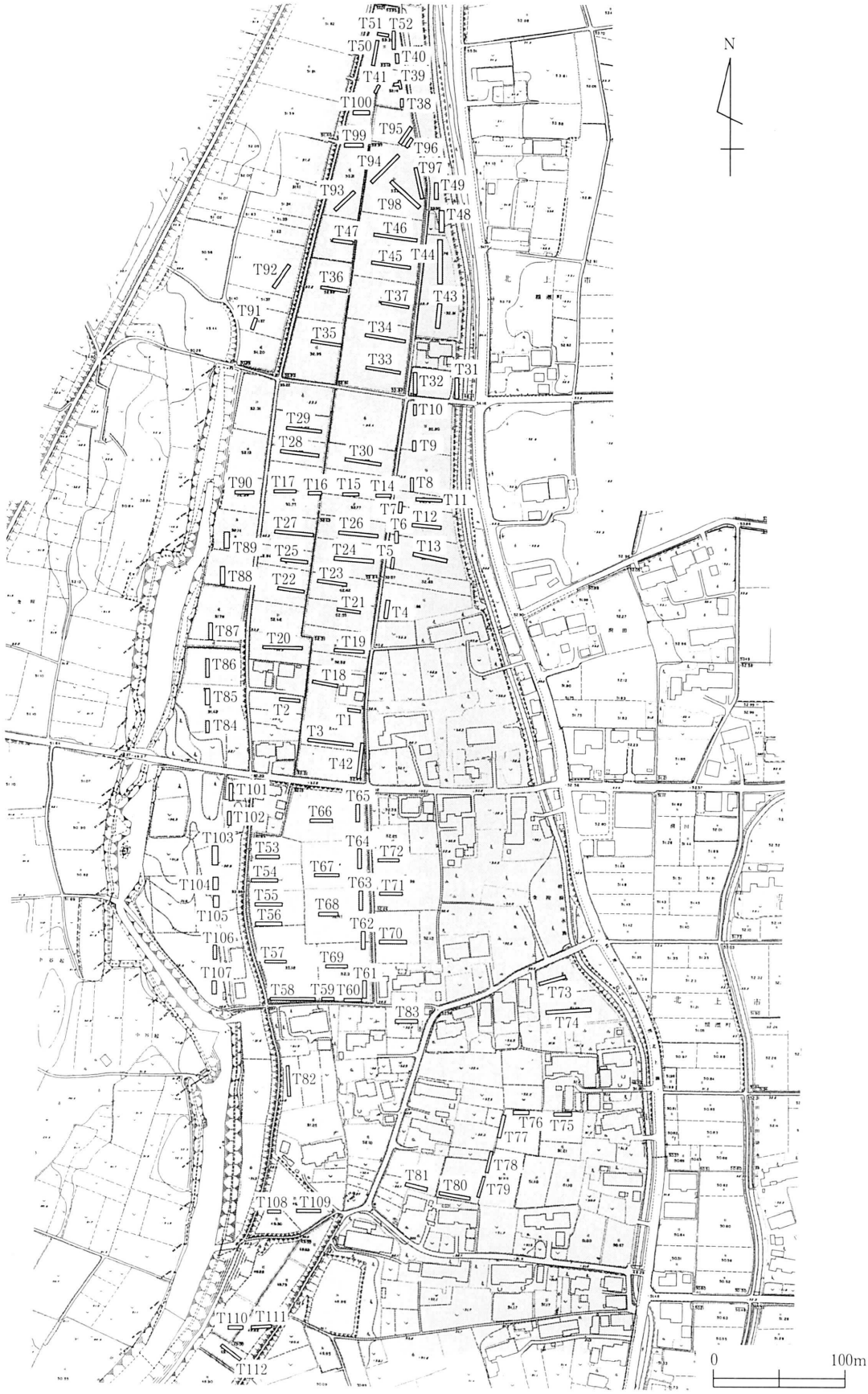
第79図　金附遺跡位置図

調査の結果、調査区北側に設定したＴ93、Ｔ97～99で、円形の竪穴住居跡と推定される暗褐色土の広がりを確認した。埋土と推定される暗褐色土中から縄文時代晩期の土器が出土しており、この時期の竪穴住居跡の可能性が推測される。竪穴住居跡の平面規模は、概ね3.5m前後である。Ｔ93から検出した竪穴住居跡については、埋土に大量の土器片を含んでおり、検出面がやや西下がりであることを考慮すれば、縄文時代晩期の遺物包含層の可能性も考えられる。Ｔ97・Ｔ100からは円形の土坑を検出しており、縄文時代晩期の住居跡群と関連する遺構の可能性が高い。

東側の一段低い用水路沿いに設定したＴ43～44からは、竪穴住居跡１棟、土坑３基と柱穴群を検出した。また、Ｔ45～46でも、竪穴住居跡２棟、焼土２基、土坑２基を検出した。トレンチ内から縄文時代中期と晩期頃の土器が出土しており、当該期の遺構と推測される。

一方、Ｔ28では住居跡の炉跡と推定される焼土遺構、Ｔ29からは円形の竪穴住居跡３棟を検出した。周辺から出土した土器から、縄文時代晩期～弥生時代初頭の遺構と推定される。Ｔ34からは、埋設土器１基が検出された。土器はほぼ完形の壺形の土器であり、底部は穿孔されていた。土器は器高55cm、胴部最大径40cmを計る。本来は上部に浅鉢形土器が被せられた縄文時代晩期末葉～弥生初頭頃の合口土器棺と推測される。Ｔ34の北側に設定したＴ37からは、円形の竪穴住居跡１棟と土坑１基を検出した。Ｔ33とＴ36からは焼土遺構が検出されており、やはり住居跡の炉の痕跡と推定される。Ｔ14～17からは特に遺構は検出されなかったが、縄文土器片等が出土しており、Ｔ14～17のラインから北側に縄文時代晩期～弥生時代初頭の遺構が分布しているようである。

遺跡の中央付近に設定したＴ１では、カマド跡と焼土を検出した。トレンチ内の出土土器から、平安時代前期頃の竪穴住居跡の痕跡と推定される。Ｔ３においても、一辺が３ｍ以上の竪穴状遺構、幅70cm程の溝状遺構、径110cm程の円形の土坑を検出したが、Ｔ１の遺構と関連する遺構と推測される。Ｔ25からは、トレンチ内から土師器片が出土しており、平安時代の住居跡の煙道部と推定される遺構を検出している。平安時代の遺構は、遺跡中央部から南側にかけて所在していると推測されるが、遺跡南半部に設定したＴ53～83では、遺構・遺物は確認されなかった。この箇所は微高地に宅地が点在し、若干低い箇所が水田として利用されていることから、平安時代の遺構は現在の宅地部分に遺存している可能性がある。Ｔ84～92、Ｔ101～109は、遺跡西側に設定したトレンチであるが、遺跡とは一段低く、１～２ｍの比高があり、旧河道部分と推定される箇所であったため、遺構・遺物は確認されなかった。（平成14年度本発掘調査予定）



第80図　金附遺跡調査区位置図

12　一般国道396号上綾織地区

特定交通安全施設整備事業関連調査

大久保遺跡（MF43－2310）

所在地；遠野市綾織町綾織地内

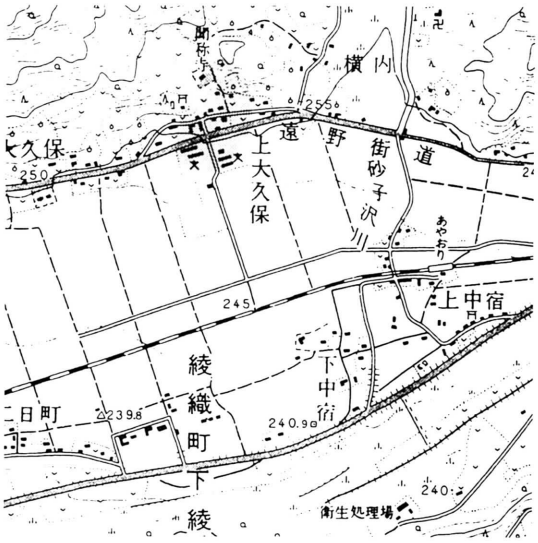
事業者；遠野地方振興局土木部

調査期日；平成13年12月４日（火）

遺跡は、猿ヶ石川によって形成された沖積平野とその右岸の丘陵が接する場所にある。同地点は綾織小、中学校の裏手にあたり、現況は畑地、水田等になっている。

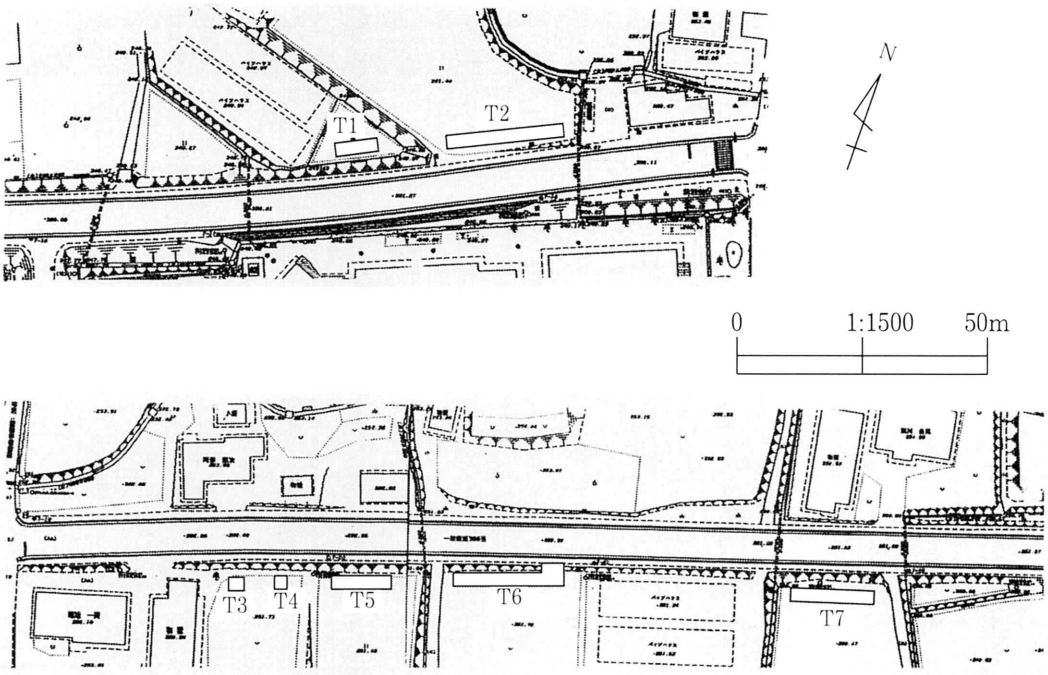
基本層位は次のようになっている。Ｔ６では、第１層、褐色土、層厚25cm。第２層、黒褐色土、層厚50cm、遺構確認面。第３層、褐色土、層厚10cm以上。

事業予定地内に試掘トレンチを７カ所設定した。



第81図　大久保遺跡位置図

その結果、Ｔ６で、平安時代の竪穴住居跡２棟を発見した。住居跡１は方形基調で、一辺２ｍ以上、確認面からの深さは0.4mである。埋土からは平安時代の土師器、須恵器が出土した。住居跡２は方形で長さ３ｍの南辺を確認したのみで、現道下に延び、土師器が出土している。トレンチ西端の２層からも土器が出土している。Ｔ１では遺構、遺物とも確認されず、最下層の灰褐色土まで、１ｍ程の深さであった。Ｔ２では、第２層（褐色土）で、縄文土器が出土したが、流れ込みによるものと判断でき、層位は次のようになっている。１層、褐色土、２層、褐色土、３層、灰黄褐色砂、４層、黒褐色粘土、５層、茶褐色土、６層、明茶褐色粘土となっている。４層には、直径10cmの黄色火山灰ブロックが含まれていた。層全体は西方向に傾斜している。Ｔ３では、表土から近世陶器が出土した。Ｔ１、２、４、５、７では遺構、遺物とも確認されなかった。（平成14年度本発掘調査予定）



第82図　大久保遺跡調査区位置図

13　道路改築事業関連調査

永田Ⅰ遺跡（LF29－0140）

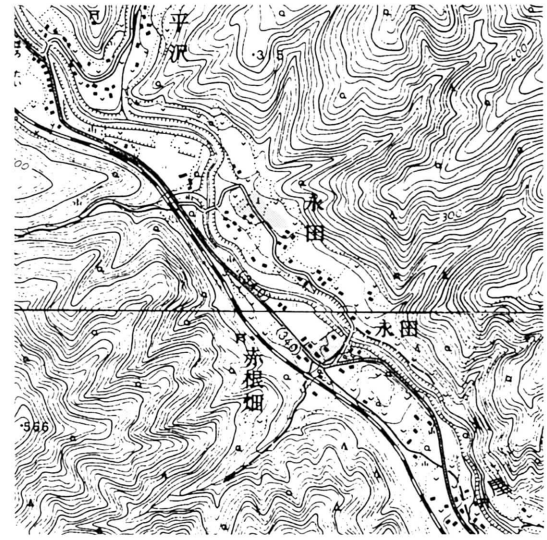
所在地；下閉伊郡新里村刈屋第２地割地内

事業者；宮古地方振興局土木部

調査期日；平成13年６月27日～28日（２日間）

本遺跡は、ＪＲ岩泉線中里駅の北西約１㎞に位置し、刈屋川左岸の河岸段丘上に立地している。調査地の標高は168～185ｍを測り、現況は主に水田と畑地である。

今回の調査は、国道340号の道路改築事業に伴い道路新設箇所と道路拡幅箇所を対象に試掘調査を実施したものであり、事業予定地に幅1.6ｍ×長さ10ｍ前後のトレンチを25本設定した（Ｔ１～25）。



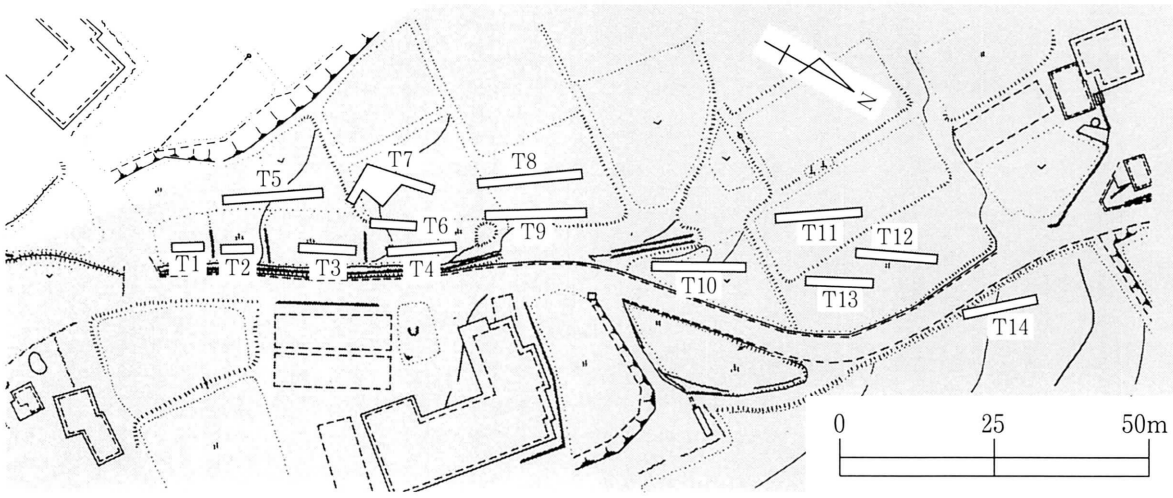
第83図　永田Ⅰ遺跡位置図

調査の結果、Ｔ13では表土下の２層目で、灰白色火山灰の広がりを確認した。灰白色火山灰層は、概ね40～50㎝程の層厚で堆積しており、南に行くに従い傾斜地となり、旧河道等による削平を受けていることが推測された。検出された灰白色火山灰層は、直接遺構と関係するものではなく、窪地状の場所に堆積したものと考えられる。

Ｔ７では、表土下層で一部黒色土の広がりが確認された。黒色土中からは、土器片（土師器が主体）が30点程まとまって出土している。この黒色土の層厚は25㎝前後で、概ね地表面から20㎝前後で黒色土層が確認できる状況であった。黒色土層については、遺構埋土か、遺物包含層の可能性があったので、トレンチを広げる形で、黒色土の広がりを追って遺構検出を行った。

その結果、黒色土の広がりは、一辺５ｍ程で平面形が方形を呈するものであり、一部は事業予定地外に出ていくものであった。出土した土器は住居跡埋土に伴うものとすれば、この遺構は平安時代前期の竪穴住居跡であることが推測される。カマド・煙道の位置は不明である。一方、Ｔ７の周辺のトレンチからは、遺構・遺物は発見されておらず、後年旧河道等による削平を受けている可能性が考えられる。

北側に設定したＴ15～25では、表土下に旧河道跡と推定される砂礫層が何層にもわたって厚く堆積しており、遺構・遺物の存在しない場所であった。遺跡が良好に残っている中心部分は、東側の山の裾野部分に広がっているものと考えられる。



第84図　永田Ⅰ遺跡調査区位置図

14　遠野第二ダム建設事業関連調査

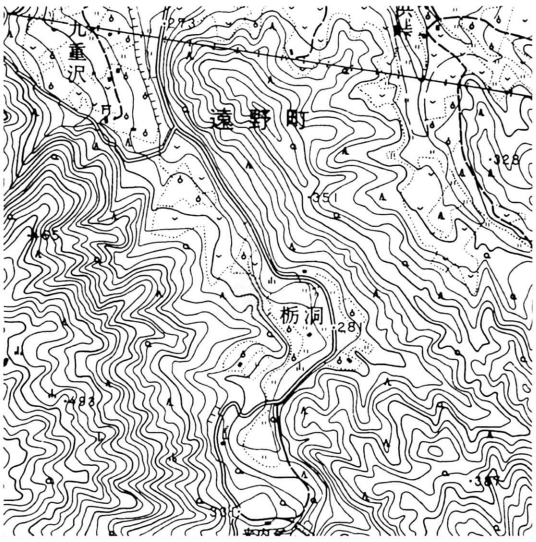
栃洞Ⅱ遺跡（ＭＦ55－0093）

所在地；遠野市遠野町九重沢地内

事業者；遠野地方振興局土木部

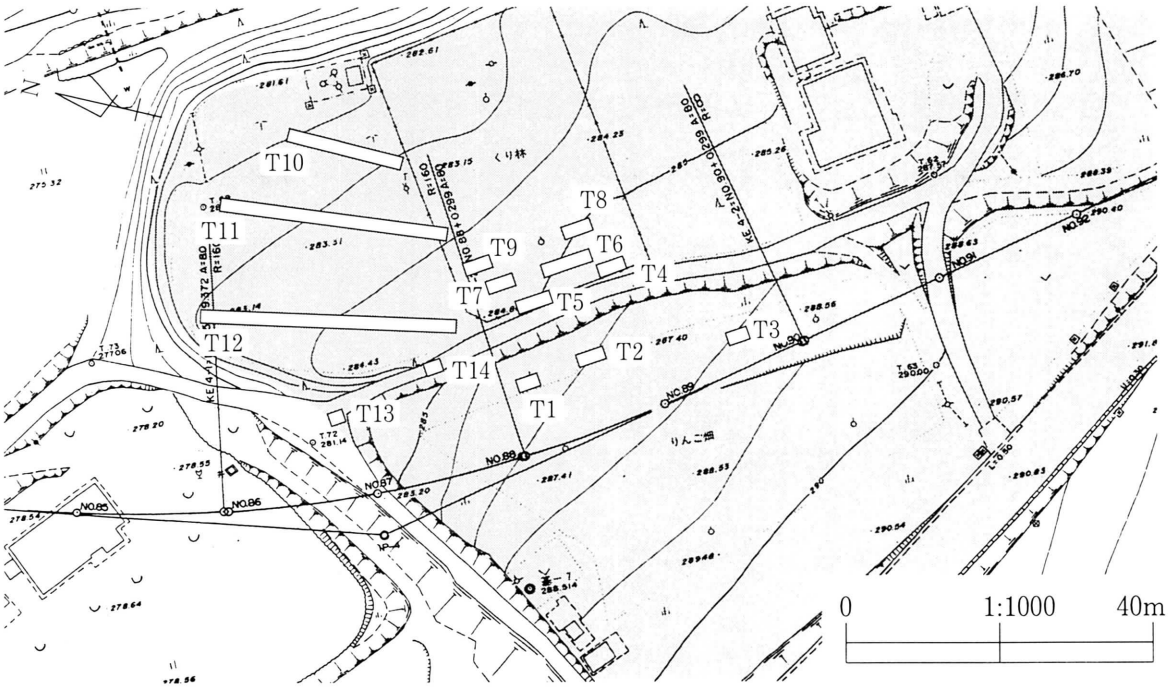
調査期日；平成13年５月28日

遺跡は、ＪＲ東日本釜石線遠野駅の南2.5km付近に位置し、来内川左岸の河岸段丘に立地する。標高は284～288m前後で、現況は果樹園及び山林である。今回は、遠野第二ダム建設事業に関連して、前回試掘時（平成12年11月13日）における延長部分について試掘調査を実施した。トレンチは、事業予定地内に任意に14本を設定した。基本土層は、第１層は表土で層厚10～20cm、第２層は黒色土で層厚0～70cm、第３層は暗褐色土の漸移層で層厚５～10cm、第４層は黄褐色土の地山である。層厚は地点により若干異なる。果樹園内に設定したＴ１～３では、前回試掘時と同様に黒色土が厚く堆積していたが、明確な遺構・遺物は確認できなかった。道路北側の山林は、段丘の端部に位置する平坦な地形で、果樹園より３～４ｍ程標高が低くなる。この地点にはＴ４～12を設定した。段丘端部となるＴ10～12の西端で落ち込みとともに黒色土が確認できた他は、表土直下が４層の地山で、削平を受けているものと推定された。確認された遺構は、Ｔ６では径55～60cm程の焼土が約３ｍの等間隔で確認された。焼土付近から繊維混入の縄文時代前期の土器片が出土している。焼土の間に礫を伴う径50cm程の黒色土の広がりも確認され、土坑の存在も予想された。Ｔ11・12では土坑が各５基確認され、Ｔ11の土坑２からは早期の土器片、Ｔ12の土坑３・４からは前期の土器片が出土している。今回の調査では、いくつかの遺構が確認され、縄文時代早期・前期の遺物が出土した。



第85図　栃洞Ⅱ遺跡位置図

（平成14年度本発掘調査予定）



第86図　栃洞Ⅱ遺跡調査区位置図

15　一級河川伊手川上伊手地区
ほ場整備事業関連河川改修事業関連調査

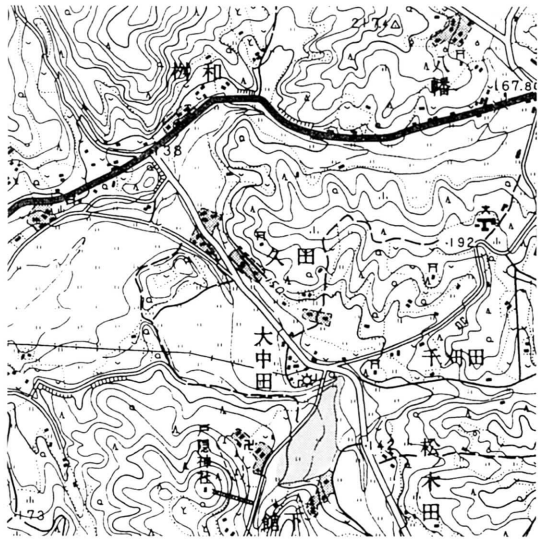
大中田遺跡（ＮＦ00－2003）

所在地：江刺市伊手字小中田地区

事業者：水沢地方振興局土木部

調査期日：平成13年10月25日

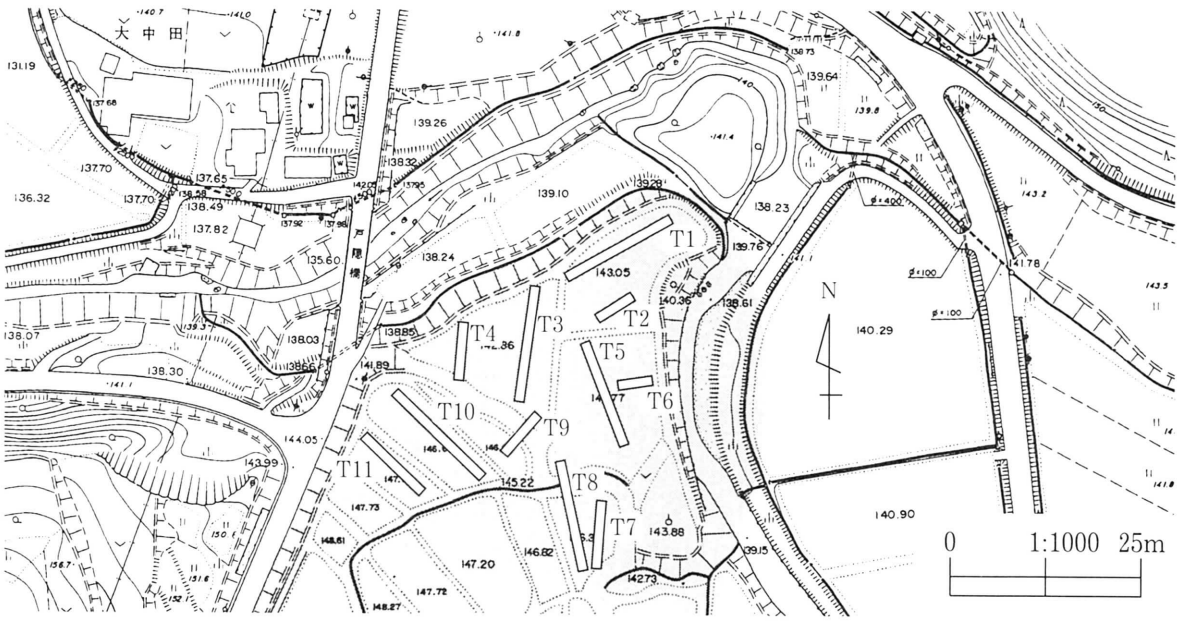
遺跡は、ＪＲ東日本東北新幹線水沢江刺駅の東北東約９kmに位置し、北上川に向かって西流する伊手川左岸に舌状に張り出した丘陵尾根の頂部付近に立地する。標高は146～151m、伊手川との比高は５～６ｍである。現況は水田・畑地である。今回は、一級河川伊手川上伊手地区ほ場整備事業関連河川改修事業に係り、事業予定地が遺跡の範囲内であることから試掘調査を実施したものである。



第87図　大中田遺跡位置図

調査は、事業予定地内にトレンチ11本（Ｔ１～11）を設定した。基本土層は、第１層は耕作土で層厚10～25cm、第２層は水田床土で層厚５cm、第３層は暗褐色土の漸移層で層厚10cm、第４層は黄褐色土の地山で層厚25cm以上、第５層は砂礫層である。調査地内の水田は、棚田状を呈し、大きく山寄りの高位面と川寄りの低位面に大別され、比高は３ｍある。低位面の水田にはＴ１～６を設定した。その結果、表土・水田床土の下位は、黄褐色土の地山あるいは礫層で、大規模な削平を受けていることが判った。高位面の水田にはＴ７～11を設定した。概ね各トレンチにおいて遺構・遺物が出土しているが、Ｔ７では、縄文時代中期前葉の土器片が黒褐色土中から出土している。Ｔ８では水田から下位の斜面部に掛けてトレンチを設定し、検出作業を行ったが、表土直下は地山で、捨て場等の遺構・遺物は確認されず、また、Ｔ９の端部で検出された土坑の斜面側が欠落していたことから、この斜面は水田造成時に人工的に造られたものと判断された。

今回の調査範囲は、かつての水田造成時に改変を受け、低位面では地山・基盤まで削平を受けており遺跡は消滅しているものの、高位面では遺構・遺物が遺存していることが判った。（平成14年度本発掘調査予定）



第88図　大中田遺跡調査区位置図

16　通常砂防事業関連調査

玉川向遺跡（JF15－0334）

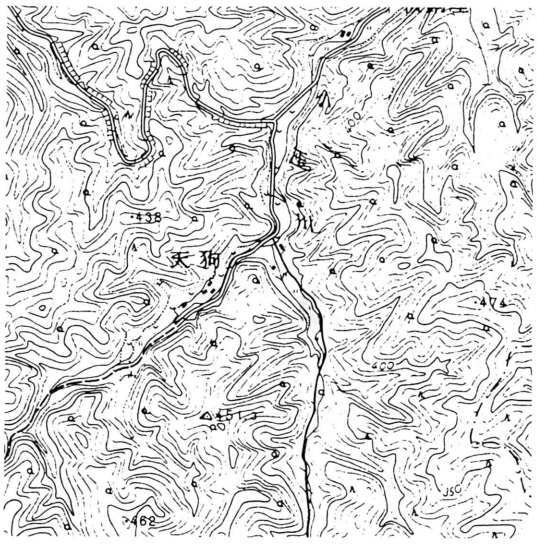
所在地；九戸郡軽米町小軽米第17地割字玉川向

事業者；二戸地方振興局土木部

調査期日；平成13年 8月24日

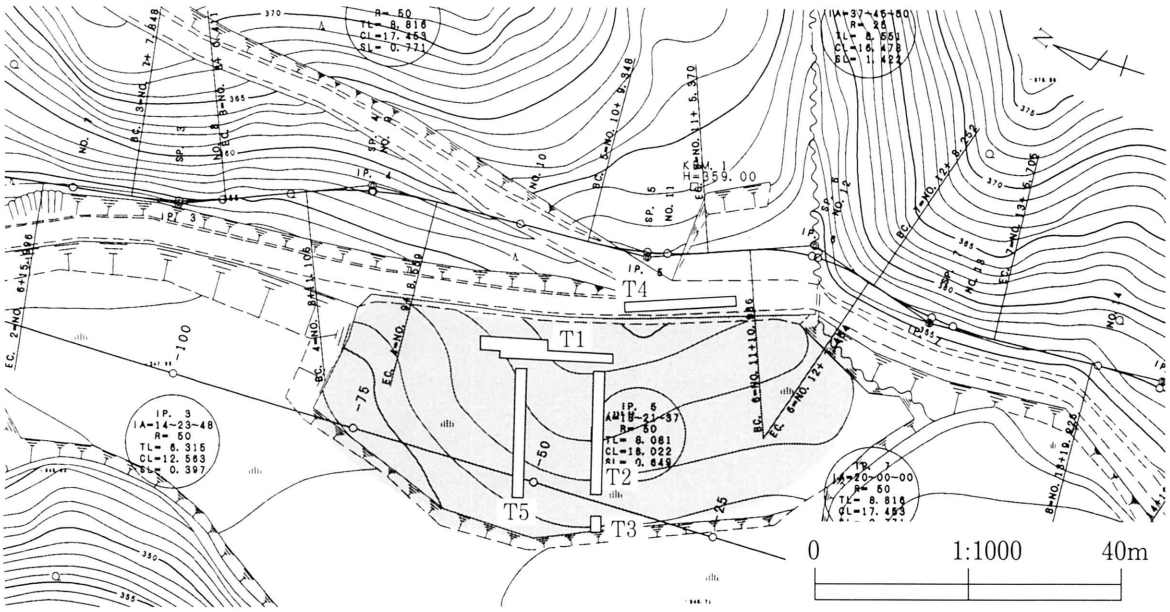
本遺跡は、軽米町役場の南東約13.5kmに位置しており、山間丘陵地の谷部の小規模な河岸段丘上に立地する。遺跡の標高は348～355mを測り、現況は原野（造成中）となっている。近世の製鉄遺跡である梅の木沢遺跡の下流約20m付近に隣接している。

今回の調査は、砂防ダム建設に伴うもので、ダム設置に伴う土砂堆積計画線部分に試掘トレンチを５本設定した（Ｔ１～５）。



第89図　玉川向遺跡位置図

道路沿いに南北方向に設定したＴ１では、表土下層が南部浮石層となる状況で、南部浮石層上面が遺構検出面となった。Ｔ１の南側からは、溝状の陥し穴状遺構１基（220cm×60cm）と楕円形を呈する土坑１基（170cm×100cm）を検出した。トレンチ北よりの箇所では、焼土２基を検出し、トレンチを広げて遺構確認を行った所、焼土を囲む形の柱穴３基を検出した。表土下が南部浮石層となるため、ある程度の削平を受けていることは明らかであったが、検出された焼土と柱穴については、竪穴住居跡の痕跡の可能性が推測される。検出された遺構の埋土は、いずれも黒色を呈し、炭化物粒と浮石粒を少量含むものであったが、検出面での埋土中からは遺物は確認されなかった。Ｔ１から直角に折れ曲がる形に設定したＴ５からは、円形の土坑１基（径130cm）と柱穴２基を検出している。遺構埋土等からは遺物は確認されなかったが、Ｔ５付近から縄文土器片を表採している。Ｔ５の斜面下に行くに従い南部浮石上位層が遺存している状況であった。一方、標高の高い現道部分に設定したＴ４では、表土中から土器片が２点出土したが、東から西へ流れ落ちる沢跡部分となっており、遺構は確認されなかった。沢寄りの緩斜面部に遺構が良好に遺存している可能性が高いと推測される。（平成14年度本発掘調査予定）



第90図　玉川向遺跡調査区位置図

17　地方特定河川等環境整備事業関連調査

藤渡戸Ⅰ遺跡 (ME69－1123)

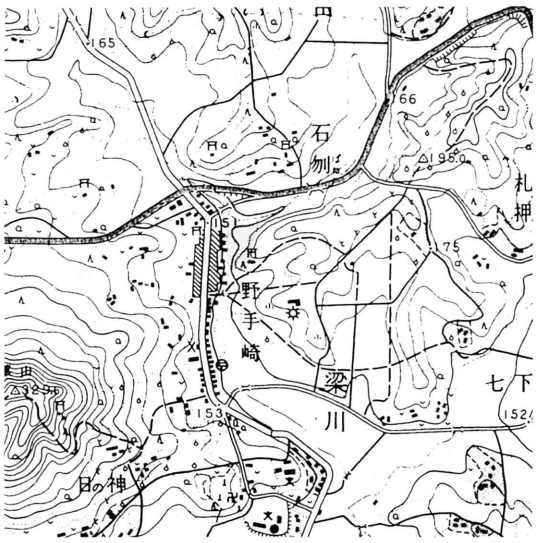
所在地；江刺市梁川字藤渡戸地内

事業者；水沢地方振興局土木部

調査期日；平成13年８月９日

遺跡は、広瀬川左岸の低位段丘上に位置している。標高は183～193m程で、河川との比高は４m程である。現況は水田、畑、社寺敷地、山林となっている。

基本層位はＴ11において、第１層、表土、層厚30cm。第２層、黄褐色砂、層厚20cm。第３層、暗褐色砂質土。第４層、暗褐色粘土質土。第３、４層の層厚は計40cm以上となっている。



第91図　藤渡戸Ⅰ遺跡位置図

今回は、事業予定地内の作物や立木を避け任意のトレンチ14カ所を設定し試掘調査を実施した。

Ｔ１～４、10～14は重機、Ｔ５～９までは人力により試掘した。その結果、Ｔ１～４までは、水田造成により、既に削平を受けており、遺構、遺物とも発見されなかった。耕作土の下は砂層が続いている。Ｔ６では、近世陶磁器が１点、表採できたが、遺構はなかった。Ｔ７、10、12～14では、表土直下に黄褐色の粘性の強い粘土層が堆積し、遺構、遺物とも発見されなかった。Ｔ９、10付近で、縄文土器片、近世陶磁器片が表採された。Ｔ11では、上記の層位になっており、主として第３層から土器、石器片が出土したが、出土量が少ないうえ、出土の仕方に規則性がなく、斜面の上からの流れ込みによるものと判断された。層位の傾斜から、このトレンチ付近には、２m以上の深さの沢が存在していたことが判明した。これらから今回の事業予定地は、過去に造成、河川の氾濫等で本来存在した遺構、遺物は失われていたことが判明した。

遺跡は縄文時代を中心とするもので、中心部は南側の丘陵上付近にあり、主要遺構も存在するものと推定される。

第92図　藤渡戸Ⅰ遺跡調査区位置図

18　主要地方道盛岡和賀線道路改良事業関連調査

飯岡林崎Ⅱ遺跡（LE26－1005）

所在地；盛岡市下飯岡字新田地内

事業者；盛岡地方振興局土木部

調査期日；平成13年12月５日

第93図　飯岡林崎Ⅱ遺跡位置図

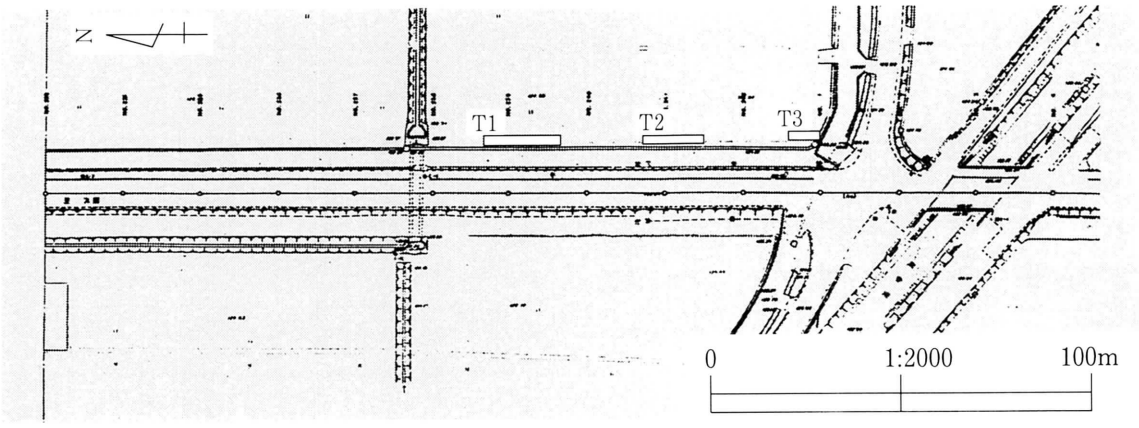
本遺跡は、ＪＲ東北本線岩手飯岡駅の北西約3.2kmに位置し、雫石川によって形成された沖積平野の微高地上に立地する。現況は水田であり、標高125m前後の平坦面である。本遺跡については、県道改良工事に伴う試掘調査を平成11～12年度に実施しており、平安時代前期の竪穴住居跡や土坑群を検出し、平成13年度に㈶岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが発掘調査を実施している。また、かつて実施した試掘調査では、完形の円面硯が出土しており、北西約２kmにある志波城跡と本遺跡との関連が想定されている。今回の試掘調査は、昨年度調査未了になっていた県道東側の水田面を対象に県道と平行する形の南北トレンチを３本設定した（Ｔ30～32）。

調査地北側に設定したＴ30では、耕作土直下の褐色シルト面が遺構検出面となった。Ｔ30北側で径130cm程の円形の土坑１基を検出した。土坑の埋土は黒褐色を呈し、土師器片が含まれていた。また、Ｔ31の南半部では、県道西側から連続する旧河道部分となっており、表土から130cmのところで十和田ａ火山灰と推定される灰白色の火山灰層を検出した。

今年度の発掘調査でも県道西側で旧河道部下層から火山灰層を検出し、更にその下層から平安時代前期と弥生時代の遺物包含層を検出していることから、この火山灰下層にも遺物包含層が存在する可能性が非常に高い。Ｔ32では、トレンチ南側で旧河道の立ち上がり部分となっており、遺物包含層はこの部分まで続いていると推定される。また、旧河道南側の灰色を呈する地山粘土面にも遺構が存在する可能性がある。

今回の調査では、竪穴住居跡は検出されなかったが、昨年の調査データから、トレンチ西側に住居跡が点在していることが想定できる。概ね現代の耕作土直下が遺構検出面となっており、開田時の削平は考えられるが、平安時代に集落が存在した頃は、水の流れる河道ないし川原であったことが推測される。

（平成14年度本発掘調査予定）



第94図　飯岡林崎Ⅱ遺跡調査区位置図

19　ほ場整備事業姥沢上野地区関連調査

明後沢遺跡群（NE36－2175）

所在地；胆沢郡前沢町古城字明後沢他

事業者；水沢地方振興局水沢農村整備事務所

調査期日；平成13年10月 9日～10日、
平成13年11月15日～16日、
平成14年１月28日（５日間）

第95図　明後沢遺跡群位置図

本遺跡は、ＪＲ東北本線前沢駅の北約4.5kmに位置し、北上川右岸に広がる胆沢扇状地の中位段丘縁辺部に立地する。この中位段丘は北側を松ノ木沢川、南側を明後沢川に開析され舌状台地を呈する。調査地の現況は主に水田であり、標高は72m前後を測る。ほ場整備事業に伴い切土となる田面と排水路、計画道路を対象に試掘トレンチを107箇所設定した（Ｔ１～107 ）。

今年度の試掘調査で検出された遺構は、竪穴住居跡７棟、土坑12基、溝跡62条、焼土３基、柱穴10個、方形周溝状遺構１基、陥し穴状遺構１基である。今年度の調査地内のトレンチでは遺物包含層は確認されず、田面に関しては、ほとんどが耕作土直下は黄褐色の地山ローム面となっている状況であった。

遺跡南側の段丘縁辺部に設定したＴ１～16では、溝跡30条と竪穴住居跡１棟を検出した。多数見つかった溝跡の方向は一定せず、規模も大きくなく、時期不明のものが多い。検出された住居跡については、形状・埋土から平安時代と推定される。一方、Ｔ17～21では、溝跡３条と焼土・柱穴を検出している。焼土・柱穴部分では、ある程度地形改変が進んでいる可能性がある。

遺跡の中央部に設定したＴ37・38、Ｔ75では、平安時代の竪穴住居跡を比較的多く検出しており、これらのトレンチの周辺は、平安時代の集落の中心のひとつであったと推定される。また、Ｔ31・39では柱穴群を検出している。検出された柱穴の多くは、明確な掘方をもつものであり、埋土には土師器片や炭化物粒が含まれていた。Ｔ31・39周辺の柱穴群については、竪穴住居跡と関連する平安時代頃の掘立柱建物跡の一部と推定される。Ｔ42では縄文時代の溝状の陥し穴状遺構を検出した。また、Ｔ42付近のトレンチでは、遺構は伴わないものの地山付近の耕作土中から完形の石槍１個が出土している。

遺跡北側の段丘縁辺部に設定したＴ43・46でも、平安時代と推定される竪穴住居跡を検出している。Ｔ43・46で検出された住居跡は、比較的平面規模が大きいものであり、更にＴ46では方形周溝状の遺構を確認している。遺跡東側の段丘縁辺部寄りの低地部分に設定したＴ99では、楕円形の土坑５基を検出している。土坑の平面規模は長軸２～３ｍ、短軸１～２ｍ程であり、埋土は人為堆積によるものであったことから、土坑墓群であると推定される。検出面の埋土中からは、完形の土師器・須恵器坏を始めとする多くの土器片が出土しており、墨書のある土器片も含まれていた。Ｔ99の周辺から検出された竪穴住居跡等は少なく、同時代の土坑や柱穴群が点在するのみであったことから、このトレンチ周辺は平安時代前期の墓域を中心とする場所と推定される。今回の試掘調査では、各地点から遺構が検出されているが、平安時代の住居跡の検出された場所は限定されている。平成13年度㈶岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター調査地からＴ43までの北側の縁辺部と、中央部分の東側縁辺部である。また、墓域が明確に確認されたことで、明後沢遺跡群の性格を検討する上で貴重な資料が得られた。（平成14年度本発掘調査予定）

20　ほ場整備事業満倉地区関連調査

中半入遺跡（NE15－0264）

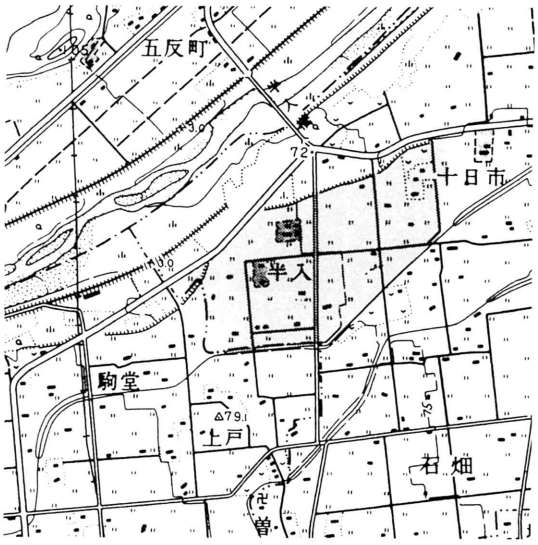
所在地；水沢市佐倉河字半入他

事業者；水沢地方振興局水沢農村整備事務所

調査期日；平成13年10月22日～10月24日、

10月31日（４日間）

本遺跡は、ＪＲ東北本線水沢駅から北西約６kmに位置し、奥羽山脈から東流する胆沢川が形成した胆沢扇状地の北端、水沢段丘低位面に立地している。胆沢川の現在の流路は、遺跡の北約0.4kmにあり、遺跡北端は段丘崖を呈している。遺跡の現況は主に水田で、散居状の宅地が点在しており、調査地の標高は75～78mの範囲である。現地形は北から南に向かい次第に低くなる状態であり、遺跡の南側は旧河道等の影響で低湿地状を呈している。



第97図　中半入遺跡位置図

本遺跡の発掘調査は、東田地区のほ場整備事業に伴い㈶岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが平成10～11年度に発掘調査を実施し、古墳時代の集落や平安時代の水田跡等を検出している。なかでも、古墳時代前期～後期（４～６世紀）にかけての集落跡は、住居跡が100棟を超え、岩手県内では例をみない大規模なものであった。出土遺物も非常に古い形式の須恵器や、琥珀やガラス製の玉類、多量の黒曜石製の石器、日本に渡来して間もない頃の馬の歯など、遠方との交易を示す遺物が出土している。また、一辺が推定35m四方の方形区画施設（濠）に囲まれた豪族居館跡が検出され、２km南の角塚古墳と同時期であり、両者の関連性も注目されている。

今回の試掘調査では、ほ場整備事業で主に切土予定の田面と、排水路・道路予定箇所を中心に 129本のトレンチを設定した（Ｔ１～129 ）。

Ｔ１～20では、灰白色火山灰に覆われた方形の竪穴住居跡を多数検出している。検出面は水田床土直下の褐灰色土上面であったが、埋土による明確な遺構プランは確認できない状況であり、灰白色火山灰の広がりと遺物の散布状況が竪穴住居跡の所在の目安となった。遺構埋土には土師器片や須恵器壺・坏・甕の破片が含まれていた。灰白色火山灰については、平成10～11年度の発掘調査の際にも検出されており、10世紀初頭の十和田ａ火山灰であると報告されている。灰白色火山灰の入る竪穴住居跡については、９世紀後半から10世紀頃の時期が想定される。

Ｔ１～20の南側の、次第に低くなる箇所に設定したＴ89～104 では、灰白色火山灰層を面的な広がりとして確認した。㈶岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターの発掘調査の実績から、この範囲には灰白色火山灰層の前後に、平安時代の水田層が存在することが推測された。灰白色火山灰が一気に堆積したとすれば、Ｔ１～20で検出した住居跡群と、その南側の水田跡は同時期のものであり、密接な関係が想定される。

今回の試掘調査では、遺構の保護のため、灰白色火山灰層を検出した段階で調査を打ち切っている。従って、灰白色火山灰層の下層の状況はわからないが、平成10～11年度の調査では、道路を挟んで直ぐ西側で、古墳時代の居館跡及び竪穴住居跡を100棟以上と当該時期の水田跡等を検出しており、西側に近い箇所ほど古墳時代の遺構が存在する可能性が高い。

遺跡北側の段丘崖に近い箇所に設定したＴ22～62、Ｔ117 ～126 他でも、平安時代の竪穴住居跡を多数検

出している。竪穴住居跡の埋土には、灰白色火山灰が入るものと入らないものがあり、ある程度の時期差が推測される。この部分は、水田耕作土直下が地山の黄褐色ローム面となる状況であり、本来標高の高い面が開田時にある程度の削平を受けていることが推測される。竪穴住居跡の埋土からは、平安時代前半の土師器・須恵器片が多数出土しており、土師器の坏にはいわゆる赤焼き土器も含まれていた。

段丘崖の下の面は、段丘面と2～3m程の比高があるが、従来の周知の遺跡、半入遺跡等の範囲に含まれており、現地形面も平坦地であることから、この箇所にもトレンチを設定した（T40～53)。調査の結果、T45とT47～52を設定した箇所は低湿地化し、耕作土の下層は概ねグライ化した層が連続する状況であり、遺構・遺物は確認されなかった。

調査区北端の宅地付近に設定したT40～44では、耕作土下層は概ね黄褐色のローム面となり、地形的に比較的安定している箇所と考えられたが、各トレンチからは遺構・遺物は確認されなかった。

調査区南側の道路予定部分に設定したT75～83では、標高的には次第に低くなる地形面であるのにかかわらず、灰白色火山灰層は確認されなかった。平安時代の水田はこの部分まで広がっていたと想定できるが、後年の耕作等で削平されたものと考えられる。その中で、T79からは南北に延びる溝跡を2条検出した。溝跡はいずれも幅1m前後で、並行する形で延びており、水田耕作に係る水路等の用途に使用した遺構の可能性が考えられる。全体的に、灰白色火山灰に覆われた平安時代前期の水田跡より南側については、旧河道の影響を受け、低湿地状となり遺構・遺物の分布は疎らな状況であった。

調査区東側の東西の道路・排水路予定箇所に設定したトレンチの中でも、T120～124から平安時代の竪穴住居跡や土坑、柱穴、溝跡等の遺構がまとまって検出されている。この箇所も平安時代の集落のまとまりがひとつあるようである。

今回の調査で、事業予定地の大部分の箇所から、平安時代前期頃の大規模な集落跡、南半部で水田跡を検出し、居住域と生産域がセットで良好な状態で遺存していることが確認できた。従来、中半入遺跡の範囲は今回の事業予定地の西側（ほ場整備事業の東田地区部分まで）であったが、検出された遺構の性質が連続することから、T40～53の箇所を除いて、試掘調査で遺構が確認された範囲を中半入遺跡として範囲拡大を行った。

今回の調査では、平安時代の遺構の面で止めていることもあり、古墳時代と推測される遺構は検出できなかったが、特に平成10～11年度の調査区に近い箇所からは、坏と推定される薄手の須恵器片が何点か出土していることから、平安時代前期の竪穴住居跡等の遺構に切られる形か、竪穴住居跡の下層で古墳時代の竪穴住居跡等の遺構が存在する可能性が非常に高い。（平成14年度本発掘調査予定）

第98図　中半入遺跡調査区位置図

21　ほ場整備事業寺領小林地区関連調査

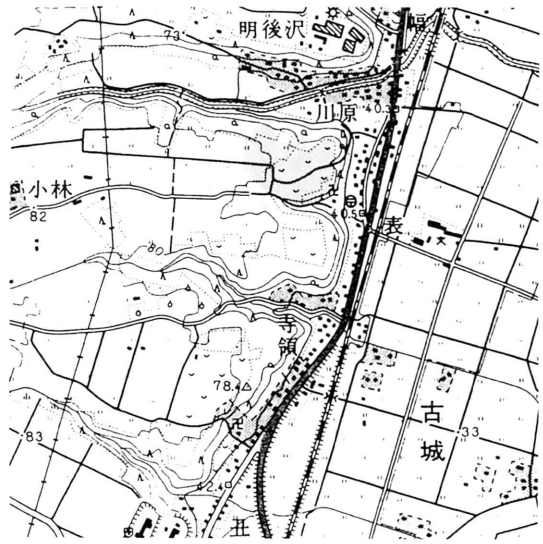
九郎館遺跡（NE46－0222）

所在地；胆沢郡前沢町古城字南上野地内

事業者；水沢地方振興局水沢農村整備事務所

調査期日；平成13年10月12日、11月15日（２日間）

本遺跡は、ＪＲ東北本線前沢駅の北約3.5kmに位置しており、胆沢扇状地の胆沢段丘縁辺部に立地している。遺跡の北側は、明後沢川が形成した急峻な崖となっている。今回の調査地の標高は、76～78mを測り、現況は主に水田と畑地となっている。今回の調査は、ほ場整備事業に伴うもので、切土予定の田面と排水路及び支線道路予定箇所に、12本の試掘トレンチを設定した（Ｔ１～12）。



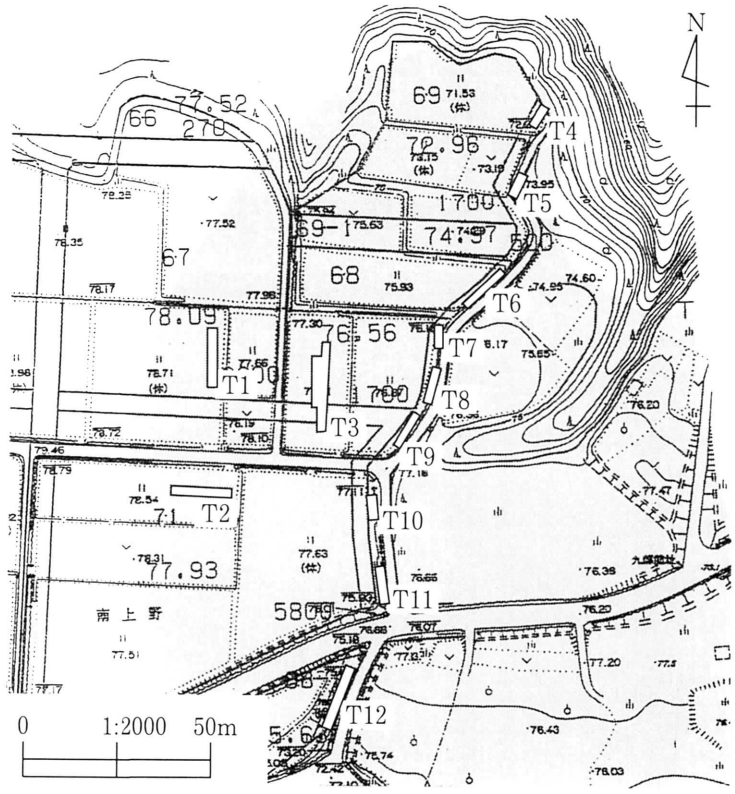
第99図　九郎館遺跡位置図

遺跡は、東西、南北ともに約150mの規模をもち、３つの郭と堀跡、一部土塁を残す中世城館跡である。今回の調査箇所は、『前沢町史』にある縄張り図によれば、館跡西側の三の丸に相当するようである。遺跡西側の田面に設定したＴ２では、耕作土下層に厚く堆積した黒褐色土層（層厚80cm以上）を確認したが、堀跡等の埋土ではなく沢跡等の自然の落ち込みと判断した。Ｔ２の東側田面に設定したＴ３では、径50cm前後の柱穴を６基検出した。この柱穴群はほぼ２m間隔で直線的に並んでおり、掘方と柱痕跡も明確であったことから、館跡に伴う掘立柱建物の一部である可能性が高い。

道路予定箇所に設定したＴ７から、径15cm前後の柱穴群を検出しており、その中の柱穴の埋土中から剥片石器１点が出土している。石器は、縄文時代の遺物であると推測されることから、本遺跡周辺に縄文時代の遺構が存在している可能性がある。

Ｔ12を設定した箇所は一段低い田面であり、現況から曲輪（三の丸）を画する堀跡（空堀跡）の存在が推測された場所であった。調査の結果、東半部で耕作土及び盛土層の下層に厚く堆積した暗褐色土層を確認した。この暗褐色土には径50cm前後の玉石や炭化物等が含まれていた。一方、トレンチ西半部では、耕作土下層の比較的浅い所から黄褐色の地山面が現れたことから、当初の推測どおり曲輪を画する南北方向の堀跡が存在していることを確認した。

（平成14年度確認調査予定）



第100図　九郎館遺跡調査区位置図

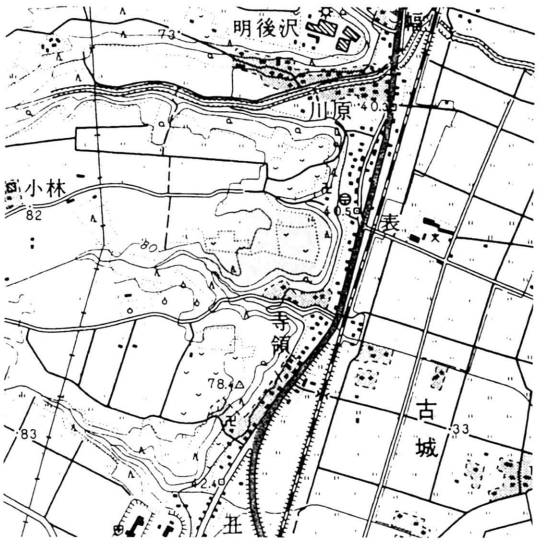
22　ほ場整備事業寺領小林地区関連調査

寺之上遺跡（ＮＥ46－0242）

所在地；前沢町古城字寺ノ上

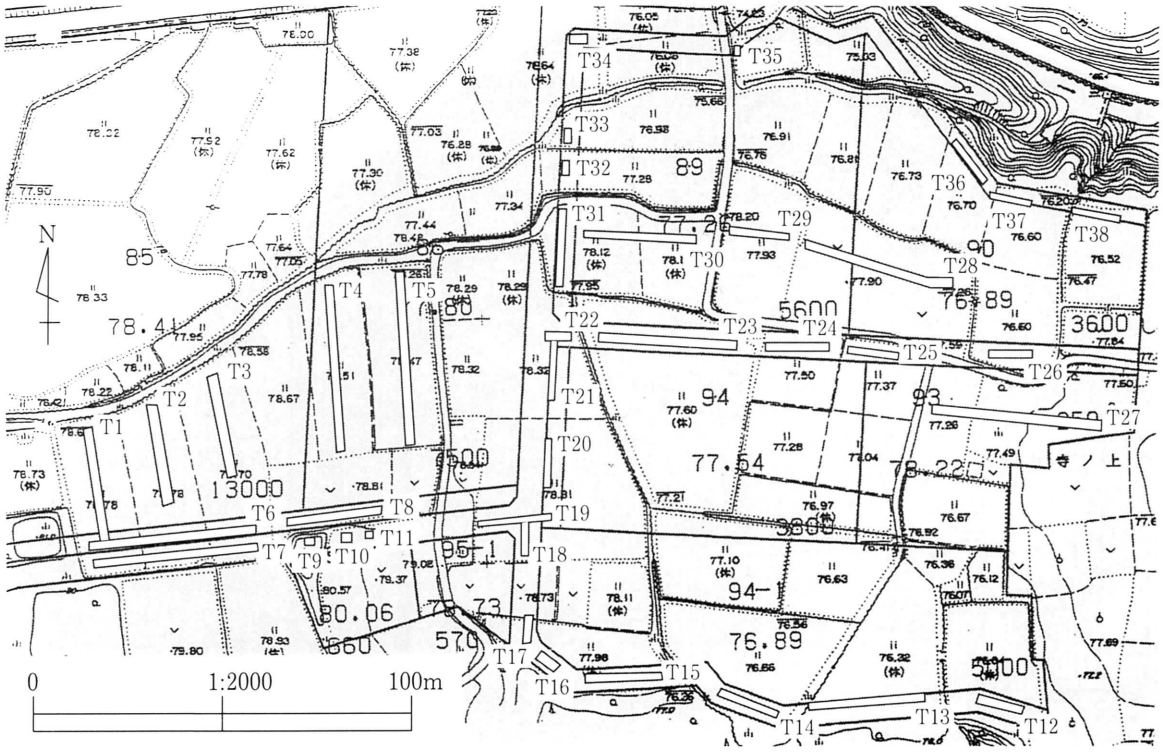
事業者；水沢地方振興局水沢農村整備事務所

調査日；平成13年10月９日～11日（３日間）



第101図　寺之上遺跡位置図

遺跡は、ＪＲ東日本東北本線陸中折居駅の南西約1.5kmに位置し、北上川右岸にある胆沢扇状地の中位段丘に立地する。標高は77～79m前後を測る。現況は概ね水田・畑地で、遺跡の南北は西から東に沢が入り、周囲と区切られている。今回は、ほ場整備事業に伴い、事業予定箇所が遺跡の範囲内であることから試掘調査を実施した。調査は、事業予定地内（排水路・支線道路・切土予定の田面）にトレンチ38本（Ｔ１～38）を設定した。基本土層は、第１層は耕作土で層厚15cm、第２層は水田床土で層厚10cm、第３層は黒褐色土で層厚20cm、第４層は青灰色で層厚40cm、第５層は黄褐色の地山である。調査の結果、概ね遺跡の中央部は削平を受け、耕作土直下が地山で、沢に近接する遺跡の南北では、黒褐色土が比較的厚く堆積していた。主な遺構・遺物が確認されたのは遺跡の南側と北側である。遺跡南側のＴ13で溝跡と土坑群、Ｔ14で溝跡、Ｔ15で溝跡と陥し穴状遺構・土坑が検出された。土坑の埋土から縄文土器が出土している。遺跡北側のＴ38で柱穴、Ｔ37で溝跡が検出された。田面に設定した西側のＴ１～３で溝跡と土坑、東側のＴ28で溝跡が検出された。出土遺物は無く、時期の詳細は不明である。今回の調査の結果、本遺跡は縄文時代と古代の複合遺跡であることが確認された。（平成14年度本発掘調査予定）



第102図　寺之上遺跡調査区位置図

23　ほ場整備事業姉体地区関連調査

島田Ⅱ遺跡（NE37－0079）

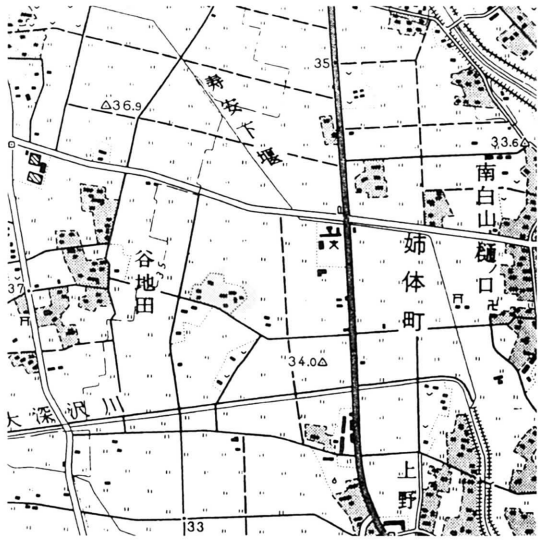
所在地；水沢市真城字島田地内

事業者；水沢地方振興局水沢農村整備事務所

調査期日；平成13年10月16日・11月28日

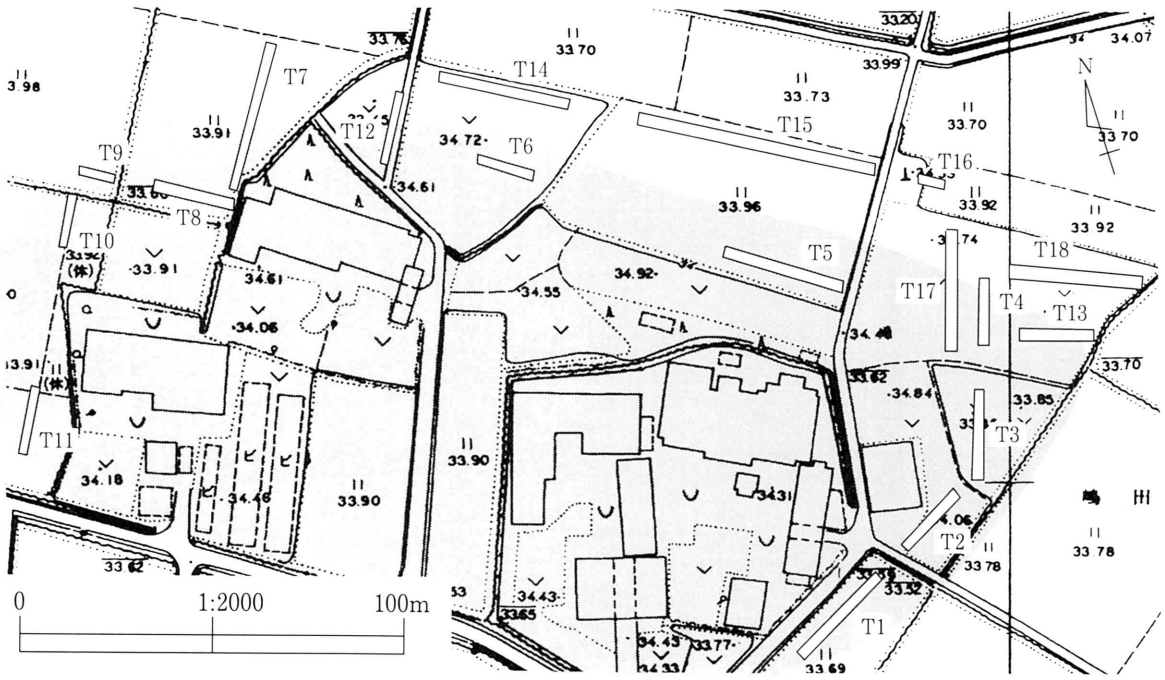
・平成14年３月５日（3日間）

遺跡は、JR東北本線水沢駅の南南東約４kmに位置し、北上川右岸の沖積地にある微高地に立地している。調査区域の標高は34m前後を測り、現況は水田・畑地・宅地である。調査においては用水路と支線道路になる部分を中心に幅160cmほどのトレンチを18本設定して実施した。



第103図　島田Ⅱ遺跡位置図

調査の結果、東側の畑に入れたＴ４で焼土が２基検出され、付近から土師器・須恵器片が出土していることから古代の住居跡が存在する可能性が高い。調査区域北側のＴ５では柱穴状土坑２基と土坑１基、溝１条が検出され、土師器片が出土している。同じく調査区域北側のＴ６でも焼土と土坑が検出され土師器が出土していることから、この部分にも住居跡が存在するものと推定される。２回目の試掘のＴ12では、土坑１基、柱穴状土坑３基が確認された。３回目の試掘のＴ17では、溝跡１条と土坑が２基、柱穴状土坑が４基検出され、Ｔ18からは竪穴住居跡が４棟、土坑３基、柱穴状土坑６基、溝跡１条が検出された。住居跡は一辺３ｍの比較的規模の小さいものを含み、埋土には土師器片等が含まれていた。柱穴は掘方が明確に分かるものもあり、平面形が方形を呈するものも見られた。溝跡はＴ17から続くものと推定される。これらのことから、水田より１ｍほど高い畑地には古代の遺構が多数残存している可能性が高い。（平成14年度本発掘調査予定）



第104図　島田Ⅱ遺跡調査区位置図

24　ほ場整備事業姉体地区関連調査

島田Ⅳ遺跡（NE37－0181）

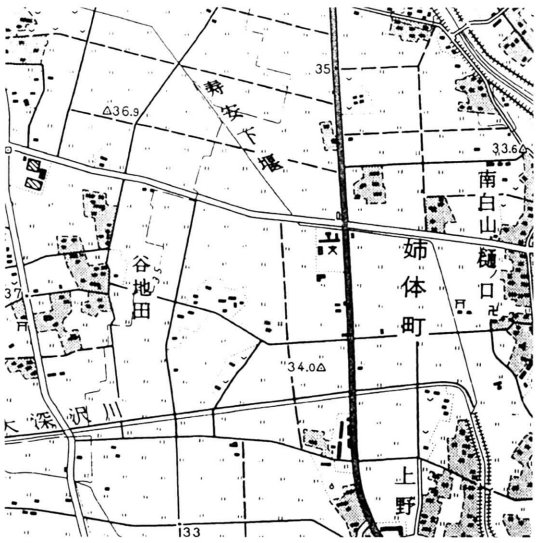
所在地；水沢市真城字島田地内

事業者；水沢地方振興局水沢農村整備事務所

調査期日；平成13年10月16日

・平成14年3月5日（2日間）

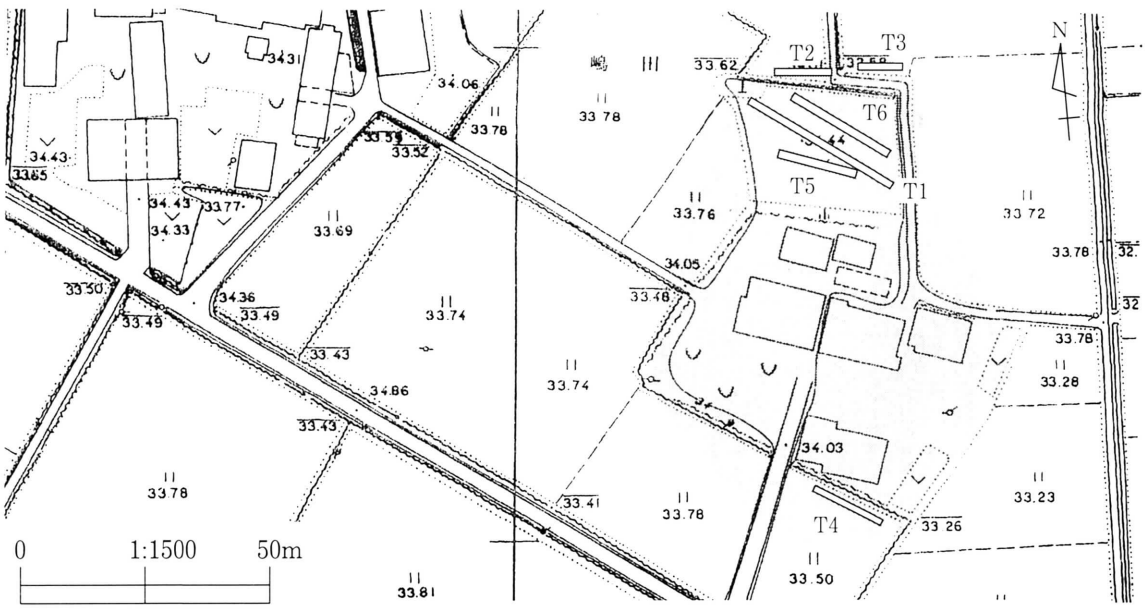
遺跡は、JR東北本線水沢駅の南南東約４kmに位置し、北上川右岸の沖積地にある微高地に立地している。調査区域の標高は34m前後を測り、現況は水田・畑地・宅地である。本遺跡の南側には島田Ⅲ遺跡が、西側には島田Ⅱ遺跡が隣接する。



第105図　島田Ⅳ遺跡位置図

今回の調査はほ場整備事業姉体地区の実施に伴い、事業予定箇所が遺跡の範囲内に当たることから試掘調査を実施したものである。調査においては用水路になる部分と切り土になる田面について幅160cmほどのトレンチを６本設定して実施した（Ｔ１～Ｔ６）。なお、Ｔ２・Ｔ３については、用水路予定地のＴ１において遺構が確認されたために、用水路予定地を変更するために設定したものである。

調査の結果、北側の畑に設定したＴ１と南側の田面に入れたＴ４において柱穴状土坑が合わせて５基検出された。柱穴状土坑は、円形及び楕円形を呈するもので、規模は径が30cmほどのものである。Ｔ１においては土師器片が多数出土していることから、付近に住居跡が存在する可能性が高い。２回目の試掘調査のＴ６では、径80cm程の土坑１基と径30cm程の柱穴状土坑１基、幅140cm程の溝跡１条が検出された。このトレンチからは遺物は出土しなかったが、隣接するＴ１で土師器が出土していることから平安時代の遺構と推定される。他のトレンチからは遺構・遺物とも検出されなかった。以上のことからＴ１を入れた畑と住宅が建てられている面は、付近の水田より１ｍほど高くなっており、水田となっている部分は造成時に削平された可能性が高いが、畑と宅地の部分には遺構が残存していると思われる。（平成14年度本発掘調査予定）



第106図　島田Ⅳ遺跡調査区位置図

25　ほ場整備事業姉体地区関連調査

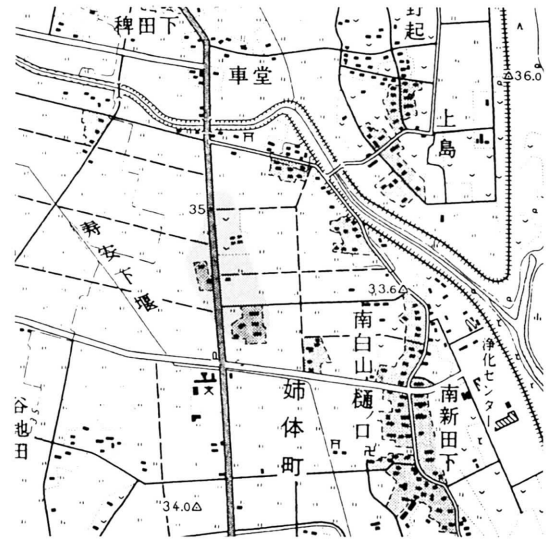
根蕪遺跡（NE37－0181）

所在地；水沢市真城字根蕪地内

事業者；水沢地方振興局水沢農村整備事務所

調査期日；平成13年10月15日・16日

・11月28日（3日間）



第107図　根蕪遺跡位置図

遺跡は、JR東北本線水沢駅の南南東約４kmに位置し、北上川右岸の沖積地にある微高地に立地している。調査区域の標高は33m前後を測り、現況は水田・畑地・宅地である。本遺跡の南東側には沖遺跡が隣接する。

今回の調査はほ場整備事業姉体地区の実施に伴い、事業予定箇所が遺跡の範囲内に当たることから試掘調査を実施したものである。調査においては用水路及び支線道路になる部分と切り土になる田面について幅160cmほどのトレンチを55本設定して実施した（Ｔ１～Ｔ55）。

調査の結果、南側の水田に入れたＴ１・Ｔ２で柱穴状土坑が検出された。東側のＴ３・Ｔ34・Ｔ39では溝状の陥し穴状遺構が検出されているほか、Ｔ34～Ｔ36・Ｔ39で柱穴状土坑が多数検出された。Ｔ35では、溝跡も３条確認されている。北側のＴ45では４×４ｍ程の方形のプランをもつ住居跡が検出された。この住居跡からは土師器が出土しており、古代の住居跡と推定される。11月に試掘を行ったＴ49・Ｔ51では、耕作土直下に黒褐色土が確認され、Ｔ49では縄文晩期後葉の土器などが比較的多く出土した。現況が畑地で周囲より高いため、遺物包含層が削平されずに残っていたものと思われる。Ｔ50・Ｔ52では、褐色土上面で検出作業を行ったところ、Ｔ50で土坑２基と柱穴状土坑２基、Ｔ52で土坑１基・溝跡２条・柱穴状土坑３基が確認された。他のトレンチでは、遺物・遺構とも確認されなかった。（平成14年度本発掘調査予定）

第108図　根蕪遺跡調査区位置図

26　ほ場整備事業八重畑地区関連調査

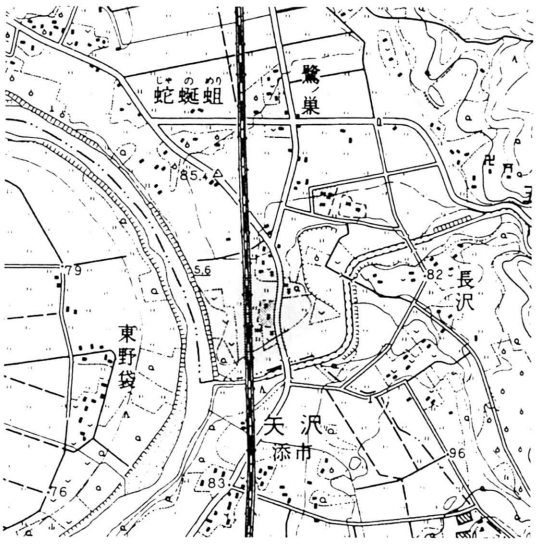
高畑遺跡（ME17－0178）

所在地；稗貫郡石鳥谷町字五大堂地内

事業者；花巻地方振興局花巻農村整備事務所

調査期日；平成13年７月25日～７月27日（３日間）

本遺跡は、ＪＲ東北本線花巻空港駅の東南東約4.5kmに位置しており、遺跡は北上川と添市川の合流する付近の河岸段丘上に立地する。特に北上川に面した箇所では比較的急峻な段丘崖を呈しており、遺跡は南下がりの若干の起伏を持ちながら、ほぼ平坦な地形である。遺跡の現況は、水田・畑地・宅地となっているが、そのうち水田が広い面積を占める。



第109図　高畑遺跡位置図

昭和49年に東北新幹線建設工事に伴う発掘調調査が実施されており、縄文時代中期末葉（大木10式期）の竪穴住居跡等を調査している。今回の調査は、ほ場整備事業予定地（盛土予定部分を除く）を対象に、42本の試掘トレンチを設定した（Ｔ１～42）。

遺跡東側の北上川寄りの箇所に設定したトレンチ（Ｔ11）から、竪穴住居跡１棟を検出した。検出した住居跡は、黒色砂質シルトを埋土とし、直径70cm程の石囲炉の中央に埋設土器があるもので、複式炉の一部と推測される。この竪穴住居跡の全体像は明確ではないが、平面形はほぼ円形で直径７ｍ前後と推定される。更に、Ｔ11北側では遺物包含層あるいは竪穴住居跡状の黒色土の広がりを検出している。

Ｔ13では、溝状の陥し穴２基を検出した。遺構の長軸の角度が一致し、規模も大きくないので、陥し穴は連続して存在する可能性が考えられる。

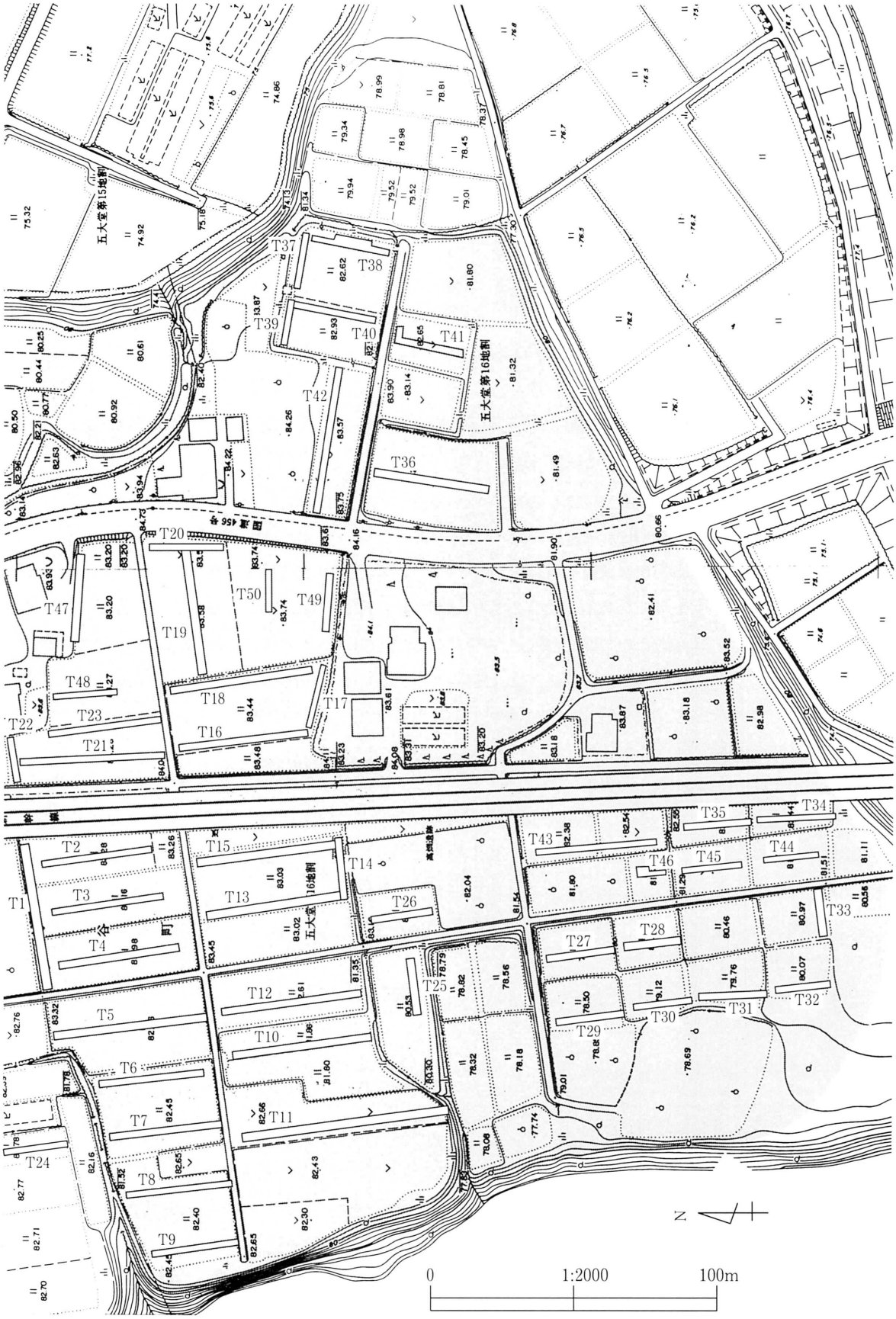
調査地南西側のやや低い箇所に設定したＴ28では、縄文時代中期頃の竪穴住居跡１棟を検出した。平面形は円形を呈しているが、規模は不明である。埋土には縄文土器片と礫が多量に含まれていた。

遺跡南端のＴ34では、径80cm程の土坑１基を検出した。土坑の埋土は、Ｔ28の竪穴住居跡に類似し、縄文土器片が含まれていた。東北新幹線建設に伴う発掘調査区に隣接する箇所に設定したＴ35では、トレンチ内で遺構・遺物は確認されなかったが、かつての調査状況からみて、トレンチ周辺にも縄文時代の遺構が所在する可能性がある。

東北新幹線の東側に設定したＴ37～40でも、縄文時代の竪穴住居跡３棟と焼土・土坑・柱穴を検出している。竪穴住居跡の平面形は、概ね円形を呈しているものの、平面形が３～７ｍ程とやや規模的に異なるようである。検出された焼土は、黄褐色土部分に広がるもので、竪穴住居跡の炉跡の痕跡の可能性がある。柱穴についても住居跡に係るものの可能性がある。

Ｔ40では、更に黒色の包含層（あるいは２層を切る遺構埋土）を検出している。黒色土の広がりはＴ41でも一部確認しているが、黒色土を切る形で構築された竪穴住居跡の可能性も考えられる。

表土や遺構、遺物包含層等から出土した土器は、主に縄文時代中期を中心とするものであった。縄文時代の竪穴住居跡が確認されたのは、調査地を大きく分けて３箇所である。東北新幹線東側の現在の宅地部分の状況は不明であるが、縄文時代の集落は、川に接した段丘崖に東西の広がりをもって存在していたことが想定される。（平成14年度本発掘調査予定）



第110図　高畑遺跡調査区位置図

27　ほ場整備事業大明神地区関連調査

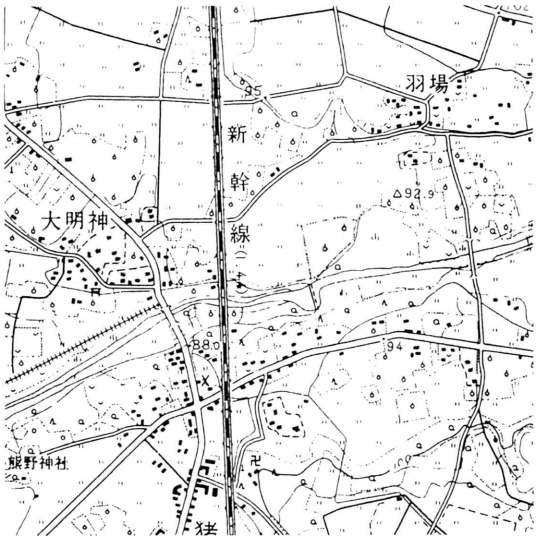
貝の淵Ⅱ遺跡（ＭＥ07－0250）

所在地：石鳥谷町字八重畑地内

事業者：花巻地方振興局花巻農村整備事務所

調査日：平成13年11月６日

遺跡は、ＪＲ東日本東北本線石鳥谷駅の南南東約４km に位置し、北上川に向かって西流する稗貫川が形成する南側の低位段丘に立地する。遺跡の標高は91～92m前後で、現況は概ね水田・宅地である。縄文時代の遺跡として周知の遺跡である。今回は、ほ場整備事業大明神地区の事業予定箇所が遺跡の範囲内であることから試掘調査を実施した。調査は事業予定地内（支線道路・排水路・切土予定の田面）に幅180cmのトレンチ31本（Ｔ１～31）を設定した。



第111図　貝の淵Ⅱ遺跡位置図

基本土層は、第１層は耕作土で層厚30cm、第２層は水田床土で層厚10cm、第３層は黒褐色土で層厚20cm、第４層は暗褐色土で層厚５～10cm、第５層は黄褐色土のローム、第６層は砂礫層である。層厚は地点により若干異なる。３～６層は各田面の縁辺部においてのみ確認している。

調査の結果、現状の水田部分は、概ね砂利採取の跡地となっており、田面区画の縁辺部に本来の土層が確認されたものの、田面の大部分は地中深く掘削され、地山の黄褐色ロームや礫層は消滅していた。

なお、Ｔ４においては、現表土－60cmの黄褐色土上面で径100cmの土坑１基と柱穴状土坑１基を検出している。埋土は暗褐色土である。田面区画の縁辺部に当たることから、砂利採取時に掘削を免がれた遺構が遺存していたものと思われる。他のトレンチにおいては遺構・遺物は確認できなかった。

（平成14年度本発掘調査予定）

第112図　貝の淵Ⅱ遺跡調査区位置図

28　ほ場整備事業大明神地区関連調査

上野々遺跡(LE97－2160)

所在地；稗貫郡石鳥谷町新堀地内

事業者；花巻地方振興局花巻農村整備事務所

調査期日；平成13年11月６日、11月12日（２日間）

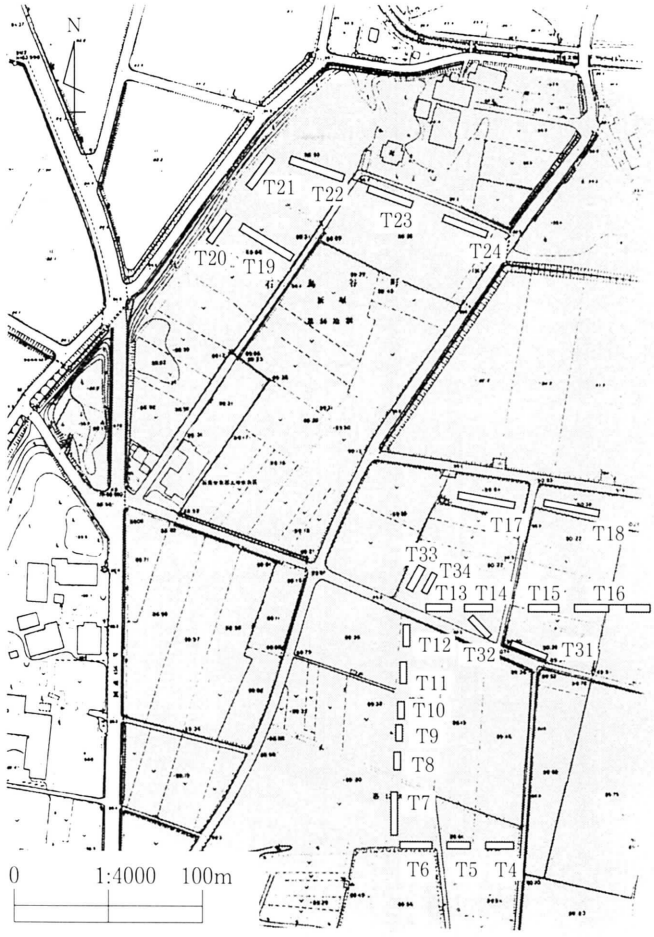
本遺跡は、ＪＲ東北本線石鳥谷駅の南南東約3.5kmに位置し、北上川に向かって西流する稗貫川が形成した低位河岸段丘上に立地している。調査地の標高は95m前後を測り、現況は主に水田・畑地である。今回の調査は、ほ場整備事業に伴うもので、排水路・道路及び切土予定の田面に、幅約160cm・長さ６～15m程のトレンチを34本設定して実施した（T1 ～34)。

第113図　上野々遺跡位置図

調査の結果、T16とT19の２つのトレンチから、それぞれ竪穴住居跡１棟を検出した。排水路予定箇所に設定したT16から検出された竪穴住居跡は、平面形が隅丸方形を呈し、埋土から土師器片が出土していることから、古代の竪穴住居跡と推定される。住居跡は一辺が６m前後であり、埋土は黒色シルトを主体とするものであった。トレンチを設定した箇所の現況は、畑地であり、耕作土下層に黒色土の堆積が認められたが、黒色土中からは遺物は確認されなかった。

一方、遺跡北側の段丘縁近くに設定したT19からは、トレンチ中央部付近から円形の竪穴住居跡が検出された。検出された住居跡埋土からは、縄文土器片が出土しており、出土した土器から縄文時代中期頃の竪穴住居跡と推定される。周辺に設定したトレンチからは遺構・遺物は確認されず、特に遺跡北辺部については大規模な砂利採取により大きく攪乱を受けていることがわかった。

T19とその周辺のトレンチから検出された竪穴住居跡は 1棟のみであるが、砂利採取の以前には、遺跡北側の段丘縁に縄文時代の集落が存在していたものと推定される。(平成14年度本発掘調査予定)



第114図　上野々遺跡調査区位置図

29　ほ場整備事業土淵地区関連調査

中土淵遺跡（MF46－0050）

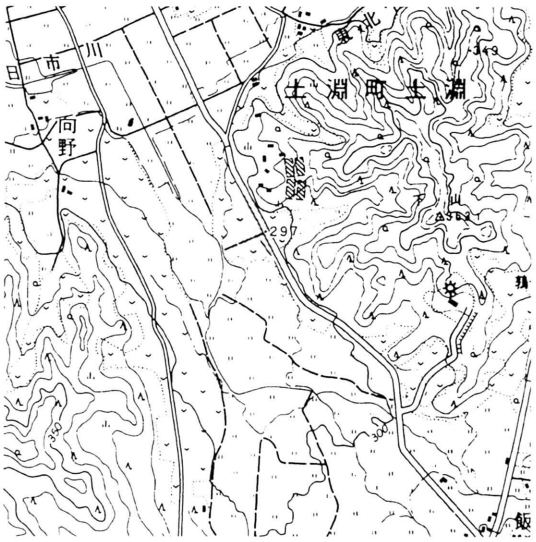
所在地；遠野市土淵町地内

事業者；遠野地方振興局遠野農村整備事務所

調査期日；平成13年11月11日

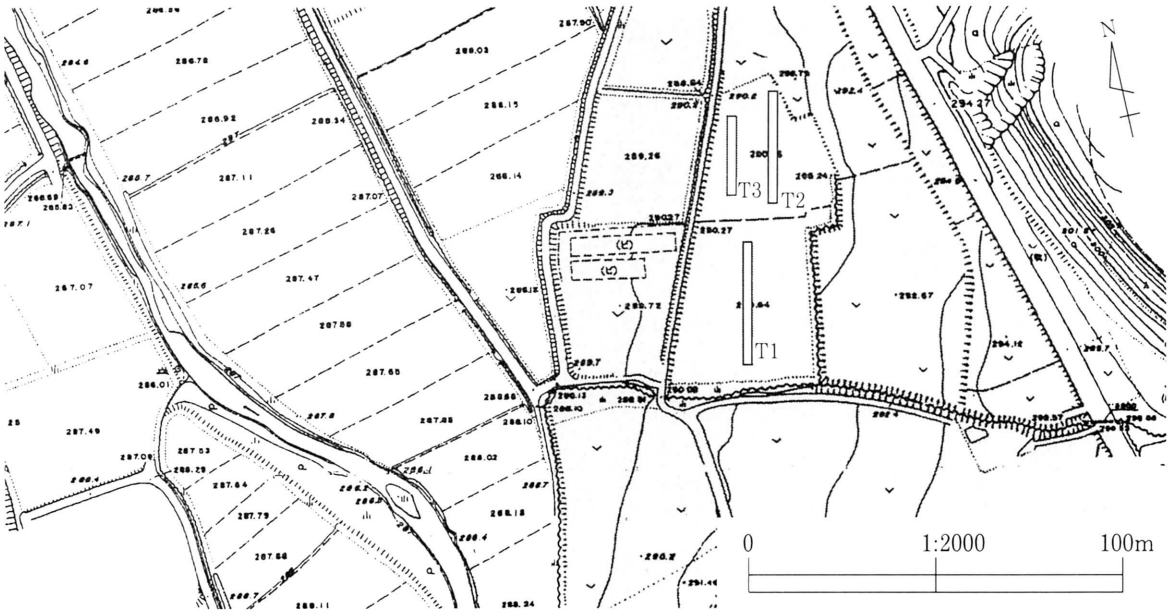
遺跡は、ＪＲ釜石線遠野駅の北東約４kmに位置し、五日市川右岸の緩斜面に立地している。調査区域の標高は290m前後を測り、現況は水田・畑地である。調査区域の基本層序は、以下のとおりである。第１層：表土（耕作土）20cm、第２層：黒褐色土0～40cm、灰黄褐色砂質土（地山）層厚不明。

今回の調査は、ほ場整備事業整備事業の用地が遺跡にかかるために試掘調査を行った。調査では、切り土になる田面に幅160cm程のトレンチを３本設定した（Ｔ１～Ｔ３）。



第115図　中土淵遺跡位置図

調査の結果、調査区南側の畑に入れたＴ１の南側で円形の焼土混じりの土坑が確認された。周辺を掘り広げたところ、土師器が出土し、焼土も広がることから、この焼土は古代の住居跡のカマド部分であることが確認された。焼土混じりの土坑はカマドの煙出し部分と考えられる。この住居跡は、焼土が表土直下検出されたことから、畑の造成の際に住居跡の壁が削平を受けている可能性が高く、残存状態はあまり良くないものと推定される。また、住居跡の北側で幅70cm程の溝が１条検出された。この溝及びその周辺からは遺物は出土せず、構築時期は不明である。地山は北側に向かって緩やかに下がっており、北側の30cm程下がる畑地に入れたＴ２・Ｔ３では遺物は出土せず、遺構も確認されなかった。調査区の西側は１m程下がるため遺跡の中心は東側と南側の畑部分と推定される。（平成14年度本発掘調査予定）



第116図　中土淵遺跡調査区位置図

30　ほ場整備事業二子地区関連調査

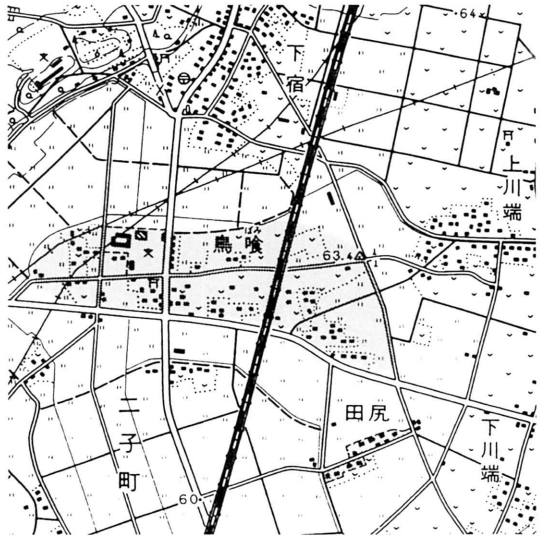
鳥喰Ⅰ遺跡（ＭＥ56－0259）

所在地；北上市二子町字鳥喰地内

事業者；北上地方振興局北上農村整備事務所

調査期日；平成13年10月29日～30日

・11月22日（3日間）

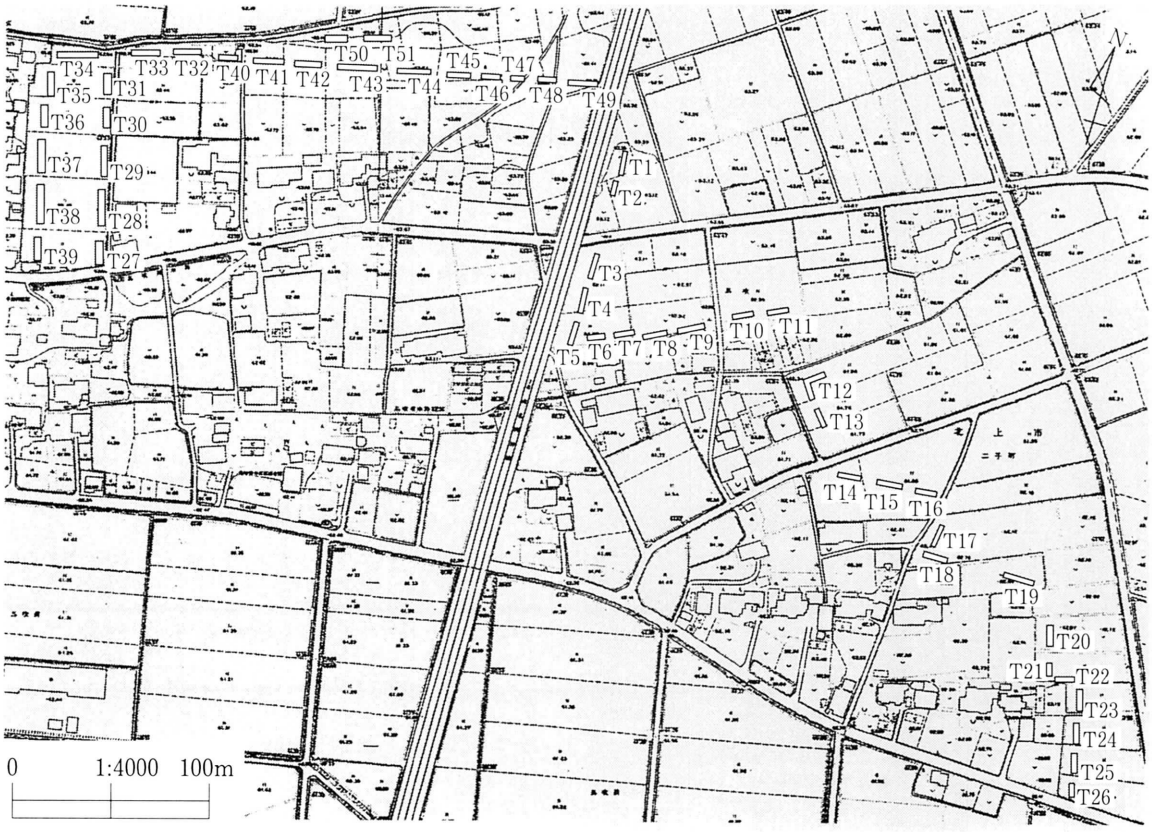


第117図　鳥喰Ⅰ遺跡位置図

遺跡は、ＪＲ東北本線村崎野駅の東約1.7kmに位置し、北上川右岸の沖積地にある微高地に立地している。調査区域の標高は63m前後を測り、現況は水田・畑地・宅地である。

今回の調査では、切り土になる田面と道路及び排水路になる部分に幅160㎝程のトレンチを51本設定した。

調査の結果、Ｔ33で竪穴住居跡が検出された。住居跡は平面形が隅丸方形を呈すると推定され、カマドの煙道と煙出し部が確認されたことから古代の住居跡と考えられる。Ｔ38で検出された住居跡は、検出面が地表面から60㎝下がった面であったが、地表面から30㎝下がった地点から土師器がまとまって出土したことから、この面の黒褐色土から掘り込まれている可能性が高い。Ｔ38では柱穴状土坑４基と土坑１基も検出されている。Ｔ39からは、幅50㎝ほどの溝が１条と住居跡の一部と思われる焼土が検出された。焼土付近からは土師器がまとまって出土したことから古代の住居跡のカマド部分と推定される。他のトレンチからは遺物は出土せず、遺構も検出されなかった。



第118図　鳥喰Ⅰ遺跡調査区位置図

31　県営ほ場整備事業一関第2地区関連調査

本町Ⅱ遺跡（ＮＥ66－2179）

調査期日；平成13年10月５日、19日（2日間）

事業者；一関地方振興局一関農村整備事務所

所在地；西磐井郡平泉町長島字本町

遺跡は、JR東北本線平泉駅の北東約３㎞のところに位置し、平泉町を南北に流れる北上川左岸の河岸段丘に立地する。標高は23m前後を測り、現況は水田・畑地である。

今回の調査は、県営ほ場整備事業に伴うものである。なお、平成13年度に㈶岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが調査を実施しており、遺構が今回の調査範囲に広がることが明らかになったことによる範囲確認調査である。

第119図　本町Ⅱ遺跡位置図

基本層序は、１層：表土20～30㎝、２層：暗褐色土0～30㎝、３層：褐色土となっている。今回の調査範囲では、T1～T36までの36本のトレンチを設定した。

今回の調査で検出された遺構は、竪穴住居跡７棟、住居状遺構１基、土坑類32基、溝跡６条、焼土１基、堀跡２条、畑跡１面である。

竪穴住居跡は、Ｔ１、Ｔ８、T13、T18、T20、T21と主に調査範囲の南東側から確認されている。住居状遺構はT26から確認されている。溝跡はT3、T7、T9、T13、T21、T22で確認されている。焼土はT19で確認されている。堀跡はＴ６及びT33で確認されている。畑跡はT28で面的に確認されている。土坑類については、小柱穴状のものが多いが、T26では焼土及び内面黒色処理を施した土師器坏を含んだ墓坑状の土坑が、T27では焼土及び炭化物を含んだ土坑が確認されている。遺構に伴うものであるかについては不明ではあるが、T23、T26では西暦915年頃に降下したと考えられる十和田ａ火山灰も確認されている。標高22mから23mの範囲で多くの遺構は確認されているものの、中には標高22m以下で確認されている遺構もある。

遺物については、Ｔ１、T22で須恵器（甕）が、T16、T26、T28、T33などで土師器（甕・坏など）が、T21から鉄滓及びふいごの羽口が、Ｔ８からかわらけ及び古瀬戸大皿が、Ｔ３から16世紀のものとみられる軒丸瓦が確認されている。

以上のことから、現道部分まで遺跡範囲が広がることが明らかになった。また、出土した遺物の分布状況や遺構が確認されている標高の状況等から、範囲が拡大する部分についても、最低２面は遺構検出面が存在することが明らかになった。

今回の試掘調査の結果、東側は現在の農道まで、北側は桑畑のところまで、南側は昨年までにほ場整備が完了しているところまで、遺跡範囲が拡大し、南側については畑中遺跡（NE66－2291）と一連の遺跡になることが明らかになった。

今回の調査範囲における取り扱いは、支線排水路及び支線道路になる部分については、平成13年度中の発掘調査による記録保存とすることとし、田面部分については盛土によって遺構の保存を図ることとした。

第120図　本町Ⅱ遺跡調査区位置図

32　ほ場整備整備事業猫川左岸地区関連調査

平倉観音遺跡 (MF66－1099)

所在地；遠野市上郷町地内

事業者；遠野地方振興局遠野農村整備事務所

調査期日；平成13年11月５日

遺跡は、ＪＲ釜石線・岩手上郷駅南東に約１kmの早瀬川右岸の丘陵上に立地しており、標高は355～358m程である。遠野七観音の一つ、平倉観音堂が隣接している。

試掘トレンチは水路、農道、削平対象予定地を中心に17カ所設定した。その結果、標高の低い、Ｔ１からＴ10では遺構、遺物は確認されなかった。表土直下、もしくは地表から砂礫層が堆積している状況であった。

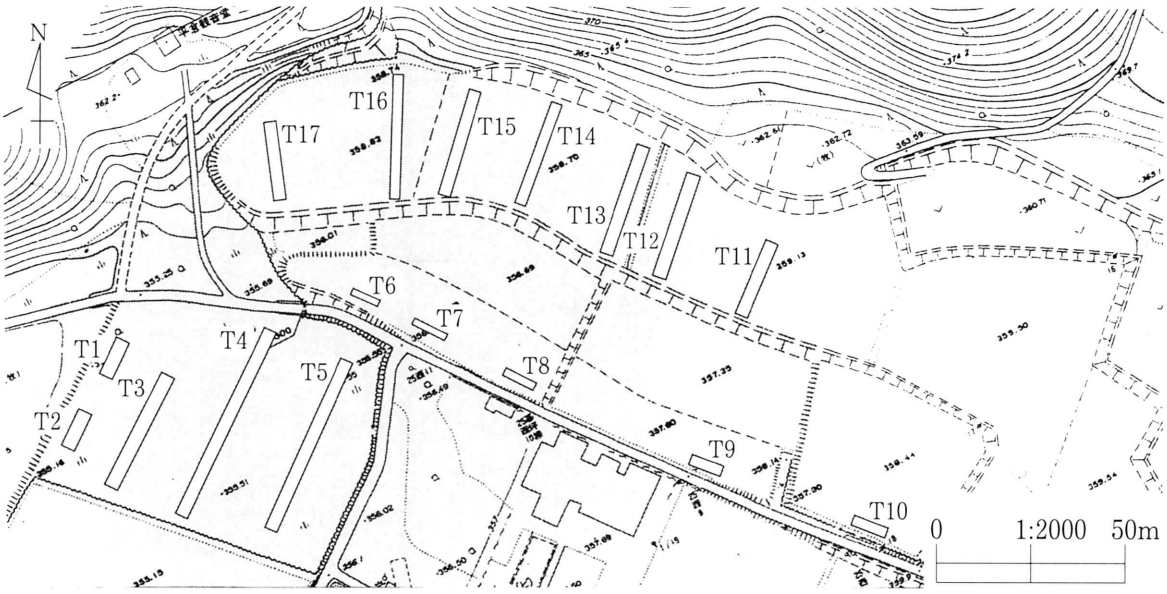
第121図　平倉観音遺跡位置図

Ｔ11からＴ17にかけて標高が一段高くなっており、Ｔ13、14では、弥生時代の遺物包含層（青木畑式～山王Ⅲ層式併行）が確認された。包含層の層厚は最大40cmで、南側に向かって厚く堆積していた。幅はＴ13で14m、Ｔ14で１m程確認しており、最大幅15m程度と推定される。Ｔ13では、遺物包含層を掘り抜き、包含層下での遺構確認を行ったが、遺構は確認できなかった。また包含層断面の観察から層の細分はできないと判断した。遺物の出土状況、表面の状態から包含層は一次堆積と考えられた。この他のトレンチから遺構は確認できなかったが、背後の丘陵から流れ込む沢状の遺構の存在も予想され、その中に遺物が含まれている可能性がある。

かつてのほ場整備時の造成では平倉観音堂側の水田地帯から縄文時代後期の立石、注口土器が出土したという話もあり、弥生時代以外の遺構、遺物が存在していたと思われる。

今回の事業予定地内において、周辺地形の観察から、包含層よりも標高の高い所に存在していたその他の遺構は、既に削平を受けているものと思われる。言い換えれば当時、住居跡があった生活面よりも標高の低い谷状の窪みに遺物が廃棄され、包含層が形成され、それが水田造成時の削平を免れたものと考えられる。

（平成14年度本発掘調査予定）



第122図　平倉観音遺跡調査区位置図

33　ほ場整備整備事業猫川左岸地区関連調査

林崎館跡 (MF66－2134)

所在地；遠野市上郷町地内

事業者；遠野地方振興局遠野農村整備事務所

調査期日；平成13年11月６日

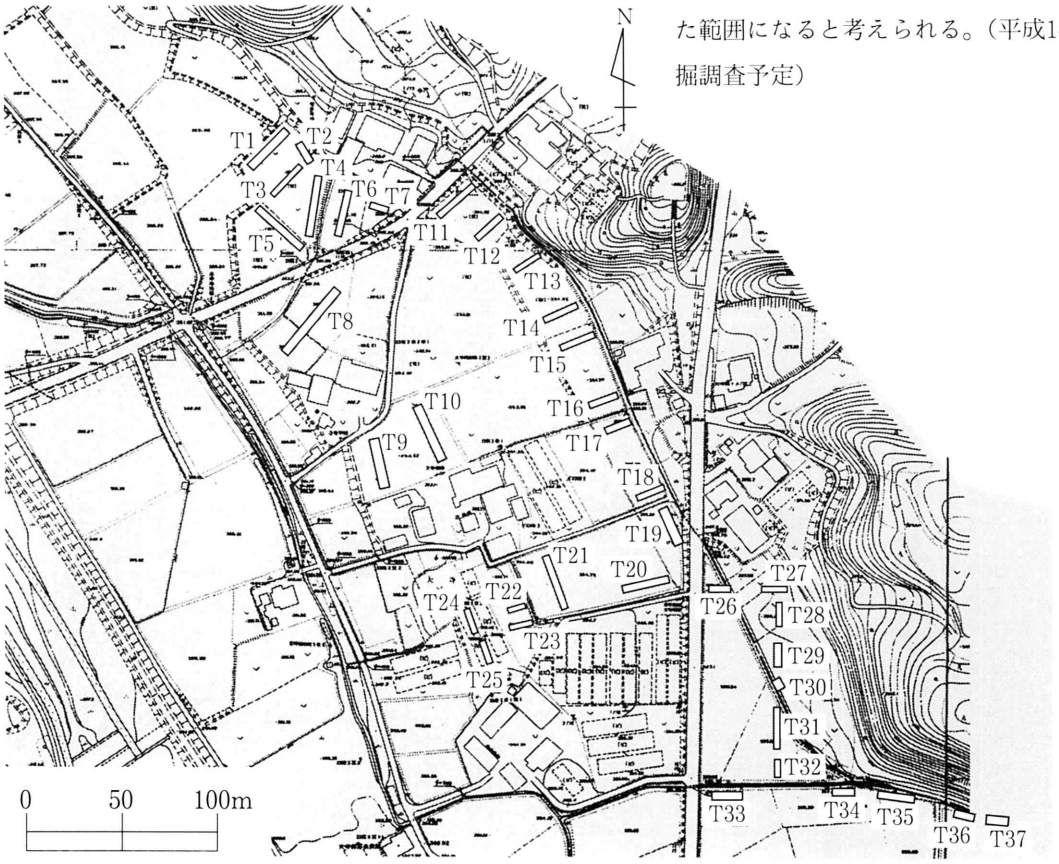
遺跡は早瀬川右岸の丘陵上に立地しており、標高は361～365m程である。遺跡範囲は国道340号を挟んで東西方向に広がっている。

試掘トレンチは水路、農道、切土田面予定地を中心に37カ所設定した。その結果、トレンチ29、35で遺構が発見された。トレンチ29では、地表下1.2mの所で、幅0.2m、長さ５m以上の周溝１基が確認された。出土遺物には縄文土器、石器がある。

第123図　林崎館跡位置図

トレンチ35では、半円形の黒色土の堆積が確認された。黒色土からは縄文前期の土器が比較的多く出土している。トレンチ31では幅５m、深さ0.25mの溝状遺構が確認された。縄文土器が出土しているものの、巨礫が多く含まれている。堆積土にしまりがないなどの点から、比較的新しい旧河道と判断した。トレンチ32からも土器が出土している。その他のトレンチでは、表土下に砂層、砂礫層が堆積しており、遺構、遺物は確認できなかった。過去の水田造成時に大きく削平を受けたものと推定された。トレンチ29の周溝は住居跡に伴い、所属時期が縄文時代となる可能性が高い。

遺跡の中心は背後の丘陵の裾部を中心とした範囲になると考えられる。(平成14年度本発掘調査予定)



第124図　林崎館跡調査区位置図

34　中山間地域総合整備事業岩間地区関連調査

大橋遺跡（ＭＥ52－2325）

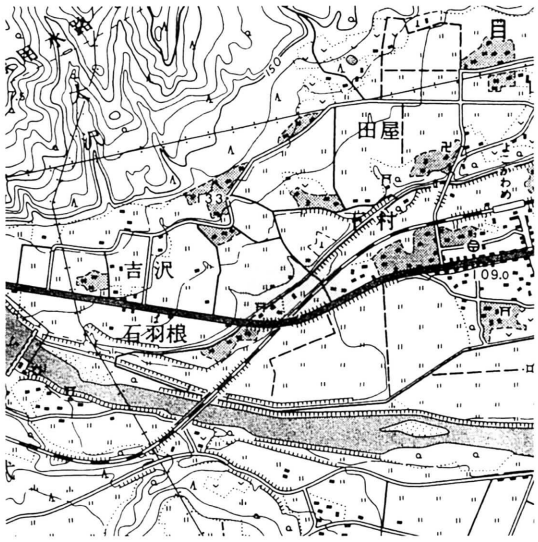
所在地：北上市横川目地内

事業者：北上地方振興局北上農村整備事務所

調査日：平成13年10月18日・19日、

平成14年１月23日～24日（４日間）

遺跡は、ＪＲ東日本北上線横川目駅の西側約1.5kmに位置し、和賀川左岸の河岸段丘にあって、南向きの緩斜面に立地する。標高120～128m前後を測る。現況は概ね水田で、部分的に宅地・畑地がある。縄文時代晩期の遺跡として周知の遺跡である。



第125図　大橋遺跡位置図

今回は、中山間地域総合整備事業岩間地区に伴い、事業予定箇所が遺跡の範囲内であることから２度に亘り試掘調査を実施したものである。調査は事業予定地内（支線道路・排水路・切土予定の田面）に幅２ｍのトレンチ104本（Ｔ１～104）を設定した。

基本土層は、第１層は耕作土で層厚10cm、第２層は水田床土で層厚10cm・第３層は黒褐色土の遺物包含層で層厚30cm、第４層は黄褐色土の地山である。層厚は地点により若干異なる。

１度目は事業予定箇所全体にトレンチ89本（Ｔ１～89）を設定した。調査の結果、削平されている部分が多く、旧表土など失われている部分が多いものの、数箇所の地点で遺構・遺物が確認された。Ｔ12～14では、水田床土下位の黒褐色土中から晩期の土器・石器が多量に出土した。黒褐色土中から土坑１基が検出されたが、他にも複数の遺構が重複しているものと思われる。Ｔ15では、９基の土坑が検出されたが、東端にある土坑埋土から後期初頭の土器片が出土している。Ｔ23・24では、住居状の黒褐色土の広がりと土坑を検出した。Ｔ24で検出された土坑の埋土から縄文時代後期中葉の土器が出土している。

高位面となるＴ60では土坑３基、Ｔ63からは土坑１基が検出されている。この部分は、地山まで削平されているが、周辺には他にも遺構が遺存しているものと推測される。

２度目は前回要調査範囲とした部分の周辺にトレンチ15本（Ｔ90～104）を設定し、範囲の広がりについて確認した。Ｔ92・102・103及びＴ95では、水田床土の下位で黒褐色土の遺物包含層が確認された。縄文時代晩期後葉の土器・石器が出土している。Ｔ92において、部分的に掘り下げたが、深さ30cm下でも個体復元可能な土器が出土している。なお、Ｔ92・103の西側及びＴ95の東側は包含層の厚さが少しずつ薄くなり、消滅する。Ｔ92・103の西側は削平されている可能性があり、Ｔ95の東側は、遺跡の境界となる沢跡に向かって落ち込んでいるためと考えられる。調査区中央付近のＴ94・101で包含層が確認できなかったのは、現況の水田造成時に削平を受けたためと判断される。なお、Ｔ94では、旧沢跡の可能性がある落ち込みを確認している。Ｔ96～97では遺物包含層は確認できなかったが、土坑５基・溝跡？１条が４層黄褐色土の地山面で黒色土の広がりとして確認された。Ｔ98～101・104においては遺構・遺物は確認されなかった。

以上のことから、本遺跡は、かつての開田時に削平を受けているものの、今なお畑地等では多量の土器・石器が採取できることから、本来は縄文時代の大規模な集落跡であったことは想像に難くない。時期は後期初頭から晩期末葉までの遺物が遺構に伴って地点を変えて出土しており、時期により占地が異なっていた可能性があると思われる。（平成14年度本発掘調査予定）

第126図　大橋遺跡調査区位置図

35　中山間地域総合整備事業岩間地区関連調査

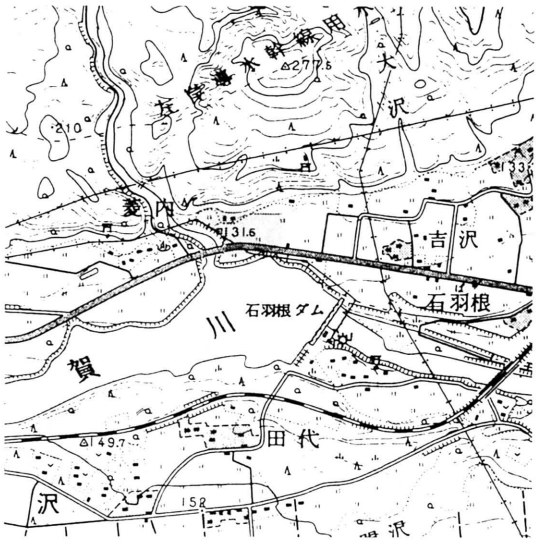
石羽根遺跡（ＭＥ52－2214）

所在地；北上市和賀町横川目田屋地内

事業者；北上地方振興局北上農村整備事務所

調査期日；平成13年10月17日～18日（２日間）

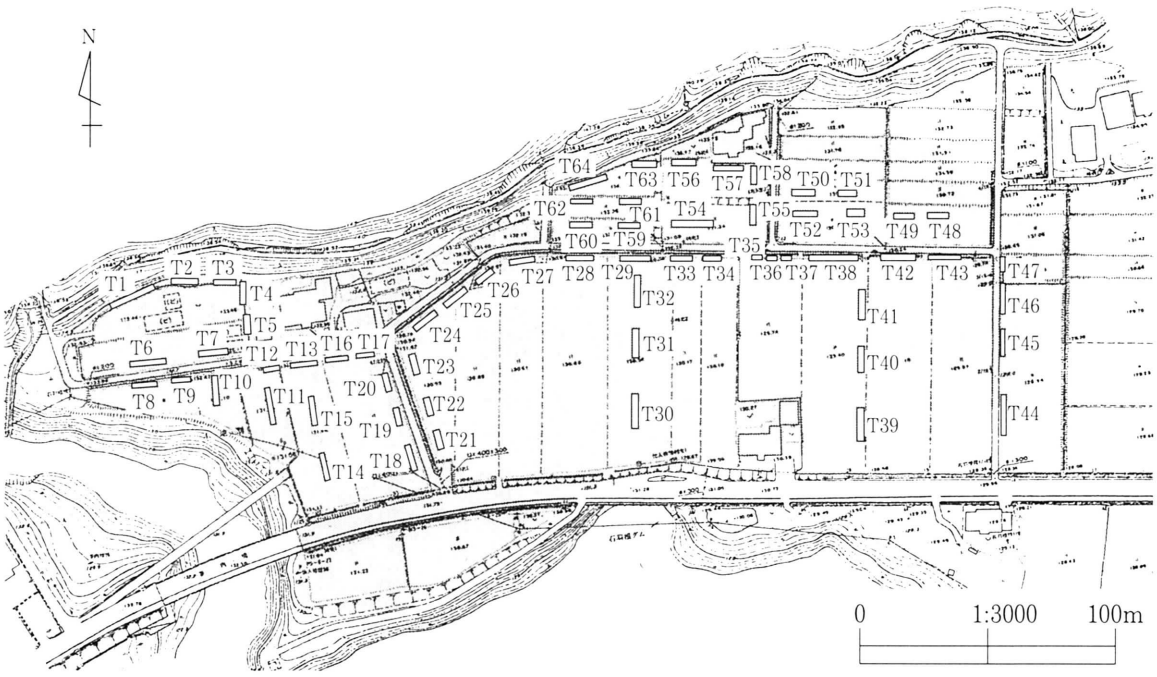
遺跡は、ＪＲ北上線横川目駅の西約１kmに位置し、和賀川左岸の河岸段丘上に立地している。調査区域の標高は130m前後を測り、現況は水田・畑地である。調査区の基本土層は以下のとおりである。第１層：表土（耕作土）20～25cm、第２層：暗褐色土5～40cm、第３層：黄褐色～灰黄褐色土10～40cm（地山）層厚不明　一部でグライ化し青灰色となっている。



第127図　石羽根遺跡位置図

今回の調査は、中山間地域総合整備事業の用地が遺跡にかかるために試掘調査を行った。調査では、切り土になる田面と排水路になる部分に幅160cm程のトレンチを64本設定した（Ｔ１～Ｔ64）。

調査の結果、西側の畑地に入れたＴ１～Ｔ７では暗渠排水のパイプ敷設による攪乱を受けていることが確認された。調査区中央部付近の水田は、耕作土の下に青灰色のグライ化した土が確認され、腐り切らない植物の枝等も出てくることから、この付近は開墾前は湿地の様相を呈していたと推定される。北側の山に沿った水田は造成時に削平を受けており、表土の下は地山の黄褐色土となっていた。遺構としては、調査区西側の水田に入れたＴ10から土坑が１基検出された。この土坑は平面形が円形を呈し、検出規模は径が50cm程である。埋土上位から縄文土器が出土したことから、縄文時代の遺構と推定される。他のトレンチからは遺構・遺物とも確認されなかった。



第128図　石羽根遺跡調査区位置図

36　中山間地域総合整備事業斗米地区門松工区関連調査

門松遺跡（IE98－1271）

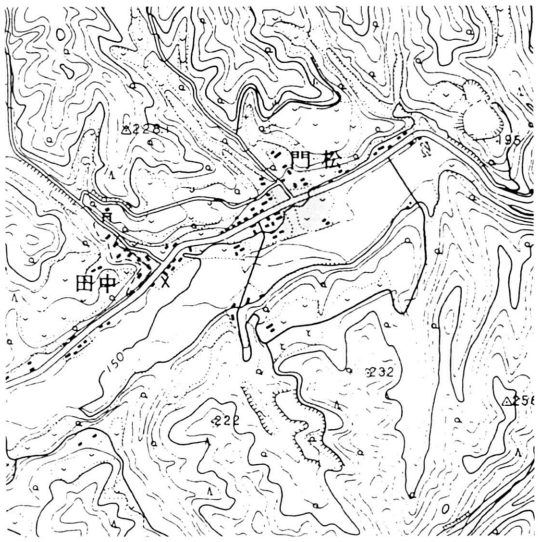
所在地；二戸市下斗米字門松地内

事業者；二戸地方振興局二戸農村整備事務所

調査期日；平成13年６月20日

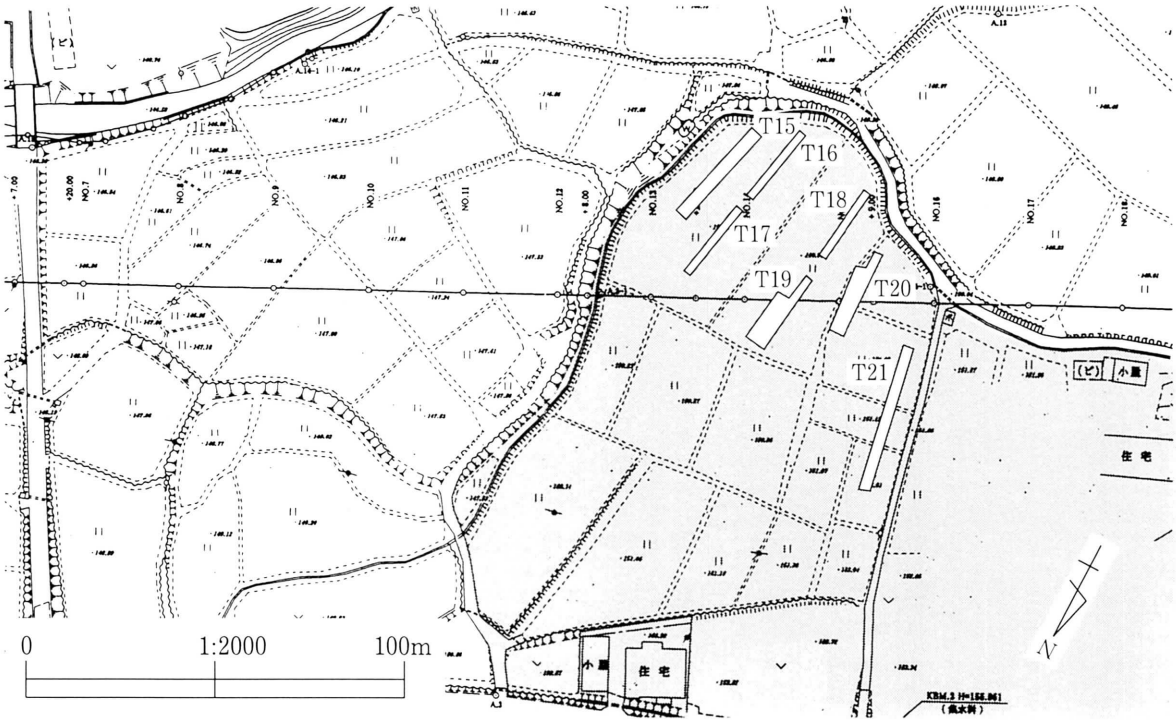
本遺跡は、ＪＲ東北本線斗米駅の西約５kmに位置し、十文字川左岸の河岸段丘上に立地している。調査地の標高は150mの平坦地で、現況は主に水田である。

今回の調査は、二戸市教育委員会による試掘調査の追加として、遺構数の把握と排水路分の中掫層下層の状況確認を目的にトレンチを７本設定した（Ｔ15～21）。



第129図　門松遺跡位置図

Ｔ15はＴ14を拡大する形で設定した。新たに検出した遺構は、土坑 3基と陥し穴状遺構５基である。主な遺構検出面は４層中掫砂・浮石層上面である。土坑はほぼ円形を呈し、径１～1.7 m程のもので、埋土中に土師器片が含まれていた。陥し穴群はトレンチ北側の黒色土中から検出した。また、Ｔ17でも陥し穴状遺構１基を検出したが、Ｔ15の陥し穴群に連続するものと推定される。Ｔ19では、埋土上部に十和田ａ火山灰をレンズ状に含む竪穴住居跡１棟を検出した。十和田ａ層の下層では、比較的規模の大きな陥し穴状遺構を２基確認している。調査地内の陥し穴状遺構は、北側のやや低い部分に比較的密に規則性をもって分布しているようである。Ｔ20では、焼土ブロックを含む径60～80cmの土坑を６基検出した。これらの土坑群の北側では、表土（耕作土）下から十和田ａ層の広がりを確認しているが、その下層からは遺構は検出されなかった。排水路予定箇所に設定したＴ21では、中掫層下層の確認のためのトレンチを設定し、八戸火山灰層までの深掘りを行ったが、遺構・遺物は確認されなかった。



第130図　門松遺跡調査区位置図

37　土地改良総合整備事業伊手西部地区関連調査

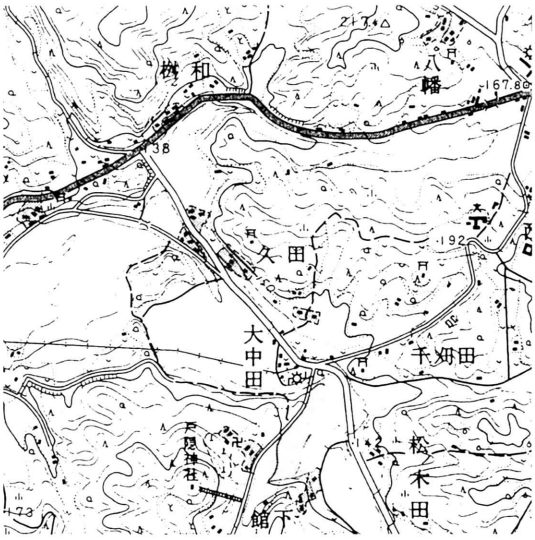
大中田遺跡（NF00－2003）

所在地；江刺市伊手地内

事業者；水沢地方振興局水沢農村整備事務所

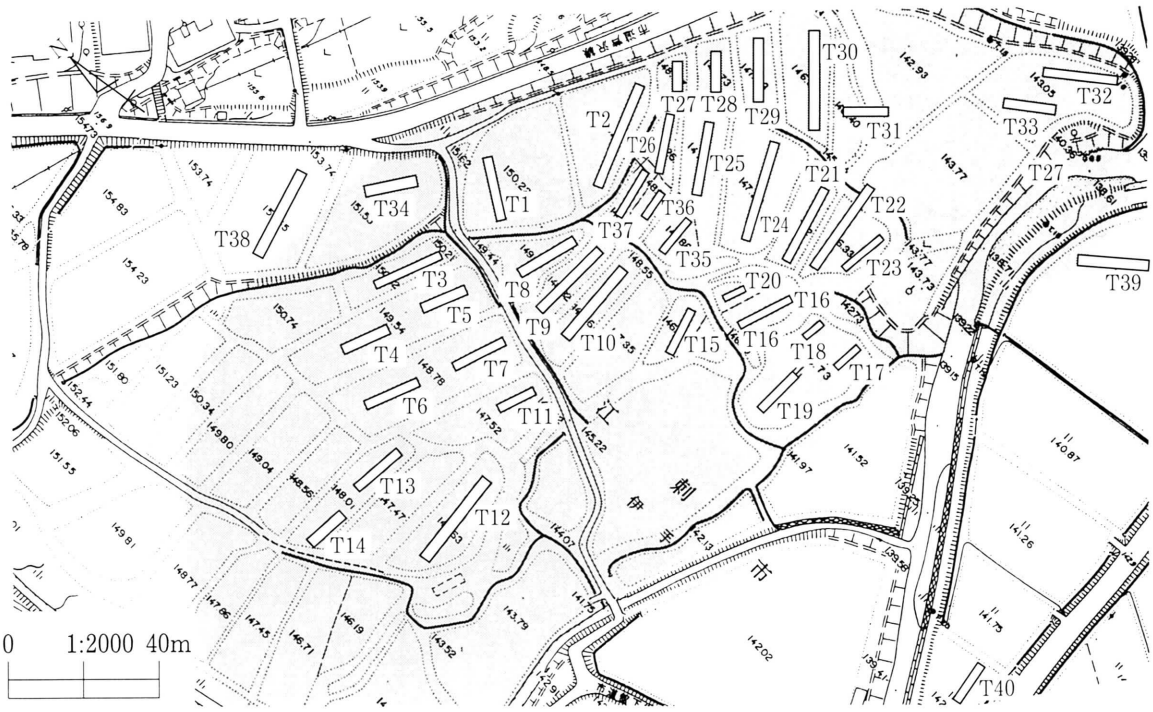
調査期日；平成13年10月25日

遺跡は、ＪＲ東日本東北新幹線水沢江刺駅の東北東約９kmに位置し、伊手川左岸に突き出た丘陵の東向き緩斜面に立地している。調査区の標高は147m前後を測り、現況は水田・畑地である。この調査は、土地改良総合整備事業と同時に行う河川改修事業の分布調査によって、遺跡の可能性ありとした部分について実施した。調査では切り土になる田面と排水路・農道新設部分に、幅160cmほどのトレンチを40箇所設定して実施した。調査区の基本土層は以下のとおりである。第１層：表土（耕作土）10～20cm、第２層；黄褐色土（水田の床土）０～10cm、第３層；暗褐色土０～25cm、第４層；黄褐色土（地山）層厚不明。



第131図　大中田遺跡位置図

調査の結果、調査区北側の水田において12棟の竪穴住居跡と27基の土坑、９基の柱穴状土坑が検出された。Ｔ２から検出された住居跡は重複しており、遺構のプランは明確ではなかったが、他のトレンチから検出された住居跡のプランから、円形を呈すると推定される。土坑は円形のものがほとんどである。住居跡から出土した土器は、縄文時代中期のものが多いが、土坑からは前期の土器も出土しており、前期から中期に渡って集落が営まれていたと推定される。調査区南側では、表土の下に巨大な礫を多数含む礫層が存在し、遺構は確認されなかった。伊手川の対岸に入れたＴ39・40では、表土直下が厚い砂層になることが確認された。このトレンチでも遺構・遺物は確認されなかった。



第132図　大中田遺跡調査区位置図

38　畑地帯総合整備事業盛岡西部地区関連調査

羽場百目木遺跡（LE25－1381）

羽場館（小館）（LE25－1372）

所在地；盛岡市羽場字百目木地内

事業者；盛岡地方振興局盛岡農村整備事務所

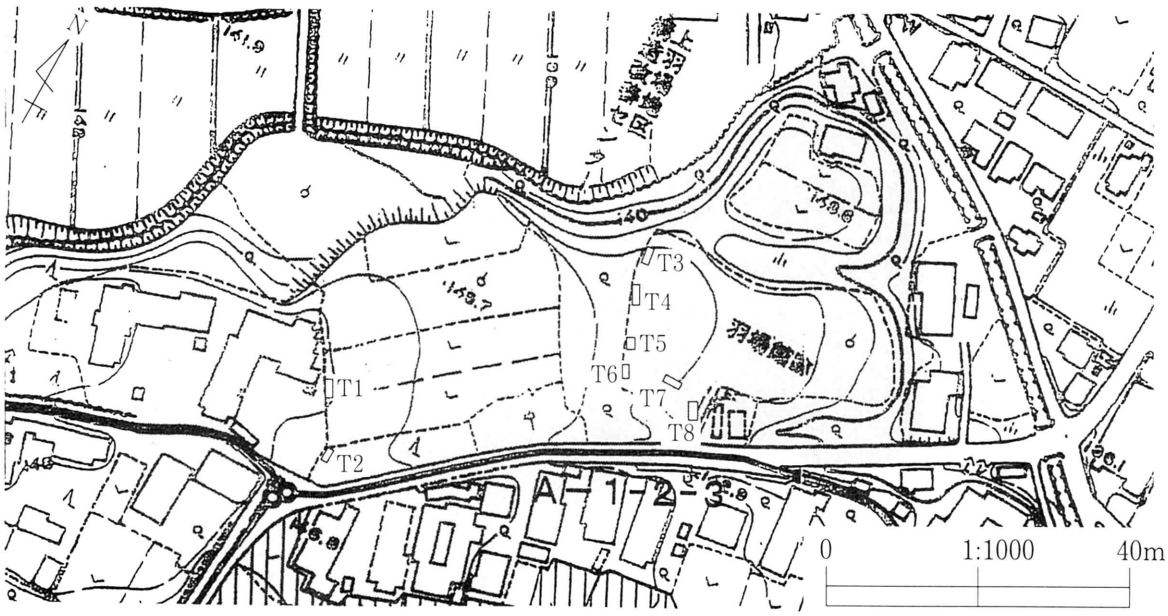
調査期日；平成13年５月17日

第133図　羽場百目木遺跡・羽場館位置図

遺跡は、ＪＲ東北本線岩手飯岡駅の西約4.2kmに位置し、赤林山から延びる尾根の端部に立地している。遺跡の標高は145m前後を測り、現況は畑地・果樹園・宅地である。羽場百目木遺跡は縄文時代の散布地であり、羽場館（小館）は中世の城館跡である。この２つの遺跡範囲は全く重複している。調査区の基本土層は以下の通りである。第１層：表土10～30cm、第２層：黒褐色土、０～80cm、第３層：灰黄褐色土０～10cm、第４層：黄褐色土～明黄褐色土（地山）層厚不明。

今回の調査は、畑地帯総合整備事業に伴い、事業予定箇所が遺跡の範囲に当たることから試掘調査を実施した。調査においては、配水管を埋設する部分に幅１ｍのトレンチを８本設定した（Ｔ１～Ｔ８）。

調査の結果、西側の畑地では第２層の黒褐色土が厚く堆積していることが確認され、Ｔ１においては第２層下位から縄文時代中期の土器が出土した。地山の黄褐色土の上面では竪穴住居跡のプランと推定される黒褐色土の広がりが確認されている。この住居跡は第２層から掘り込まれている可能性がある。Ｔ２は沢を埋めた部分で、この部分からは縄文土器が１点出土している。東側の果樹園内では羽場館の空堀が東西に延びており、配水管はこの空堀を横切る形で計画されていることが確認された。東側では黒褐色土は認められず、Ｔ４・Ｔ５の地山面で径22～26cmほどの柱穴状土坑が計４基、Ｔ６の地山面で幅45cmほどの溝跡が１条検出された。Ｔ３～Ｔ８においては遺物の出土はなかった。これらのことから、西側の畑部分には縄文時代の集落跡が良好に残り、東側は中世城館の主体部であったと推定される。



第134図　羽場百目木遺跡・羽場館調査区位置図

39　ふるさと農道緊急整備事業関連調査

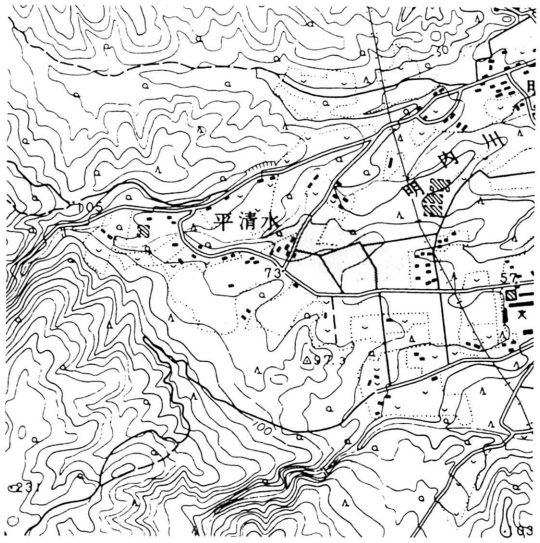
平清水Ⅱ遺跡 (JG60－0224)

所在地；野田村大字第22地割地内

事業者；久慈地方振興局久慈農村整備事務所

調査期日；平成13年12月18日

遺跡は、陸中野田駅の南東約2.5kmの所に位置し、明内川左岸の河岸段丘面に立地する。標高は65m前後で、現況は水田、道路、荒地などである。

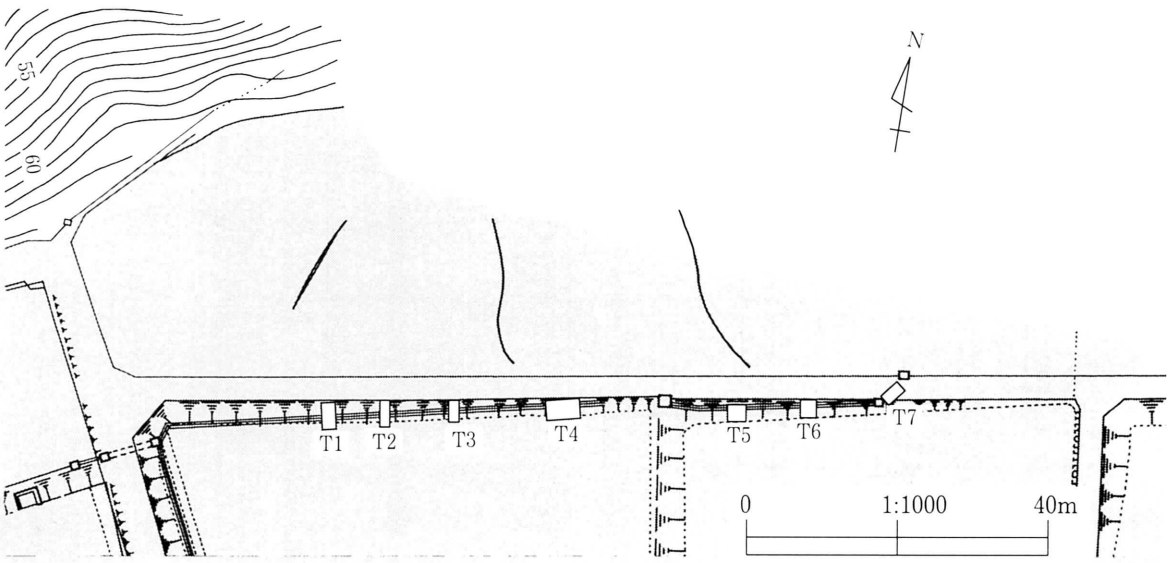


第135図　平清水Ⅱ遺跡位置図

今回は事業地内の水路設置予定箇所に７カ所の試掘トレンチを設定した。その結果、遺構、遺物が発見された。トレンチ１では第３層上面から掘り込まれた陥穴状遺構が１基発見され、深さ２m、幅0.5mの規模であった。埋土から縄文土器が発見された。埋土には、赤色粒子、炭化物が含まれていた。Ｔ２では、土器が１点出土した。Ｔ４では、深さ0.7m、幅1.8m以上の規模の竪穴状遺構が１基発見された。底面には、厚さ５㎝、幅30㎝以上の焼土を伴っており、縄文土器、剥片が出土した。Ｔ７では、トレンチ隅で、円形の竪穴状遺構が１基発見された。直径は0.8m以上と推定され、深さは0.2m以上ある。埋土は黒褐色土と第３層が混じったものである。試掘面積の割に非常に多数の遺構が検出された。

遺構は既に造成された水田と農道の境の法面から検出されたものであり、本来、遺跡範囲はもっと拡大し、多数の遺構が存在したものと推定された。造成前は農道から現在の水田面にかけて緩やかな斜面が広がり、この地域の基幹となる縄文集落が形成されたのであろう。

今回の試掘調査の西側は、平成13年度に㈶岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターにより発掘調査が実施され、多数の遺構が発見されている。地形的に見て、今回試掘調査で発見された遺構はこれらと一連のものと判断できる。(平成14年度本発掘調査予定)



第136図　平清水Ⅱ遺跡調査区位置図

40　ふるさと農道整備事業関連調査

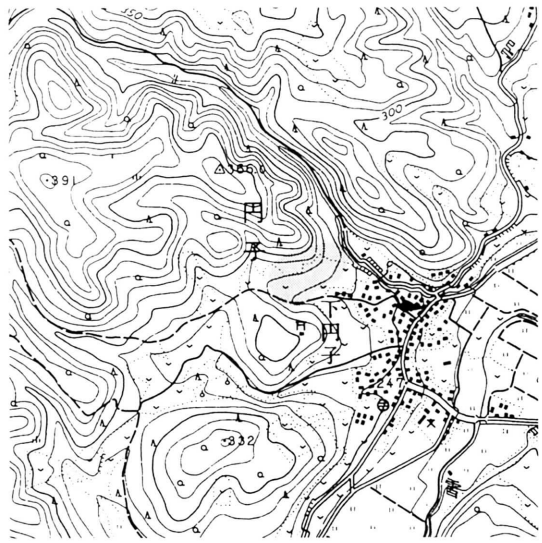
IF94－2340遺跡

所在地；軽米町円子地内

事業者；二戸地方振興局二戸農村整備事務所

調査期日；平成13年11月１日

遺跡は、三陸鉄道北リアス線・陸中野田駅の南東約2.5kmの緩やかな斜面に立地し、標高は268m前後である。現況は畑地、荒れ地、山林となっている。

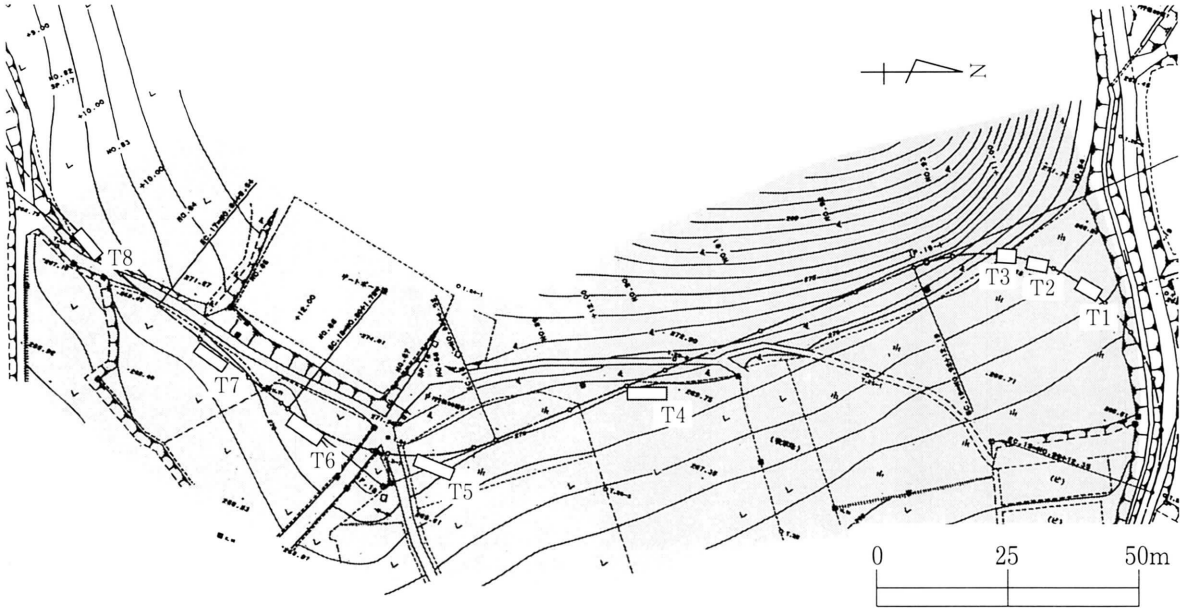


第137図　IF94－2340位置図

今回は農道整備に伴い、事業予定地に試掘トレンチ８カ所を設定し、調査を実施した。トレンチ１では、次の層位が確認された。第１層は黒色シルト、第２層は茶褐色土、第３層は黒褐色土である。３層には焼土が混入するが、形状には規則性がなく、線状、丸いブロック状などのものを含んでいる。大きさ、長さは５～20cmである。時期を決定する資料が出土していないが、土の色調、しまり具合から近世以降のものと推定される。しかし、再堆積した層の可能性もあり、鉄滓等の出土も見られないので、遺構と認定できなかった。第２層は斜面の下になるにつれ、厚く堆積していた。

トレンチ２、３では黒褐色土が確認されたが、焼土は含まれていなかった。トレンチ４から６では、表土下からローム層、黄色砂礫（南部浮石）が確認された。南部浮石は30cm以上の厚さであった。トレンチ７では、表土の黒色土がなく、ローム層が露出している状況であった。過去の造成によるものと思われる。

トレンチ８の表土から土師器が出土した。表土直下に黄色砂（南部浮石）が堆積しており、堆積状況から過去に農地造成を受けたことが判明した。周囲からも土師器片が表採されている。



第138図　IF94－2340調査区位置図

41　二戸警察署上斗米駐在所庁舎新築事業関連調査

上斗米館遺跡 (IE98－2091)

所在地；二戸市上斗米字梅木地内

事業者；警察本部警務部

調査期日；平成13年８月３日

遺跡は二戸市西部の上斗米地区にあり、現況は学校用地・畑・山林となっており、標高は180～200mである。

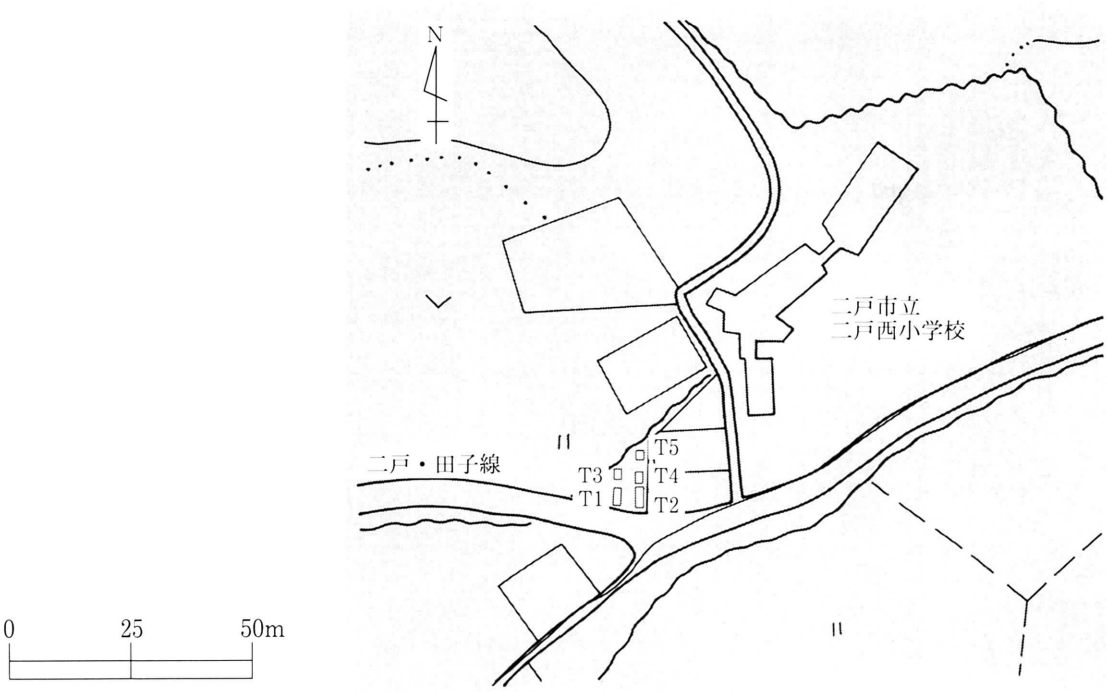
試掘調査の第１・２層は盛土である。この用地に接する道路工事の際に、道路との段差解消のため盛ったものであるという。また以前は水田であったということを裏付けるように、Ｔ１北半、Ｔ２北半では水田下に見られる青灰色の粘土層が発見された。

第139図　上斗米館遺跡位置図

事業予定地内に４カ所のトレンチを設定した。その結果、トレンチ１、２において縄文時代以降の遺物を含む層が発見された。この層は、Ｔ２の調査結果からすると、第３層を切って形成されており、砂が主体となり、層の上下から土器が出土している。多数の薄い層が水性堆積して形成されたものである。土器は縄文中期、晩期？と推定されるものがあったが、土器断面はいずれも丸味を帯びており、再堆積したものと考えられた。石器はどの層からも出土しなかった。

Ｔ１でも、地表下110cmの所から遺物を含む層が見つかっており、Ｔ２と同一の層であった。したがって、遺物を含む層は道路に面した南側のみに存在することが判明した。Ｔ３・４・５では遺物、遺構とも発見されなかった。

遺跡の中心は背後の丘陵近裾部もしくは丘陵上にあるものと推定された。



第140図　上斗米館遺跡調査区位置図

42　北上警察署立花駐在所庁舎新築事業関連調査

立花南遺跡（ME66－2128）

所在地；北上市立花地内

事業者；岩手県警察本部会計課

調査期日；平成13年７月30日

遺跡は、ＪＲ東日本東北本線北上駅の東約１kmに位置し、北上川左岸の沖積地上に立地している。調査区の標高は58m前後を測り、現況は宅地・畑地である。調査区の基本土層は以下のとおりである。第１層：表土（耕作土）20cm、第２層：暗褐色土（酸化鉄を含む）20cm、第３層：褐色土0～10cm、第４層：黒褐色土０～30cm、第５層：暗褐色土０～30cm、第６層：褐色土（地山）層厚不明。

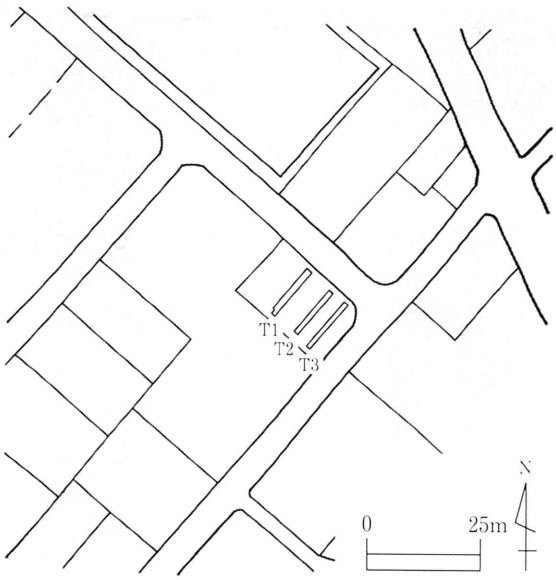
第141図　立花南遺跡位置図

今回の調査は、北上警察署立花駐在所の庁舎新築事業に伴って、事業予定箇所が遺跡にかかることから試掘調査を実施した。

調査においては、庁舎建設予定地内に幅0.9～1.6m、長さ10mほどのトレンチを３本設定した（Ｔ１～Ｔ３）。なお、調査対象区域の西側については作物を栽培中のため調査できなかった。

調査の結果、調査対象区域の中央部付近に設定したＴ１において、土坑２基と住居跡に伴うと思われる焼土を検出した。検出された土坑は、いずれもトレンチの外に続くため詳細は不明であるが、どちらの土坑も平面形は円形を呈すると推定され、規模は１基が径90cm、他の１基が径110cmほどである。いずれの土坑も第６層の地山上面で検出されている。

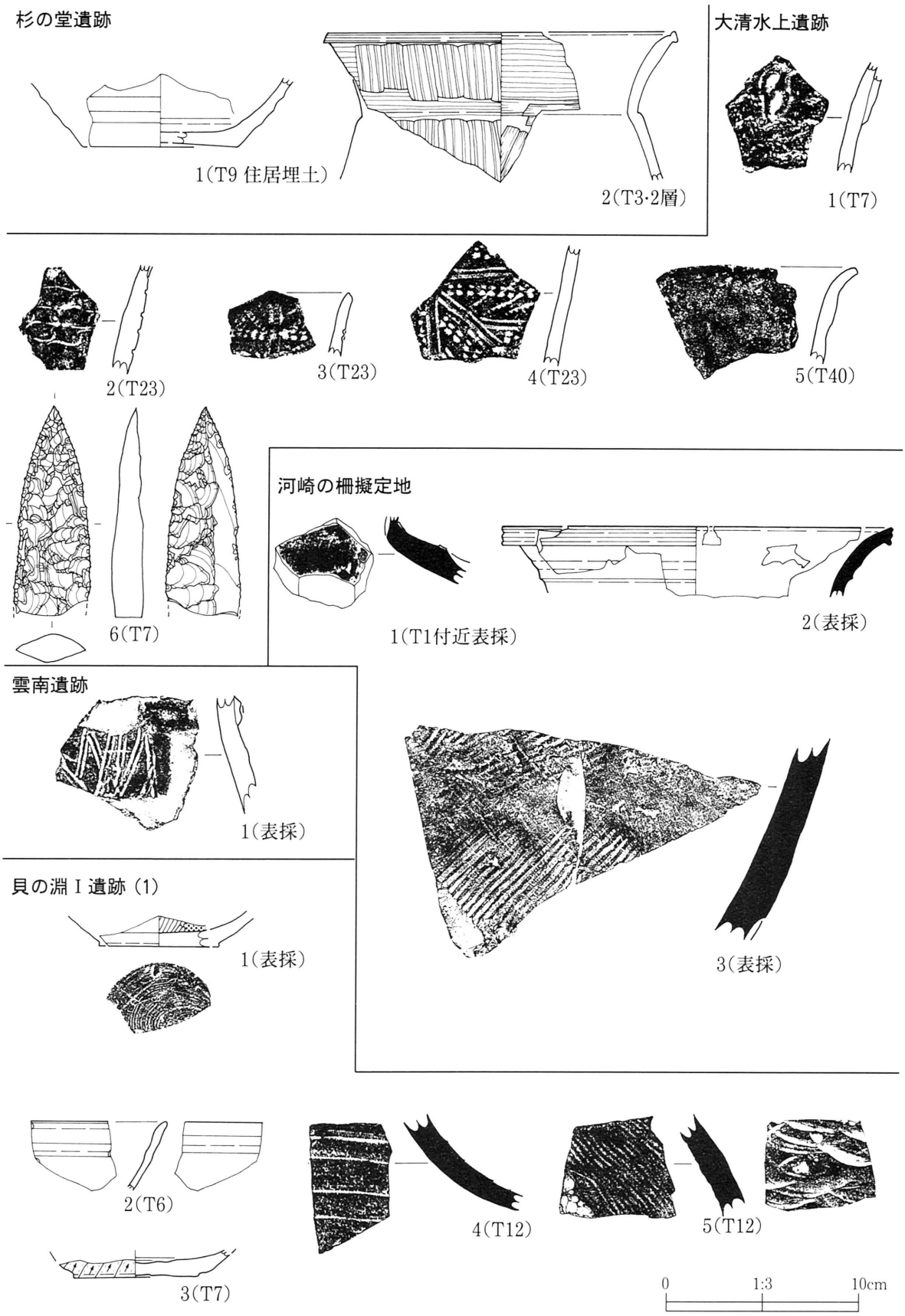
第４層上面で検出された焼土は、30×30cmほどの規模の不整形を呈するもので、住居跡のカマドあるいは焼土の周囲に炭化物や焼土粒が見られることから焼失住居の埋土の可能性も考えられる。この焼土の構築時期については、付近で土師器の小片が出土していることから古代の遺構に伴うものと考えられる。



第142図　立花南遺跡調査区位置図

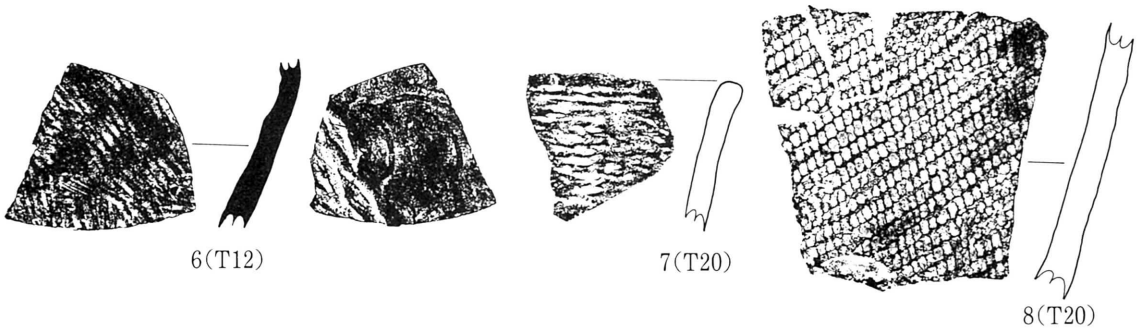
他の遺物としては、Ｔ２で縄文土器片と土師器片が計４点出土している。Ｔ３からは遺物は出土せず、遺構も検出されなかった。

以上のことから、本事業予定箇所については平成14年度に調査未了区域を試掘調査を行い、その結果を待って、本発掘調査を実施する予定である。

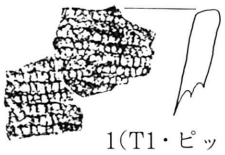


第143図　県内遺跡試掘調査出土遺物 1

貝の淵Ⅰ遺跡（2）

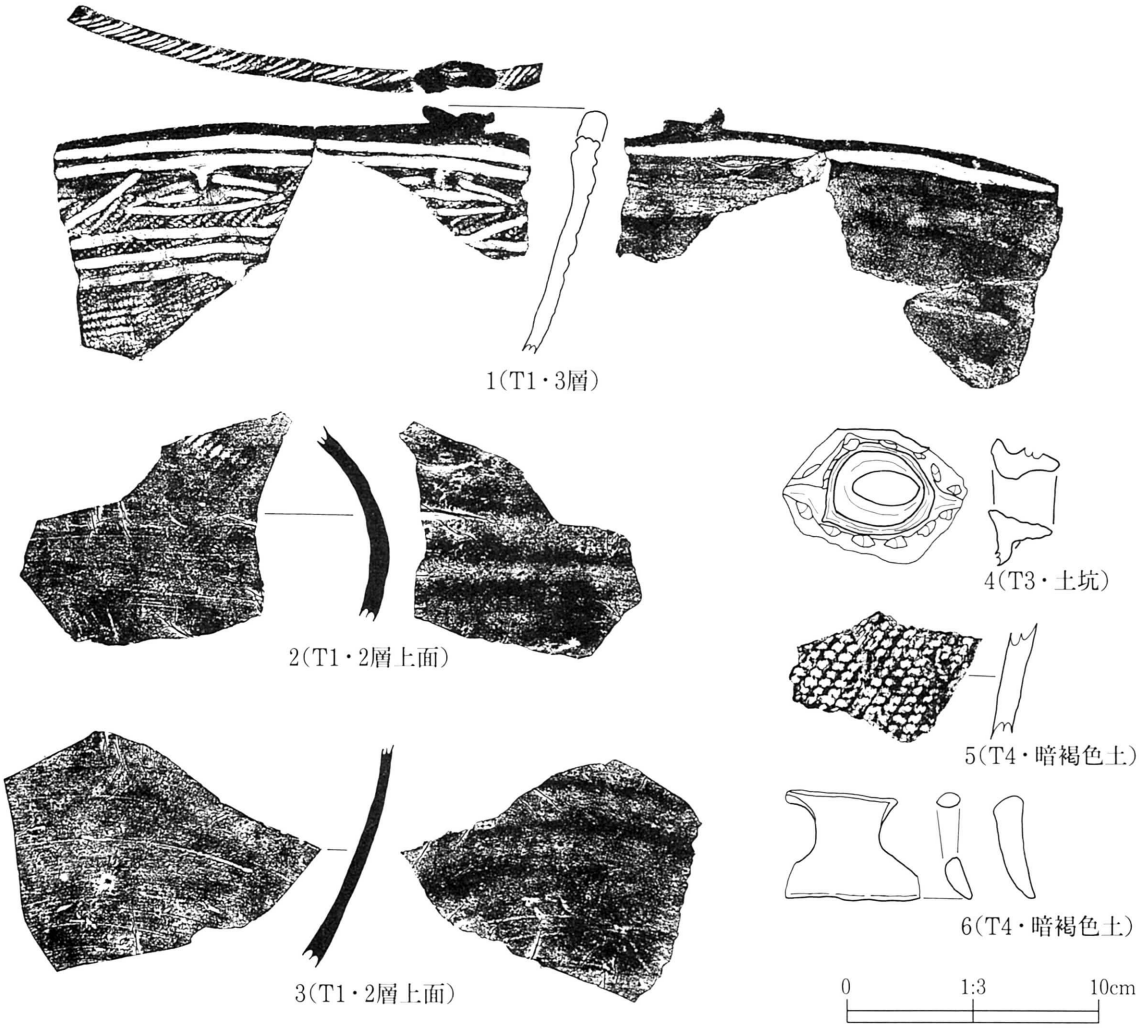


里古屋遺跡



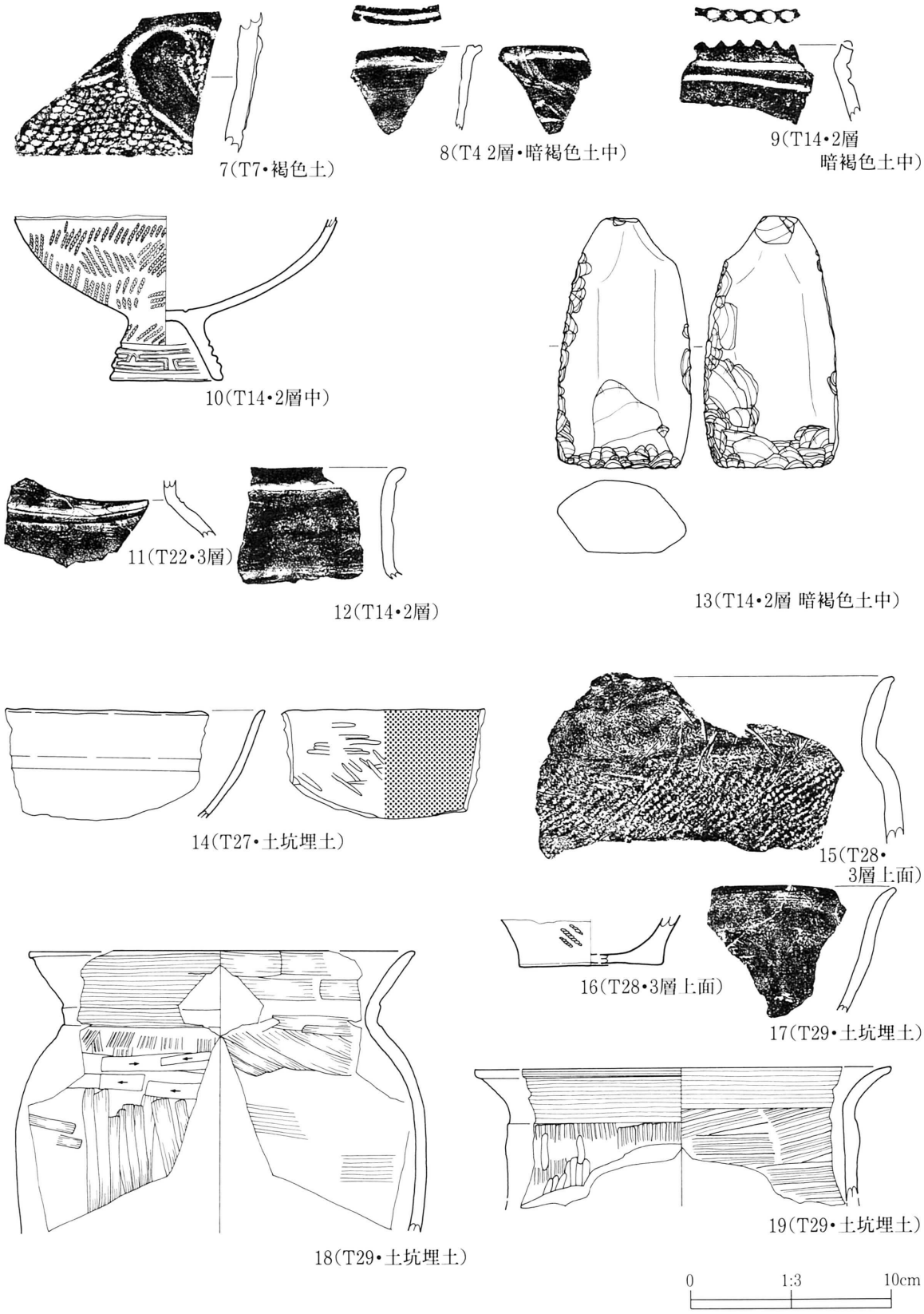
広岡前遺跡

金附遺跡（1）

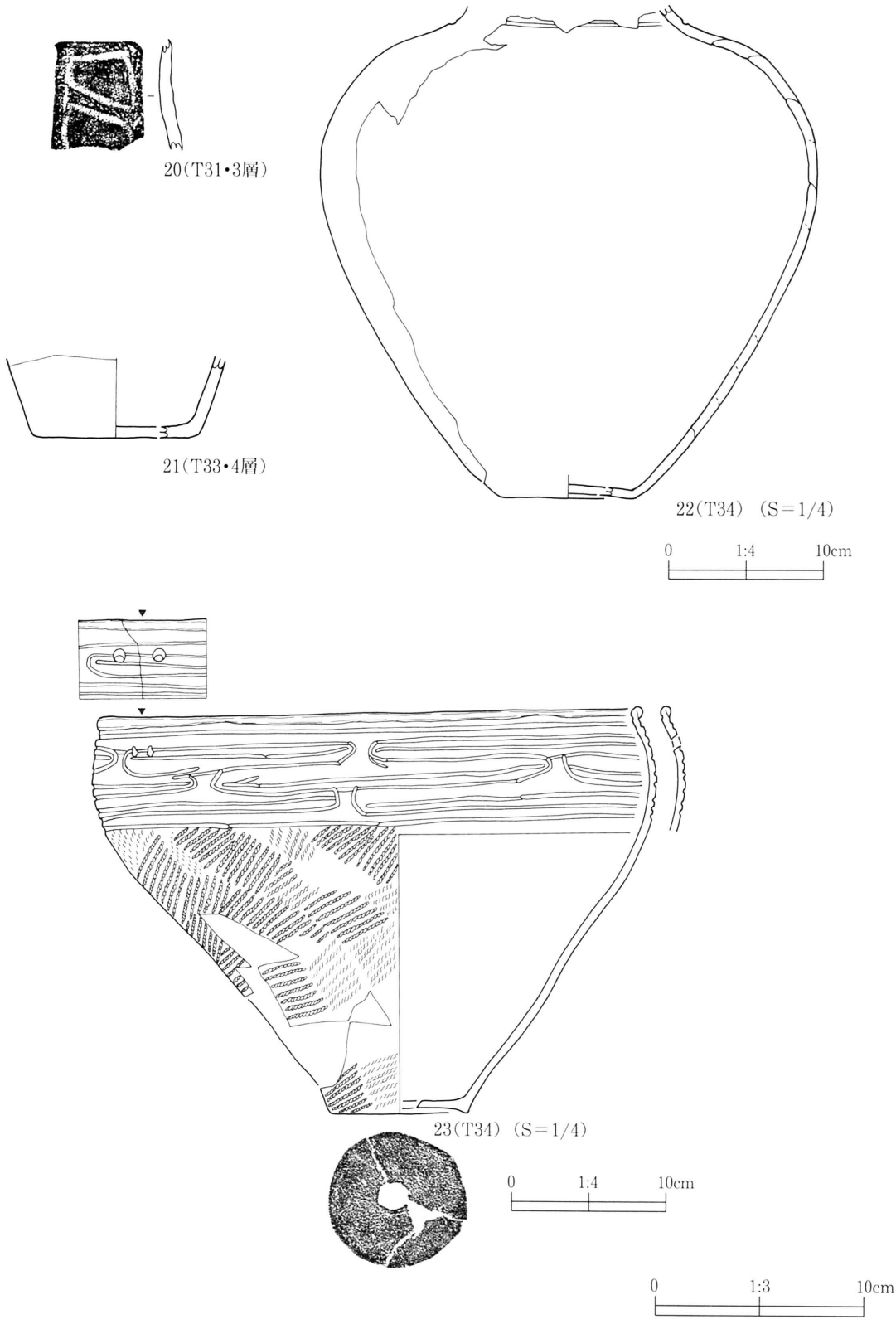


第144図　県内遺跡試掘調査出土遺物 2

金附遺跡（2）

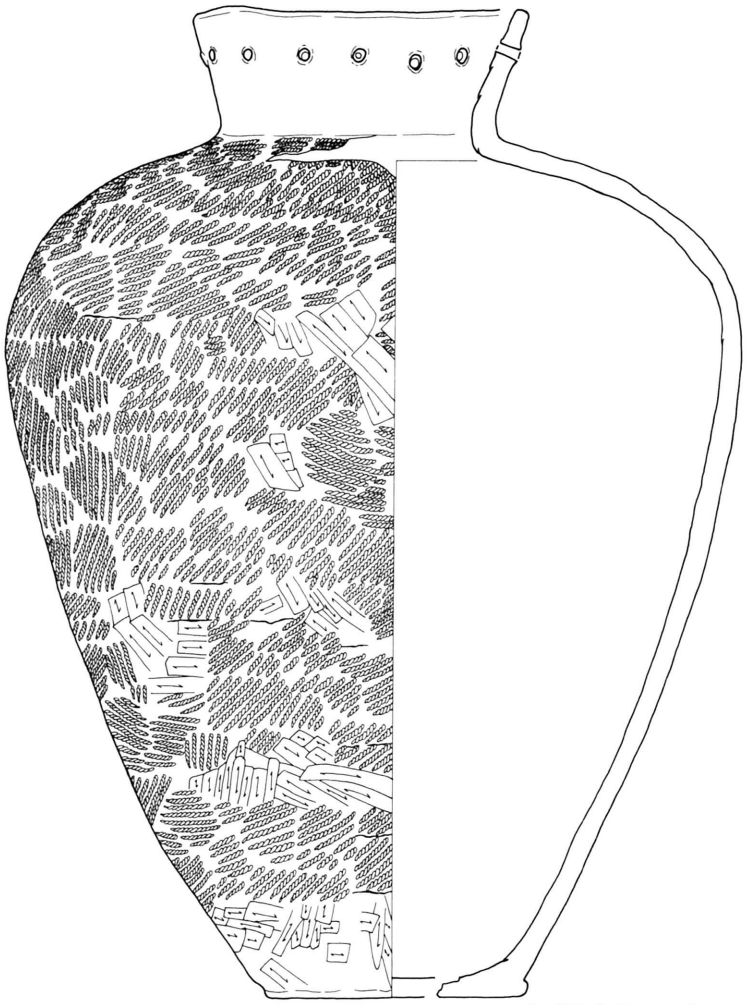


第145図　県内遺跡試掘調査出土遺物 3



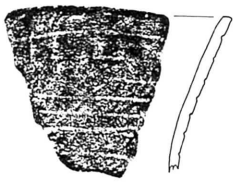
第146図　県内遺跡試掘調査出土遺物４

金附遺跡（4）



24(T34)(S=1/4)

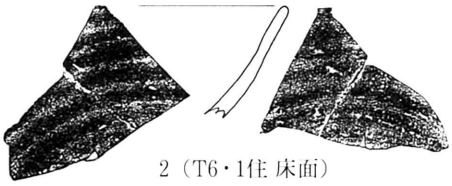
0　1:4　10cm



25(T80・9層)

大久保遺跡

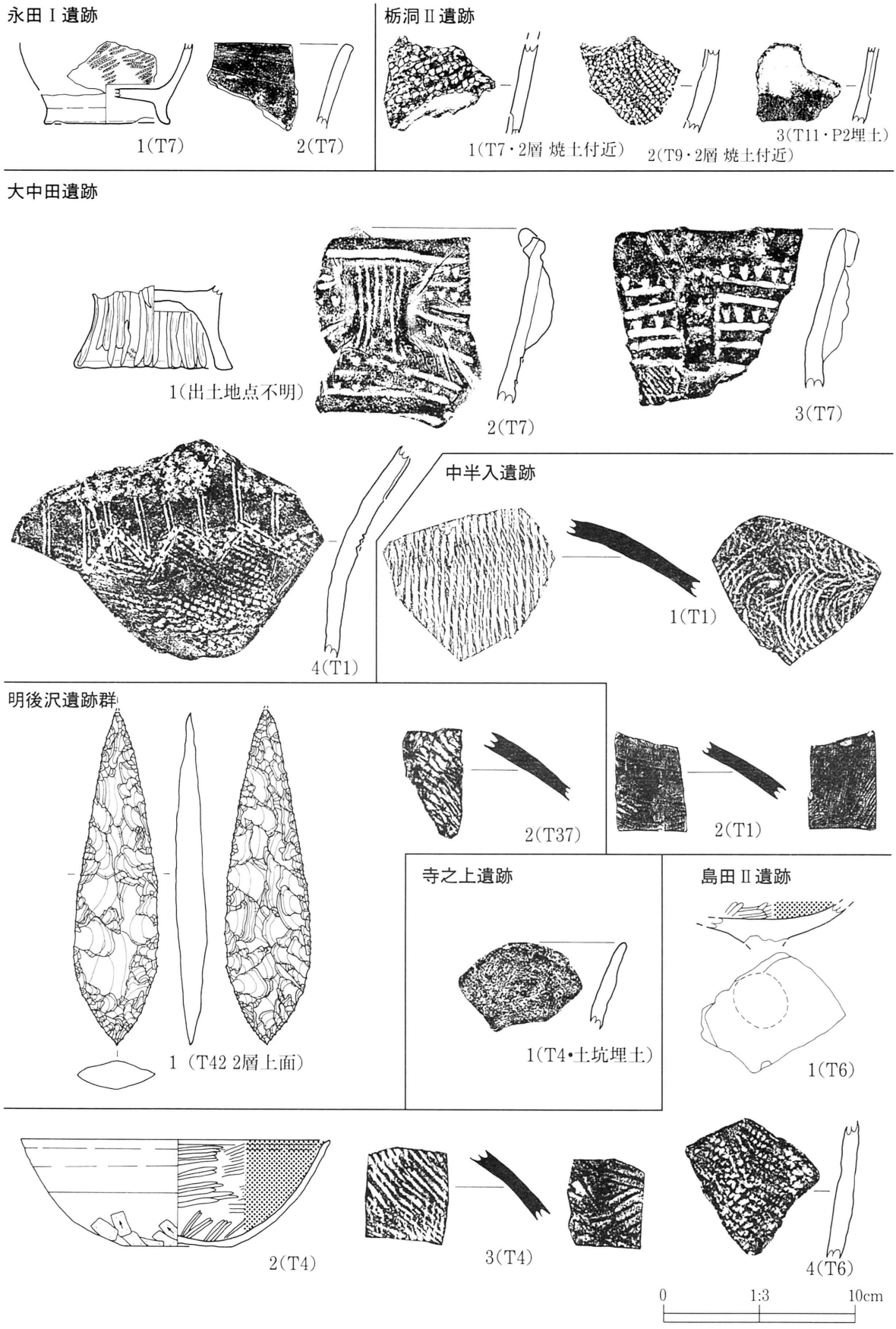
1(T6・1住 埋土)



2（T6・1住 床面）

0　1:3　10cm

第147図　県内遺跡試掘調査出土遺物 5



第148図　県内遺跡試掘調査出土遺物 6

第149図　県内遺跡試掘調査出土遺物 7

平成13年度試掘調査一覧

No.	調査期日	事業名	事業者	遺跡名	所在地
1	平成13年4月16日～17日	ほ場整備事業（担い手育成・区画整理型）新里地区	水沢農村整備事務所	若柳方八丁遺跡	胆沢町
2	平成13年4月18日	北上川上流流域下水道事業	北上川上流流域下水道事務所	可能性あり	滝沢村
3	平成13年4月18日	主要地方道盛岡和賀線道路改築事業	盛岡地方振興局土木部	新井田Ⅰ・Ⅱ遺跡	盛岡市
4	平成13年4月19日、24日	道路管理用通信線収容施設（情報BOX）設置事業	盛岡地方振興局土木部	盛岡城址遠曲輪	盛岡市
5	平成13年4月23日	八雲（3）地区県単急傾斜地崩壊対策事業	釜石地方振興局土木部	緑ヶ丘遺跡隣接地	釜石市
6	平成13年4月24日	道路管理用通信線収容施設（情報BOX）設置事業	盛岡地方振興局土木部	盛岡城址外曲輪	盛岡市
7	平成13年4月24日	ほ場整備事業（担い手育成区画整理型）飯豊地区	遠野農村整備事務所	ME46－0082	遠野市
8	平成13年4月24日	北上川上流流域下水道事業	北上川上流流域下水道事務所	一本松遺跡及び隣接地	盛岡市・矢巾町
9	平成13年4月24日	馬渕川沿岸農業水利事業	東北農政局馬渕川沿岸農業水利事業所	名子根Ⅵ遺跡	一戸町
10	平成13年4月25日	北上川上流流域下水道事業	北上川上流流域下水道事務所	一本松遺跡	矢巾町
11	平成13年4月25日	畑地帯総合整備事業　盛岡西部地区	盛岡農村整備事務所	細越遺跡	盛岡市
12	平成13年4月26日	主要地方道北上東和線　緊急地方道路整備事業	花巻地方振興局土木部	北成島B遺跡	東和町
13	平成13年5月8日	共同利用型研究開発施設整備事業	地域振興部科学技術課	巣子Ⅴ遺跡隣接地	滝沢村
14	平成13年5月10日	新交流ネットワーク道路整備事業	大船渡地方振興局土木部	館遺跡	住田町
15	平成13年5月17日	一般国道456号関口地区地域活性化支援道路整備事業	花巻地方振興局土木部	貝の淵Ⅰ遺跡	石鳥谷町
16	平成13年5月17日	畑地帯総合整備事業　盛岡西部地区	盛岡農村整備事務所	イタコ塚隣接地	盛岡市
17	平成13年5月17日	畑地帯総合整備事業　盛岡西部地区	盛岡農村整備事務所	アイノ野遺跡	盛岡市
18	平成13年5月17日	畑地帯総合整備事業　盛岡西部地区	盛岡農村整備事務所	羽場百目木遺跡	盛岡市
19	平成13年5月17日	畑地帯総合整備事業　盛岡西部地区	盛岡農村整備事務所	小館（羽場館）	盛岡市
20	平成13年5月21日	馬渕川沿岸農業水利事業	東北農政局馬渕川沿岸農業水利事業所	高間木遺跡	一戸町
21	平成13年5月21日	馬渕川沿岸農業水利事業	東北農政局馬渕川沿岸農業水利事業所	高間木Ⅱ遺跡	一戸町
22	平成13年5月21日	馬渕川沿岸農業水利事業	東北農政局馬渕川沿岸農業水利事業所	大志田遺跡	一戸町
23	平成13年5月22日	馬渕川沿岸農業水利事業	東北農政局馬渕川沿岸農業水利事業所	名子根Ⅲ遺跡	一戸町
24	平成13年5月22日	北上川上流改修砂鉄川直轄床上浸水対策特別緊急事業	国土交通省東北地方整備局岩手工事事務所	河崎の柵擬定地	川崎村
25	平成13年5月24日	地方特定道路整備事業	北上地方振興局土木部	蔵屋敷遺跡	北上市
26	平成13年5月25日	交通安全施設整備事業	花巻地方振興局土木部	小峯遺跡	東和町
27	平成13年5月28日	遠野第二ダム建設事業	遠野地方振興局土木部	栃洞Ⅱ遺跡	遠野市
28	平成13年6月4日	県単交通安全施設整備事業	盛岡地方振興局土木部	古屋敷遺跡隣接地	紫波町
29	平成13年6月4日	ふるさと農道緊急整備事業　季ヶ平地区	二戸農村整備事務所	野黒沢Ⅳ遺跡	浄法寺町
30	平成13年6月5日	畑地帯総合整備事業　盛岡西部地区	盛岡農村整備事務所	大ヶ森遺跡	盛岡市
31	平成13年6月5日	ため池等整備事業　野中地区	水沢農村整備事務所	NE33－0362隣接地	胆沢町
32	平成13年6月11日	一般県道広瀬三日尻線向田地区道路事業	水沢地方振興局土木部	三の関遺跡	江刺市
33	平成13年6月12日	一般国道4号水沢東バイパス	国土交通省東北地方整備局岩手工事事務所	杉の堂遺跡	水沢市
34	平成13年6月15日	地域活性化支援道路整備事業	大船渡地方振興局土木部	すい沢遺跡	住田町
35	平成13年6月20日	中山間地域総合整備事業　斗米地区門松工区	二戸農村整備事務所	門松遺跡	二戸市
36	平成13年6月25日	八戸大野線軽米町大道口地区県単道路改良工事	二戸地方振興局土木部	大道口遺跡	軽米町
37	平成13年6月27日	畑地帯総合整備事業　盛岡西部地区	盛岡農村整備事務所	木節遺跡	盛岡市
38	平成13年6月20日	畑地帯総合整備事業　盛岡西部地区	盛岡農村整備事務所	福千代遺跡	盛岡市
39	平成13年6月27日	道路改築事業	宮古地方振興局土木部	刈谷中里Ⅱ遺跡	新里村
40	平成13年6月27日～28日	道路改築事業	宮古地方振興局土木部	永田Ⅰ遺跡	新里村
41	平成13年7月2日	農免農道整備事業　鳥越地区	二戸農村整備事務所	中野平遺跡	一戸町
42	平成13年7月2日	農免農道整備事業　鳥越地区	二戸農村整備事務所	上ミ平遺跡	一戸町
43	平成13年7月3日	農免農道整備事業　鳥越地区	二戸農村整備事務所	中屋敷遺跡	一戸町
44	平成13年7月3日	いさわ南部農地整備事業	東北農政局いさわ南部農地整備事業建設所	五反町遺跡	胆沢町
45	平成13年7月4日	一級河川衣川筋泉ヶ城地区河川等災害復旧事業に係る村道拡幅工事及び宅地開発	衣川村教育委員会	淵畑遺跡	衣川村
46	平成13年7月6日	四十四田ダム環境整備事業	北上川ダム統合管理事務所	小鳥沢Q遺跡	盛岡市
47	平成13年7月9日	盛岡広域都市計画及び雫石都市計画公園事業9・7・1号御所湖広域公園	盛岡地方振興局土木部	長根遺跡	雫石町

No.	調査期日	事業名	事業者	遺跡名	所在地
48	平成13年7月10日	一般国道4号金田一バイパス	国土交通省東北地方整備局岩手工事事務所	小野遺跡	二戸市
49	平成13年7月13日	畑地帯総合整備事業　盛岡西部地区	盛岡農村整備事務所	細越遺跡	盛岡市
50	平成13年7月17日	一般国道4号金田一バイパス	国土交通省東北地方整備局岩手工事事務所	小野遺跡	二戸市
51	平成13年7月25日～27日	ほ場整備事業　八重畑地区	花巻農村整備事務所	高畑遺跡	石鳥谷町
52	平成13年7月30日	北上警察署立花駐在所庁舎新築事業	警察本部警務部会計課	立花南遺跡	北上市
53	平成13年8月1日	岩手長者屋敷無線基地局設置工事	松尾村教育委員会	長者屋敷遺跡隣接地	松尾村
54	平成13年8月2日	県単道路改良事業	花巻地方振興局土木部	川前Ⅰ遺跡	花巻市
55	平成13年8月3日	二戸警察署斗米駐在所庁舎新築事業	警察本部警務部会計課	上斗米館遺跡	二戸市
56	平成13年8月3日	県立葛巻高等学校　体育館建設事業	県教育委員会事務局学校財務課	上平遺跡	葛巻町
57	平成13年8月7日	道路改築事業	大船渡地方振興局土木部	栃ヶ沢遺跡	陸前高田市
58	平成13年8月8日	広域農道整備事業　東磐井地区	千厩農村整備事務所	宇南遺跡	千厩町
59	平成13年8月9日	地方特定河川等環境整備事業	水沢地方振興局土木部	藤渡戸Ⅰ遺跡	江刺市
60	平成13年8月20日	県立水沢農業高等学校　体育館建設事業	県教育委員会事務局学校財務課	中島遺跡	胆沢町
61	平成13年8月23日	通常砂防事業	二戸地方振興局土木部	梅の木沢遺跡	軽米町
62	平成13年8月24日	通常砂防事業	二戸地方振興局土木部	玉川向遺跡	軽米町
63	平成13年8月27日	緊急地方道路整備事業	釜石地方振興局土木部	道々遺跡	釜石市
64	平成13年8月27日	緊急地方道路整備事業	釜石地方振興局土木部	舘遺跡	釜石市
65	平成13年8月27日	緊急地方道路整備事業	釜石地方振興局土木部	澤田2遺跡	釜石市
66	平成13年8月29日	中山間地域総合整備事業　藤沢東部地区	千厩農村整備事務所	OF21－0364	藤沢町
67	平成13年8月29日～9月28日	胆沢ダム建設事業	国土交通省東北地方整備局胆沢ダム工事事務所	大清水上遺跡	胆沢町
68	平成13年8月29日～9月28日	胆沢ダム建設事業	国土交通省東北地方整備局胆沢ダム工事事務所	なめだけⅠ遺跡	胆沢町
69	平成13年8月29日～9月28日	胆沢ダム建設事業	国土交通省東北地方整備局胆沢ダム工事事務所	なめだけⅡ遺跡	胆沢町
70	平成13年8月30日	主要地方道重茂半島線石浜地区道路災害復旧工事	宮古地方振興局土木部	石浜Ⅱ遺跡隣接地	宮古市
71	平成13年8月30日	中山間地域総合整備事業　鹿踊の郷地区	宮古地方振興局農政部	三沢遺跡	田野畑村
72	平成13年8月30日	中山間地域総合整備事業　鹿踊の郷地区	宮古地方振興局農政部	可能性あり	田野畑村
73	平成13年9月5日	一般国道284号　弥栄地区歩道設置工事	一関地方振興局土木部	大奈良Ⅰ遺跡	一関市
74	平成13年9月5日	一関遊水地内工事	国土交通省東北地方整備局岩手工事事務所	泉屋遺跡	平泉町
75	平成13年9月6日	北上川上流改修砂鉄川直轄床上浸水対策特別緊急事業	国土交通省東北地方整備局岩手工事事務所	長平遺跡	川崎村
76	平成13年9月13日	東北自動車道相去地区防雪柵工事	日本道路公団東北支社北上管理事務所	下成沢遺跡	北上市
77	平成13年9月25日	主要地方道盛岡環状線野沢地区県単道路改良事業	盛岡地方振興局土木部	野沢Ⅵ遺跡隣接地	滝沢村
78	平成13年9月27日	地方特定道路整備事業	北上地方振興局土木部	川尻Ⅰ遺跡	湯田町
79	平成13年10月2日	一関警察署署長公舎新築事業	警察本部警務部会計課	十二神遺跡	一関市
80	平成13年10月3日～4日	一般国道45号　普代バイパス	国土交通省東北地方整備局三陸国道工事事務所	可能性あり	普代村
81	平成13年10月5日	ほ場整備事業　一関第2地区	一関農村整備事務所	本町Ⅱ遺跡	平泉町
82	平成13年10月9日～11日	ほ場整備事業（担い手育成区画整理型）寺領小林地区	水沢農村整備事務所	寺ノ上遺跡	前沢町
83	平成13年10月10日～11日	ほ場整備事業（担い手育成区画整理型）寺領小林地区	水沢農村整備事務所	可能性あり	前沢町
84	平成13年10月11日～12日	ほ場整備事業（担い手育成区画整理型）寺領小林地区	水沢農村整備事務所	長者館遺跡	前沢町
85	平成13年10月12日	ほ場整備事業（担い手育成区画整理型）寺領小林地区	水沢農村整備事務所	九郎館遺跡	前沢町
86	平成13年10月12日	一般国道4号　小鳥谷バイパス	国土交通省東北地方整備局岩手工事事務所	中屋敷遺跡	一戸町
87	平成13年10月15日	県営ほ場整備事業　石関地区	水沢農村整備事務所	ME87－0277	江刺市
88	平成13年10月15日	県営ほ場整備事業　石関地区	水沢農村整備事務所	ME87－0256	江刺市
89	平成13年10月15日	県営ほ場整備事業　石関地区	水沢農村整備事務所	可能性あり	江刺市
90	平成13年10月15日	北上川上流流域下水道事業　広宮沢幹線築造5－2工区	北上川上流流域下水道事務所	大渡野Ⅱ遺跡	矢巾町
91	平成13年10月15日	ほ場整備事業（担い手育成区画整理型）姉体地区	水沢農村整備事務所	島田Ⅰ遺跡	水沢市
92	平成13年10月15日	ほ場整備事業（担い手育成区画整理型）姉体地区	水沢農村整備事務所	島田Ⅱ遺跡	水沢市
93	平成13年10月15日～16日	ほ場整備事業（担い手育成区画整理型）姉体地区	水沢農村整備事務所	島田Ⅲ遺跡	水沢市
94	平成13年10月16日	ほ場整備事業（担い手育成区画整理型）姉体地区	水沢農村整備事務所	島田Ⅳ遺跡	水沢市
95	平成13年10月15日～16日	ほ場整備事業（担い手育成区画整理型）姉体地区	水沢農村整備事務所	根蕪遺跡	水沢市

No.	調査期日	事業名	事業者	遺跡名	所在地
96	平成13年10月15日	ほ場整備事業（担い手育成区画整理型）姉体地区	水沢農村整備事務所	樋ノ口遺跡	水沢市
97	平成13年10月16日	ほ場整備事業（担い手育成区画整理型）姉体地区	水沢農村整備事務所	北白山Ⅰ遺跡	水沢市
98	平成13年10月16日	ほ場整備事業（担い手育成区画整理型）姉体地区	水沢農村整備事務所	北白山Ⅱ遺跡	水沢市
99	平成13年10月16日	ほ場整備事業（担い手育成区画整理型）姉体地区	水沢農村整備事務所	北白山Ⅲ遺跡	水沢市
100	平成13年10月16日	ほ場整備事業（担い手育成区画整理型）姉体地区	水沢農村整備事務所	元天神前Ⅱ遺跡	水沢市
101	平成13年10月15日	ほ場整備事業（担い手育成区画整理型）姉体地区	水沢農村整備事務所	原抜遺跡	水沢市
102	平成13年10月16日	ほ場整備事業（担い手育成区画整理型）姉体地区	水沢農村整備事務所	沖遺跡	水沢市
103	平成13年10月17日	県営ほ場整備事業（担い手育成区画整理型）黒岩第１地区	北上農村整備事務所	黒岩城隣接地	北上市
104	平成13年10月17日	県営ほ場整備事業（担い手育成区画整理型）黒岩第１地区	北上農村整備事務所	三坊木館隣接地	北上市
105	平成13年10月17日	県営ほ場整備事業（担い手育成区画整理型）黒岩第１地区	北上農村整備事務所	三坊木遺跡隣接地	北上市
106	平成13年10月17日	県営ほ場整備事業（担い手育成区画整理型）黒岩第１地区	北上農村整備事務所	湯沢Ⅰ遺跡	北上市
107	平成13年10月17日	地方特定道路整備事業	水沢地方振興局土木部	嶋舘西遺跡	水沢市
108	平成13年10月17日～19日	中山間地域総合整備事業　岩間地区	北上農村整備事務所	吉沢遺跡	北上市
109	平成13年10月17日～18日	中山間地域総合整備事業　岩間地区	北上農村整備事務所	石羽根遺跡	北上市
110	平成13年10月18日～19日	中山間地域総合整備事業　岩間地区	北上農村整備事務所	大橋遺跡	北上市
111	平成13年10月18日	特定環境保全公共下水道事業（県代行）	宮古地方振興局土木部	和野Ⅰ遺跡	田野畑村
112	平成13年10月19日	県単交通安全施設整備事業	盛岡地方振興局土木部	大宮遺跡	盛岡市
113	平成13年10月19日	ほ場整備事業　一関第２地区	一関農村整備事務所	本町Ⅱ遺跡	平泉町
114	平成13年10月22日	部活動施設整備事業	県教育委員会事務局学校財務課	嶋舘林遺跡	水沢市
115	平成13年10月22日	県営土地改良総合整備事業　戸沢地区	盛岡農村整備事務所	戸沢館遺跡	雫石町
116	平成13年10月22日	県営土地改良総合整備事業　戸沢地区	盛岡農村整備事務所	町場Ⅴ遺跡	雫石町
117	平成13年10月23日	北上川上流流域下水道事業　玉山幹線築造7－1工区	北上川上流流域下水道事務所	板橋Ⅳ遺跡	滝沢村
118	平成13年10月22日～24日	ほ場整備事業（担い手育成区画整理型）満倉地区	水沢農村整備事務所	中半入遺跡	水沢市
119	平成13年10月23日～24日	遠野第二ダム建設事業	遠野地方振興局土木部	九重沢遺跡	遠野市
120	平成13年10月24日	遠野第二ダム建設事業	遠野地方振興局土木部	新里五器洗場遺跡	遠野市
121	平成13年10月24日	担い手育成基盤整備事業　煙山西部地区	盛岡農村整備事務所	田屋遺跡	矢巾町
122	平成13年10月25日	土地改良総合整備事業　伊手西部地区	水沢農村整備事務所	NF00－2003	江刺市
123	平成13年10月25日	一級河川伊手川伊手地区ほ場整備関連河川改修事業	水沢地方振興局土木部	NF00－2003	江刺市
124	平成13年10月26日	ほ場整備事業（担い手育成区画整理型）原体地区	水沢農村整備事務所	稲荷遺跡	江刺市
125	平成13年10月26日	中山間地域総合整備事業　葛巻北西地区	盛岡農村整備事務所	平船遺跡	葛巻町
126	平成13年10月25日	土地改良総合整備事業　江刺西部地区	水沢農村整備事務所	ME96－0202	江刺市
127	平成13年10月29日	ほ場整備事業（担い手育成区画整理型）二子地区	北上農村整備事務所	堰向Ⅰ遺跡	北上市
128	平成13年10月29日～30日	ほ場整備事業（担い手育成区画整理型）二子地区	北上農村整備事務所	鳥喰Ⅰ遺跡	北上市
129	平成13年10月29日～30日	ほ場整備事業（担い手育成区画整理型）二子地区	北上農村整備事務所	鳥喰Ⅱ遺跡	北上市
130	平成13年10月29日～30日	ほ場整備事業（担い手育成区画整理型）二子地区	北上農村整備事務所	高屋Ⅰ遺跡	北上市
131	平成13年10月29日～30日	ほ場整備事業（担い手育成区画整理型）二子地区	北上農村整備事務所	高屋Ⅱ遺跡	北上市
132	平成13年10月30日	ほ場整備事業（担い手育成区画整理型）二子地区	北上農村整備事務所	明神Ⅱ遺跡	北上市
133	平成13年10月31日	緊急地方道路整備事業	北上地方振興局土木部	金附遺跡	北上市
134	平成13年11月１日	ほ場整備事業（担い手育成区画整理型）満倉地区	水沢農村整備事務所	中半入遺跡	水沢市
135	平成13年11月１日	一般農道整備事業	遠野農村整備事務所	中土淵遺跡	遠野市
136	平成13年11月１日	ほ場整備事業（担い手育成区画整理型）土淵地区	遠野農村整備事務所	中土淵遺跡	遠野市
137	平成13年11月１日	ほ場整備事業（担い手育成区画整理型）土淵地区	遠野農村整備事務所	向野遺跡隣接地	遠野市
138	平成13年11月１日	ほ場整備事業（担い手育成区画整理型）土淵地区	遠野農村整備事務所	MF45－0323隣接地	遠野市
139	平成13年11月１日	ふるさと農道整備事業　円子地区	二戸農村整備事務所	IF94－2340	軽米町
140	平成13年11月２日	県営中山間地域総合整備事業　黒岩地区	北上農村整備事務所	黒岩城隣接地	北上市
141	平成13年11月５日	部活動施設整備事業	県教育委員会事務局学校財務課	方八丁遺跡	北上市
142	平成13年11月５日	水泳プール建設事業	県教育委員会事務局学校財務課	黒沢尻北高グランド遺跡	北上市
143	平成13年11月５日	県単道路災害防除事業・凍雪害対策事業	盛岡地方振興局土木部	日影Ⅱ遺跡	安代町

No.	調査期日	事業名	事業者	遺跡名	所在地
144	平成13年11月5日	道路改築事業　西根バイパス	盛岡地方振興局土木部	五百森Ⅱ遺跡	西根町
145	平成13年11月5日	大只越の沢地区通常砂防事業	釜石地方振興局土木部	大只越遺跡	釜石市
146	平成13年11月6日	ほ場整備事業（担い手育成区画整理型）猫川左岸地区	遠野農村整備事務所	平倉観音遺跡	遠野市
147	平成13年11月6日	ほ場整備事業（担い手育成区画整理型）猫川左岸地区	遠野農村整備事務所	林崎館遺跡	遠野市
148	平成13年11月6日	ほ場整備事業（担い手育成区画整理型）猫川左岸地区	遠野農村整備事務所	林崎Ⅰ遺跡	遠野市
149	平成13年11月6日	ほ場整備事業（担い手育成区画整理型）猫川左岸地区	遠野農村整備事務所	林崎Ⅱ遺跡	遠野市
150	平成13年11月6日	ほ場整備事業（担い手育成区画整理型）猫川左岸地区	遠野農村整備事務所	林崎Ⅲ遺跡	遠野市
151	平成13年11月6日	ほ場整備事業　八重畑地区	花巻農村整備事務所	蛇蜒蛆遺跡	石鳥谷町
152	平成13年11月6日	ほ場整備事業　八重畑地区	花巻農村整備事務所	安堵屋敷Ⅱ遺跡	石鳥谷町
153	平成13年11月6日	ほ場整備事業　八重畑地区	花巻農村整備事務所	下館遺跡	石鳥谷町
154	平成13年11月6日	ほ場整備事業　大明神地区	花巻農村整備事務所	大明神遺跡	石鳥谷町
155	平成13年11月6日	ほ場整備事業　大明神地区	花巻農村整備事務所	貝の淵Ⅰ遺跡	石鳥谷町
156	平成13年11月6日	ほ場整備事業　大明神地区	花巻農村整備事務所	貝の淵Ⅱ遺跡	石鳥谷町
157	平成13年11月6日	ほ場整備事業　大明神地区	花巻農村整備事務所	上野々遺跡	石鳥谷町
158	平成13年11月7日	ほ場整備事業　大明神地区	花巻農村整備事務所	百目木遺跡	石鳥谷町
159	平成13年11月7日	ほ場整備事業　大明神地区	花巻農村整備事務所	塚の森Ⅰ遺跡	石鳥谷町
160	平成13年11月7日	ほ場整備事業　大明神地区	花巻農村整備事務所	ME07－0008	石鳥谷町
161	平成13年11月8日	地域活性化支援道路整備事業	二戸地方振興局土木部	金森遺跡	浄法寺町
162	平成13年11月8日	地域活性化支援道路整備事業	二戸地方振興局土木部	大坊遺跡	浄法寺町
163	平成13年11月8日	ほ場整備事業（担い手育成区画整理型）戸塚地区	花巻農村整備事務所	戸塚遺跡	石鳥谷町
164	平成13年11月8日	ほ場整備事業（担い手育成区画整理型）戸塚地区	花巻農村整備事務所	大曲遺跡	石鳥谷町
165	平成13年11月8日	ほ場整備事業（担い手育成区画整理型）	千厩農村整備事務所	越田沢Ⅶ遺跡	千厩町
166	平成13年11月8日	ほ場整備事業（担い手育成区画整理型）	千厩農村整備事務所	午生運館跡隣接地	千厩町
167	平成13年11月8日	ほ場整備事業（担い手育成区画整理型）	千厩農村整備事務所	熊ノ沢遺跡	千厩町
168	平成13年11月8日	ほ場整備事業（担い手育成区画整理型）	千厩農村整備事務所	二沢遺跡	千厩町
169	平成13年11月9日	ほ場整備事業（担い手育成区画整理型）	千厩農村整備事務所	長者遺跡	千厩町
170	平成13年11月9日	ほ場整備事業（担い手育成区画整理型）	千厩農村整備事務所	此ノ手館跡	千厩町
171	平成13年11月9日	紫波警察署乙部駐在所庁舎新築事業	警察本部警務部会計課	岡田遺跡	盛岡市
172	平成13年11月12日	ほ場整備事業　大明神地区	花巻農村整備事務所	上野々遺跡	石鳥谷町
173	平成13年11月12日	土地改良総合整備事業（省力化型）中寺林地区	花巻農村整備事務所	LE96－1263	石鳥谷町
174	平成13年11月12日	ほ場整備事業　三日堀地区	花巻農村整備事務所	LE87－2082	石鳥谷町
175	平成13年11月13日	ほ場整備事業　大明神地区	花巻農村整備事務所	大明神遺跡	石鳥谷町
176	平成13年11月14日	ふるさと農道緊急整備事業　黒川乙部地区	盛岡農村整備事務所	沢川目遺跡	盛岡市
177	平成13年11月14日	地方特定道路整備事業	北上地方振興局土木部	大野Ⅰ遺跡	沢内村
178	平成13年11月14日	緊急地方道路整備事業	大船渡地方振興局土木部	MF97－1351	住田町
179	平成13年11月14日	緊急地方道路整備事業	大船渡地方振興局土木部	MF97－1278	住田町
180	平成13年11月15日	ふるさと農道緊急整備事業	大船渡地方振興局農林部	MF96－1220	住田町
181	平成13年11月15日	クロスロード整備事業	大船渡地方振興局土木部	中和田遺跡	住田町
182	平成13年11月15日	地域活性化支援道路整備事業	大船渡地方振興局土木部	館遺跡	住田町
183	平成13年11月15日	緊急地方道路整備事業	大船渡地方振興局土木部	岩井沢遺跡	陸前高田市
184	平成13年11月15日	ほ場整備事業（担い手育成区画整理型）寺領小林地区	水沢農村整備事務所	九郎館遺跡	前沢町
185	平成13年11月15日	ほ場整備事業（担い手育成区画整理型）寺領小林地区	水沢農村整備事務所	長者館遺跡	前沢町
186	平成13年11月15日～16日	ほ場整備事業（担い手育成区画整理型）姥沢上野地区	水沢農村整備事務所	明後沢遺跡群	前沢町
187	平成13年11月16日	地方特定道路整備事業	大船渡地方振興局土木部	雲南遺跡	陸前高田市
188	平成13年11月19日	一般県道花巻和賀線　緊急地方道路整備事業	花巻地方振興局土木部	大橋遺跡	花巻市
189	平成13年11月19日	地方特定道路整備事業	一関地方振興局土木部	下平遺跡	平泉町
190	平成13年11月19日	北上川上流流域下水道事業　小岩井幹線築造3工区工事	北上川上流流域下水道事務所	板橋Ⅱ遺跡	盛岡市
191	平成13年11月21日	中山間地域総合整備事業　斗米地区川代工区	二戸農村整備事務所	可能性あり	二戸市

No.	調査期日	事業名	事業者	遺跡名	所在地
192	平成13年11月21日	緊急地方道路整備事業	北上地方振興局土木部	馬場崎Ⅱ遺跡	北上市
193	平成13年11月21日	緊急地方道路整備事業	北上地方振興局土木部	金附遺跡	北上市
194	平成13年11月22日	ほ場整備事業（担い手育成区画整理型）二子地区	北上農村整備事務所	鳥喰Ⅰ遺跡	北上市
195	平成13年11月22日	ほ場整備事業（担い手育成区画整理型）二子地区	北上農村整備事務所	明神Ⅱ遺跡	北上市
196	平成13年11月22日	ほ場整備事業（担い手育成区画整理型）二子地区	北上農村整備事務所	高屋Ⅰ遺跡	北上市
197	平成13年11月22日	部活動施設整備事業（文化部活動施設整備事業）	教育委員会事務局学校財務課	黒沢尻北高グランド遺跡	北上市
198	成13年11月26日	緊急地方道路整備事業	宮古地方振興局土木部	LF77－0245	川井村
199	成13年11月26日～27日	緊急地方道路整備事業	宮古地方振興局土木部	LF77－0265	川井村
200	平成13年11月26日	緊急地方道路整備事業（Bタイプ）	水沢地方振興局土木部	広岡前遺跡	江刺市
201	平成13年11月26日	緊急地方道路整備事業（Bタイプ）	水沢地方振興局土木部	宝禄遺跡	江刺市
202	平成13年11月27日	農村活性化住環境整備事業　笹森地区	水沢農村整備事務所	NE26－2023	胆沢町
203	平成13年11月27日	農村活性化住環境整備事業　笹森地区	水沢農村整備事務所	NE26－2043	胆沢町
204	平成13年11月28日	主要地方道栗駒衣川線天上地区道路改良事業	水沢地方振興局土木部	要害遺跡	衣川村
205	平成13年11月28日	主要地方道栗駒衣川線天上地区道路改良事業	水沢地方振興局土木部	NE64－1202	衣川村
206	平成13年11月28日	ほ場整備事業姉体地区	水沢農村整備事務所	島田Ⅱ遺跡	水沢市
207	平成13年11月28日	ほ場整備事業姉体地区	水沢農村整備事務所	根蕪遺跡	水沢市
208	平成13年11月29日	一級河川大沢川県単河川改良事業	盛岡地方振興局土木部	LE37－1304	盛岡市
209	平成13年11月29日	ほ場整備事業（担い手育成区画整理型）二子地区	北上農村整備事務所	高屋Ⅰ遺跡	北上市
210	平成13年11月29日	中山間地域総合整備事業　長沢地区	宮古地方振興局農政部	松山館跡	宮古市
211	平成13年11月29日	地域振興支援道路ネットワーク整備事業	宮古地方振興局農政部	松山館跡	宮古市
212	平成13年12月3日	畑地帯総合整備事業　藤崎地区	千厩農村整備事務所	赤柴遺跡	川崎村
213	平成13年12月3日	畑地帯総合整備事業　藤崎地区	千厩農村整備事務所	高野Ⅰ遺跡	川崎村
214	平成13年12月3日	畑地帯総合整備事業　藤崎地区	千厩農村整備事務所	高野Ⅱ遺跡	川崎村
215	平成13年12月3日	県営畜産経営環境整備事業　岩手山麓地区	盛岡地方振興局農政部	KE06－2037	西根町
216	平成13年12月4日	一般国道396号上綾織地区特定交通安全施設整備事業	遠野地方振興局土木部	大久保遺跡	遠野市
217	平成13年12月4日	通常砂防事業	宮古地方振興局岩泉土木事務所	ざぼめ遺跡	岩泉町
218	平成13年12月5日	一般県道広瀬三ヶ尻線向田地区道路事業	水沢地方振興局土木部	三ノ関遺跡	江刺市
219	平成13年12月5日	中山間地域総合整備事業　湯屋地区	遠野農村整備事務所	可能性あり	宮守村
220	平成13年12月5日	主要地方道盛岡和賀線道路改良事業	盛岡地方振興局土木部	飯岡林崎Ⅱ遺跡	盛岡市
221	平成13年12月6日	地滑り対策事業	二戸地方振興局土木部	上地切遺跡	一戸町
222	平成13年12月6日	農免農道整備事業　鳥越地区	二戸農村整備事務所	中屋敷遺跡	一戸町
223	平成13年12月7日	緊急地方道路整備事業	水沢地方振興局土木部	下河原釜石遺跡	水沢市
224	平成13年12月7日	一般国道283号仙人道路地区道路改築事業	遠野地方振興局土木部	新規遺跡	遠野市
225	平成13年12月7日	一般国道283号仙人道路地区道路改築事業	遠野地方振興局土木部	新規遺跡	遠野市
226	平成13年12月7日	担い手育成基盤整備事業　八幡東部地区	盛岡農村整備事務所	LE96－1287	石鳥谷町
227	平成13年12月10日	畑地帯総合整備事業　藤崎2期地区	千厩農村整備事務所	OF22－2226	藤沢町
228	平成13年12月10日	担い手育成基盤整備事業　南日詰地区	盛岡農村整備事務所	下川原Ⅰ遺跡	紫波町
229	平成13年12月10日	一般国道45号　中野バイパス	国土交通省東北地方整備局三陸国道工事事務所	槇木沢Ⅴ遺跡	田野畑村
230	平成13年12月11日	道路歩行環境整備事業	盛岡地方振興局土木部	六本松遺跡	紫波町
231	平成13年12月12日	緊急地方道路整備事業	盛岡地方振興局土木部	白沢Ⅰ遺跡	矢巾町
232	平成13年12月12日	道路改築事業	宮古地方振興局土木部	永田Ⅲ遺跡	新里村
233	平成13年12月13日	緊急地方道路整備事業　中谷地地区	一関地方振興局土木部	西平Ⅲ遺跡	一関市
234	平成13年12月13日	緊急地方道路整備事業	大船渡地方振興局土木部	可能性あり	陸前高田市
235	平成13年12月14日	畑地帯総合整備事業盛岡西部地区	盛岡農村整備事務所	月ヶ森Ⅰ遺跡	矢巾町
236	平成13年12月17日	地域活性化支援道路整備事業	大船渡地方振興局土木部	里古屋遺跡	住田町
237	平成13年12月17日	地域活性化支援道路整備事業	大船渡地方振興局土木部	下大股遺跡	住田町
238	平成13年12月17日	地域活性化支援道路整備事業	大船渡地方振興局土木部	奥折壁遺跡隣接地	住田町
239	平成13年12月17日	資源リサイクル畜産環境整備事業　下閉伊北部地区	宮古地方振興局農政部	田代小畑遺跡	田野畑村

No.	調査期日	事業名	事業者	遺跡名	所在地
240	平成13年12月18日	ふるさと農道緊急整備事業	久慈農村整備事務所	平清水Ⅱ遺跡	野田村
241	平成13年12月18日	ふるさと農道緊急整備事業	大船渡地方振興局土木部	樋ノ口城跡	住田町
242	平成13年12月18日	ふるさと農道緊急整備事業	大船渡地方振興局土木部	山脈地遺跡	住田町
243	平成13年12月19日	地域活性化支援道路整備事業	水沢地方振興局土木部	赤金遺跡近接地	江刺市
244	平成13年12月20日	河川改修事業	国土交通省東北地方整備局岩手工事事務所	どうじゃ森遺跡	花泉町
245	平成13年12月20日～21日	ほ場整備事業　下門岡地区	北上農村整備事務所	金附遺跡	北上市
246	平成13年12月25日	地方特定道路整備事業	水沢地方振興局土木部	中島遺跡	江刺市
247	平成13年12月25日	地方特定道路整備事業	水沢地方振興局土木部	鶴羽衣遺跡	江刺市
248	平成14年1月8日～10日	ほ場整備事業　下門岡地区	北上農村整備事務所	金附遺跡	北上市
249	平成14年1月9日	国営八戸平原総合農地開発事業	東北農政局八戸平原開拓建設事務所	皀角子久保Ⅴ遺跡	軽米町
250	平成14年1月11日	県単交通安全施設整備事業	盛岡地方振興局土木部	戸沢館	雫石町
251	平成14年1月11日	県単交通安全施設整備事業	盛岡地方振興局土木部	戸沢遺跡	雫石町
252	平成14年1月15日	主要地方道北上東和線緊急地方道路整備事業	花巻地方振興局土木部	成嶋寺Ⅱ遺跡	東和町
253	平成14年1月17日	中山間地域総合整備事業	久慈農村整備事務所	平清水Ⅰ遺跡	野田村
254	平成14年1月17日	ほ場整備事業　八重畑地区	花巻農村整備事務所	高畑遺跡	石鳥谷町
255	平成14年1月17日	ほ場整備事業　八重畑地区	花巻農村整備事務所	蛇蜒蛆遺跡	石鳥谷町
256	平成14年1月23日	県単交通安全施設整備事業（一種）	千厩地方振興局土木部	五里塚遺跡	東山町
257	平成14年1月23日～24日	中山間地域総合整備事業岩間地区	北上農村整備事務所	大橋遺跡	北上市
258	平成14年1月28日	ほ場整備事業姥沢上野地区	水沢農村整備事務所	明後沢遺跡群	前沢町
259	平成14年1月29日	地方特定道路整備事業	盛岡地方振興局土木部	諸葛川遺跡	滝沢村
260	平成14年1月29日	地方特定道路整備事業	盛岡地方振興局土木部	高柳遺跡	滝沢村
261	平成14年1月30日	地域活性化支援道路整備事業	大船渡地方振興局土木部	館遺跡	住田町
262	平成14年1月30日	一般農道整備事業　飯豊地区	遠野農村整備事務所	権現前遺跡	遠野市
263	平成14年2月4日	緊急地方道路整備事業	水沢地方振興局土木部	広岡前遺跡	江刺市
264	平成14年2月5日	土地改良総合整備事業　伊手西部地区	水沢農村整備事務所	久田遺跡	江刺市
265	平成14年2月12日	ほ場整備事業　二子地区	北上農村整備事務所	中居俵Ⅲ遺跡	北上市
266	平成14年2月13日	交通安全施設整備事業	二戸地方振興局土木部	道地Ⅰ遺跡	九戸村
267	平成14年2月14日	県単道路改良事業	久慈地方振興局土木部	鳥谷遺跡	久慈市
268	平成14年2月20日・21日	一般国道45号　高田道路	国土交通省東北地方整備局三陸国道工事事務所	船河原遺跡	大船渡市
269	平成14年2月25日	一般国道4号　北上拡幅	国土交通省東北地方整備局岩手工事事務所	滝の沢地区遺跡	北上市
270	平成14年2月25日	道路改築事業	宮古地方振興局土木部	刈屋中里遺跡	新里村
271	平成14年2月26日	緊急地方道路整備事業（Bタイプ）	水沢地方振興局土木部	十三遺跡	江刺市
272	平成14年2月27日	主要地方道盛岡東和線　緊急地方道路整備事業	花巻地方振興局土木部	ダンコ遺跡	花巻市
273	平成14年2月27日	ほ場整備事業　八重畑地区	花巻農村整備事務所	蛇蜒蛆遺跡	石鳥谷町
274	平成14年2月28日	ほ場整備事業　八重畑地区	花巻農村整備事務所	宿遺跡	石鳥谷町
275	平成14年2月28日	ほ場整備事業　大明神地区	花巻農村整備事務所	上野々遺跡	石鳥谷町
276	平成14年3月1日	畑地帯総合整備事業盛岡西部地区	盛岡農村整備事務所	月ヶ森Ⅱ遺跡	矢巾町
277	平成14年3月5日	平成13年度町地区復旧治山工事	水沢地方振興局林務部	西舘遺跡	前沢町
278	平成14年3月5日	ほ場整備事業　姉体地区	水沢農村整備事務所	島田Ⅱ遺跡	水沢市
279	平成14年3月5日	ほ場整備事業　姉体地区	水沢農村整備事務所	島田Ⅳ遺跡	水沢市
280	平成14年3月6日	畑地帯総合整備事業　盛岡西部地区	盛岡農村整備事務所	湯壺遺跡	盛岡市
281	平成14年3月7日	ほ場整備事業　土淵地区	水沢農村整備事務所	MF45－0323	遠野市
282	平成14年3月12日・13日	中山間地域総合整備事業　岩間地区	北上農村整備事務所	大橋遺跡他隣接地	北上市
283	平成14年3月18日	一般国道45号　普代バイパス	国土交通省東北地方整備局三陸国道工事事務所	宇留部遺跡	普代村
284	平成14年3月20日	地域活性化支援道路整備事業	二戸地方振興局土木部	金森遺跡	浄法寺町
285	平成14年3月20日	地域活性化支援道路整備事業	二戸地方振興局土木部	馬場向遺跡	浄法寺町
286	平成14年3月26日	地域活性化支援道路整備事業	水沢地方振興局土木部	和野遺跡隣接地	江刺市
287	平成14年3月26日	北上川上流流域下水道事業	北上川上流流域下水道事務所	下猿田遺跡	盛岡市

平成13年度分布調査一覧

1　一般国道４号花巻東バイパス（１工区）整備事業　　事業者：国土交通省東北地方整備局岩手工事事務所　　調査期日　平成13年3月16日

No.	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所在地	備考
1	ME36－2011	山の神遺跡	縄文	縄文土器	散布地	花巻市山の神	
2	ME36－1147	外台川原遺跡	古代	土師器	散布地	花巻市外台川原	
3	ME36－0293	長根Ⅱ遺跡	古代	土師器	散布地	花巻市東十二丁目	
4	ME36－1213	長根Ⅰ遺跡	古代	土師器	散布地	花巻市東十二丁目第6地割	
5	ME36－0274	長根Ⅲ遺跡	古代	土師器	散布地	花巻市東十二丁目第27地割	
6	ME36－0218	高木中館遺跡	縄文・古代	縄文土器・土師器	散布地	花巻市東十二丁目第22地割	
7	ME26－2089	高木古館遺跡	中世・近世	堀	城館跡	花巻市高木第20地割	
8	ME26－2340	上台Ⅱ遺跡	縄文	縄文土器	散布地	花巻市高木第19地割	

2　かんがい排水事業　藤崎地区　　事業者：千厩農村整備事務所　　調査期日　平成13年4月26日

No.	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所在地	備考
1	OF21－0124	新町塚遺跡	近世	塚	藩境塚	藤沢町字仁郷	
2	OF21－0039	藤沢城遺跡	中世	空堀・物見・平場・主郭	城館跡	藤沢町字西風	
3	OF10－1268	東立石遺跡	縄文？	土器	散布地	藤沢町増沢字東立石	

3　道路施設修繕事業　　事業者：盛岡地方振興局土木部　　調査期日　平成13年5月14日

No.	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所在地	備考
1						葛巻町江刈	遺跡なし

4　通常砂防事業　　事業者：盛岡地方振興局土木部　　調査期日　平成13年５月14日

No.	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所在地	備考
1						葛巻町今待	遺跡なし

5　農業大学校再編整備事業　　事業者：岩手県農林水産部　　調査期日　平成13年５月15日

No.	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所在地	備考
						金ヶ崎町六原	遺跡なし

6　県営農林漁業用揮発油税財源身替農道整備事業　　事業者：盛岡農村整備事務所　　調査期日　平成13年５月18日

No.	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所在地	備考
1	KE25－0058		縄文	縄文土器	散布地	松尾村野田	新規発見

7　松尾村小屋の沢地区河川災害復旧事業　　事業者：盛岡地方振興局土木部　　調査期日　平成13年5月18日

No.	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所在地	備考
1						松尾村小屋の沢	遺跡なし

8　ため池等整備事業　野中地区　　事業者：水沢農村整備事務所　　調査期日　平成13年6月5日

No.	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所在地	備考
1	NE33－0088	前萩森遺跡	縄文	縄文土器・石斧・石鏃・飾具	散布地	胆沢町若柳字中萩森	

9　中山間地域総合整備事業　弁天地区　　事業者：北上農村整備事務所　　調査期日　平成13年6月13日

No.	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所在地	備考
1	MD08－2282	蛭山Ⅰ遺跡	縄文	縄文土器	散布地	沢内村大字猿橋第24地割	
2	MD18－0230	蛭山Ⅱ遺跡	縄文	縄文土器	散布地	沢内村大字猿橋第27地割	
3	MD18－0270	鍵沢Ⅰ遺跡	縄文	縄文土器	集落跡	沢内村大字太田第10地割	
4	MD18－1241	鍵沢Ⅱ遺跡	縄文	縄文土器	散布地	沢内村大字太田第15地割	

10　高瀬地区予防治山工事　　事業者：大船渡地方振興局農林部　　調査期日　平成13年6月15日

No.	遺跡コード	遺　跡　名	時　　代	遺　構・遺　物	種　別	所　在　地	備　考
1	NF05－1280	和山館跡	中世		城館跡	住田町下有住字高瀬	

11　道路災害防除事業　　事業者：大船渡地方振興局土木部　　調査期日　平成13年6月16日

No.	遺跡コード	遺　跡　名	時　　代	遺　構・遺　物	種　別	所　在　地	備　考
1	MF96－2121	蔵王洞穴遺跡	縄文	縄文土器	洞穴	住田町上有住字葉山	

12　通常砂防事業　　事業者：遠野地方振興局土木部　　調査期日　平成13年6月18日

No.	遺跡コード	遺　跡　名	時　　代	遺　構・遺　物	種　別	所　在　地	備　考
1						宮守村下宮守　熊の洞地区	遺跡なし

13　中山間地域総合整備事業　日野沢地区　　事業者：久慈農村整備事務所　　調査期日　平成13年6月20日～21日

No.	遺跡コード	遺　跡　名	時　　代	遺　構・遺　物	種　別	所　在　地	備　考
1	JF25－2100	出ル町遺跡	縄文	縄文土器・石器	散布地	山形村日野沢13地割	
2	JF25－2165	二ツ神遺跡	縄文	縄文土器・石器	散布地	山形村日野沢9地割	
3	JF35－1134	ウチマ鉄山跡	不明		鉄山跡	山形村日野沢	
4	JF35－1110	小平沢鍛冶跡	不明		鍛冶跡	山形村日野沢	
5	JF35－1123	日野沢館遺跡	中世	平場・堀	城館跡	山形村日野沢	
6	JF35－1038	前河原製鉄跡	不明		製鉄跡	山形村日野沢	

14　中山間地域総合整備事業　葛巻北西地区　　事業者：盛岡農村整備事務所　　調査期日　平成13年6月21日

No.	遺跡コード	遺　跡　名	時　　代	遺　構・遺　物	種　別	所　在　地	備　考
1	JF72－2192	平船遺跡	縄文	縄文土器	散布地	葛巻町葛巻第49地割	
2	JF72－0270	向田遺跡	弥生	弥生土器	散布地	葛巻町葛巻第47地割	

15　幹線２級村道横小路線　緊急地方道路整備（市町村代行）事業　　事業者：久慈地方振興局土木部　　調査期日　平成13年8月21・22日

No.	遺跡コード	遺　跡　名	時　　代	遺　構・遺　物	種　別	所　在　地	備　考
1						野田村大字玉川	遺跡なし

16　一般国道343号快適歩行環境整備工事　　事業者：水沢地方振興局土木部　　調査期日　平成13年8月23日

No.	遺跡コード	遺　跡　名	時　　代	遺　構・遺　物	種　別	所　在　地	備　考
1	NE27－1069	石名坂遺跡	縄文	縄文土器・石鏃	集落跡	水沢市姉体町字石名坂	

17　中山間地域総合整備事業　藤沢東部地区　　事業者：千厩農村整備事務所　　調査期日　平成13年8月29日

No.	遺跡コード	遺　跡　名	時　　代	遺　構・遺　物	種　別	所　在　地	備　考
1						藤沢町藤沢	遺跡なし

18　地方特定道路整備事業　　事業者：北上地方振興局土木部　　調査期日　平成13年9月27日

No.	遺跡コード	遺　跡　名	時　　代	遺　構・遺　物	種　別	所　在　地	備　考
1	MD28－2146	大野Ⅰ遺跡	縄文	石器剥片・古銭	散布地	沢内村大字大野第５地割	

19　県営畜産経営環境整備事業　岩手山麓地区　　事業者：盛岡地方振興局農政部　　調査期日　平成13年10月24日

No.	遺跡コード	遺　跡　名	時　　代	遺　構・遺　物	種　別	所　在　地	備　考
1	KE06－2037		縄文	縄文土器	散布地	西根町寺田	新規発見

20　急傾斜地崩壊対策事業　　事業者：大船渡地方振興局土木部　　調査期日　平成13年11月02日

No.	遺跡コード	遺　跡　名	時　　代	遺　構・遺　物	種　別	所　在　地	備　考
1	MF16－2078	大崎遺跡	縄文	縄文土器	散布地	住田町字大崎	

21　快適道路環境整備事業　　事業者：盛岡地方振興局土木部　　調査期日　平成13年11月12日

No.	遺跡コード	遺　跡　名	時　　代	遺　構・遺　物	種　別	所　在　地	備　考
1	KE15－1361	山崎野遺跡			集落跡	西根町堀切第13地割	

22　平成14年度大矢内地区復旧治山事業　　事業者：久慈地方振興局林務部　　調査期日　平成13年11月13日

No.	遺跡コード	遺　跡　名	時　　代	遺　構・遺　物	種　別	所　在　地	備　考
1						山形村大矢内	遺跡なし

23　ふるさと林道繋２号線改築工事　　事業者：久慈地方振興局林務部　　調査期日　平成13年11月13日

No.	遺跡コード	遺　跡　名	時　　代	遺　構・遺　物	種　別	所　在　地	備　考
1	JF47－2149	繋日当遺跡	縄文	縄文土器	散布地	山形村繋７地割36	

24　農村活性化住環境整備事業　笹森地区　　事業者：水沢農村整備事務所　　調査期日　平成13年11月27日

No.	遺跡コード	遺　跡　名	時　　代	遺　構・遺　物	種　別	所　在　地	備　考
1						胆沢町小山	遺跡なし

25　新幹線関連道路整備事業（宮沢工区）　　事業者：二戸地方振興局土木部　　調査期日　平成13年12月11日

No.	遺跡コード	遺　跡　名	時　　代	遺　構・遺　物	種　別	所　在　地	備　考
1						九戸村山屋	遺跡なし

26　一般国道４号花巻東バイパス（１工区）整備事業　　事業者：国土交通省東北地方整備局岩手工事事務所　　調査期日　平成14年2月12日

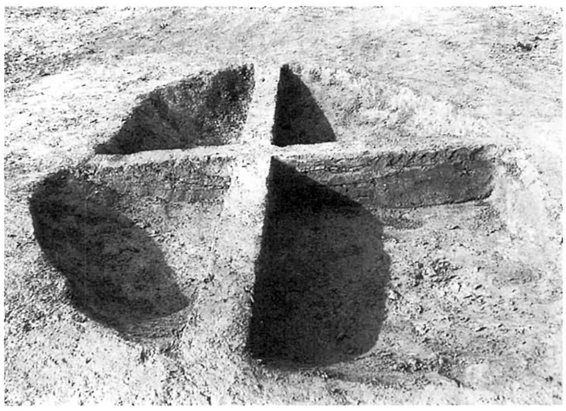
No.	遺跡コード	遺　跡　名	時　　代	遺　構・遺　物	種　別	所　在　地	備　考
1	ME26－2362	高木岡神社遺跡		塚・白磁瓶	経塚	花巻市高木第20地割	
2	ME26－2057	上台Ⅰ遺跡	縄文・古代	縄文土器・竪穴住居跡・土師器	散布地	花巻市高木第19地割	

27　基盤整備促進事業　　事業者：葛巻町建設課　　調査期日　平成14年３月30日

No.	遺跡コード	遺　跡　名	時　　代	遺　構・遺　物	種　別	所　在　地	備　考
1	KF01－1282		古代	土師器・須恵器	散布地	葛巻町葛巻第38・39地割	新規発見

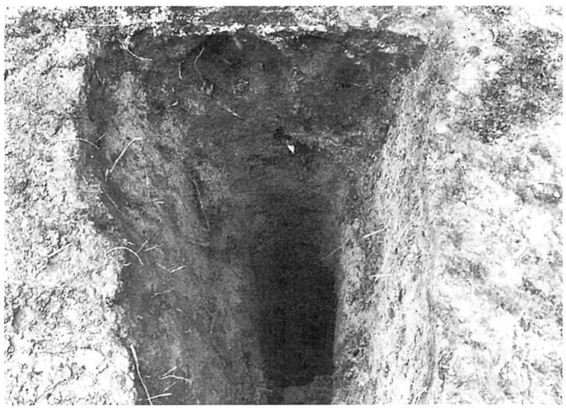
Ⅲ　写真図版

水沢市　五反町遺跡　1号焼土　平面



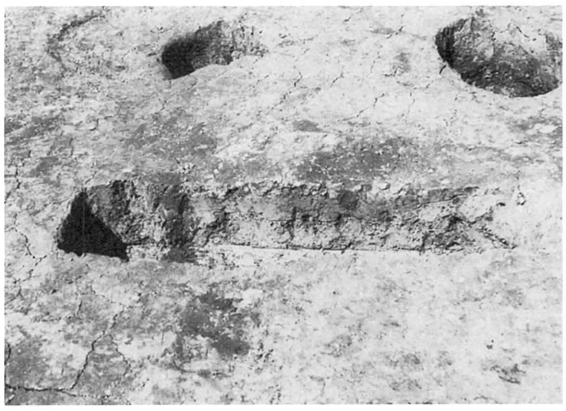
水沢市　五反町遺跡　1号焼土　断面

胆沢町　二の台遺跡　陥し穴1　平面

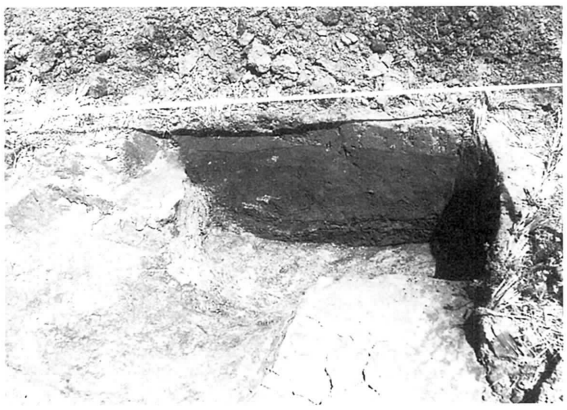


胆沢町　二の台遺跡　陥し穴1　断面

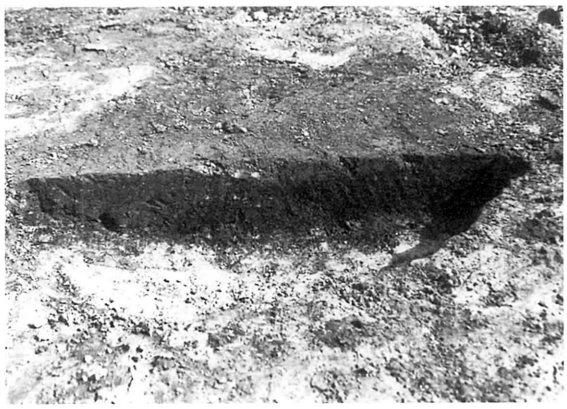
北上市　南田遺跡　2号住居跡　平面



北上市　南田遺跡　2号住居跡　炉跡　断面



北上市　南田遺跡　3号住居跡　断面

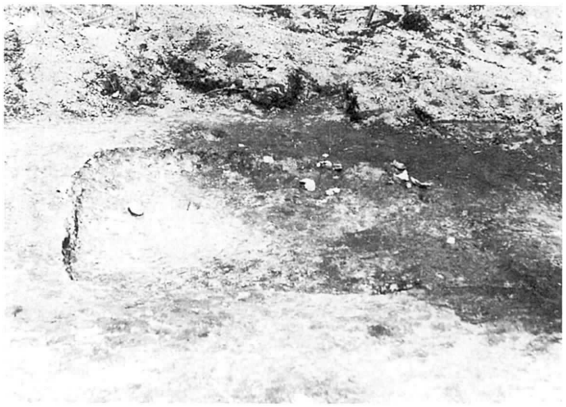


北上市　南田遺跡　土坑1　断面

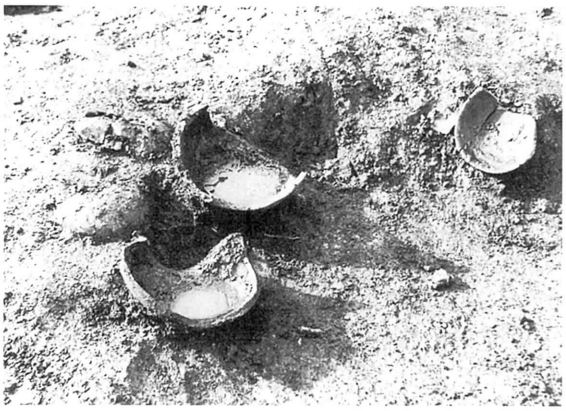
写真図版1　県内遺跡調査状況1

遠野市　林崎Ⅰ遺跡　陥し穴　平面

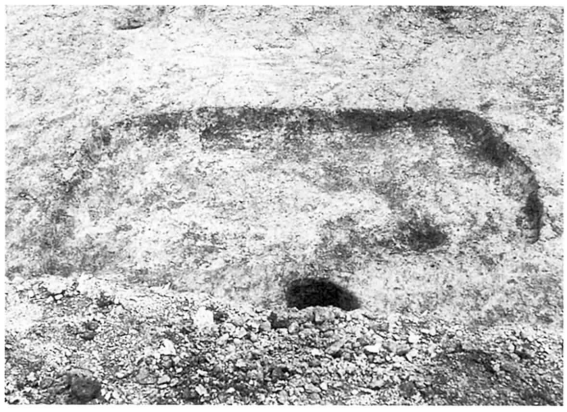
盛岡市　沢川目遺跡　陥し穴　平面



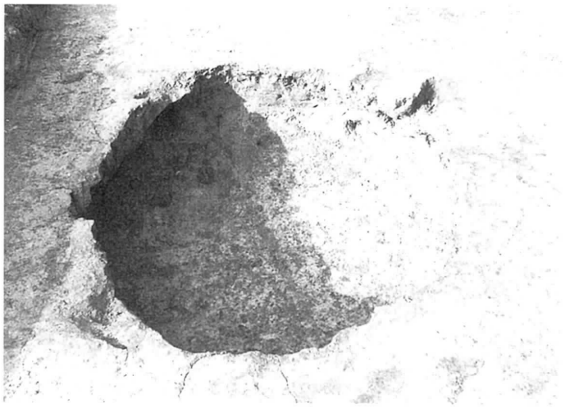
盛岡市　沢川目遺跡　住居跡　平面



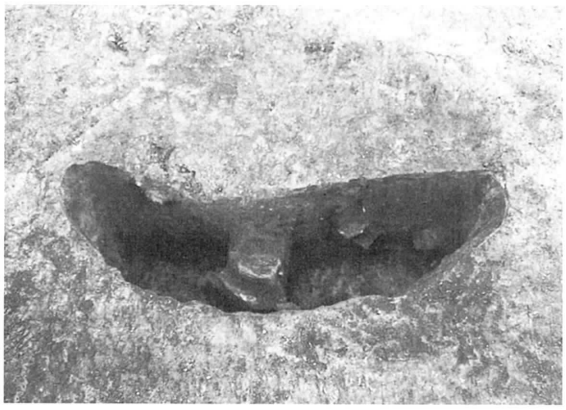
盛岡市　沢川目遺跡　住居跡　遺物出土状況



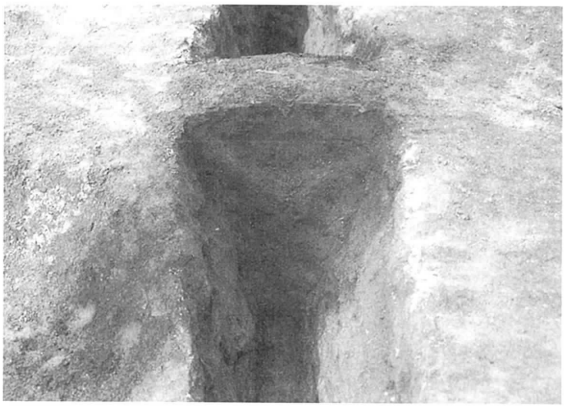
北上市　四十九里遺跡　土坑１　平面



北上市　四十九里遺跡　土坑２　平面



北上市　四十九里遺跡　土坑２　断面

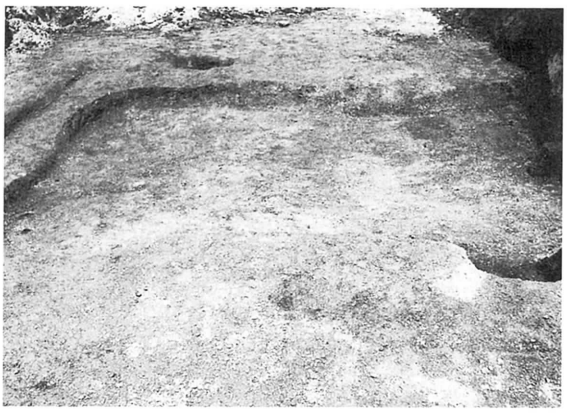


二戸市　川袋遺跡　陥し穴　断面

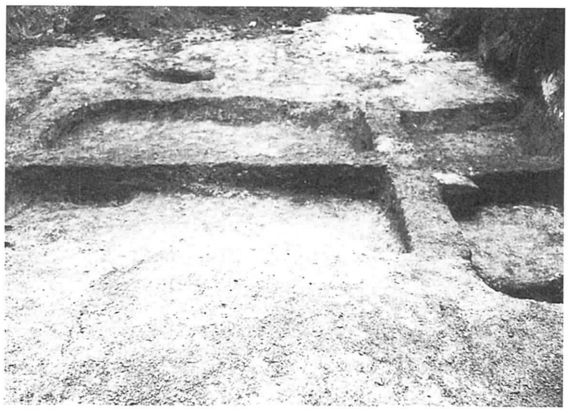
二戸市　川袋遺跡　陥し穴　平面

二戸市　大向Ⅱ遺跡　溝跡　平面

写真図版２　県内遺跡調査状況２

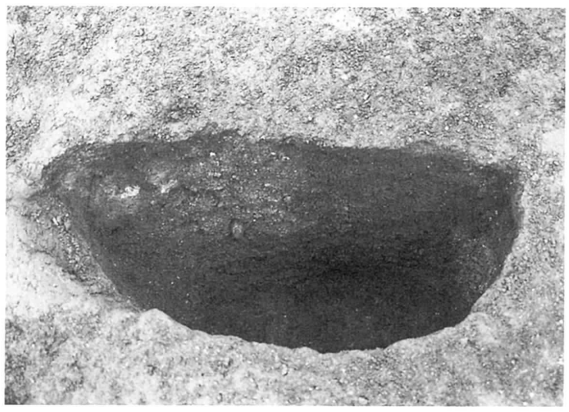


宮古市　向沢遺跡　１号住居状　平面



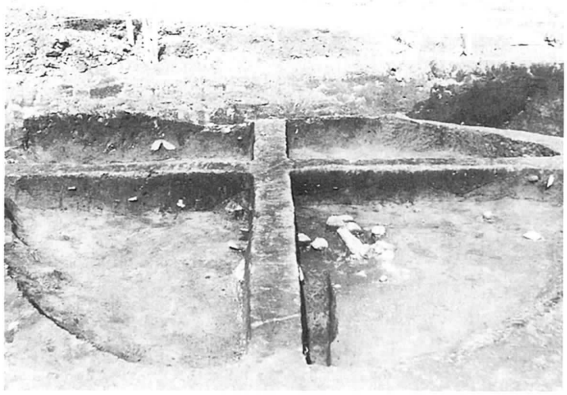
宮古市　向沢遺跡　１号住居状　断面

宮古市　向沢遺跡　建物跡　平面

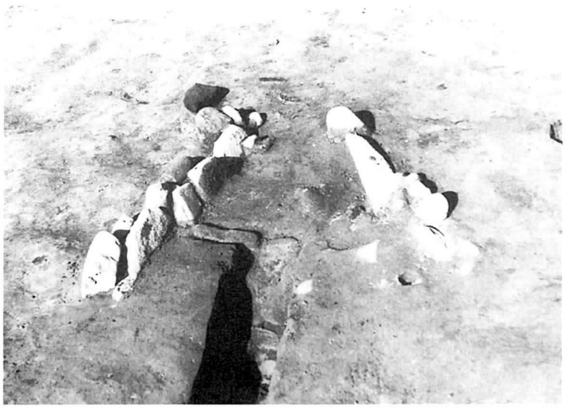


宮古市　向沢遺跡　Ｐ２　断面

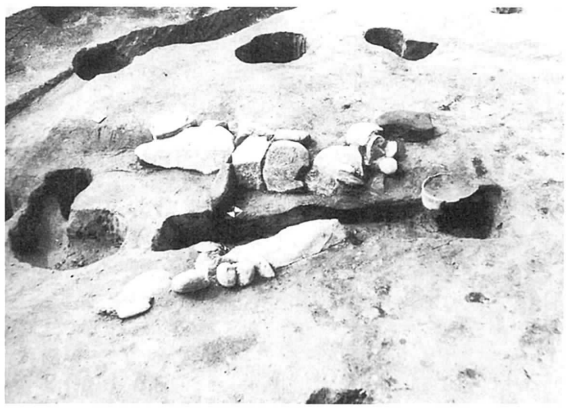
衣川村　淵畑遺跡　２号住居跡　平面



衣川村　淵畑遺跡　２号住居跡　断面



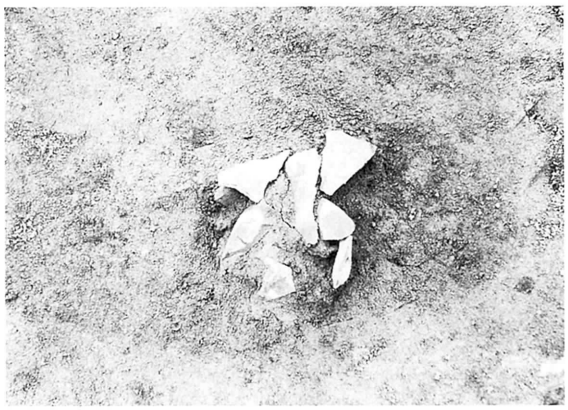
衣川村　淵畑遺跡　２号住居跡　炉跡　平面



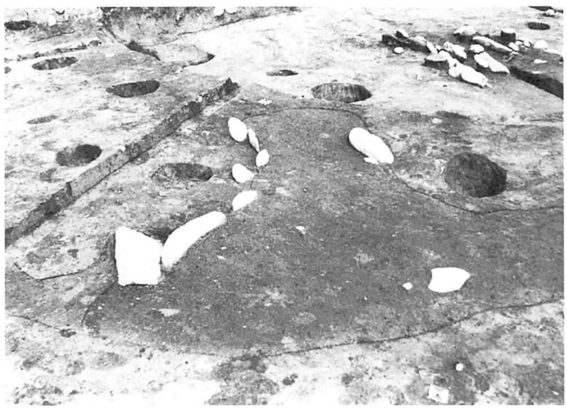
衣川村　淵畑遺跡　２号住居跡　炉跡　断面

写真図版３　県内遺跡調査状況３

衣川村　淵畑遺跡　1号住居跡　炉跡　断面



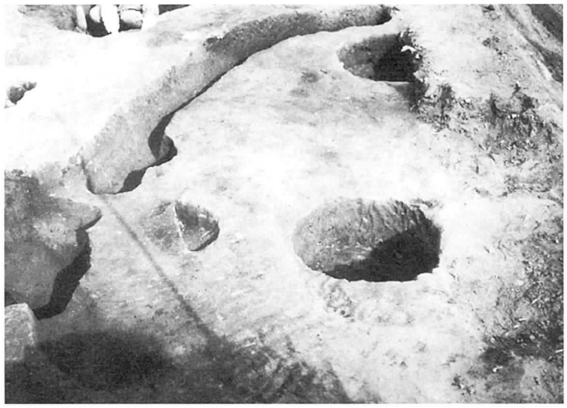
衣川村　淵畑遺跡　剥片集中遺構　出土状況



衣川村　淵畑遺跡　3号住居跡　平面

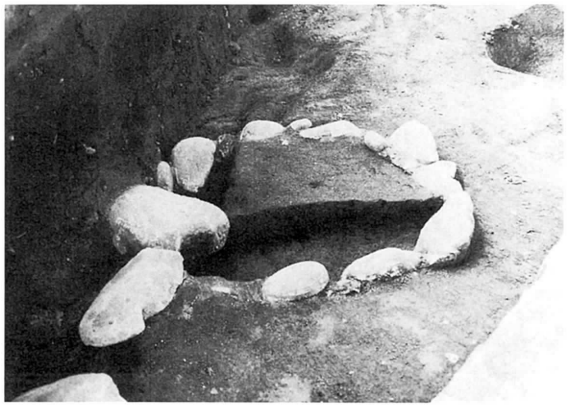
衣川村　淵畑遺跡　3号住居跡　炉跡　断面

衣川村　淵畑遺跡　3号住居跡　炉跡　断面



衣川村　淵畑遺跡　9号住居跡　平面

衣川村　淵畑遺跡　8号住居跡　平面



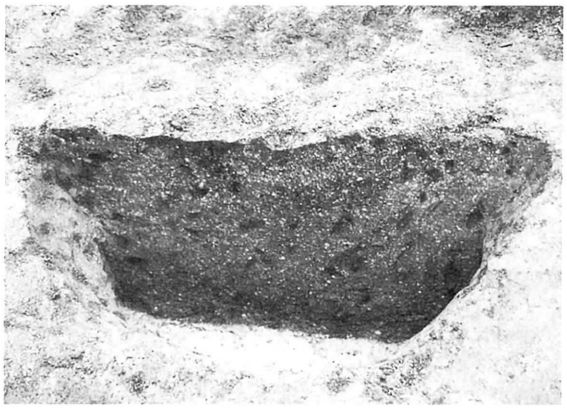
衣川村　淵畑遺跡　8号住居跡　炉跡　断面

写真図版4　県内遺跡調査状況4

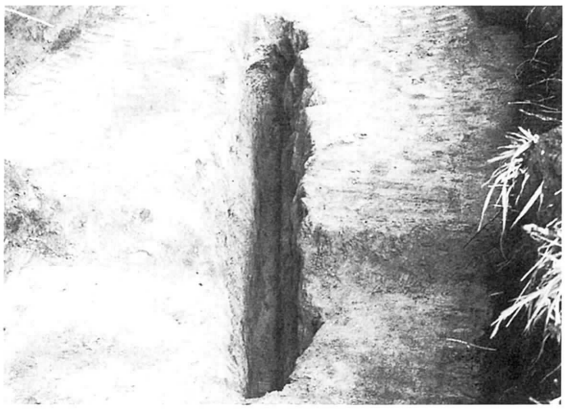
遠野市　田中遺跡　柱穴群PP1～７　平面

遠野市　田中遺跡　土坑１　断面

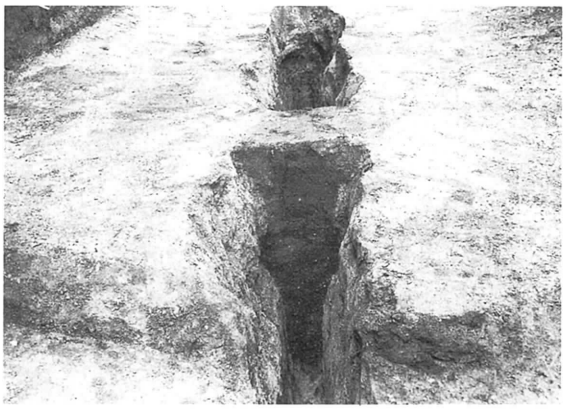
軽米町　大道口遺跡　土坑　平面



軽米町　大道口遺跡　土坑　断面

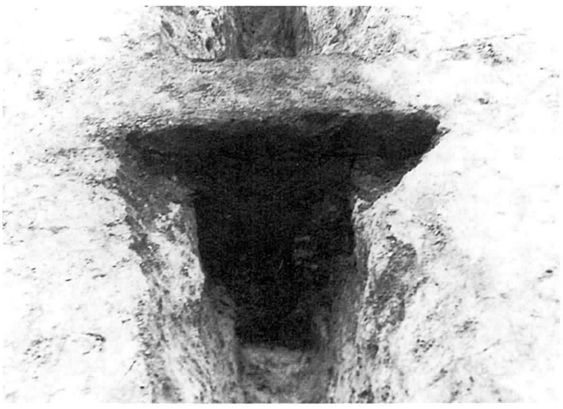


滝沢村　巣子Ｖ遺跡隣接地　陥し穴１　平面



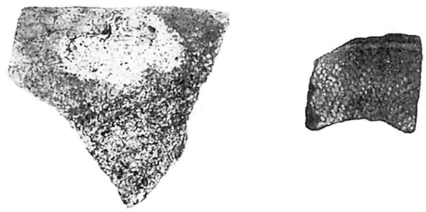
滝沢村　巣子Ｖ遺跡隣接地　陥し穴１　断面

滝沢村　巣子Ｖ遺跡隣接地　陥し穴２　平面

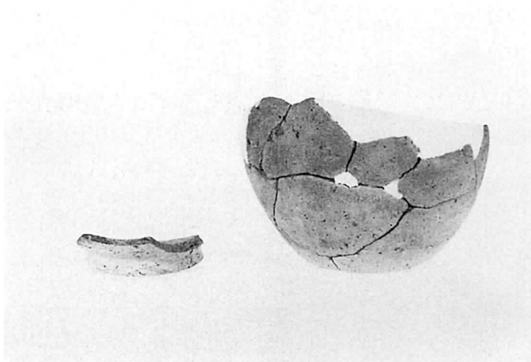


滝沢村　巣子Ｖ遺跡隣接地　陥し穴２　断面

写真図版５　県内遺跡調査状況５

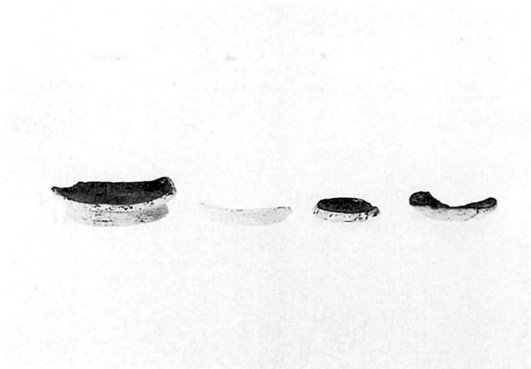


胆沢町　五反町遺跡



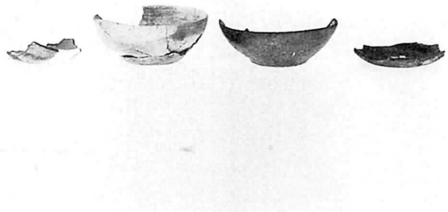
北上市　南田遺跡　1

北上市　南田遺跡　2



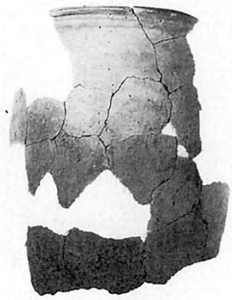
北上市　南田遺跡　3

北上市　南田遺跡　4



盛岡市　沢川目遺跡　1

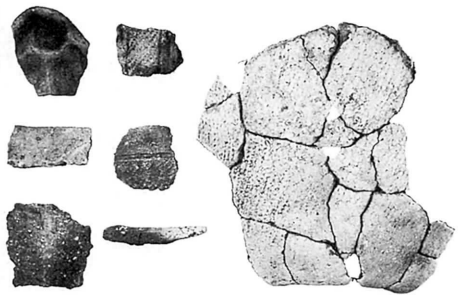
盛岡市　沢川目遺跡　2



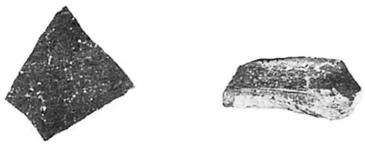
盛岡市　沢川目遺跡　3

写真図版 6　県内遺跡調査出土遺物 1

盛岡市　沢川目遺跡　4



北上市　四十九里遺跡



二戸市　大向Ⅱ遺跡

宮古市　向沢遺跡

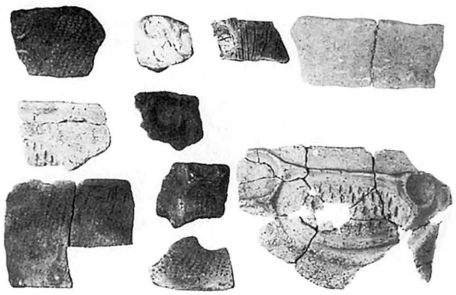
衣川村　淵畑遺跡　1

衣川村　淵畑遺跡　2

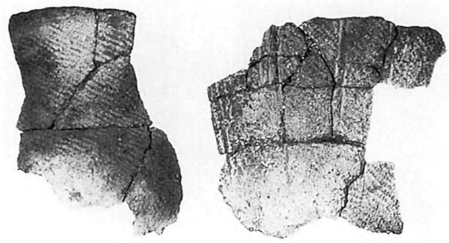
衣川村　淵畑遺跡　3

衣川村　淵畑遺跡　4

写真図版７　県内遺跡調査出土遺物２

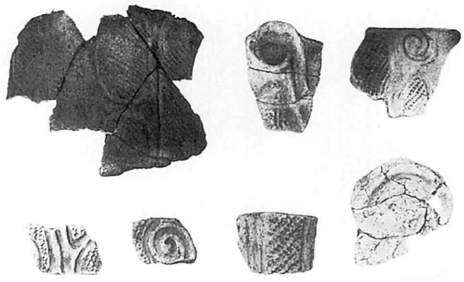


衣川村　淵畑遺跡　5



衣川村　淵畑遺跡　6

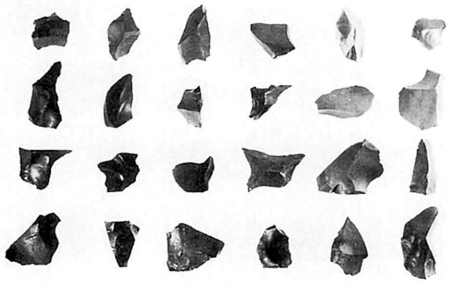
衣川村　淵畑遺跡　7



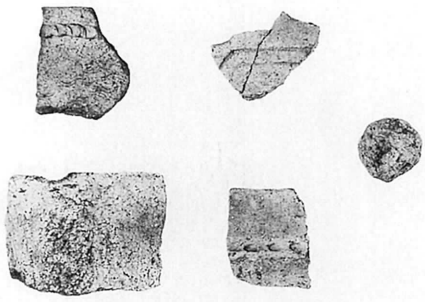
衣川村　淵畑遺跡　8

衣川村　淵畑遺跡　9

衣川村　淵畑遺跡　10



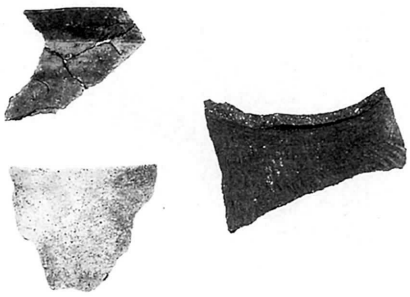
衣川村　淵畑遺跡　11



江刺市　MF91－1028

写真図版 8　県内遺跡調査出土遺物 3

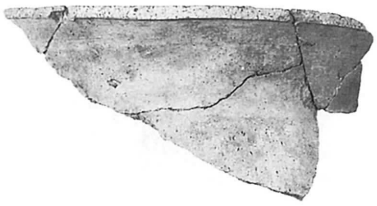
軽米町　大道口遺跡



盛岡市　猪去館遺跡隣接地

北上市　四十九里遺跡
江刺市　MF91－1028
盛岡市　猪去館遺跡隣接地

水沢市　杉の堂遺跡　1



水沢市　杉の堂遺跡　2

胆沢町　大清水上遺跡　1

胆沢町　大清水上遺跡　2

川崎村　河崎の柵擬定地　1

写真図版９　県内遺跡調査出土遺物４

川崎村　河崎の柵擬定地　2

陸前高田市　雲南遺跡

遠野市
平倉観音遺跡

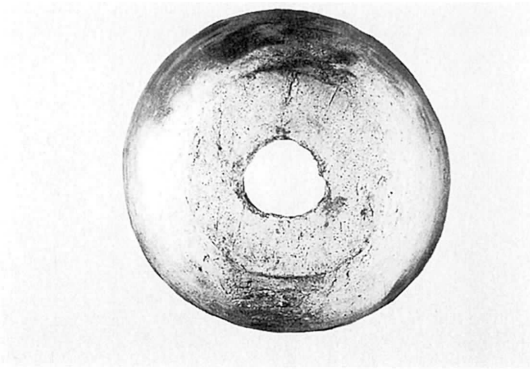
石鳥谷町
貝の淵Ⅰ遺跡

江刺市　広岡前遺跡

北上市　金附遺跡　1　No.23

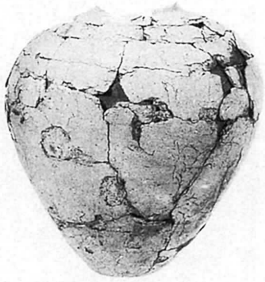
北上市　金附遺跡　2　No.24

北上市　金附遺跡　3　No.23　底部



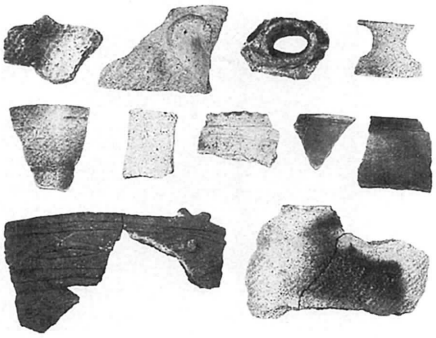
北上市　金附遺跡　4　No.24　底部

写真図版10　県内遺跡調査出土遺物 5

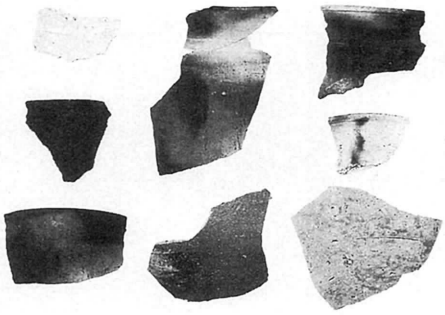


北上市　金附遺跡　5

北上市　金附遺跡　6

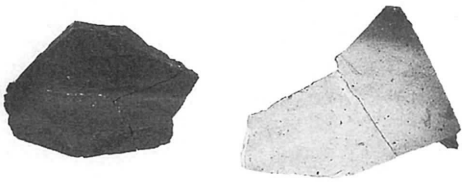


北上市　金附遺跡　7

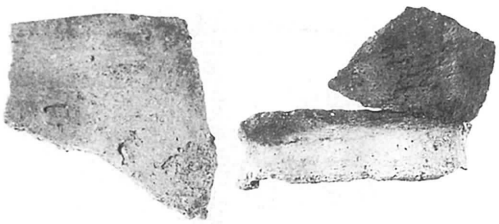


北上市　金附遺跡　8

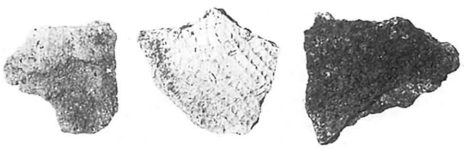
北上市　金附遺跡　9



遠野市　大久保遺跡



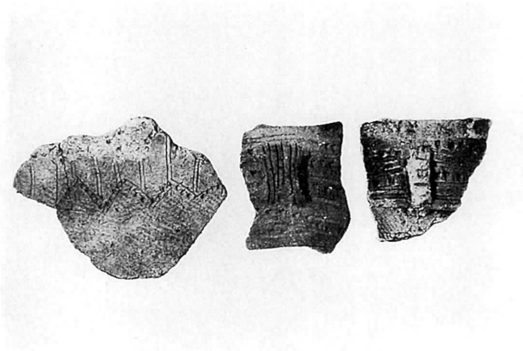
新里村　永田Ⅰ遺跡



遠野市　栃洞Ⅱ遺跡

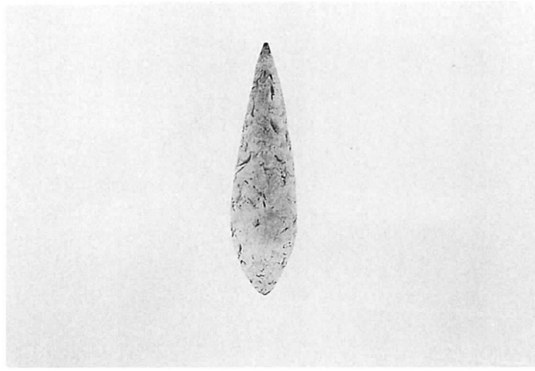
写真図版11　県内遺跡調査出土遺物 6

江刺市　大中田遺跡　1

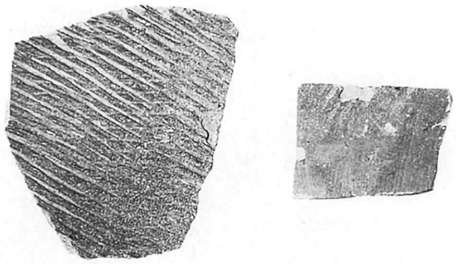


江刺市　大中田遺跡　2

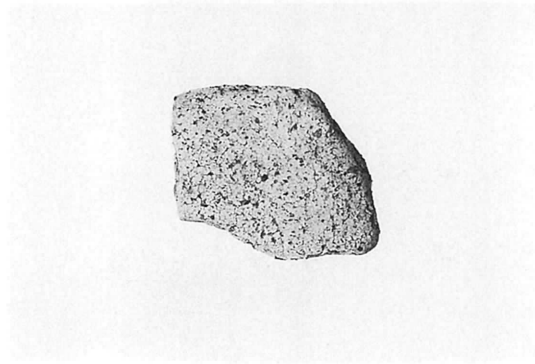
前沢町　明後沢遺跡群　1



前沢町　明後沢遺跡群　2

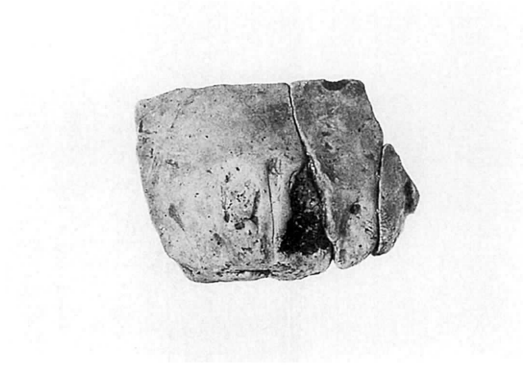


水沢市　中半入遺跡



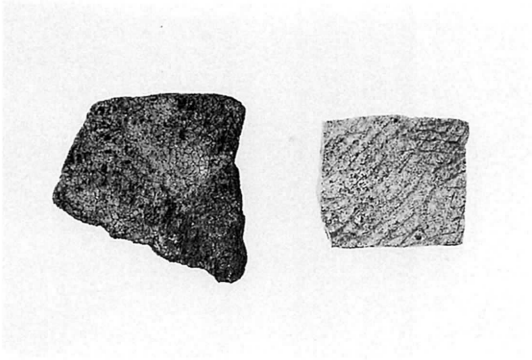
前沢町　寺之上遺跡

水沢市　島田Ⅱ遺跡　1



水沢市　島田Ⅱ遺跡　2

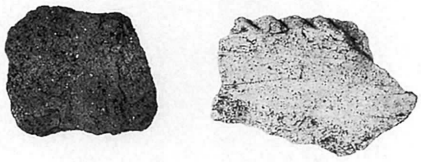
写真図版12　県内遺跡調査出土遺物 7



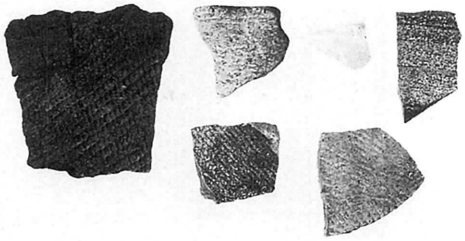
水沢市　島田Ⅱ遺跡　3

水沢市　根蕪遺跡

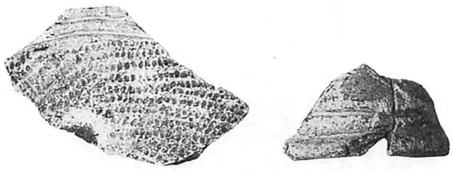
石鳥谷町　高畑遺跡　1



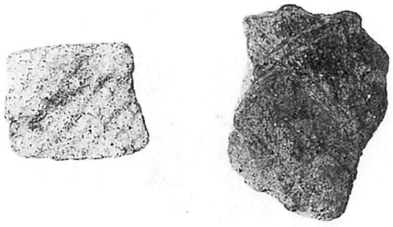
石鳥谷町　高畑遺跡　2



石鳥谷町　貝の淵Ⅱ遺跡



遠野市　平倉観音遺跡



遠野市　林崎館跡

北上市　大橋遺跡

写真図版13　県内遺跡調査出土遺物 8

岩手県文化財調査報告書第114集

岩手県内遺跡発掘調査報告書（平成13年度）

発行日　平成14年 3 月

発　行　岩手県教育委員会
岩手県盛岡市内丸10－1

編　集　岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課

印　刷　㈱ 杜陵印刷
盛岡市みたけ二丁目22番50号

古紙配合率100％の再生紙を使用しています。